

第3次延岡市環境基本計画

自然環境調査 報告書

令和3年（2021年）3月

延 岡 市

はじめに

宮崎県北部に位置する延岡市は、北で大分県に隣接し、五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が日向灘に貫流する、海・山の豊かな自然に恵まれた地形にあります。かつて城下町として栄え、近年は、その豊かな水源を利用して工業都市として発展を遂げました。また、市街地周辺の農村部では、温暖多雨な気候条件を利用した農業が営まれ、漁業も盛んです。その周辺地域では、人の手が適度に入った里山が形成され、希少な動植物が生息していますが、昨今の太陽光発電施設の建設等の乱開発や、外来種の持ち込みにより、生息数の減少・絶滅が危惧されています。

本市では、環境基本計画の改定に合わせて、10年ごとに自然環境モニタリング事業を実施しており、本報告書は、平成29年度から令和2年度までの4か年の調査報告をまとめた3回目の発行となります。

今回の報告書は、延岡市 SATOYAMA 保全推進会議に委託し、それぞれの専門家の丁寧なフィールドワークにより完成しました。本文に記載されていますとおり、延岡市における野生動植物（維管束植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類（チョウ類、ガ類、カメムシ類、コウチュウ類）、陸産貝類、淡水産生物、汽水・海水産甲殻類・貝類・その他無脊椎動物、イシサンゴ類）の現況、固有種の確認状況を環境省 RL や宮崎県 RDB と比較しながら詳しく述べ、重要生息地についても言及しています。

この調査結果は、「延岡市公共事業環境配慮指針」の資料として活用する他、今後、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」の登録維持のための基礎資料ともなり得るものです。また、引き続き、延岡市の豊かな自然と生物多様性の重要性について、自然保護に対する市民の意識醸成を図り、情報発信していきます。この報告書が、今後の延岡市の動植物保護のための基礎資料の一助となれば幸いです。

最後に、この報告書作成にあたり、ご尽力いただきました専門アドバイザーの皆様、また、ご協力いただきました内水面漁協等関係機関の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和3年3月
延岡市市民環境部生活環境課

目 次

1. 維管束植物	成迫 平五郎
2. 哺乳類	岩切 康二
3. 鳥類	稲田 菊雄
4. 両生類・爬虫類	末吉 豊文
5. 河川・河口域魚類	村瀬 敦宣
6. 昆虫類	
1) チョウ類	安本 潤一
2) ガ類	柳田 恒一郎
3) カメムシ類	小松 孝寛
4) コウチュウ類	岩切 康二
7. 陸産貝類	西 邦雄
8. 淡水産生物（甲殻類・貝類・魚類）	中村 憲一
9. 汽水・海水産甲殻類および貝類、その他無脊椎動物	三浦 知之
10. イシサンゴ類	深見 裕伸 高橋 勝栄

自然環境調査報告書 調査結果の概要

(1) 維管束植物

宮崎県レッドリストや環境省レッドリストに掲載されている植物種や群落を中心に調査を行った。延岡市の固有種および準固有種として、ツチビノキ、オオウバタケニンジン、コバナナベワリ、ニッポウアザミ、オナガカンアオイ、コミノヒメウツギ、ソハヤキミズ、ソハヤキトンボなどが挙げられる。

延岡市で確認されている希少種のうち、ヤナギスブタ、クロヤツシロラン、ムヨウラン、アゼオトギリ、ウバメガシについては新産地が確認されたが、ダイサギソウ、ミズタカモジ、ヤマドリゼンマイ、ゴマクサなどは環境の変化や改修により消失してしまった。また、これらの他にも改修や採取により減少した種類も多く見られた。

重要な生育地として、高島、熊野江の塩沼地および海岸砂丘、南浦海岸、新浜・長浜・方財の海岸砂丘、土々呂・赤水湾塩沼地および沿海地、家田・川坂・長谷の湿地及び里山、稲葉崎のため池とその周辺湿地、友内川、沖田川下流域、鏡山、可愛岳、行隣山、大崩山系、舞野周辺の里山、島野浦の 15 箇所を挙げた。

(2) 哺乳類

延岡市におけるこれまでの哺乳類の記録について文献や資料を基に整理し、近年における現地調査の結果も併せて、17 科 38 種の哺乳類の生息および生息記録を確認した。注目すべき種として、国の特別天然記念物のニホンカモシカのほか、クロホオヒゲコウモリ、オヒキコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、ヒナコウモリなどのコウモリ類、樹上性小型哺乳類のニホンモモンガ、ヤマネ、ムササビ、河川上流部に生息するカワネズミ、ネズミの仲間のスミスネズミ、カヤネズミ、ハタネズミなどが挙げられる。

重要な生息地として、大崩山一帯の山岳地帯、行隣山、松山谷周辺、可愛岳、曾木川上流域、五ヶ瀬川・大瀬川・北川・祝子川の河川草地、愛宕山や市街地周辺の孤立林、南浦から北浦にかけての隧道（旧道のトンネル）の 8 箇所を挙げた。

その他に、特定外来生物のアライグマの捕獲事例が増えており、今後その動向に注意する必要がある。

(3) 鳥類

本調査結果および 2010 年から 2020 年までの延岡市内での野鳥記録を整理し、233 種・亜種の鳥類の生息を確認した。注目すべき種として、57 種のレッドリストに掲載されている種と 2 種の特定外来生物を挙げた。延岡市は海岸から山岳地帯まで多様な環境があることから、クロサギ、ヒクイナ、シロチドリ、ズグロカモメなどの水辺の鳥から、クマタカ、ブッポウソウ、ホシガラス、コマドリ、オオルリなどの山野の鳥まで観察することができる。

重要な生息地として、沖田川河口、沖田ダム周辺、友内川周辺、行藤山、松山谷周辺、可愛岳、三川内大井地区、北川湿原、森谷谷・中ノ内谷、木口谷、清蔵ヶ谷、落水谷、惣下谷、門ヶ内谷、波帰ノ内谷、藤ノ木地区、板上地区、鹿川溪谷周辺の18箇所を挙げた。

特定外来生物のガビチョウは2009年頃から観察され、鏡山や須美江町でも鳴き声が聞かれるようになっており、在来種への影響が懸念される。

(4) 両生類・爬虫類

延岡市におけるこれまでの爬虫類・両生類の記録について文献や資料を基に整理し、近年における現地調査の結果も併せて、爬虫類10科16種、両生類7科14種の生息および生息記録を確認した。注目すべき種として、ソボサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、トノサマガエル、ニホンヒキガエルなどの両生類や、ニホンイシガメ、アカウミガメ、タワヤモリなどの爬虫類が挙げられる。

重要な生息地として、ソボサンショウウオの生息地である大崩山周辺、トノサマガエルやアカハライモリが確認されている家田湿原及び周囲の水田と里山、アカウミガメの産卵地となっている方財、長浜、新浜の砂浜海岸の3箇所を挙げた。

(5) 河川・河口域魚類

絶滅危惧種が依存する環境が残されていると考えられる河口環境に重点を置いて調査を行った。干潟依存の絶滅危惧種として、妙見湾や友内川においてヒモハゼ、クボハゼ、チクゼンハゼ、トビハゼ、マサゴハゼ、チワラスボの一種が確認された。また、その他に特筆すべき絶滅危惧種としてアカメとゴマハゼが、分布上興味深い種としてニクハゼとビリングが挙げられる。

重要な生息地として、熊野江川、須美江川、友内川、妙見湾の4箇所を挙げた。

今回確認された絶滅危惧種の多くは、特定の環境に依存する種であり、必要とする環境が消失すれば姿を消す可能性が極めて高い。河口環境の複雑さが多様な種の存在を可能にしており、河川環境の保全・維持に努めることをこれまで以上に進めていく必要性が示されたと言える。

また、移入と考えられる種として、アリアケギバチとオヤニラミが確認された。アリアケギバチについては、大淀川水系の個体群が絶滅の危機に瀕しており、延岡市内の河川が移植地となる可能性もあり得る。時期尚早な判断は控えるべきではあるが、今後のモニタリングと慎重な検討が求められる。

(6) 昆虫類

1) チョウ類

過去2回の調査報告と同様の方法で調査を行うと同時に、文献や地元の方々による提供情報等の整理を行った。注目すべき種として、ウラギンスジヒョウモン、タイワンツバ

メシジミ、ウラナミジャノメ、ヒメキマダラヒカゲ等が挙げられる。

重要な生息地として、頭巾岳～五葉岳～鹿納山～大崩山～鬼の目山～榎峠～松山、鏡山～森山林道、高平山、祝子町坂宮周辺の河畔林の4箇所を挙げた。

2) ガ類

過去2回の調査報告以降の記録の収集とともに、本調査の結果を併せて、7種のレッドデータ種と160種の延岡市初記録種を含む831種のガ類の生息を確認した。レッドリスト種は、キイロトゲエダシャク、エゾヨツメ、ルリモンホソバ、ヤマトハガタヨトウ、ヘーネアオハガタヨトウ、スギタニゴマケンモン、ヤマクシマヒメキシタバの7種であった。

重要な生息地として、湿地性の植物に依存するガ類が多く確認された北川湿原、山地性のガや偶産種のオオルリオビクチバなどが確認された鬼の目林道、照葉樹林を生息環境とする貴重なガ類が確認された行藤山、市街地から近いにもかかわらず毎年多くの延岡市未記録種が確認される愛宕山の4箇所を挙げた。

3) カメムシ類

カメムシ類は過去2回の報告では調査されていないことから、現地調査に加えて、過去の文献や標本の調査も実施した。調査の結果、異翅亜目324種、頸吻亜目106種の合計430種のカメムシ目昆虫が確認された。注目すべき種として、海浜性のアシナガナガカメムシ、南方系のオオキンカメムシ、北方系のアオクチブトカメムシや大崩山のヒラタカメムシ類が挙げられる。

重要な生息地として、祝子川上流～大崩山山麓、貝の畑町、藤の木の二次林、上鹿川鬼の目林道の4箇所を挙げた。

4) コウチュウ類

現地調査結果に加えて、宮崎県昆虫目録での延岡市の分布記録、その他文献記録等を整理した結果、75科1097種のコウチュウ類の生息または生息記録を確認した。注目すべき種として、海浜性昆虫のイカリモンハンミョウ、水生甲虫のルイスツブゲンゴロウ、ツマキレオナガミズスマシ、オナガミズスマシ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、ヒメケシゲンゴロウ、キベリマメゲンゴロウ、ニッポンミズスマシ等、河口干潟に生息するヨドシロヘリハンミョウ、キバネキバナガミズギワゴミムシ、クロシオガムシ等、オサムシ科の湿地性昆虫であるオオトックリゴミムシやエチゴトックリゴミムシ等が挙げられる。

重要な生息地として、北川湿原（家田湿原・川坂湿原）、五ヶ瀬川・北川・祝子川・友内川・大瀬川河口域、五ヶ瀬川以北の砂浜海岸、長浜海岸・新浜海岸、市南部の岩礁海岸、島浦島、北川・小川の河川環境、行藤山、大崩山周辺の山塊の9箇所を挙げた。

(7) 陸産貝類

過去10年間において、延岡市で確認された陸産貝類の調査結果を整理した。注目すべき種として、スナガイ、ミジンマイマイ、シンチュウギセル、ハナコギセル、ヒロクチコギセ

ル、ヤマトキバサナギガイ、ナンピギセル、ナミギセル、カンダマイマイ等が挙げられる。重要な生息地として、行藤山、宮野浦海岸樹林、島野浦島の3箇所を挙げた。

(8) 淡水産生物（甲殻類・貝類・魚類）

淡水産の甲殻類、貝類、魚類について、たも網やセル瓶での採集、水中カメラでの動画撮影、聞き取り調査にて調査を行った。注目すべき種として、イトモロコ、ムギツク、オヤニラミ、アリアケギバチ、カゼトゲタナゴ、アブラボテ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、セボシタビラ、ヤマトシマドジョウなどの魚類や、マツカサガイ、ニセマツカサガイ、カタハガイ、タガイ、マシジミなどの貝類、ヒラテテナガエビ、テナガエビ、ミナミテナガエビなどの甲殻類が挙げられる。ただし、魚類は国内移入種と考えられる種が多いと考えられる。

重要な生息地として、沖田川冷尻地区の用水路、岡元川と五ヶ瀬川の合流地点、松山川、北川の4箇所を挙げた。

(9) 汽水・海水産甲殻類および貝類、その他無脊椎動物

2001年以降の文献を調査するとともに野外調査を行って、汽水・海水域にて甲殻類130種、貝類137種（うち3種は外来種）のリストを作成した。また、その他無脊椎動物については、宮崎県版レッドデータブックに掲載される予定の4種のみをリストした。甲殻類では絶滅危惧IA類が1種、II類が2種、準絶滅危惧が27種、貝類では絶滅危惧II類が11種、準絶滅危惧が18種、延岡市の主に汽水域から記録された。熊野江川河口域が原記載地であるクマノエミオスジガニは生息状況の観点から、延岡市に国際的にも希有な自然環境が残されていることの証であり、熊野江川の生態系保全に注力することが重要である。櫛津干潟に生息するウモレベンケイガニや同所的に生息するフジテガニやオカミミガイ類は、人為的な環境変化の影響下にあり、コンクリート護岸による防災対策、安易な環境美化活動・放流事業、上流域での農薬散布が自然破壊に繋がることもあり得る。

重要な生息地として、生物多様性の観点から熊野江川河口域および熊野江砂浜性海岸、櫛津干潟を、地域の環境保全活動の観点から友内川を挙げた。特に熊野江川河口域は、宮崎県内の河口汽水域環境の中で最も生物多様性の高い生息地である。

(10) イシサンゴ類

延岡市周辺海域のサンゴの種組成データについて、延岡市自然環境調査の2018～2020年度に実施した潜水による野外調査のデータと、文献の記録等も加えて整理した。注目すべき種として、エダミドリイシ、オオナガレハナサンゴ、ウチウラタコアシサンゴが島浦島周辺で確認されている。また、珍しい種として、アサノエダサンゴ、カービィエダサンゴが島浦島のやや浅いところで確認されている。他に、ウェルスヤスリサンゴやタネガシマミドリイシも確認されている。

重要な生息地として、島野浦島の1箇所を挙げた。

維管束植物

調査担当者：成迫 平五郎

調査協力者：黒木 克幸
赤木 康

延岡市自然環境調査 報告書 (維管束植物)

成迫 平五郎

1. はじめに

延岡市における環境基本計画にかかる維管束類の調査は過去 2 回行われた。第 1 回目は 2000 年から 2001 年にかけて、第 2 回目は 2007 年から 2010 年にかけて行われた。調査範囲は、2000 年の調査は合併前であり旧延岡市の範囲内であったが、第 2 回目以降の調査は 3 町を含めた全域で行われた。宮崎県のレッドリストに記載されている植物種を中心に調査され、第 2 回では県 RDB 種と希少種を含めて 204 種が記録された。

今回は 2017 年から 2020 年まで 4 年間にわたって調査が行われた。宮崎県と環境省レッドリストに記載されている植物種や群落を中心に調査を行った。国指定の天然記念物なども現況を調査した。ユネスコエコパークに指定されたこともあり、前回あげられた重要生息地についても調査をおこなった。保護の指標の参考にするため、前回に続いて第 5 章に延岡の固有種・準固有種を表にして示した(表 1)。いくつか新分布が確認された種や群落があったが、環境の変化や改修によりダイサギソウやミズタカモジのように消失した種類もあった。改修や採取により減少した種類も多くみられた。第 6 章において延岡市で確認された維管束植物について、可能な限り前回との比較による増減を示した。

2. 調査方法等

調査方法は基本的に現地調査を行い、調査地で確認した維管束植物をすべて記録した。群落については階層別の植生調査も行った。社寺林などは、階層別に種類や被度を調査した。現地で種名が分からなかった植物については標本作製し、県の総合博物館や専門家に同定を依頼した。シダ植物については専門家の赤木康氏の協力を得て調査資料の提供を受けた。また、宮崎県版レッドリストの調査員の情報を参考に引用した。現地調査においては、延岡植物愛好会の吉田巧氏や黒木克幸氏の協力を得た。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

1. スギラン *Lycopodium cryptomerinum* ヒカゲノカズラ科
(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

山地の岩の上や樹幹上に生える草丈 20cm ほどのシダ。茎は枝分かれする。葉がスギに似ていることからこの名がついた。減少している。県内各地、北海道～沖縄県に分布。



2. マツバラン *Psilotum nudum* マツバラン科
(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-r

樹幹や岩上に着生する。高さ 10-40cm、緑色で無毛。地上茎は稜があり多く枝分かれする。各地の石崖や道路ののり面にも生える。本州から琉球にかけての山地に分布し、韓国済州島、中国南部から熱帯、亜熱帯に広く分布する。減少している。



3. ヘゴ *Cyathea spinulosa* ヘゴ科
(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) NT-r

亜熱帯性の大型のシダで高さは 4m になり葉は 2m を超えるものもあるが、延岡市の沿海地に生えるものは 50cm 以下の小さな株である。2 本生えていたが冬を越せずに 1 本は枯れてしまった。



4. ニセヨゴレイタチシダ *Cyathea spinulosa* オシダ科
(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) NT-r

多年生で中型の常緑性シダ。表面は光沢のない暗緑色をしている。県南に分布しているヨゴレイタチシダに似ているので、この名がある。県内では延岡市以外には川南町、宮崎市、綾町に分布。山口県、四国、九州（長崎県、大分県、鹿児島県）でも確認されている。



5. サトメシダ *Athyrium deltoideifrons* イワデンド科
(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) CR-r

中型で多年生の夏緑性シダ。葉は柔らかくほぼ三角形となる。低山の日の当たる林縁湿地に生える。宮崎県には旧北方町に 1 カ所が現存するだけである。シカの食害が減少の主要因である。北海道～九州、朝鮮半島、中国に分布。

6. テツホシダ *Thelypteris interrupta* ヒメシダ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-g

中型の常緑性シダ類。草丈は 30-80cm。沿海地の休耕田などの湿性に大群落をつくる。宮崎県には少なく、延岡市の島浦、櫛津と赤水の3ヶ所が県内最大規模の自生地である。増減なし。本州南部、四国、九州、琉球に分布。



7. コウヤワラビ *Onoclea sensibilis* コウヤワラビ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

夏緑性で栄養葉の葉柄は長さ 8-30cm、葉身は三角状楕円形で 8-25cm ある。羽片は 5-11 対ある。北海道、本州、九州中央山地に分布するが延岡市の家田湿原に自生する。朝鮮半島、中国東北部からシベリア東部に分布。



8. スギ(自生) *Cryptomeria japonica* ヒノキ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

常緑性の高木の針葉樹。天然の自生は屋久島が南限で、九州本土では鬼の目山周辺が唯一の自生地である。花崗岩の岩場斜面に巨木が点在し、中低木も多く自生している。有用樹として皆伐が進んでいたが学術調査が行われ、「自生種」であることが判明し、伐採は中止され、保存されることになった。本州、四国、九州、中国に分布。



9. ネズ *Juniperus rigida* ヒノキ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

葉先が針状にとがり、さわると痛いのでネズミサシともいう。常緑の針葉樹で、普通は低木から亜高木状であるが、高さ 10m ほどになる。材は建築材、器具材や彫刻などに使われ、葉はネズミの穴をふさぐのに用いる。宮崎県には大崩山が唯一の自生地である。本州、四国、九州、朝鮮半島、中国北部に分布。



10. オグラコウホネ *Nuphar oguraensis* スイレン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

河川のたまりや溜池などの水中に生える。水面に葉を浮かべる。葉は広卵形で家田にあるサイコクヒメコウホネよりやや小さい。葉は抽水状態にはならず茎が中空である点が異なる。初夏から秋にかけて黄色の花をつける。本州から隔離分布し九州でも本県のみ分布する。増減なし。本州中部以西、四国、宮崎に分布。



11. サイコクヒメコウホネ *Nuphar saikokuensis* スイレン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-r

流れのゆるやかな河川や溜池に生育する多年生水草で、葉を水面に浮かべる。水深が浅くなると葉を水面から立ち上げ抽水状態にもなる。葉は卵形～広卵形で、全縁でやや厚く光沢があり、葉柄の断面は円形で中心部分は中実である。花は 6～10 月に径 3-4 cm の黄花を水上に出た茎に 1 花つける。本州（中部地方以南）、四国、九州に分布し、日本固有種である。北川町の家田川に大群落がある。増減なし。



四国、九州に分布し、日

12. サダソウ *Peperomia japonica* コショウ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) EN-g

海岸の林縁の岩場に生える。高さ 10-30cm あり上部は枝分かれます。葉は輪生し楕円形で 1-4cm あり、多肉で短い毛でおおわれる。花序は細長い円柱状で軸は緑色である。増減なし。小さい花が多数つく。四国、九州、沖縄に分布。



13. オナガカンアオイ *Asarum minamitanianum* ウマノスズクサ科

(環境省 RL2020) CR (宮崎県 RL2015) CR-g

日本産カンアオイ類の中では最も萼片が長く、尾状に 10-20cm も伸びるので和名のオナガが付けられた。萼筒の内面に縦ひだだけがあり、横ひだを持たないサカワサイシン節に所属する。学名は 1970 年に南谷忠志氏が発見したことによる。宮崎県特産で、日向市以北の低山の二次林に生える。発見当時に比べ激減し、90%以上が観賞用採取で消えた。宮崎県種指定。



14. サンヨウアオイ *Heterotropa hexaloba* ウマノスズクサ科
(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

カンアオイ類の殆どは、花卉が退化し痕跡もない。しかし、本種は退化花卉が残り、雄しべが6本という特徴がある。本州(中国地方西部)から四国(南西部)、九州北部に分布しており、宮崎県北部が南限である。延岡市から県南にかけ広く分布するキンチャクアオイは雄しべが12本である。サンヨウアオイはがくが平たく伸び切っている点が異なる。本州中国地方西部、四国南西部、九州北部に分布。延岡北部が南限。観賞用採取により減少している。



15. タイリンアオイ *Heterotropa asaroides* ウマノスズクサ科
(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

タイリンアオイは本州(中国地方西部)と九州北部に分布し、宮崎県北部が南限である。葉は広卵形で基部は心形、表面に光沢はなく白色雲紋がある。花が大型なのでタイリンの名がある。延岡市の西北部に広く分布していたが、観賞用に乱獲され激減している。特に宮崎県のもは花が大型なので珍重されており、保護対策が必要である。



16. ツクシアオイ *Heterotropa kiusiana* ウマノスズクサ科
(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

カンアオイの仲間で、九州西北部の特産種である。葉も花も小型の部類である。葉はややとがり基部は深い心形で表面に光沢はない。萼片は扁平で平開し、その色は紫褐色、桃色や緑色と変化がある。宮崎県には延岡市にただ1カ所生育している。分布が飛んでいること、花色が緑色型で変異がないことから、本来の自生であるか疑問が残る。株数は極めて少なく、絶滅の危険性が大きい。自生地に道路の拡張工事の計画があるので、一部移植などの手立てを行う段取りになっている。



17. マルミカンアオイ *Asarum subglobosum* ウマノスズクサ科
(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) NT-g

ツクシアオイの品種とされている。葉は長卵形で基部が丸く切れ込んだ心形をしている。雄しべは12個、めしべは6個である。めしべの柱頭は斜めに切れている。熊本県の一部と宮崎県に分布している。延岡市の南部から南に分布する。減少している。



18. イトクズモ *Zannichellia palustris* ヒルムシロ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

河口域の淡水または汽水中に生える多年草。葉は線形で鋸歯がなく、長さ 5cm、幅は 0.5mm ほどの糸状で 2-3 枚が対生または輪生する。花は 7 月ごろに咲くが小型で分かり難い。果実は三日月型で 2-3mm ある。和名は茎も葉も細く糸くずのようであることに基づく。北海道(希)、本州(希)および世界各地に分布している。九州の現存は大分、熊本、宮崎といわれているが、宮崎県(延岡市のみ)のみと思われる。延岡市に自生する株数も極めて数が少なく絶滅寸前である。埋め立てや水質汚濁に注意。



19. イトモ *Potamogeton berchtoldii* ヒルムシロ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) CR-r

池や河川に生える多年草で茎も葉も大変細い。長さ 2-5cm、幅 0.7-1.5mm あり、6~8 月に開花する。花序は長さ 4-5cm。日本全土、世界の温帯から熱帯に広く分布する。やや減少している。



20. カワツルモ *Ruppia maritima* ヒルムシロ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) CR-r

沿海地の淡水や汽水に生える水草で、茎も葉も極めて細い。葉は狭線形で長さ 5-10cm、幅 0.3-0.5cm、基部は長さ 8-15mm の葉鞘となって、茎を抱く。花期は 6~8 月で、2-4cm の総花柄が出て、2 個の花をつける。世界各地に分布するが、河口域に生えているので埋め立てや水質汚染により各地で激減している。県内では宮崎市、日向市、延岡市に分布。延岡市には友内川にだけ自生地がある。本州から沖縄県、世界各地に分布する。



21. キタガワヒルムシロ *Potamogeton* sp. ヒルムシロ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) EN-r

北川町の家田の水路に生えているものを神戸大学の角野康郎氏が新種と判断され、仮称されたもの。全体的にオヒルムシロに似ているが、水中葉が極めて長いのが特徴である。今のところ、他にないので延岡市の固有種となる。



22. マイズルテンナンショウ *Arisaema heterophyllum* サトイモ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

湿性の草地や明るい林縁に生える多年草で、高さ 60-120cm あり、扁葉は1個で葉身は鳥足状に 20 内外の小葉をつける。中央の小葉は、次の側小葉より小さい。花期は5月、花柄は葉柄より長い。花の付属体は、20-30cm 伸びる。全体の形が鶴の舞う姿に似ているのでこの名がついた。自生地が限られていて減少している。本州、四国、九州、朝鮮半島および中国に分布する。県内では県西、県北に自生し、延岡市内では、北川町の川坂、長谷、松瀬に分布するが、川坂のものはやや減少している。



23. セキシウモ *Vallisneria natans* トチカガミ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-g

低地の河川、ため池などに生育する沈水性の多年草。葉は根生し、線形で幅 4-9mm、長さ 30-70cm あり、夏期に花をつける。雌雄異株で雌花の花茎は細長く、雌花を水上に浮かべる。花後、花茎はねじれて水中に引き込む。河川改修や水質の悪化により減少している。北海道、本州、四国、九州、アジア、オーストラリアに分布している。県内には各地にあり、延岡市では、須美江町、家田、的野、古川町、追内町、浦城町に分布する。



24. ミズオオバコ *Ottelia alismoides* トチカガミ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-g

水田や水路に生える一年草で、葉柄があり、葉身は広披針形で縁に波状のしわがある。8~10月に1花をつける。花弁は3枚あり淡紅色である。九州の暖帯、温帯に分布する。延岡市では稲葉崎町や北川町家田・川坂に分布する。稲葉崎では水田に自生している。かつて水路に多数生えていたがコンクリートの三面張りにより絶滅した。



25. ヤナギスブタ *Blyxa japonica* トチカガミ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-g

水田や溝や湧き水のある溜池などに生える一年草。葉は 3-5cm、幅は約 2mm あり、先端がとがり縁に細かい鋸歯がみられる。8~10月に白色の小花をつける。本州~沖縄県に分布。北川町の家田地区の湿地に自生する。新確認。



26. ヤマトウミヒルモ *Halophila nipponica* トチカガミ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EN-r

浅い海底の砂の中に、根茎を延ばし、その節からうちわ状の葉と根を着ける常緑性多年草。葉は小指～親指の頭ほどでやや透明感がある。花は6～9月に葉腋に着く。これまで、日本にはウミヒルモは1種とされていたがDNA解析等により8種となっている。本州、四国、九州(宮崎県、鹿児島県)に分布し、県内には日南市南郷町、延岡市、日向市で確認されている。延岡市には宮崎県水産試験場の調査により、島浦・浦尻・熊野江・須美江の湾内で確認されている。個体数は少ない。



27. シバナ *Triglochin asiaticum* ホロムイソウ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-r

入江や河口の塩水や汽水域の砂泥に生える。多年草で葉は根生し長さは10-30cmあり、幅は2-5mmあり、線形である。夏季に5mmほどの花を総状に多数つける。北海道、本州、四国、九州、北半球の温帯に分布する。県内では、日向市塩見川、延岡市の櫛津、浦城、甫場、友内川に分布する。浦城のものは一部消失した。護岸工事や埋め立てにより生育地が減少している。



28. キリシマシャクジョウ *Burmannia liukuensis* ヒナノシャクジョウ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-g

照葉樹林の林床に生える葉緑素をもたない白い腐生植物である。シロシャクジョウに似ているが茎は細く分枝しない。花はまばらに集散状に集まり、花筒の翼は狭い。花期は9～10月である。自生地は少ない。四国、九州南部、屋久島、種子島、奄美、沖縄に分布する。県内では各地に分布し、延岡市では行藤山に自生する。個体数は数本と、極めて少ない。



29. シロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* ヒナノシャクジョウ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) CR-r

照葉樹林の林床に生える葉緑素をもたない白色の腐生植物である。ヒナノシャクジョウに似ているが、花は小柄があり、散状に集まり花筒に広い翼がある点などで区別される。高さは5-15cm位である。お坊さんのもつ錫杖に似ているのでこの名がついた。



希少性、特異生態性で貴重である。近畿以南、四国、九州、屋久島、種子島、琉球、中国(海南島)に分布し、県内では、県北、県中、県南に分布する。延岡市では行藤山と可愛岳に自生する。増減に変化なし。

30. コバナナベワリ *Croomia saitoana* ビャクブ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

2010年に新種記載された植物でヒメナベワリの仲間。ヒメナベワリとは花が小型で葉の数が多いことで区別される。現段階では宮崎県の固有種で、県北に2カ所しか確認されていない。延岡市内には市街地の西部にまとまった群落が確認されている。数は安定している。



31. ササユリ *Lilium japonicum* ユリ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-g

山地の岩上や林縁に生育。茎は高さ50-100cmあり、斜上又は下垂する。葉はあまり多くはなく、披針形で長さ8-15cm、はつきりした柄がある。花期は5~6月で、茎頂に数個淡紅色の大きな花を咲かせる。香りがよい。和名は葉の形が笹に似ているので笹百合の意。日向市、延岡市に分布。県外では本州(中部以西)、四国、九州、日本固有。鑑賞目的に乱獲され激減した。絶滅した場所も多い。



32. タマガワホトトギス *Tricyrtis latifolia* ユリ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

山地の溪流などの水気の多いところや崖地に生える多年草。株は垂れることが多い。夏に茎頂や付近の葉腋から散房花序をつける。花の色は黄色で、内面に紫褐色の斑点が目立つ。日本固有種で本州、四国、九州に分布し、県内では県北、県西にある。ブナ帯の自然林に生える。各地で散見されるが、数は多くない。減少している。



33. ヤマホトトギス *Tricyrtis macropoda* ユリ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

山地に生える多年草で7~9月にかけて淡紅色の花をつける。同じ仲間のホトトギスやヤマジノホトトギスは花が葉腋に2-3個つくが、ヤマホトトギスは上部の葉腋から枝分かれした散房花序を出す。県内各地に分布。県外では北海道南部、本州、四国、九州、朝鮮、中国に分布。数は安定している。



34. イモネヤガラ *Eulophia zollingeri* ラン科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) VU-r

偽球茎は楕円形で太い根を多数出す。花茎は約 50cm あり、淡紫色を帯びる。7月に 20-30cm の花茎を立ち上げ、総状に紫褐色の花をつける。自生地が限られていて個体数も少ない。特異な生態性があり高島が北限となる。鹿児島、沖縄、台湾、東南アジア、インドに分布。県内では、県中、県南に分布する。県北では、門川町と延岡市に自生する。減少している。



35. エビネ *Calanthe discolor* ラン科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-g

樹林下に生える。球形の偽球茎から葉を数枚出す。長さ 15-25cm、幅 5-8cm ある。4~5月に花が咲く。花茎は約 30cm あり、多くの花をつける。一時、観賞用に採取が盛んにおこなわれて激減した。各地に多くの品種が知られている。県内各地に分布。県外では北海道南西部から琉球、朝鮮(済州島)に分布。



36. キンラン *Cephalanthera falcata* ラン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) NT-g

丘陵地の疎林下や草地に生える。高さは 30-70cm で、茎に稜腺がある。葉は広披針形で長さ 8-15cm、幅 2-4cm で、先端は鋭く、基部は茎を抱く。花期は 4~6月、黄色の花を多数つける。観賞用採取により減少している。本州~九州、朝鮮、中国に分布。県内では各地に分布。延岡市では、大崩山、細見、稲葉崎、山口原、北川町に分布する。数は安定している。



37. ダイサギソウ *Habenaria dentata* ラン科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) CR-g

茎は広卵形の球茎から出て、高さ 30-60cm。茎の下部に 4-5 葉がある。上部には少数の鱗片葉がある。花期は 8~10月で、茎頂に穂状に多くの花をつける。花は白色で、径 2-2.5cm。北海道、本州(関東以西)、四国、九州、沖縄県、中国(本土、台湾)、ベトナムに分布。県内には各地で確認されたが、現状は希である。延岡市内には大崩山と山口原の草原に生えていたが、山口原のものは土手の改修によりこの 2~3 年自生が確認されていない。



38. ナギラン *Cymbidium nagifolium* ラン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

常緑広葉樹林下に生える。偽球茎は数珠状に並び、先端に数個の鱗片葉と 1-3 個の葉をつける。葉は披針形で長い柄があり、柄を含めて長さ 20-30cm ほどで幅 2-3cm ある。6~7 月に白色でわずかに紫色を帯びる花をまばらに数個つける。本州関東以西~沖縄県、台湾、タイ、ビルマ、マレーシア、ヒマラヤに分布。鹿の食害によって激減している。



39. ナゴラン *Sedirea japonica* ラン科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) EN-g

照葉樹林の樹幹や枝に長い根を四方につけ着生する。茎は短く、節間がつまり、2-6 葉を 2 列につける。葉は狭長楕円形、厚い肉質で長さ 8-15cm、幅 1.5-2cm。花茎は側生し、長さ 5-15cm、6~8 月に淡緑白色の花を数個、総状につける。本州(関東以西)、四国、九州、沖縄県および朝鮮半島に分布し、県内には県北、県中、県西にあり、延岡市では、数か所で確認されている。低山の樹幹上に生える。県条例指定種。鑑賞目的に採取され減少している。



40. フウラン *Neofinetia falcata* ラン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

照葉樹の樹幹や枝に着生する。根は細長く四方に走る。茎はやや束生し、革質の葉鞘で密に被われる。葉は多肉質で硬く、湾曲し、長さ 5-10cm、幅 7-8mm。花期は 6~7 月。3-10cm の花茎の先に白色の 2-5 花を総状につける。芳香がある。本州(関東以西)、四国、九州、沖縄県、朝鮮半島、中国に分布。県内には各地に散在する。県条例指定種。



41. ボウラン *Luisia teres* ラン科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) NT-g

樹幹に着生する。茎は分枝し葉は多肉質で円柱状、長さ 6-12cm、径 3-4mm である。7~8 月、節から短い花序を出し 1~5 花をつける。花弁は緑黄色で紫の斑紋がある。各地の社寺林に見られる。本州近畿地方~沖縄県、台湾に分布。



42. ミドリムヨウラン *Lecanorchis virella* ラン科

(環境省 RL2020) CR (宮崎県 RL2015) EN-r

照葉樹林内に生える葉緑素を持たない腐生植物で多年草。茎は高さ 30-40cm になる中型のムヨウラン類。5～6月に花茎の上部に数個の花をつける。全体的にはムヨウランに似るが、薄く緑色を帯び、特に花被片の先端近くが強く緑色を帯びる。日本固有種で鹿児島県屋久島と宮崎県にしかない。県内には県北と県中で確認されており、延岡市内には数か所に分布する。熊野江神社が北限にあたる。近年減少。



43. ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* ラン科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) CR-r

スギ林や照葉樹林下に生える葉緑素をもたない腐生植物。葉は花後に生ずる。葉は円心形で長さ幅ともに 3-5cm である。5～6月、花茎は 5-10cm で頂に 1 花をつける。花は先端がわずかに開くのみでほとんど閉じた状態で薄い紅紫色を帯びる。自生地が少なく延岡市では 1 カ所である。自然林の伐採により減少。



44. ムカデラン *Cleisostoma scolopendrifolium* ラン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

低山の樹幹上に着生する。茎は細長く、まばらに分枝し、所々から太い根を出す。葉はやや短針形、長さ 7-10mm で、互生して、左右 2 列に並ぶ。そのようすがムカデのように見えるのでムカデランの名がある。花期は 6～8 月で、2-3cm の淡紅色の花を 1 個つける。本州、四国、九州に分布する日本固有種。延岡市内では下赤だけでしか確認されていない。マメヅタに場所を奪われ減少している。県条例指定種。



45. ビロウ (自生) *Livistona chinensis* ヤシ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) OT-1

常緑高木で高さ 10-15m になる。葉は直径 1m あり、円形で掌状に中深裂し、裂片はさらに中裂して折れ曲がる。葉柄は 1m ほどあり縁にとげがある。高島に自生地がある。照葉樹林の中につか群落が分布している。低木や幼木もあり安定しているが、ややタブなどの高木が群落内に入り込んでいる。周辺の小島に数本生えている。前回の調査で島野浦でも見られたが今回の調査では確認されなかった。四国南部、九州、沖縄、中国、台湾に分布。「高島のビロウ自生地」は国指定天然記念物。



46. アイアシ *Phacelurus latifolius* イネ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

海岸や河口域に生える高さ 1~1.5m に達する多年草。茎は太く葉は長さ 20-40cm で幅 1-4cm である。花序は長さ 10-25cm あり、粉白色または汚紫色を呈する。ヨシ群落よりやや岸寄りに分布する。増減なし。北海道~九州、朝鮮半島、中国に分布。



47. ウンヌケモドキ *Eulalia quadrinervis* イネ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EN-r

丘陵地の草地に生える夏緑性の多年草で草丈は 1m ほどである。花期は 9~10 月。一見ススキに似ているが、花序がススキより少なく 3 本ほどである。水田の周辺の刈り跡などの草地に自生しているが、近年、草地が少なくなったため減少している。東海地方以西、四国、九州、琉球および中国南部、北インドに分布し、延岡市内では、山口原、吉野町、鏡山、浦城に自生する。



48. キンメイモウソウチク *Phyllostachys edulis* イネ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) -

モウソウチクの突然変異種であり節の間に黄色や黄緑色の縦縞を生じる。昭和 20 年ごろ村人によって発見されたと伝えられている。モウソウキンメイチクと呼ばれ、1970 年(昭和 45 年)に国指定天然記念物に指定された



49. ビロードキビ *Brachiaria villosa* イネ科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) EN-r

高さ 15-20cm の一年草で全体に軟毛がある。葉は長卵形または被針形で長さ 3-5cm、幅 5-8mm で先端はとがり基部は丸い。花は 9~10 月。花序は長さ 4-6cm、多数の枝をつけ、小穂は総状に圧着する。水田のやや乾いた土手に生える。紀伊半島以西、四国、九州、沖縄県の海岸に生える。県内では、日南市、椎葉村、門川町でわずかに確認されている。延岡市内では、川坂、山口原に分布する。刈り取りや遷移の移行により減少。



50. ミアケザサ *Sasa sayekiensis* イネ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) -

高さ 1m ほどのササで、葉の長さは 25cm、幅 6cm である。稈鞘に開出長毛と逆向きに細毛が密生、葉鞘に長毛が出るが後に脱落する。葉は両面無毛である。県内各地に分布するが神社に多い。自生地があるが植栽されたものが逸出した可能性が高い。本州中国地方と四国西部に分布。延岡では三輪町、松山町、愛宕神社に群落がみられる。



51. ミヤマクマザサ *Sasa hayatae* イネ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

山地の林床や林縁に自生する。高さ 1m から 1.5m に達する。直径は 5-7mm ほどである。稈鞘は無毛で、時には節にのみ長毛を密生する。葉は長さ 25cm で幅 5cm、表面は光沢あり、裏面に軟毛を密生する。本州(仙台)から南、四国に分布すると文献にあるが、宮崎県にも 1,000m 前後の山地に分布することが確認された。今回の調査で上鹿川の鉾岳に自生が確認された。愛宕山に生えているノベオカザサと言われていたものは固有種ではなくてミヤマクマザサであると判明した。愛宕山のものは過去に植栽されたものと思われる。



52. ナガエミクリ *Sparganium japonicum* ミクリ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-g

流れのゆるやかな河川や溝の流水中に自生する。茎の上部の葉腋から枝を出す。雌性頭花は 2-6 個あり、下端のものは 3cm になる柄をつける。雄性頭花は 5-10 個ある。本州、九州および朝鮮半島に分布する。県内では、県西部、高鍋町に分布、延岡市内では、追内、家田、川坂、熊野江、須美江、大峽町に自生する。安定している。



53. ヒメコウガイゼキショウ *Juncus minutulus* イグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

河川や水田に生える高さ 20cm 前後の一年草である。茎は細い円筒状で束生する。葉は、扁平で上面に溝がある。花は 6~9 月に咲く。市内の小野や片田地区では水田一面に大群落を作っている所もある。北海道、本州、四国、九州、世界各地に分布する。県内では、宮崎市、都城市、美郷町に、市内では無鹿、的野、小野町、片田町、沖田町に分布する。安定している。



54. イセウキヤガラ *Bolboschoenus planiculmis* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

河口域の汽水域や半塩性湿地に生える。高さ 30-100cm 茎は鋭い3稜で抱葉は1個で直立する。5~7月に小穂をつける。小穂は無柄で通常1個である。北海道、本州、四国、九州に分布。北川、大瀬川の河口に分布する。個体数は安定している。



55. ウマスゲ *Carex idzuroei* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-g

低地の湿性に生え、茎は高さ 50cm ほどである。果胞は 5~6月に熟す。雌小穂は、長楕円形でやや離れてつき、下部のものは短い柄がある。果胞は狭卵形で約 10mm あり脈が多い。関東以西、四国、九州、中国に分布。県内では、宮崎市と延岡市に分布する。延岡市では、差木野、家田、川坂、的野に自生地がある。改修工事によりやや減少している。



56. オニナルコスゲ *Carex vesicaria* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

北方系のスゲで湿地に大群落をつくる。地下に匍枝を伸ばす。茎は高さ 30-100cm あり基部の鞘は血紫色を帯びる。葉は幅 3-6mm あり、上方の 2-3 個の小穂は雄性で線形、下方の 2-3 個は雌性で短い円柱形をしていて長さ 6-8mm ある。6~7月に熟す。九州では 2カ所しか自生地がなく、きわめて希少である。北海道、本州、大分県、世界の温帯に分布する。延岡市内では、家田、川坂、長谷に大群落がある。個体数は安定している。



57. コジユズスゲ *Carex parciflora* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

湿った草地や河岸、田の畔に自生する。根茎は短く叢生し、高さは 20-30cm ある。果期は 5 月、果胞は長さ 5-6mm ある。北海道、本州、九州に分布。延岡市では家田に自生する。個体数は安定している。



58. サワヒメスゲ *Carex mira* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-g

根茎は短く叢生する。葉は幅 1-2mm で、花のある茎は 15-40cm ある。早春に花穂をつける。頂小穂は雄性で、黒紫色で光沢がある。長さ 1.5-2cm。側小穂は雌性で 0.5-1cm である。本州静岡県以西に分布。県内では門川町と延岡市北川町に分布する。個体数は安定している。



59. シチトウイ (シチトウ) *Cyperus malaccensis* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

河口の入り江や河岸に生える。茎は高さ 1-1.5m あり 3 稜形である。葉は茎の基部に 1-3 個付き、長さ 30cm ほどとなる。花序は大型で 1-3 回分枝する。小穂は線形で長さ 0-3cm ある。本州関東以西～沖縄県において畳表の材料として栽培された。暖地では野生している。中国南部、台湾に分布する。県内では各地に分布し、延岡では北川河口、沖田川に分布する。



60. ハタベカンガレイ *Schoenoplectus gemmifer* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

低地の湧水からの流れに生える。カンガレイの一種で、草丈は 40-60cm ほどでカンガレイより小型。茎の先端から出芽し繁殖する。果実は濃いオリーブ色で刺針は果実とほぼ同長かやや長く、刺針がはるかに長いカンガレイと異なる。また、柱頭の多くが 2 岐する点 (カンガレイは 3 岐する) も異なる。日本固有種で本州中部以南部、四国 (愛媛県)、九州 (熊本県・大分県) に分布する。宮崎県内には延岡市北川町だけにしかない。個体数は安定している。減少の要因は改修、水質汚濁である。



61. マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* カヤツリグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

低地の河川のワンドや水田放棄地に生育する。高さは 1-1.5m に達する。茎は太くて硬い。葉は幅 4-8mm あり線形で革質である。花は 8~10 月。散房花序は 3-5 個内外で頂生および側生する。小穂は 10-20 個が球状に集まる。河川改修や遷移の移行により減少している。本州、四国、九州に分布し、県内では、高城町、延岡市に分布する。市内では、松山町、長谷、家田、川坂に自生する。



62. シオイカリソウ *Epimedium trifoliatobinatum* メギ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EN-r

常緑の多年生草本。ヒメイカリソウに似るが、葉は厚ぼったく、葉縁の鋸歯は少ない。島嶼の海岸地帯で分化したものと考えられる。花は白色で4月に咲く。四国西部(愛媛)・高知から大分・宮崎県境一帯の海岸地帯の特産種である。宮崎県には旧延岡市と北浦町にしかない。島浦が基準標本産地。



63. ヒメイカリソウ *Epimedium trifoliatobinatum* メギ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) CR-r

多年草、地上茎は草丈30cm前後、葉は冬に枯れる。葉は複数回三出し、小葉は卵形で長さ5cm、幅3cm程度、基部は心形で裏面には開出する細毛がある。葉の分裂の様式は一定しない。春に碗形の白色の花をつける。バイカイカリソウとイカリソウの雑種か、雑種起源の亜種扱いされることもある。日本固有で本州(近畿以西)、四国、九州にあり、宮崎県には延岡市に1カ所あるだけである。生育地はモウソウチク林内で、管理されていないので低木が繁茂し、日照不足になっている。減少している。南限。



64. タガラシ *Ranunculus sceleratus* キンポウゲ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) NT-g

水田や水路の縁に生える多年草。茎は高さ25-60cmありよく分枝する。根出葉の葉身は3-5中深裂し、裂片はさらに3-5細裂する。4~5月に花をつける。花は径約1cm、花弁は楕円形である。北半球の亜熱帯~温帯に広く分布し日本には全国的にみられる。県内でも各地に分布するが、延岡市では沖田町、牧町に分布する。



65. ツメレンゲ *Orostachys japonicus* ベンケイソウ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EN-r

日当たりのよい岩上に生える。夏場は多肉質の葉が多数根生する。葉は長さ2.5-6cm、幅5-15mmあり鋭頭で先端は短針がつく。花は10~11月、ロゼットの中央の軸の上方に密に円錐状につく。花は5-6mmで白色。本州関東南部~九州、朝鮮半島、中国に分布。延岡市では北浦町直海、高島に生える。個体数は変わらない。



66. チャボツメレンゲ *Meterostachys sikokianus* ベンケイソウ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

山地の岩上に生える高さ 3-7cm の多年草。開出葉は肉質で柄がなく、多数束生してロゼットをつくる。花茎は長さ 1.5-8cm になり、分枝せず、まばらに葉をつけ直立する。夏のロゼット葉はやや扁平な円柱状線形で硬化し針状となる。本州（紀伊半島）、四国、九州および済州島に分布し、宮崎県には延岡市だけにあり、低山の岩場に生える。



67. オオフサモ *Myriophyllum aquaticum* アリノトウグサ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) - ※特定外来生物

溜池や溝、緩やかな河川に生える多年生の帰化植物。茎は円柱状で泥中や水中で分岐し 1m 以上に達する。茎に多数の節があり、節から糸状根を出し、水上茎を直立させ水面を覆う。水上葉は白緑色の羽状葉が各節に 3-7 個輪生する。切れ藻～不定根を出し再生し定着したところで群生する。雌雄異株であり雌株のみ帰化しているので花をつけるが結実はしない。南米原産で本州～九州に分布。延岡市では差木野町、北川町、富美山町で繁殖している。特定外来種に指定され栽培、移動、販売が禁止されている。



68. タコノアシ *Penthorum chinense* タコノアシ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) NT-g

泥湿地、沼、水田、河原などに生える。茎の地上部は直立し分岐しない。高さ 30-80cm あり無毛。葉は披針形で縁には鋭鋸歯がある。花期は 8～10 月で花序の枝ははじめ先端が渦巻き状に巻いているが、後で伸びて斜上する。花序の枝にタコの吸盤のように花が並ぶのでこの名がついた。本州～奄美大島、東アジアに広く分布する。延岡市では各河川で見られる。



69. ズイナ *Itea japonica* ズイナ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

落葉低木で 1-2m ほどにしかならない。花は白く、総状花序で紐状となって咲く。4～5 月に開花。日本特産で本州（近畿地方南部）、四国及び九州に分布する。九州には宮崎県にしか分布しない。綾町、西都市、尾鈴山に分布する。延岡市には無鹿と北川町家田および北方町曾木にわずかに生育している。増減はない。



70. ヒメノボタン *Osbeckia chinensis* ノボタン科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) NT-g

日当たりのよい草地に生える多年草。草丈は 20-50cm ほどで、やや株立つ。花は夏に開花し、径 2-3cm ほどになり、紅紫色で美しい。花弁は 4 枚、雄しべは 8 個で葯は黄色で目立つ。本州（紀伊半島）、四国、九州及び中国に分布し、延岡市には、上三輪、北方町の笠下、山口原、駄小屋に生育地がある。いずれも水田の畦畔草地にあり、刈り取りや野焼きといった人為的干渉が必要である。改修工事により減少している。



71. イワウメヅル *Celastrus flagellaris* ニシキギ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) NT-g

落葉性のつる性の木本。山野の林縁で樹幹や岩上に這いのぼる。本年枝は黄緑色で次第に褐色になる。葉は互生し、長さ 2-5cm、幅 1.5-4cm で、円形または卵形で縁に細かい鋸歯がある。5~6



月に黄緑色の花を 1-3 個つける。本州関東以西、四国、九州、アムール、朝鮮半島、中国に分布。県内各地に分布し、延岡市では北川町の長谷に自生する。個体数は変化なし。

72. トモエソウ *Hypericum ascyron* オトギリソウ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) —

高さ 50-130cm、直立し分岐する。葉は披針形で先はとがり基部は半ば茎を抱く。花は黄色で径 5cm ほどあり大きい。発見当初はコウライトモエソウとされていたが、花の時期がトモエソウは 6 月、コウライトモエソウは 8 月であり、花柱が短く、花柱の



上部の切れ込みがトモエソウは 1/2、コウライトモエソウは 1/4 ほどである。北川町の各地で確認された。特に細見林道沿いにある自生地は 1 万本以上の広がる大群落が確認されている。北川町のものは生育地が離れているので国内帰化ではないかと言われている。北海道~九州、朝鮮半島、中国、シベリアに分布。

73. アオカズラ *Sabia japonica* アワブキ科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) NT-r

前年枝には葉柄の基部が木化してトゲ状になって残るという特徴を持つ。早春に黄色い花を一杯つけ、秋にゆがんだ卵形の青い果実となる。蔓は普通直径が 2-3cm であるが、延岡市内と北川町内



内ものは 10cm を越え、高さが 10m を超える巨大な株が見られる。四国と九州および中国に分布する。日本には他県には希で、宮崎県が最大の分布地のようである。延岡市内では各地に分布する。大株は盆栽にされているらしく、しばしば盗掘跡を見かける。個体数は変化なし。

74. オオバネムノキ *Albizia kalkora* マメ科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) EN-r

落葉性の垂高木、2回羽状複葉で3-6対の羽片があり、小羽片は9-15対で、ネムノキの幅は4-6mmであるがオオバネムノキは8-15mmあり2倍以上の大きさである。初夏に1-3個の頭状花序で長さ2cm前後の白色の花を咲かせる。豆果は幅約3.5cmである。朝鮮半島及び中国、東南アジア、インドに分布する。日本には延岡市から日向市美々津までの近海地に生育する。延岡市には、沖田町・片田町・塩浜町・構口町・松原町・追内町の丘陵地にある。特に愛宕山南麓の片田町の群落が最大である。宅地開発、改修工事、遷移の進行により減少している。厳正な保護が必要である。



75. ハカマカズラ *Bauhinia japonica* マメ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

葉は単葉で、長さ6-10cmで先は2裂する。葉の形が袴に似ているのでこの名がついた。5~6月、淡い黄色の花が総状につく。本州紀伊半島、四国高知県、九州、沖縄に分布。日本固有。島野浦に2カ所自生地がある。個体数は変わらない。



76. ヨツバハギ *Vicia nipponica* マメ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

低山地の山麓に生える。高さ30-80cmあり、4-8枚の卵形の小葉を対生する。花は6~8月に咲き紅紫か青紫色である。クサフジの仲間、岡山県、四国、九州に自生する。本県西部が南限で、希な植物である。延岡市内には家田周辺の林縁に多く、大株のものが見られる。



77. ハマナツメ *Paliurus ramosissimus* クロウメモドキ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

高さ3mほどの落葉低木。葉は3-6cmの広卵形で丸く、3脈が目立つ。縁には浅くて細かい鋸歯がある。7~9月、葉腋に淡緑色の小花が数個つく。果実は1cmで、倒円錐形でコルク質である。本州東海地方以西、四国、九州、沖縄、台湾、中国、インドシナに分布。延岡では沖田川、友内川、浦城湾に分布する。改修工事により減少。



78. ソハヤキミズ *Pilea sohayakiensis* イラクサ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

日本特産の草丈 10cm ほどしかない小型のミズ属。高さは 10cm 前後、葉は広卵形で光沢が強い。鋸歯は弱く、花序に柄がある。紀伊(和歌山・三重)、四国(徳島)及び宮崎県に生え、いわゆる襲速紀(そはやき)地域に分布しており、和名はそれによる。宮崎県には、延岡市・北方町、高千穂町(九州には他にない)に 4 カ所現存が確認されている。新種記載の際に行藤山の標本が従基準標本(パラタイプ)として使われたが、現在は確認できない。水気のある岩場に生える。旧北方町下鹿川の自生地が世界最大規模である。やや個体数が減少。原因は不明。



79. ヒュウガサンショウソウ *Pellionia hyugaensis* nom. nud. イラクサ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) EN-r

雌雄同株の小型の多年草。葉の輪郭はオオサンショウソウに似るが、縁が裏に反り返り厚く見え、葉面は光沢がある。現存種ではアラゲサンショウソウに近いが、各部に粗い毛が多く、茎には鈎状に曲がった開出毛が密生し、雌花の苞や萼片には粗い刺毛が開出しているので別種となる。雄花は滅多に見ることができない。宮崎県北(日向市~延岡市)の特産種。低山地の空中湿度の高い照葉樹林の林内に生える。延岡市には 3 カ所所自生地がある。南谷忠志氏が宮崎県総合博物館研究紀要 22:61-73 (2001) に新種として記載している。個体数は変わらない。



80. ゴキヅル *Actinostemma tenerum* ウリ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) NT-g

湿地に生える 1 年生のツル性の草本。葉は三角状披針形で先はとがる。花は 8~11 月黄緑色。果実は卵形で下半分には突起がある。本州~九州、朝鮮半島、中国、ベトナムに分布。県内には各地に分布する。延岡市では家田と川坂の湿原に自生する。個体数は変わらない。



81. ウバメガシ *Quercus phillyraeoides* ブナ科

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) NT-r

本州(神奈川県以南の太平洋側)、四国、九州、沖縄および中国の暖地の近海地に分布する。内湾の海岸斜面に生育する。宮崎県には数カ所の記録がある。現存する自生地は延岡市の赤水だけであったが、今回の調査で島野浦にもまとまった群落があることが確認された。本自生地は学術上重要である。



82. ハナガガシ *Quercus phillyraeoides* ブナ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) NT-g

高さ 20m にもなる常緑性の高木。樹皮は暗灰色。葉身は披針形で 5-13cm、幅-2.5cm あり裏面は淡緑色である。和名は葉長櫂の意。日本特産種で熊本(天草)、鹿児島(大口)、大分(佐伯)と四国(高地・愛媛の一部)にまれに分布しているが主たる分布地は宮崎県である。県内では宮崎市、北諸、綾町周辺に集中している。県北では日向市の福瀬と北方町の藤ノ木神社に自生している。個体数に変化は見られない。



83. サクラバハンノキ *Alnus traveculosa* カバノキ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-r

湿地に生える高さ 10-15m になる落葉小高木である。樹皮は灰白色でなめらかで、ハンノキのように古くなっても割れ目は入らない。葉は卵状楕円形で先端は短くとがり、基部は円形または浅いハート形。縁には不ぞろいの細かい鋸歯がある。側脈は 9-12 対で表面に光沢がある。花は 2~3 月に雄花序が枝先から 1-5 個垂れ下がる。雌花序は雄花序の下に上向きにつく。本州岩手県以西、宮崎県、中国に分布。県中北に分布。延岡市では稲葉崎に数本自生する。きわめて貴重な群落である。個体数に変化はない。



84. ハンノキ *Alnus japonica* カバノキ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-g

落葉性の高木。温帯から亜寒帯の北海道~九州及び朝鮮半島・中国東北部・千島・ウスリーに生える。宮崎県が南限で、小林市のものは絶滅し、わずかに高鍋町と延岡市に残存している。河畔や池畔の湿地に生える。稲葉崎の池に続く湿性地に数本生えている。きわめて絶滅の危険性のある群落である。自生地造成により絶滅が懸念される。



85. ノグルミ *Platycarya strobilacea* クルミ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

落葉性の高木で、クルミの仲間。しかし、果実はいわゆる堅果ではなく、1 個の果実は小さく 5mm ほどで、それらが集まって長さ 3-4cm の楕円体となっている。小さな果実の一個一個には先の尖った翼があり、果体は針状の小型の松かさの思わせる。本州、四国、九州と韓国、中国の暖帯にあり、南限が門川町と延岡市の境界地帯である。延岡市では沖田ダム周辺でのみ見られる。増減はない。



86. ハタザオ *Arabis glabra* アブラナ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

茎は直立し高さ 20-100cm の越年草。葉は長楕円状卵形～卵状針形、下部は柄あるが上部に柄なし。長さ 2-12cm、幅 1-5cm。6～8 月に開花し、総状花序で白色。果実は長角果で線形、3-10cm となる。北海道、本州、四国、九州の海岸砂浜に生える。宮崎県は南限域となり極めて稀となり、現存確認されているのは延岡市にただ 1 カ所だけである。個体数は極少なく、海岸の造成、遷移進行、人による踏みつけによる絶滅が懸念される。シカの侵入の形跡があるので食害も危ぶまれる。減少。



87. ハマボウ *Hibiscus hamabo* アオイ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

ハイビスカスの仲間であるが、夏緑性である。高さ 2m ほどになる。7～8 月に径 5cm ほどの黄色い美しい花を開くので、河川の堤防の景観樹木や庭園木としても利用される。果実は海水に浮いて広がる。砂泥質の遠浅の入り江や塩沼地に生育する。関東地方以南から奄美に分布する。延岡市には、五ヶ瀬川河口、島浦、二ツ島、友内川、沖田川や浦城、熊野江に生育地がある。増減なし。



88. ツチビノキ *Daphnimorpha capitellata* ジンチョウゲ科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) CR-r

落葉性の高さ 1m 程度の低木、枝は太く少ない。葉は束生状に互生し、草質で長さ 15cm、幅 5cm 程度と大きく、無毛、卵状倒披針形である。初夏に数十個長さ 1cm の筒状の淡紅花をつけ、乾果は紫褐色である。和名は土(ツチ)の上に生えるガンピ類(ビノ)の意である。世界で北方町と北川町に各 1 カ所のみ(延岡市固有種)。生育地の低所のものは鑑賞用採取され、減少が著しい。厳正な保護対策は緊急課題である。減少。



89. ミヤマガンピ *Diplomorpha albiflora* ジンチョウゲ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

幹枝は粘りがあり折れにくい。葉は指先ほどの卵形の蒼白色。初夏に枝先の花柄にふつう 2 個が頂生する真っ白い花を開く。花弁は退化し、1cm ほどの萼筒の先に 2-3mm の萼裂片が開く。典型的な襲速紀植物で日本特産の希少植物。分布は本州(和歌山県)、四国(中・西部)、九州(大分)で、県内には県北のみ(祖母・傾・大崩山系)。1300m 以上のブナ帯の岩山に生える。一般的にガンピ類はシカの忌避植物であるが本種は幹までかじられ、かろうじてわずかの個体が残っている。減少。

90. コミノヒメウツギ *Deutzia hatusimae* アジサイ科

(環境省 RL2020) CR (宮崎県 RL2015) CR-r

落葉低木。ヒメウツギの仲間でヒメウツギに似るが、花や果実が極めて小さい点の特徴である。山地の林縁に生える。本数は少ない。大分県と宮崎県に分布し、宮崎県では県北のみに自生する。北川町の山中の溪谷に1株だけ確認されている。絶滅が危惧されるため保護が必要である。



91. ヒュウガアジサイ *Hydrangea serrata* var. *minamitanii* アジサイ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

ヤマアジサイの仲間。ヤマアジサイが土深い林内に生えるのに対し、水のしたたる岩場に生える。ヤマアジサイに比べると葉が大きく、濃緑色で光沢があり、葉裏の毛は脈腋にしかない。ヤマアジサイの変種とされている。花色もピンク系でヤマアジサイの青紫と異なる。ただし、五ヶ瀬川溪流のものは白花となる。宮崎県の準固有種でわずかに県境を越え熊本県と大分県にも広がっている。学名は発見者の南谷氏にちなむ。延岡市には祝子川、二股、鹿川溪谷、森谷観音などで見られる。増減なし。



92. イワザクラ *Primula tosaensis* サクラソウ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) CR-r

山地の岩場に生える多年草。数枚の葉を束生する。葉身は3-8cmある。4~5月に径3cmほどのピンク色の花をつける。サクラソウの仲間である岩場に咲くのでこの名がついた。本州中部以西、四国、九州に分布。県内では県中、県西、県北に分布するが、延岡市では北方町の溪谷に1カ所しか自生地はない。かつて群落が広がっていた場所は洪水で流され一部しか残されていない。保護が必要。減少。



93. ドウダンツツジ *Enkianthus perulatus* ツツジ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

葉身は倒狭卵形で2cm、幅1cm程度である。春に枝先に数個の白花を散状につける。8mmのつぼ形で先が5浅裂する。庭園木や各所の街路に植え込まれている。一般に「ドウダンツツジ」と呼ばれているものはベニドウダンやシロドウダンで、本種の自生は少なく、本州南部、四国(高知県)、九州(宮崎県、鹿児島県甬与志岳)にしかない。宮崎県には、延岡市北川町の可愛岳と門川町(2個体)にあり、可愛岳には群生している。天然記念物的価値があるもので、延岡市を代表する植物である。



94. ヤッコソウ *Mitrastemon yamamotoi* ヤッコソウ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-g

スダジイ(イタジイ)の根に寄生する珍奇な形をした植物。葉は葉緑素を持たず、白色で鱗片状、その最上部の一对は大きくなりやや斜めに開くので、手を広げた「奴さん」を思わせるので、和名がついている。日本特産種で四国(徳島・高知)、九州(宮崎・鹿児島)および沖縄だけに分布する。宮崎県内には延岡市(熊野江、須美江、島野浦、市振)、都農町から綾町、宮崎市、日南市に自生地がある。やや減少。



95. ヨウラクツツジ *Menziesia purpurea* ツツジ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

山地の岩場に生える高さほどの落葉低木。葉は互生枝先に集まってつく。表面と縁には腺毛を散生する。裏面は粉白色を帯びている。5~6月枝先に濃紫色の花を3-10個束生状につける。九州(大分、熊本、宮崎)に分布。県内では県北に分布。延岡市北方町大崩山系に自生する。



96. コイケマ *Cynanchum wilfordii* キョウチクトウ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

葉は円形で先端部は急尖し、基部は心形、長さ5-10cm、幅4-8cmである。7~8月に淡黄緑色の花をつける。花序の柄は葉柄より短い。本州(関東以西)、四国、九州、朝鮮半島、中国に分布。県内では延岡市の海岸に唯一自生地がある。近年発見された。株数も10株以下であるので保護が必要である。



97. チョウジソウ *Amsonia elliptica* キョウチクトウ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EN-r

草丈40-80cmの多年草で、葉は互生し、毛がなく披針形で先は鋭く尖り、長さ6-10cm、幅1-2cm。5~6月に茎頂に集散花序で径約13mmのやや多数の独特の美しい青藍色の花をつける。平開した花を横から見ると丁字状に見えるのでこの名があるのであろう。本州、九州および朝鮮半島、中国に分布。九州には大分県に1カ所と宮崎県だけにある。南限の日向市美々津は造成により消えた。現存南限は延岡市で、旧延岡市と北川町の湿地に生えており、生育地の保護が重要である。シカの忌避植物であるため増加傾向にある。



98. ホウヨカモメヅル *Vincetoxicum hoyoense* キョウチクトウ科
(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

葉は長卵形～長楕円形で光沢があり、表裏とも脈以外は無毛でやや厚ぼったい。夏に開花し、花弁は無毛で暗紫色、長さが1cmほどもありカモメヅルの仲間では大きい。四国(愛媛県)、九州(大分県南部と延岡市)の豊予海峡周辺の特産である。和名も地域名による。海岸林の林縁の岩場や草地に生える。増減なし。



99. ロクオンソウ *Vincetoxicum amplexicaule* キョウチクトウ科
(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

直立し 40-100cm。葉は白緑色、無柄で卵状長楕円形、長さ 4-8cm、幅 2-4cm で裏面は粉白色を帯びる。7~8月にうす黄色の花をつける。花序は葉腋からでて密に花をつける。対果は狭披針形長さ5cmである。四国、九州、朝鮮半島、中国に分布。県内各地。増減なし。



100. アオイゴケ *Dichondra micrantha* ヒルガオ科
(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

ハマヒルガオに似た小型の多年草。海岸近くの空地に生える。葉は円腎形で幅8-20mmである。花は薄い黄色で小さく径3mmほどである。本州西南部～沖縄、亜熱帯～熱帯に広く分布。延岡市では北川河口に1カ所存在する。増減なし。



101. イヌゴマ *Stachys riederi* var. *intermedia* シソ科
(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

茎は四角形で直立し、高さ 30-70cm でふつう分枝しない。茎の稜に下向きの刺がある。葉は対生し、披針形で長さ 4-8cm。花期は 7~8月。茎頂に花穂を出し、淡紅色の花を密につける。日本固有種で北海道、本州、四国、九州に分布する。宮崎県にはえびの市にもあったが絶滅し、現存は北川町だけとなっている。湿地に生え、南限であり貴重。個体数が減少。



102. コナミキ *Scutellaria guilielmii* シソ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

海岸に近い草地に生える。タツナミソウの仲間であるが、花は白色で非常に小さい。茎の高さは 20-40cm で多少分枝する。ヒメナミキに似るが、春に開花すること、全体に毛が多いこと、葉身が心形であることなどで区別される。日本固有種で本州（関東以西）、四国、九州、沖縄県に分布する。宮崎市と川南町では絶滅し、宮崎県での現存は延岡市に 2 カ所のみで 1 カ所は大きな群落が広がる。増減なし。



103. トサムラサキ *Callicarpa shikokiana* クマツヅラ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

低山の二次林の林縁に生える 3m ほどになる落葉低木。対生する長楕円形の葉は、先端が尾状に長く、両面に黄白色の腺点を密生するのが特徴。夏、葉腋に多数の花をつけ、果実は秋に紫色に熟する。高知県で発見されたのでトサの名があるが、その後、大分県、大隅半島、屋久島で見つかり、宮崎県では都農町、綾、延岡市に分布する。延岡市では熊野江町、大峽町、北川町で発見された。個体数は少ない。増減なし。



104. ナミキソウ *Scutellaria strigillosa* シソ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

海岸の砂地に生える多年草。高さは 10-40cm。花期は夏。タツナミソウの仲間であるが、まとまった花序を作らず、花は葉腋に 1 個ずつつく。花の長さは 2cm ほどで、青紫色。北海道、本州、四国、九州および朝鮮半島、中国に分布し、近年に延岡市の海岸で 2 カ所確認されており、南限となっている。踏みつけによるものか減少。



105. ヒメナミキ *Scutellaria dependens* シソ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

沿海地の低木林下の湿地の草むらに生える多年草。茎は 20-40cm あり枝分かれする。葉は三角形で低い鋸歯があり先はやや円い。6~8 月葉腋に白色の花を 1 個ずつつける。北海道、本州、九州、朝鮮半島、中国、シベリアに分布。北川、友内川、祝子川の河口域の湿性地に生える。増減なし。



106. ミズトラノオ *Eusteralis yatabeana* シソ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

茎は柔らかく基部は横にはい、後に直立して高さ 30-50cm 位になる。葉はふつう 4 枚輪生し、線形で長さ 3-7cm。花期は 9～10 月。茎頂に長さ 3cm 程の円柱状の花穂をつけ、紫色の小花を密につける。花のつく状体が虎の尾に似ているのでこの名がついた。本州、四国、九州および朝鮮半島に分布。宮崎県内には、児湯郡のものは絶滅し、現存は県北部(日向市、延岡市)だけとなっている。北川町に自生地がある。川坂のものは絶滅した。遷移移行により減少。



107. ミズネコノオ *Eusteralis stellata* シソ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-g

休耕田や湿地に生える一年草。高さ 15-40cm で、葉は 4-6 輪生する。8～10 月頃、茎の先端に密に花をつける。花は白色で約 2mm。本州、四国、九州、朝鮮、台湾、東南アジア、インド、オーストラリアに分布。県内各地に分布し、延岡市内には須美江、家田、川坂、熊野江、浦城の水田に生える。増減なし。



108. ハマウツボ *Orobanche coerulescens* ハマウツボ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

海岸の砂浜に生えるカワラヨモギの根に寄生する一年草。全体に葉緑素を持たず、茎は黄褐色で太く、高さ 10-25cm、白い軟毛をつける。初夏、茎の上部に淡紫色の花を密につける。浜に生え、花がウツボグサに似ているのでこの名がある。北海道、本州、四国、九州、沖縄県および朝鮮半島、中国、シベリアに分布する。



宮崎県には延岡市に唯一の自生地があるのみである。踏みつけによるものかシカの食害によるものかカワラヨモギも減少している。ハマウツボは激減して数本しか残っていない。

109. 古江のキンモクセイ [ウスギモクセイ *Osmanthus fragrans*]

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) —

1930 年(昭和 5 年)に国の天然記念物に指定された。幹回りは 1.5m、樹高は 15m ほどである。樹齢 300 年と言われている。シロアリにより幹に空洞ができたが延岡市により修復の手当てがなされている。近年ウスギモクセイであることが判明した。

モクセイ科



110. ヤナギイボタ *Ligustrum salicinum* モクセイ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

落葉性の小高木高さ 5-8m。樹皮は灰色である。葉は対生、長さ-13cm の狭卵形で両端は長くとがり側脈が目立つ。6月に白色の円錐花序を多数つける。本州(近畿以西)、四国、九州に分布しているが、九州では高所に生え、宮崎県には椎葉村の深山に生えている。しかし、何故か北川町家田の湿原周辺の林内に生育しており、分布上貴重である。増減なし。



111. マルバノサワトウガラシ *Deinostema adenocaulon* ゴマノハグサ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-g

高さ 5-20cm の小形の一年草。葉は対生し、無柄で全縁。近似種のサワトウガラシの葉が線状披針形であるのに対し、本種の葉は卵円形で、長さ 4-10mm、幅 3-5mm である。8-10月に上部の葉腋に紅紫色の花をつける。本州、四国、九州および朝鮮半島に分布する。宮崎県には平野部の水田(希に湿地)に生えているが、減少が著しい。延岡市では北川町家田に記録があるが最近の確認できていない。今回の調査で北方町山口原の水田で発見されたが、存続は厳しいようである。数個体が水路に残っている。減少。



112. ノタヌキモ *Utricularia aurea* タヌキモ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

池に浮遊する一年草。水中葉は多数の捕虫囊をつけ、毛状の裂片に細かく立体的に分裂する。本県産のタヌキモ類は本種とイヌタヌキモである。イヌタヌキモは本種に比べてやや小さく裂片が平面的である。



113. ウバタケニンジン *Angelica ubatakensis* セリ科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) CR-g

山地の岩場に生える小型のセリ科の多年草。高さ 20-60cm、8-10月に花をつける。宮崎県北部の祖母山系が分布の中心地で、県境の大分県と四国愛媛県の東赤石山にも隔離分布している。県中部の渓谷岩上にある、やや大型になるものも本種である。ウバタケは祖母山の別名。延岡市には、北川町と北方町に生育地がある。増減なし。



114. オオウバタケニンジン *Angelica mukabakiensis* セリ科

(環境省 RL2020) CR (宮崎県 RL2015) CR-r

ウバタケニンジンに似ているが全体に大きく茎は 80cm 以上になる。葉は 3-4 回出羽状複葉で小葉は細い裂片に切れ込む。葉柄は株が膨らんだ鞘となる。8~9 月に複散形花序の白色をつける。延岡市の固有種で北方町と旧延岡市の 2 カ所にわずかに生育している。自生地が極限られ、個体数は少なく、絶滅の危険性が高い。減少。



115. ヌマゼリ *Sium suave* var. *nipponicum* セリ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

湿地に生えるやや大型の多年草で、茎の高さは 0.5-1m。葉は分裂せず単羽状。下部のものは 7-9 個の小葉があり、広線形で幅 1-2cm、長さが 3-10cm である。花期は夏~秋で、分枝した枝に白い小さな花を多数つける。分布は北海道、本州、四国、九州および朝鮮半島、中国。九州には稀産し、宮崎県延岡市北川町の家田が最大の自生地である。家田のものも遷移の進行により個体数が減少している。南限の宮崎市のものは近年確認できない。



116. ハマボウフウ *Glehnia littoralis* セリ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

海岸の砂地に生える多年草。高さ 5-40cm になる。葉は厚く鋸歯がある。6~7 月に花を開く。北海道~沖縄にあり朝鮮半島、中国、千島、樺太、アムール、ウスリーに分布する。県内では各地に分布する。延岡市では長浜海岸、熊野江海岸、北浦にかけて分布する。海岸の浸食や改修により減少した。



117. ヒュウガトウキ *Angelica furcijuga* セリ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) VU-g

イヌトウキに近似する多年草。山の斜面や溪谷の岩場に生える。宮崎県尾鈴山山麓で採集されたものに命名されたので、宮崎県中部から県北にかけて広く分布し、わずかに大分県佐伯方面にまで広がっている。宮崎県の準固有種。延岡市には行藤山、北方町、北川町、北浦町にあるが個体数は少ない。かつては群生する自生地が多く、珍しいものではなかったが、薬効があるとのブームにより、乱獲され希少種となっている。ブームが去り個体数はやや安定してきている。増減なし。



118. ヨロイグサ *Angelica dahurica* セリ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

シシウドに似て茎は 1-3m で基部の太さは 7-8cm となる大型の一年草。葉は 3 回出羽状複葉、小葉はシシウドより小さく細長く、縁はざらつく。7~8 月に花序の広大な白色の花をつける。分布は本州、九州(福岡県、長崎県、熊本県)に稀産し、朝鮮半島、中国、シベリアにある。宮崎県内には延岡市北川町が唯一の南限自生地となっている。近年、シカの忌避植物であるためかやや増加傾向にある。



119. ゴマキ *Viburnum sieboldii* レンブクソウ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

落葉高木で高さ 7m ほどになる。樹皮は灰褐色。葉は対生し長さ 15cm 倒卵状長楕円形。上部には鋸歯があるが基部近くにはない。名前は、枝や葉を傷つくとゴマのにおいがすることによる。本州関東地方以西の太平洋側、四国、九州、沖縄に分布し日本固有。県内各地に分布するが県北に多い。北川、祝子川下流に分布する。増減なし。



120. アシズリノジギク *Chrysanthemum japonense* var. *ashizuriense* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) -

兵庫県以西を大隅半島までの太平洋側に分布するノジギクの変種。葉がやや厚く、3中裂で裏面の白毛が密生するので母種のノジギクと区別できる。これまで、宮崎県内では認識されていなかった。延岡市内には東海から北浦町、島野浦の海岸に見られる。増減なし。



121. イナカギク (ヤマシロギク) *Aster semiamplexicaulis* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

晩秋の野山を彩るシロヨメナの仲間で草丈 1m 弱になる。シロヨメナ類は九州には宮崎県が最も多く、5種類もある。イナカギクは近畿から四国には普通だが、九州には四国に近い大分県と宮崎県北部の近海地だけにしかない。葉や茎に軟らかい長い毛があるのが特徴である。県内には延岡市のみで、鏡山周辺から北浦町北部山地に限られる。改修によりやや減少。



122. キオン *Senecio nemorensis* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EN-r

草丈は、0.5-1m。山地の草地に生える。葉は広被針形で両面とも無毛か、または少し縮れた毛があり、縁にはふぞろいな鋸歯がある。花期は 9~10 月で、黄色の頭花を散房状に多数つける。朝鮮、中国、シベリア、ヨーロッパ、南千島、北海道から九州の寒い地方に分布し、県内では、延岡市の行膝山、鏡山、北方町上崎にのみ分布する。増減なし。



123. ソナレノギク *Aster hispidus* var. *insularis* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

海岸の岩場に生える。ヤマジノギクが壮大となって無毛になる型で、秋にうす紫の花をつけるが、花も大きく、葉にも光沢が強く、茎もがっしりしている。ヤマジノギクの亜種もしくは別種扱いにする説もある。もともと、四国南西部の特産とされていたが、日豊海岸から日南海岸にも分布することが確認された。延岡市では東海や神戸から北浦の海岸に見られる。増減なし。



124. ツクシトウヒレン *Saussurea nipponica* キク科

(環境省 RL2020) EN (宮崎県 RL2015) CR-r

温帯林の林床や林縁に崖地に生える。高さ 50-100cm ある。茎に広い翼があり葉は幅が広く厚い。秋に茎頂に 10 個前後の花をつける。花の色は白色。うすいピンク色になることもある。総苞片が開出する。日本固有。県内では県北と県央に、県外では熊本県にのみ分布。延岡市では大崩山系に自生地がある。増減なし。



125. ハマニガナ *Ixeris repens* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

海岸の砂浜に大群落を作る。砂にへばりつくように葉が広がるが地下茎を長く引く。葉は長柄があり厚く 3-5 角形で基部は心形で 3-5 裂する。4~10 月、径 3cm ほどの黄色い頭花をつける。北海道~沖縄県、朝鮮半島、中国、ベトナム、カムチャッカに分布。砂丘の流失、車や人の踏みつけなどにより減少している。



126. ウラギク (ハマシオン) *Aster tripolium* キク科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) CR-r

茎は高さ 25-55cm で無毛。葉は披針形で長さ 6.5-10cm、肉質で柄はない。花期は 10 月。多数の頭花を散房状につける。花は赤紫色で径約 2cm と大きく美しい。冠毛は花後伸びる。本州(関東以西)、四国、九州およびアジア、アフリカ、ヨーロッパに広く分布する。延岡市内には甫場、櫛津の海辺の湿地に生えており、埋立、造成やゴミの投棄により激減している。無鹿と沖田川のは絶滅した。日向市が南限。減少。



127. ニッポウアザミ *Cirsium nipponense* キク科

(環境省 RL2020) CR (宮崎県 RL2015) EN-r

ほっそりとして背が高いアザミで、大きいものは 2m にもなる。花期に根出葉が生存せず、頭花は直立ないし斜上し、茎はよく分枝する。総苞片は 8-9 列で、狭披針形の腺体があり、総苞は粘る。花は中型で、葉は切れ込みトゲが鋭い。わずかに大分県にもあるが、宮崎県北部に分布の中心をもつ。日豊海岸の特産植物。2005 年に北浦町で発見され、新種記載された。全体的には増減なし。場所によってはシカの食害で減少。



128. ヒュウガヤブレガサ *Syneilesis akagii* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

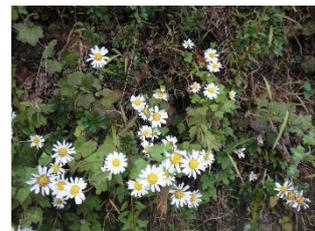
キク科の多年草で、緩やかな斜面の林床に生える。葉は円形で直径約 30cm あり、掌状に深裂する。ヤブレガサの仲間であるが、葉が楕状をしており、ヤブレガサは葉の裏は黄緑色で切れ込みが深裂するが、ヒュウガヤブレガサは葉の裏は白く、浅裂する。花の数が多く上部に集まる傾向にある。県北 6 市町の 12 カ所と大分県南部、熊本県中部に各 1 カ所に分布する。鏡山に大群落がある。増減なし。



129. リュウノウギク *Dendranthema japonicum* キク科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

茎の高さ 30-50cm、10 月から 11 月に開花する。舌状花は白色である。ノジギクに似ているが、葉の切れ込みがノジギクに比べてやや単純である。花がやや小さく総苞片の外片が線形で、内片と先端がそろった点が異なる。日本固有種で本州、四国、九州に分布する。九州では延岡市が唯一の自生地である。延岡市では鏡山、天下町、鹿狩瀬町、行隣町に分布。増減なし。



130. キキョウ *Platycodon grandiflorum* キキョウ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-g

秋の七草のひとつ。山野の草原や海岸の林縁の岩場に生える。高さ 50-100cm。葉は狭卵形で 4-7cm あり対生または輪生する。縁に鋭鋸歯がある。葉の裏は扮白色を帯びる。夏に茎頂に 4-5 cm の青紫色の花を数個つける。北海道～九州、朝鮮半島、中国、ウズリーに分布。県内では県北に分布し、延岡では海岸に生える。減少。



131. アサザ *Nymphoides peltata* ミツガシワ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) EW-r

水中に生える植物で、茎は長くたくさんの葉をつける。葉は水面に浮かび、径 5-10cm で円心形。花期は夏で、径 3-4cm の黄色い花を水上につける。種子は水面に浮き、岸辺で発芽するので、生育地には浅い岸辺が必要である。本州、四国、九州及び朝鮮半島、中国、ユーラシアに分布し、県内では新富町の一ツ瀬川河口部にあったがゴルフ場建設により 1989 年に絶滅した。近年、延岡市で確実に行隣川自生地から得た株が栽培され続けていることが判明した。野生絶滅と思われる。栽培個体から延岡植物園と金堂ヶ池で繁殖が行われている。



132. ヒメシロアサザ *Nymphoides coreana* ミツガシワ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-g

ため池や休耕田に生える多年草で茎は細長く、葉は径 2-6cm、卵心形で水面に浮かぶ。夏に花をつける。花は径約 8mm、がく裂片は広被針形で、花冠裂片は白色で縁に毛がある。水質悪化や埋め立てにより減少している。本州、九州、沖縄県、朝鮮半島、中国に分布し、宮崎県では県中、県北に分布する。延岡市内では、稲葉崎、家田、川坂、島浦、浦城に分布する。二ツ島のもは一時消失していたが掘削して池を造成したら再生した。須佐町のもは消失した。減少。



133. サイコクヌカボ *Persicaria foliosa* var. *nikaii* タデ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-g

水辺に生える小型の一年生植物。茎が倒れてそこから根を出し横走する傾向がある。ヌカボタデに似るが、それより花茎はしっかりして斜状し、花が帯紅色で花序がまばらである。日本特産種で本州西部、四国、九州に稀産している。宮崎県には延岡市、日向市、宮崎市、国富町等にわずかに生育地がある。低地の溜池や河川の周辺湿地に生え、脆弱で個体数がもともと少なく確実に減少している。



134. サデクサ *Persicaria maackiana* タデ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-g

ウナギツカミの仲間であるが、葉が細く極端な銚（ほこ）型をしている。よく分枝するため大株になる。逆刺も多く触ると痛い。秋に金平糖状の花をつける。県外の分布は、北海道～九州および朝鮮半島、中国、ウスリーで、宮崎県には延岡市（島浦、家田・川坂）だけである。浦城のものは消失した。低地の湿地、休耕田などに生え、かつては宮崎市にも生育していたが、埋立、農地利用、管理放棄で消えた。減少。



135. ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastato-sagittata* タデ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) CR-r

この仲間は茎に逆刺があるため、名前のおりこの草を使えばウナギもつかめる。県内には数種あるが、花の最も美しいのが本種である。花期は秋で、花序は赤紫色で大きい。県外の分布は、本州、九州及び中国、台湾で、宮崎県には北川町の家田・川坂の湿地や休耕田だけに生える。自生地は埋立、開発、管理放棄、遷移移行による絶滅が懸念される。増減なし。



136. ヌカボタデ *Persicaria taquetii* タデ科

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-g

水湿地に生える一年草。茎の下部は地を這って根を出す。上部は直立し高さ 20-40cm になる。9～11 月に花をつける。総状花序はまばらで細長く線形。花は長さ 1.5mm、淡い紅色。本州～九州、朝鮮半島に分布する。県内では宮崎市北部、延岡市に分布。延岡市では北川町家田に自生する。増減なし。



137. ミチヤナギ *Polygonum aviculare* タデ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

路傍や水田に生える一年草。茎は地を這い、下部より分枝し高さ 10-40cm になる。葉はほとんど柄がなく線状楕円形である。5～10 月に葉の腋に小さな花をつける。北半球の温帯～亜熱帯に広く分布。国内では北海道～沖縄に分布。宮崎の各地に散在。延岡市では舞野町や後曾木などの水田で、稲の植えられていない時期に群落を作る。減少。



138. ハママツナ *Suaeda maritima* アカザ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) CR-r

草丈 30cm 前後の草本。茎はよく分枝する。葉は線形で肉質、茎に多数付くことからこの名がある。葉は初め緑色であるが、後に赤く色づき、大変美しくなる。分布は、本州、四国、九州および世界の北半球に広く分布する。宮崎県には、延岡市の沿海地だけである。生育環境は塩沼湿地である。増減なし。



139. ホソバハマアカザ *Atriplex patens* ヒユ科

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

海岸の砂地に生える一年草。高さ 60cm ほどである。葉は細長い披針形で波状の歯牙がある。北海道～九州、アジア北東部に分布する。県内では県北の海岸に自生。増減なし。



140. ハマサジ *Limonium tetragonum* イソマツ科

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-r

海岸の砂地や河口の汽水域に生える。葉は根ぎわに束生し、長さ 5-17cm でへら形をしている。この形状から名前がついたようだ。夏に 30-50cm の花茎を伸ばし、円錐状に多数の花をつける。花は小さく薄黄色である。本州（三陸海岸以南の太平洋側）、四国、九州、朝鮮半島、中国に分布する。県内各地で見られる。増減なし。



4. 維管束植物から見た延岡市の重要な生育地

(1) 高島（北浦町）

北浦町古江の約 3km 沖合に浮かぶ無人島で、周囲約 3km あり、スダジイ林（ミミズバイースダジイ群集）やタブ林（ムサシアブミータブ群集）の自然林より成り立っている。林縁には海岸風衝低木林や海岸砂丘低木林が見られる。スダジイやタブ林の林内にはビロウ群落が生息し、島全体で約 200 本以上自生する。林床には、暖地性の植物のアオノクマタケランや宮崎県の北限にあたるイモネヤガラなどが見られる。周辺の風衝低木林縁には、サダソウなど希少植物群落が分布する。ビロウの自生地は北限地帯でもあり、希少種も 10 種ほど生育し、貴重な地域である。



(2) 熊野江の塩沼地および海岸砂丘（熊野江町）

熊野江川の河口域には、塩沼植物であるハマサジ、ナガミノオニシバ、ハマゼリ、ハマボウ、ハマツナが分布する。このうちハマボウは、約 350 本あり広大な面積を占める。砂丘海岸が約 2km 続き、ハマボウフウ、ネコノシタ、ビロードテンツキ、ハマニガナ、コウボウムギ、ケカモノハシ、コウボウシバなど海岸砂丘の特有の植物が分布する。南部のやや安定した立地には、ナミキソウ、ハタザオ、ホウヨカモメヅルなどが点在する。砂丘に隣接する林縁には、コナミキやハマナツメが自生する。砂丘植生を構成する多様な植物種が存在すること、ナミキソウの南限域であることなどから、重要な生息地であるといえよう。



(3) 南浦海岸（浦城町、神戸町、安井町）

浦尻湾の最奥の甫場には、広大な塩沼植物群落分布する。約 500 m²あり、ナガミノオニシバ、ウラギク、ホソバハマアカザ、ハマサジ、ハマゼリ、ハママツナ、ハマナツメ、ハマボウが自生する。ハマナツメは、線状に数十本群落を形成する。県内では、塩沼植物種の構成種が最も多い群落である。湾内一帯には、ハマボウやハマナツメ、ハマサジが点在する。

沿岸部の周辺の低地には、チョウジソウ群落が3カ所分布する。湾岸に池（約 30×25m）があり、ヒメシロアサザ、セキシヨウモ、サイコクヌカボ、ニッポンイヌノヒゲ、イトモ、サデクサ等が自生する。池の周辺には、チョウジソウが100本近く群生する。周辺の山地には、カンアオイが2種分布する。

神戸町の海岸には、アシズリノジギクやコイケマが自生する。コイケマは宮崎県で唯一の自生地である。安井の北の白浜はナミキソウの南限地となっている。特異な塩沼植物が存在すること、チョウジソウをはじめ20種ほどの希少種が自生することなどから、重要な生息地であるといえよう。



(4) 新浜・長浜・方財の海岸砂丘（新浜町、緑ヶ丘、長浜町、方財町）

延岡新港の北端から方財海岸まで幅約 50m で約 15km の砂丘が続く。ハマボウフウ、コウボウムギやネコノシタ、ハマヒルガオ、ケカモノハシ、ハマゴウなど砂丘特有の植物群が分布する。新浜ではグンバイヒルガオ群落が見られたが、砂浜が狭まったため消失した。潮風や砂を防ぐ役割をしている海岸林を維持するためにも砂丘植生はそで群落として重要な役割を果たしている。天然記念物のアカウミガメの産卵地として、県の保護指定を受けている。



(5) 土々呂・赤水湾塩沼地および沿海地（赤水町、鯛名町、櫛津町、妙見町）

土々呂湾の最奥の妙見湾には、ハマボウ、ハマサジ、ナガミノオニシバ、ウラギク、シバナなどの塩沼植物群落 distributes、海浜の水田放棄地では、テツホシダが分布する。赤水湾の沿岸地では、ウバメガシ林が発達し、隔離分布するシシアクチやヘゴやオオバナムノキなどの亜熱帯性の植物が自生する。塩沼地植生や亜熱帯性の植物が分布すること、北限にあたるヘゴや隔離分布するシシアクチやオオバナムノキが分布することなどから、群落複合としての位置づけとして重要な生息地であるといえよう。



(6) 家田・川坂・長谷の湿地および里山（北川町）

家田湿原は、家田川とその周辺に広がる約20haの湿地よりなる。家田川には、サイコクヒメコウホネが約1000株、約3kmにわたって分布する。オニナルコスゲ、ヌマゼリ、ヨロイグサなど北方系の植物や、コウツギ、ヤナギイボタ、オニグルミなど高地に生える種類も分布する。新種も発見されている。



ハタベカンガレイ、サデクサ、サワゼリ、ナガバノウナギツカミ、イヌゴマなど県内でもこの地でしか見られない種類も多く、全体で40種を超えるの希少種が自生する。

川坂湿地は、川坂川とその支流の山之内川とその周辺の湿性地在が広がる。川坂川・山之内川には、1000株をこえるオグラコウホネが分布し、湿性地にはナガバノウナギツカミ、サデクサ、サイコクヌカボ、ヌカボタデ、マイヅルテンナンショウ、ウマスゲなどの希少種が自生する。長谷川にはサイコクヒメコウホネが分布し、川の周辺の湿性地にはオニナルコスゲの大群落が見られる。また、湿性地に隣接する落葉低木林内やスギ植林地には、ヤナギイボタやコウツギ、1000株を超すチョウジソウの大群落が分布し、イワウメヅルやオニグルミ、ヨロイグサが自生する。周辺の里山を含めて稀少な種群がそろっている重要な生息地であるといえよう。宮崎県の重要生息地にも指定されている。

(7) 稲葉崎のため池とその周辺湿地（稲葉崎町）

稲葉崎には、8カ所の池が点在するが、このうち最大の稲葉崎池にはヒメシロアサザとコウホネが自生する。周辺の湿地には、カンアオイも生える。クズ池には、コウホネが広く分布する。周辺の湿性池には数本のハンノキやサクラバハンノキ、チョウジソウやオニスゲの群落分布する。近年、ソーラー発電装置の設置によりヤマドリゼンマイ群落とコウホネ群落の一部が消失した。周辺の水田や助田池にもミズオオバコやヒメシロアサザが分布する。貴重な生息地である。



(8) 友内川（二ツ島町、牧町）

北川河口域にあり、北川から分かれて約1.6kmほど下り、再び河口に注ぐ。水域には、コアマモの大群落分布し、この中にカワツルモやイトクズモが点在する。河岸には、ハマボウやハマナツメが点状に分布し、ヒメナミキ、タコノアシ、ウラギク、イセウキヤガラなども自生する。ヨシ群落の間にはシバナの群落分布する。イトクズモは県内では友内川が唯一の自生地である。塩沼植物を中心として多くの稀少種が自生していること、コアマモの大群落分布することなどから、河口域を代表する植分として極めて重要性の高い生息地であるといえよう。宮崎県の重要生息地に指定されている。



(9) 沖田川下流域（旭ヶ丘、石田町、塩浜町）

沖田川の中下流域には、ハマボウの群落
が帯状に約 2.5km 続く。本数は、約 3,000
本近くある。護岸の目的で過去に植樹され
た部分もある。景観の保持や河岸の生態系
の保持に重要な役割を果たしている。県北
では最大の群落である。河口近くのハマボ
ウの林床には、ハマサジやハマナツメも見
られる。また、周辺にはオオバネムノキも
点在する。



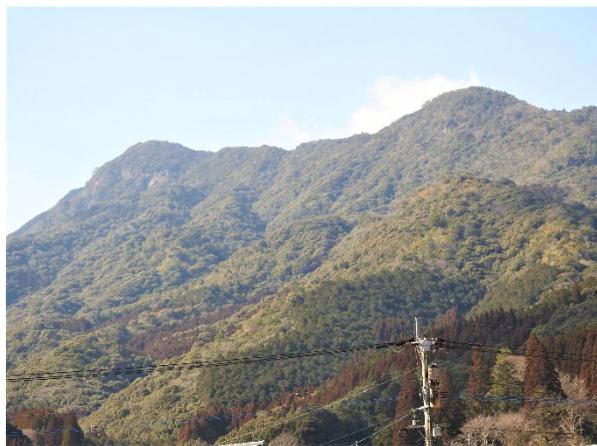
(10) 鏡山（北川町、熊野江町、北浦町）

鏡山の東斜面には、ニッポウアザミ、リ
ュウノウギク、キオン、イナカギク、トサ
ムラサキ、ロクオンソウが分布する。近年
の調査で鏡山を境にして、北にイナカギク
が分布し、これより南にシロヨメナが分布
することが明らかになった。また、キオン
は県下で最大の群落がみられる。西から北
斜面には、ヒュウガヤブレガサ、ケサンカ
クヅル、ニセヨゴレイタチシダ、カンアオ
イ類、その他の希少種が自生する。希少種
が極めて多いこと、キク類の分布境界地と
して極めて重要な山塊であるといえよう。



(11) 可愛岳（大峽町、北川町）

大崩山の環状裂岩脈の一角をなす可愛
岳は、標高 727m あり中腹の照葉樹林と
山頂近くの岩場と変化に富んでいる。頂上
近くの尾根筋には、200 本以上のドウダン
ツツジの大群落が分布する。ドウダンツ
ツジの自生地は、県内では門川町でも確認さ
れているが、門川町のもは本数が2本と
限られ、可愛岳が分布の中心となってい
る。山腹には、まとまったアカガシ林が分
布する。山麓には、トサムラサキ、シロシ
ャクジョウやカンアオイなど希少種が分布する。



(12) 行藤山（行藤町）

花こう斑岩よりなる岩壁に生育する岸壁植物と山麓のイチイガシの自然林より成り立つ。イチイガシ林（サツマルリミノキーイチイガシ群集）は約 30ha あり、イチイガシ、スダジイ、アラカシ、タブなどの照葉樹林より構成され、市街地の近くにこのようなイチイガシの自然林が残っているのは、極めて貴重な存在である。林床には、シロシャクジョウ、ミドリムヨウラン、サンヨウアオイ、ヤクシマアカシユスランなどが自生し、岸壁には、ヒユウガギボウシ、ヒユウガトウキ、ノカンゾウが見られる。山腹の林床にはコオロギラン、キリシマシャクジョウ、ケミヤマナミキなどが自生し、山頂付近の岩隙には、固有種であるオオウバタケニンジンやヤマジノギクの一種が生えている。照葉樹林を代表するイチイガシの広大な自然林が広がり、多くの着生植物もみられる。岸壁植生の貴重な植物群落、固有種の存在などの理由から極めて価値の高い生息地であるといえよう。



(13) 大崩山系（北川町、北方町）

上祝子の溪谷を取り囲むように大崩山系の山々が連なる。谷部の三里ヶ原には、モミ林（コガクウツギーモミ群集）が広がる。山塊の急斜面には、ツガ林（アケボノツツジツガ群集）が分布する。上部の安定した立地には、ブナ林（シラキーブナ群集）が分布する。上鹿川上部の国見山、鬼の目山、榎峠にかけて自生のスギ林（ツチビノキスギ群集）が広がる。50 数種以上の希少種が自生し、この中には、モミジカラマツなどの北方要素の植物や、多くのツツジ類、特にミツバツツジ類は 6 種 1 変種あり、世界でも最も多様な種類を擁する。世界で唯一の自生地であるツチビノキ、日本で最大のモミ林や日本でも数少ない天然スギの自生地が分布する。植生的にも鬼の目山の温帯性夏緑広葉樹林域群落や大崩山山系の山地風衝低木群落は移行植生として、また冷温帯性夏緑広葉樹林域群落の存在する山塊として重要な生息地である。



(14) 舞野周辺の里山（舞野町、貝の畑町、平田町）

舞野町、平田町、貝の畑町には広大なモウソウチク林やマダケ林が分布する。この林床には県下でも極めて希少性の高い植物群落分布する。舞野のモウソウチク林の下には、ヒメイカリソウ群落とコバナナベワリ群落分布する。県内ではヒメイカリソウはこの舞野町が唯一の自生地である。また、コバナナベワリは近年新種として認められ、他にも分布地があるが県内で限られた自生地である。貝の畑町のマダケ林



の林床に分布するツクシアオイは九州の西方佐賀、長崎に分布地があるが、県内では貝の畑町にしか分布していない。ツクシタツナミソウやヤマホトトギスなども生える貴重な地域である。近年、貝の畑町では道路の拡張工事が計画されている。道路は自生地の中央にかかるため、一部の群落を移植する計画である。また、舞野のモウソウチク林は手入れがされていないため低木により生育が阻害されている。早急な対策が必要である。

(15) 島野浦（島浦町）

島野浦は北浦町の沖に浮かぶ離島で面積が2.8km²、周囲は15.5kmある。島内には変化に富んだ海岸線が多い。南部の比井の浜には塩沼植物群落分布し、ハマサジ、ハママツナ、ハマゼリが自生する。周辺の湿性にはヤマドリゼンマイの大群落広がる。岸壁近くの低木の林縁にはハマカンゾウや希少植物が見られる。



西側の漁港のある湾内のスダジイ林には、寄生植物のヤッコソウが生える。また、林縁にはシオミイカリソウの大群落分布する。北部の野坂に林縁にはハカマカズラの本生地が2カ所存在する。

水田放棄地には、ノタヌキモ、サデクサ、ヒメシロアサザが分布し、草地にはロクオンソウやハウヨカモメヅルが自生する。海岸林の中にアコウの巨木も見られる。特異な塩沼植物群落や希少植物が多く生育する。

5. 延岡市の固有種・準固有種、またはそれに準ずるもの

延岡市の固有種・準固有種、またはそれに準ずるものとして以下の項目に該当する種を抽出した（表1）。保護にあたる場合、重要度の一つの基準や目安となる。

- ① 延岡市の固有種（国・県において延岡市にしか自生していないもの）
- ② 準固有種（ほぼ延岡市の固有種であるが、周辺の市町村に若干広がっているもの）
- ③ 他県や他の市町村にも分布するが、延岡市が分布の中心となる種
- ④ 九州では延岡市のみ分布する種
- ⑤ 宮崎県では延岡市にのみ分布。九州では延岡市が分布の中心で他はごくまれな種。
- ⑥ 宮崎県では延岡市にのみ分布。九州では他の県にも分布する種

表1 延岡市の固有種・準固有種、あるいはそれに準ずるもの

区分	種名	備考
① 延岡市の固有種	ツチビノキ	
	オオウバタケニンジン	
	キタガワヒルムシロ	
	ニセイワキリカンアオイ	
	キタガワユウガギク	未確認
	シロバナシシガワミツバツツジ	栽培種
② 延岡市の準固有種	コバナナベワリ	
	ニッポウアザミ	
	ヒュウガサンショウソウ	
	オナガカンアオイ	
	コミノヒメウツギ	
	ツクシコメツツジ	
	ソハヤキミズ	
	ソハヤキトンボ	
③ 国内で延岡市が分布の中心	オオバナムノキ	
④ 九州では延岡市のみ	リュウノウギク	
	コフタバラン	未確認
	ナガバキソチドリ	未確認
⑤ 宮崎県では延岡市のみ九州では延岡市が分布の中心で他はごくまれ	モミジカラマツ	
	シオミイカリソウ	
	ドウダンツツジ	
	チョウジソウ	
	ホウヨカモメヅル	
	ミヤマガンピ	
	アオツリバナ	
	ササユリ	
	オニナルコスゲ	
⑥ 宮崎県では延岡市のみ九州では他の県にも分布	天然スギ	
	ナガバノウナギツカミ	
	サデクサ	
	ヒメイカリソウ	
	タイリンアオイ	
	サンヨウアオイ	
	ツクシアオイ	
	ハタザオ	
	ケサンカクヅル	
	ヨロイグサ	
	シシアクチ	
	ナミキソウ	
	ハマウツボ	
	イナカギク	
	ホクチアザミ	未確認
	キオン	
	イトクズモ	
	ハタベカンガレイ	
	イヌゴマ	
	トサムラサキ	
	ウラギク	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	サワゼリ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	サイコクヒメコウホネ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	アゼオトギリ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	アシズリノジギク	2020年追加 新分布確認
	ウバメガシ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	ネズ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	コイケマ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失
	サトメシダ	2020年追加 延岡市以外の地域で消失

6. 延岡市で確認された維管束植物の注目すべき種等のリスト

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i> Maxim.	VU	EN-r	
2	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	ヒメスギラン	<i>Lycopodium miyoshianum</i> Makino		NT-r	
3	マツバラ目	マツバラ科	マツバラ	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.	NT	VU-r	
4	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> var. <i>fokiense</i>		NT-r	2019消失
5	コケシノブ目	コケシノブ科	キヨスミコケシノブ	<i>Hymenophyllum oligosorum</i> Makino		NT-g	
6	ヘゴ目	ヘゴ科	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>		NT-r	増減なし
7	ウラボシ目	オンダ科	アツギノスカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H.Itô) Sa.Kurata var. <i>paleacea</i> (H.Itô) Sa.Kurata		CR-d	
8	ウラボシ目	オンダ科	イワタチシダ	<i>Dryopteris saxifraga</i> H.Itô		EN-r	
9	ウラボシ目	オンダ科	オトコシダ	<i>Arachniodes yoshinagae</i> (Makino) Ching		NT-r	
10	ウラボシ目	オンダ科	シラネウラボ	<i>Dryopteris expansa</i> (C.Presl) Fraser-Jenk. et Jermy		EN-r	
11	ウラボシ目	オンダ科	タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i> (Makino) C.Chr.		CR-r	
12	ウラボシ目	オンダ科	ニセヨゴレイタチシダ	<i>Cyathea spinulosa</i> Sa.Kurata	NT	NT-r	
13	ウラボシ目	ホンクウシダ科	ハマホラシノブ	<i>Odontosoria biflora</i> (Kaulf.) C.Chr.		NT-r	
14	ウラボシ目	ウラボシ科	オオクボシダ	<i>Micropolypodium okuboii</i> (Yatabe) Hayata		NT-r	
15	ウラボシ目	ウラボシ科	コウラボシ	<i>Lepisorus uchiyamae</i> (Makino) H.Itô		VU-r	
16	ウラボシ目	コバノイシカグマ科	フジシダ	<i>Monachosorum maximowiczii</i> (Baker) Hayata		EN-r	
17	ウラボシ目	イノモトソウ科	ミズウラボ	<i>Ceratopteris thalictroides</i> (L.) Brongn.			
18	ウラボシ目	チャセンシダ科	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i> Makino	VU	EN-g	
19	ウラボシ目	チャセンシダ科	カラクサシダ	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i> (Maxim. ex Makino) Fomin		EN-r	
20	ウラボシ目	チャセンシダ科	シモツケヌリトラノオ	<i>Asplenium boreale</i> (Ohwi ex Sa.Kurata) Nakaike		CR-r	
21	ウラボシ目	チャセンシダ科	テンリュウヌリトラノオ	<i>Asplenium shimurae</i> (H.Itô) Nakaike	VU	CR-r	
22	ウラボシ目	チャセンシダ科	ハヤマシダ	<i>Asplenium x shikokianum</i> Makino		VU-r	
23	ウラボシ目	イワデンダ科	ウスヒメウラボ	<i>Acystopteris japonica</i> (Luer) Nakai		NT-r	
24	ウラボシ目	イワデンダ科	コガネシダ	<i>Woodsia macrochaena</i>		VU-r	
25	ウラボシ目	イワデンダ科	サトメシダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino		CR-r	
26	ウラボシ目	イワデンダ科	ヒロハイヌウラボ	<i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino		NT-r	
27	ウラボシ目	イワデンダ科	ヒロハノコギリシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> (Hayata) Seriz. subsp. <i>fimbriata</i> (Koidz.) Seriz.		EN-r	
28	ウラボシ目	イワデンダ科	フクロシダ	<i>Woodsia manchuriensis</i> Hook.		NT-r	
29	ウラボシ目	イワデンダ科	フモトシケンダ	<i>Deparia pseudoconilii</i> (Seriz.) Seriz. var. <i>pseudoconilii</i>		EN-g	
30	ウラボシ目	ヒメシダ科	テツホシダ	<i>Thelypteris interrupta</i>		VU-g	
31	ウラボシ目	シシガシラ科	オサシダ	<i>Blechnum amabile</i> Makino		NT-r	
32	ウラボシ目	コウヤウラボ科	コウヤウラボ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>		NT-g	増減なし
33	マツ目	ヒノキ科	スギ (自生)	<i>Cryptomeria japonica</i>		CR-r	増減なし
34	マツ目	ヒノキ科	ネズ	<i>Juniperus rigida</i>		CR-r	増減なし
35	スイレン目	スイレン科	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i>	VU	EN-r	増減なし
36	スイレン目	スイレン科	コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>		VU-g	増減なし
37	スイレン目	スイレン科	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i>	VU	VU-r	増減なし
38	コショウ目	コショウ科	サダソウ	<i>Peperomia japonica</i>		EN-g	増減なし
39	コショウ目	ウマノスズクサ科	オナガカンアオイ	<i>Asarum minamitanianum</i>	CR	CR-g	減少
40	コショウ目	ウマノスズクサ科	サンヨウアオイ	<i>Asarum hexalobum</i>		VU-r	減少
41	コショウ目	ウマノスズクサ科	タイリンアオイ	<i>Asarum asaroides</i>		VU-r	増減なし
42	コショウ目	ウマノスズクサ科	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i>	VU	CR-r	やや減少
43	コショウ目	ウマノスズクサ科	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	EN	NT-g	増減なし
44	モクレン目	モクレン科	オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> subsp. <i>japonica</i>		EN-r	増減なし
45	オモダカ目	ヒルムシロ科	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i>	VU	CR-r	減少
46	オモダカ目	ヒルムシロ科	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>	NT	CR-r	減少
47	オモダカ目	ヒルムシロ科	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	NT	CR-r	減少
48	オモダカ目	ヒルムシロ科	キタガワヒルムシロ	<i>Potamogeton</i> sp.		EN-r	増減なし
49	オモダカ目	アマモ科	アマモ	<i>Zostera marina</i>		EN-r	増減なし
50	オモダカ目	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	VU	EN-r	増減なし
51	オモダカ目	トチカガミ科	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i>		VU-g	減少
52	オモダカ目	トチカガミ科	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	VU	EN-g	減少
53	オモダカ目	トチカガミ科	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i>		EN-g	新確認
54	オモダカ目	トチカガミ科	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i>	NT	EN-r	
55	オモダカ目	シバ科	シバナ	<i>Triglochin asiaticum</i>	NT	VU-r	増減なし
56	ヤマノイモ目	ヒナノシヤクショウ科	キリシマシヤクショウ	<i>Burmannia liukuensis</i>	VU	EN-g	増減なし
57	ヤマノイモ目	ヒナノシヤクショウ科	シロシヤクショウ	<i>Burmannia cryptopetala</i>		CR-r	増減なし
58	タコノキ目	ビャクブ科	コバナナベフリ	<i>Croomia saitoana</i>		CR-r	増減なし
59	ユリ目	ユリ科	ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>		EN-g	減少
60	ユリ目	ユリ科	タマガワホトトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i>		CR-r	減少
61	ユリ目	ユリ科	ヤマホトトギス	<i>Tricyrtis macropoda</i>		NT-g	増減なし
62	キジカクシ目	ラン科	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>		EN-r	増減なし
63	キジカクシ目	ラン科	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	EN	VU-r	減少
64	キジカクシ目	ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	NT	VU-g	増減なし
65	キジカクシ目	ラン科	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	VU	NT-g	増減なし
66	キジカクシ目	ラン科	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>		VU-r	新規
67	キジカクシ目	ラン科	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	EN	CR-g	消滅
68	キジカクシ目	ラン科	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU	VU-g	減少
69	キジカクシ目	ラン科	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	EN	EN-g	減少
70	キジカクシ目	ラン科	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU	VU-r	減少

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	キジカクシ目	ラン科	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	VU	VU-g	減少
72	キジカクシ目	ラン科	ボウラン	<i>Luisia teres</i>	NT	NT-g	減少
73	キジカクシ目	ラン科	ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virella</i>	CR	EN-r	減少
74	キジカクシ目	ラン科	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	EN	CR-r	増減なし
75	キジカクシ目	ラン科	ムカデラン	<i>Cleisostoma scolopendrifolium</i>	VU	CR-r	減少
76	キジカクシ目	ラン科	ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i>		NT-g	新確認
77	キジカクシ目	キジカクシ科	キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i> (Andrews) Kunth			減少
78	ヤシ目	ヤシ科	ビロウ (自生)	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>		OT-1	国指定天然記念物
79	イネ目	イネ科	アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>		NT-g	増減なし
80	イネ目	イネ科	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>	NT	EN-r	増減なし
81	イネ目	イネ科	キンメイモウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i> (Carrière) Houz. 'Tao Kiang'			国指定天然記念物
82	イネ目	イネ科	シラシマメダケ	<i>Pleioblastus nabeshimanus</i> Koidz.			新確認
83	イネ目	イネ科	スズダケ	<i>Sasa borealis</i>		NT-g	減少
84	イネ目	イネ科	ビロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i>	EN	EN-r	減少
85	イネ目	イネ科	マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i> (Rupr.) K.Koch			日向斑竹菌寄生
86	イネ目	イネ科	ミアケザサ	<i>Sasa sayekiensis</i> Koidz.			新確認
87	イネ目	イネ科	ミヤマクマザサ	<i>Sasa hayatae</i> Makino		EN-r	新確認
88	イネ目	ミクリ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	NT	VU-g	増減なし
89	イネ目	ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon alpestre</i> Hook.f. et Thomson ex Körn.			減少
90	イネ目	ホシクサ科	ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i> R.Br.			減少
91	イネ目	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i>		NT-g	増減なし
92	イネ目	カヤツリグサ科	イセウキヤガラ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i>		NT-r	増減なし
93	イネ目	カヤツリグサ科	ウマズゲ	<i>Carex idzuroei</i>		CR-g	増減なし
94	イネ目	カヤツリグサ科	オニナルコスゲ	<i>Carex vesicaria</i>		CR-r	増減なし
95	イネ目	カヤツリグサ科	クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i> Makino			増減なし
96	イネ目	カヤツリグサ科	コジュズゲ	<i>Carex parviflora</i> var. <i>macroglossa</i>		CR-r	増減なし
97	イネ目	カヤツリグサ科	サウヒメズゲ	<i>Carex mira</i>		EN-g	増減なし
98	イネ目	カヤツリグサ科	シオカゼテンツキ	<i>Fimbristylis cymosa</i>		EN-r	増減なし
99	イネ目	カヤツリグサ科	シチトウイ	<i>Cyperus malaccensis</i> subsp. <i>monophyllus</i>		NT-g	増加
100	イネ目	カヤツリグサ科	ハタバカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU	CR-r	増減なし
101	イネ目	カヤツリグサ科	マツカサスキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>		CR-r	増減なし
102	キンボウゲ目	メギ科	シオミイカリソウ	<i>Epimedium trifoliatobinatum</i> subsp. <i>maritimum</i>	NT	EN-r	増減なし
103	キンボウゲ目	メギ科	ヒメイカリソウ	<i>Epimedium</i> × <i>youngianum</i>		CR-r	減少
104	キンボウゲ目	キンボウゲ科	タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>		NT-g	減少
105	キンボウゲ目	ケシ科	ツクシキケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>heterocarpa</i>		EN-r	増減なし
106	ユキノシタ目	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonicus</i>	NT	EN-r	増減なし
107	ユキノシタ目	ベンケイソウ科	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU	CR-r	増減なし
108	ユキノシタ目	アリノトウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>			特定外来種・増加
109	ユキノシタ目	タコノアシ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	NT	NT-g	増減なし
110	ユキノシタ目	ズイナ科	ズイナ	<i>Itea japonica</i>		NT-r	増減なし
111	フトウ目	ブドウ科	ケサンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i> var. <i>rufo-tomentosa</i>		CR-r	減少
112	フトモモ目	ミソハギ科	ヒメミソハギ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>cuspidata</i> var. <i>subcuspidata</i>		EN-g	増減なし
113	フトモモ目	ノボタン科	ヒメノボタン	<i>Osbeckia chinensis</i>	VU	NT-g	減少
114	ニシキギ目	ニシキギ科	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i>		NT-g	増減なし
115	フトモモ目	オトギリソウ科	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN	DD-1	新確認
116	キントラノオ目	オトギリソウ科	トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> L. subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>			コウライトモエソウ誤認定
117	キントラノオ目	コミカンソウ科	ヒトツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i>			増加
118	アワブキ目	アワブキ科	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	EN	NT-r	増減なし
119	マメ目	マメ科	オオバネムノキ	<i>Albizia kalkora</i>	EN	EN-r	増減なし
120	マメ目	マメ科	ハカマカズラ	<i>Bauhinia japonica</i>		VU-r	増減なし
121	マメ目	マメ科	ヨツバハギ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>cuspidata</i> var. <i>subcuspidata</i>		CR-r	増減なし
122	バラ目	クロウメモドキ科	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	VU	VU-g	増減なし
123	バラ目	イラクサ科	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU	CR-r	減少 環境変化
124	バラ目	イラクサ科	ヒユウガサンショウソウ	<i>Pellionia hyugaensis</i> nom.nud.		EN-r	増減なし
125	ウリ目	ウリ科	ゴキヅル	<i>Actinostemma tenerum</i>		NT-g	減少
126	ブナ目	ブナ科	ウバメガシ	<i>Quercus phillyraeoides</i>		NT-r	新確認
127	ブナ目	ブナ科	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU	NT-g	増減なし
128	ブナ目	ブナ科	ブナ	<i>Fagus crenata</i>		NT-g	減少
129	ブナ目	カバノキ科	サクラバハノキ	<i>Alnus traveculosa</i>	NT	VU-r	増減なし
130	ブナ目	カバノキ科	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>		EN-g	増減なし
131	ブナ目	クルミ科	ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>		EN-r	増減なし
132	アブラナ目	アブラナ科	ハタザオ	<i>Turritis glabra</i>		CR-r	減少
133	アオイ目	アオイ科	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i>		NT-g	増減なし
134	アオイ目	ジンチョウゲ科	ツチビノキ	<i>Daphniphyllum capitellata</i>	EN	CR-r	増減なし
135	アオイ目	ジンチョウゲ科	ミヤマガンピ	<i>Diplomorpha albiflora</i>	VU	CR-r	減少
136	ミズキ目	アジサイ科	コミヒメウツギ	<i>Deutzia hatsumae</i>	CR	CR-r	増減なし
137	ミズキ目	アジサイ科	ヒユウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	VU	VU-g	増減なし
138	ツツジ目	サクラソウ科	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i>	NT	CR-r	減少
139	ツツジ目	ツツジ科	ツクシドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i> var. <i>longilobus</i>		NT-r	増減なし
140	ツツジ目	ツツジ科	ドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>		CR-r	増減なし

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
141	ツツジ目	ツツジ科	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i>	VU	NT-g	増減なし
142	ツツジ目	ツツジ科	ヨウラクツツジ	<i>Menziesia purpurea</i>	VU	EN-r	増減なし
143	ツツジ目	ヤッコソウ科	ヤッコソウ	<i>Mitrostemon yamamotoi</i>		VU-g	増減なし
144	リンドウ目	キョウチクトウ科	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>		NT-r	増減なし
145	リンドウ目	キョウチクトウ科	コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>		CR-r	増減なし
146	リンドウ目	キョウチクトウ科	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>	NT	EN-r	増加
147	リンドウ目	キョウチクトウ科	ホウヨカモメツル	<i>Vincetoxicum hoyoense</i>	VU	EN-r	増減なし
148	リンドウ目	キョウチクトウ科	ロクオンソウ	<i>Vincetoxicum amplexicaule</i>	VU	VU-g	減少
149	ナス目	ヒルガオ科	アオイゴケ	<i>Dichondra micrantha</i>		VU-r	増減なし
150	シソ目	シソ科	イヌゴマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>		CR-r	減少
151	シソ目	シソ科	コナミキ	<i>Scutellaria guillermii</i>	VU	EN-r	増減なし
152	シソ目	シソ科	シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>		CR-r	増減なし
153	シソ目	シソ科	ツクシタツナミソウ	<i>Scutellaria kiusiana</i>		NT-r	増減なし
154	シソ目	シソ科	トサムラサキ	<i>Callicarpa shikokiana</i>	VU	CR-r	増減なし
155	シソ目	シソ科	ナミキソウ	<i>Scutellaria strigillosa</i>		CR-r	減少
156	シソ目	シソ科	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>		EN-r	増減なし
157	シソ目	シソ科	ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>	VU	CR-r	減少
158	シソ目	シソ科	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>	NT	VU-g	増減なし
159	シソ目	ハエドクソウ科	スズメノハコバ	<i>Microcarpaea minima</i>	VU	NT-g	増減なし
160	シソ目	ハマウツボ科	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> subsp. <i>lutea</i>	VU	NT-g	消失
161	シソ目	ハマウツボ科	ハマウツボ	<i>Orobanchae coerulescens</i>	VU	CR-r	減少
162	シソ目	モクセイ科	ウスギモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> Lour. var. <i>aurantiacus</i> Makino f. <i>thunbergii</i> (Makino)			国指定天然記念物
163	シソ目	モクセイ科	ヤナギイボタ	<i>Ligustrum salicinum</i>		EN-r	増減なし
164	シソ目	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>	VU	EN-g	減少
165	シソ目	タヌキモ科	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i>	VU	CR-r	増減なし
166	シソ目	ゴマノハグサ科	オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>		CR-g	増減なし
167	セリ目	セリ科	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i>	EN	CR-g	増減なし
168	セリ目	セリ科	オオウバタケニンジン	<i>Angelica ubatakensis</i> var. <i>valida</i>	CR	CR-r	減少
169	セリ目	セリ科	ヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>	VU	CR-r	減少
170	セリ目	セリ科	ハマゼリ	<i>Cnidium japonicum</i>		EN-r	絶滅
171	セリ目	セリ科	ハマボウフウ	<i>Glehnia littoralis</i>		NT-g	増減なし
172	セリ目	セリ科	ヒュウガトウキ	<i>Angelica tenuisecta</i> var. <i>furcijuga</i>	VU	VU-g	増減なし
173	セリ目	セリ科	ヨロイグサ	<i>Angelica dahurica</i>		CR-r	増加
174	マツムシソウ目	レンブクソウ科	ゴマキ	<i>Croomia saitoana</i>		NT-r	増減なし
175	キク目	キク科	アシズリノジギク	<i>Chrysanthemum japonense</i> (Makino) Nakai var. <i>ashizuriense</i> Kitam.			増減なし
176	キク目	キク科	イナカギク	<i>Aster semiamplexicaulis</i>		EN-r	減少
177	キク目	キク科	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>			増加・特定外来種
178	キク目	キク科	カワラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i> Thunb.			増減なし
179	キク目	キク科	キオン	<i>Senecio nemorensis</i>		EN-r	増減なし
180	キク目	キク科	ソナレノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>insularis</i>		NT-r	増減なし
181	キク目	キク科	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>savatieri</i> var. <i>higomontana</i>	EN	CR-r	
182	キク目	キク科	フクオウソウ	<i>Prenanthes acerifolia</i>		NT-r	増減なし
183	キク目	キク科	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i> Ruiz et Pav.			
184	キク目	キク科	ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i>		NT-g	増減なし
185	キク目	キク科	ウラギク	<i>Aster tripolium</i>	NT	CR-r	減少
186	キク目	キク科	ニッポウアザミ	<i>Cirsium nipponense</i>	CR	EN-r	増減なし
187	キク目	キク科	ヒュウガヤブレガサ	<i>Syneilesis akagii</i>		VU-r	増減なし
188	キク目	キク科	リュウノウギク	<i>Chrysanthemum makinoi</i>		CR-r	増減なし
189	キク目	キキョウ科	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>	VU	CR-g	増減なし
190	キク目	ミツガシワ科	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	NT	EW-r	移入 増加
191	キク目	ミツガシワ科	ヒメシロアサザ	<i>Nymphoides coreana</i>	VU	EN-g	増減なし
192	ナデシコ目	タデ科	コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>		NT-g	増減なし
193	ナデシコ目	タデ科	サイコクスカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>nikaii</i>	VU	CR-g	減少
194	ナデシコ目	タデ科	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>		CR-g	増減なし
195	ナデシコ目	タデ科	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	NT	CR-r	増減なし
196	ナデシコ目	タデ科	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU	EN-g	増加
197	ナデシコ目	タデ科	ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> subsp. <i>aviculare</i>		VU-r	増減なし
198	ナデシコ目	ヒコ科	ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i>		CR-r	増減なし
199	ナデシコ目	ヒコ科	ホソバハマアカザ	<i>Atriplex patens</i>		VU-r	増減なし
200	ナデシコ目	イノマツ科	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>	NT	VU-r	増減なし

7. 参考文献

- 小林幹夫, 2017. 原色植物分類図鑑 日本のタケ亜科植物. 北隆館. 東京.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会 (編), 2011. 改訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境森林部自然環境課.
- 茂木 透, 2004. 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花 1. 山と溪谷社. 東京.
- 茂木 透, 2004. 山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. 東京.
- 茂木 透, 2009. 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花 離弁花 2. 山と溪谷社. 東京.
- 延岡市, 2011. 第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書.
- 斉藤政美・井上伸之・赤木康, 2020. 日之影町戸川岳の植物. 宮崎植物研究会誌, 16:15-20.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫 (編), 1981. 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 平凡社. 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫 (編), 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 平凡社. 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫 (編), 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 平凡社. 東京.
- 鈴木貞雄, 1996. 日本タケ科植物図鑑. 聚海書林. 千葉.

哺乳類

調査担当者：岩切 康二

調査協力者：船越 公威

古中 隆裕

稲田 菊雄

延岡市自然環境調査 報告書 (哺乳類)

岩切 康二

1. はじめに

延岡市における哺乳類の調査報告は、1958年(昭和33年)に発行された「祖母・傾」(祖母・傾自然公園開発促進協議会, 1958)の中で、中島茂が「上日向の動物」として報告しており、哺乳類ではクマとカモシカについて記述がある。また、同報告書の中で加藤数功が「祖母傾山群に於ける熊の過去帳とかもしか」として報告している。次いで、1972年(昭和47年)発行の「祖母傾国定公園 大崩山学術調査報告書」(宮崎県, 1972)において、小野勇一らが「大崩山のカモシカ調査報告」でカモシカについて報告している。1982年(昭和57年)に宮崎県が宮崎自然環境調査研究会に委託して実施した「県北地域動物調査一動物調査報告書一」では、ネズミのトラップ調査と痕跡調査が延岡市内の8カ所で行われ、コウベモグラ、スミスネズミ、ハタネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、イノシシ、ニホンジカの生息が報告されている。その後のまとまった報告は、「延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書」(延岡市, 2000)、「第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書」(延岡市, 2011)、宮崎県総合博物館総合調査報告 県北地域調査報告書での「宮崎県北部の哺乳類」(中村・児玉, 2008)などが見られる。その他、国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所が実施している河川水辺の国勢調査について、1993年度、1998年度、2003年度、2013年度の結果が公開されている (http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_89_index.html, 2021年2月確認)。

本報告では、これらの過去の記録を整理するとともに、2011年から2014年に実施したのべおか里山種調査、2017年より実施した自然環境モニタリング事業の結果を統合し、延岡市の哺乳類相について整理した。

2. 調査方法等

現地調査は、糞や足跡などを探すフィールドサイン法、自動撮影カメラを用いてのカメラトラップ法を中心に行った。また、バットディテクターを用いてコウモリの音声を録音し、ソナグラムを分析してコウモリの種判別も試みた。

文献調査は、上記の文献を中心に、延岡市内での哺乳類の採集や確認記録の整理を行った。また、宮崎県レッドリスト改訂のための実施されている野生動植物生息状況等調査結果について、筆者が関わっているデータについては一部追加した。

文献調査については、これまでの記録や文献をすべて網羅できているわけではないので、抜けている情報や記録があるかもしれない。そのような記録がある場合は次回以降に反映させたい。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

(1) 宮崎県版レッドリストに掲載されている哺乳類

クロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* (Yoshiyuki, 1971)

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) CR-r

小型のコウモリで、体毛は黒色で、毛先に灰色か白っぽい刺し毛が混じる。本州、四国、九州に分布しており、いずれも森林内で確認されている。宮崎県ではこれまでに綾町周辺の県央部のみで知られていたが、延岡市北部の森林でも生息が確認された。



ニホンモモンガ *Pteromys momonga* Temminck, 1844

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) EN-r

山地帯から亜高山帯の森林に生息し、主に夜間に樹上で活動する。飛膜を使って木々の間を滑空し、樹洞を巣にする。延岡市でのこれまでの記録は、1979年に北川町上祝子で捕獲された写真記録(中島, 1993; 安田, 2007; 延岡市, 2011)、2007年に北川町上祝子大崩山中腹で撮影された記録(大久保ほか, 2009)の2例である。大崩山塊一帯の森林に生息していると考えられる。

オヒキコウモリ *Tadarida insignis* (Blyth, 1861)

(環境省 RL2020) VU (宮崎県 RL2015) EN-r

やや大型のコウモリで、無人島や海岸における断崖急斜面の乾燥した岩盤の割れ目内で数頭~数百頭の集団を形成する。鉄筋コンクリート校舎の継ぎ目や新幹線の高架下などでも集団が発見されている。門川町枇榔島での繁殖集団が知られている。可聴音を発する(15~20kHz)。延岡市では音声分析による生息確認のみであり、分布状況はまだ分かっていない。



(古中隆裕撮影)

ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)

(環境省 RL2020) — (宮崎県 RL2015) VU-g 国天然記念物

ネズミに似ている小型の哺乳類で、背中に黒褐色の縦線が1本あるのが特徴で、目の周りも黒褐色である。低山帯から亜高山帯の成熟した森林に生息する。延岡市でのこれまでの記録は、1973年と1981年に北川町上祝子で生体と巣が確認された記録(延岡市, 2011)、1997年に北川町内に設置した鳥の巣箱内で確認された記録(讃井, 2001)、2003-2006年にかけて北川町上祝子大崩山麓に設置した巣箱調査で生体や痕跡が確認された記録(木場ほか, 2008)の4例である。自動撮影カメラを用いた調査手法により本種の生息確認事例が増えており、まとまった面積の広葉樹が残っている森林には生息している可能性がある。

カワネズミ *Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842)

(環境省 RL2020) LP (宮崎県 RL2015) VU-r

大型のモグラの仲間。山間の岩や倒木の多い溪流付近に住み、昼夜を問わず活動し、魚、水生昆虫、サワガニなどを食べて生活している。溪流釣りをしている人は目撃することがある。近年、特徴的な糞の痕跡により生息を確認できるようになってきており、2012年に大崩山登山口付近で糞の痕跡が確認された。その他の箇所でも河川上流部を踏査すれば生息を確認できる可能性がある。

テングコウモリ *Murina hilgendorfi* (Peters, 1880)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

小型のコウモリで、隧道や廃坑、自然洞窟、人家、橋梁など様々な場所をねぐらとして利用している。延岡市では2019年に隧道内で単独個体が確認され、2020年にも同じ隧道内で確認された。延岡市内での哺育集団はまだ見つかっていない。



コテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev, 1913

(環境省 RL2020) NT (宮崎県 RL2015) VU-r

小型のコウモリで、枯葉、樹皮下、樹洞、隧道、廃坑、自然洞窟など様々な場所をねぐらとして利用している。森林性のコウモリで行動圏は比較的狭い。2012年と2018年に1頭ずつ、延岡市北部の森林で確認されている。



ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

背面は茶褐色で、飛膜が首から前肢、前後肢の間、後肢と尾の間に発達する。自然林や発達した二次林、針葉樹林などに生息する。低地から亜高山帯まで見られるが低地に多い。延岡市では2000年の調査報告では1例のみ記されているが、具体的な地名はなく確認年が1945年であった。



2011年の報告では、旧延岡市の分布が報告されているが、確認記録は示されていない。2011年以降に実施しているのべおか里山種調査や本調査では比較的広く確認され、延岡市の低山から高山にかけて広く分布していると思われる。主な確認地点は、行膝山、舞野町、愛宕山、北川町上祝子周辺、北方町板ヶ平、北浦町三川内などである。

スミスネズミ *Eothenomys smithii* (Thomas, 1905)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) VU-r

背面は赤褐色から茶褐色で、腹面は淡黄色から橙色。大きな山塊につながった低地から高山帯まで分布する。湿潤なところを好む。延岡市では 1981 年に北川町上祝子の小岩屋から黒原にかけてのルートでオス 1 頭が捕獲された記録があるが (宮崎県, 1982)、それ以降の記録は不明である。

カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas, 1771)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-g

背面は暗褐色で、腹面は白色。低地から高標高まで分布するが、通常は低地の草地、水田、畑、休耕地、河川敷などの水気のあるところに多い。ススキ、チガヤ、エノコログサなどを用いて球型 (右写真) の巣を作って子育てをする。延岡市での記録は河川水辺の国勢調査での確認がほとんどで、五ヶ瀬川、大瀬川、北川の調査地点で確認されている。



モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

小型のコウモリで、背面は灰黒褐色、腹面は白っぽい。昼間の隠れ家は洞窟で、隧道、廃棄されたトンネルなどの人工物も隠れ家として利用する。延岡市では 2013 年に隧道内で 3 個体が確認され、2019 年と 2020 年にも複数箇所での確認された。延岡市内での哺育集団はまだ見つかっていない。



ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* (Hodgson, 1835)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) NT-r

小型のコウモリで、体毛はこげちゃ色で比較的短く、ピロード状。昼間の隠れ家は洞窟で、数百頭以上の大群を形成する。北方町申のコウモリ岩屋でコキクガシラコウモリの哺育集団に混じった本種の幼獣オス 1 頭が確認されている (船越, 1996)。



ニホンイタチ *Mustela itatsi* Temminck, 1844

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) DD-2

全身茶色から山吹色で、額中央部から鼻にかけて他の部分と区別できる濃褐色の斑紋がある。性的二型がはっきりしており、メスはオスより小さい。外来種のシベリアイタチとの区別は難しく、尾率を比べる必要がある(ニホンイタチは体に対して尻尾が短く見える)。全身の色もシベリアイタチに比べると少し暗色がかっている。近年、糞の DNA 分析により本種の生息状況も分かりつつあるが、延岡市内での分布状況はまだ分かっていない。



ハタネズミ *Microtus montebelli* (Milne-Edwards, 1872)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) DD-2

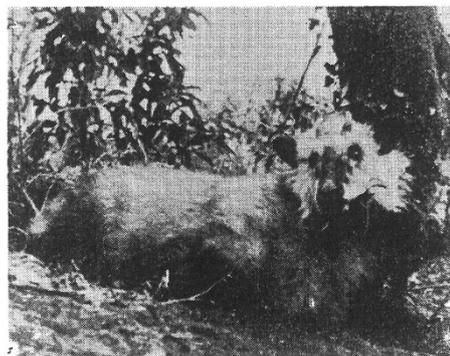
背面は赤みのない茶色、または灰黄色をわずかに帯びた灰黄赤色で、腹面は灰白色。低地から高山帯まで広く分布し、農耕地、植林地、河川敷、牧草地などの草原的な環境をおもな生息場所とする。延岡市では 1981 年に北川町森谷谷(報告書では「北浦町森の谷」)のルートでオス 1 頭が捕獲された記録があるが(宮崎県, 1982)、それ以降の記録は不明である。

ニホンカモシカ *Capricornis crispus* (Temminck, 1845)

(環境省 RL2020) LP (宮崎県 RL2015) OT-1

国特別天然記念物

ウシ科の大型哺乳類で、低山帯から亜高山帯にかけての落葉広葉樹林、針広混交林、照葉樹林に生息し、各種木本の葉、広葉草本、ササ類などを選択的に採食する。ため糞をする習性がある。延岡市では古くよりその存在が知られており、1958 年発行の「祖母、傾」では、「北川村祝子川の上流地帯では 1 年に 5~6 頭は見かけ、体重は 8~10 貫程度のものであり、肉の歩止りは 2.8 貫内外である。北方村の三角地帯においては、年間 2~3 頭、~」とあり、昭和 24 年 11 月北川村の大崩山産の計測値が示されている(図 1)(中島, 1958)。1972 年には九州大学理学部の小野勇一らのグループにより、大崩山のカモシカについて糞塊法による調査と聞き取り調査が行われ、土地の猟師等の話を総合して祝子川周辺で 40~50 頭と報告している。その後、本種については国の特別天然記念物であることから、宮崎県、大分県、熊本県の



カモシカの全貌

	全 長	胴 巾	前 肢	頭 長	角 の 長 さ	角 の 基 部	角 線 の 隆 起 数	耳 殻
No. 1	110	73	40	36	10.4	3.0×2.5	8	7×4
No. 2	105	58	37	35	10.0	2.7×2.7	9	10×5

単位 種 No.1.....ツノブトカモシカ
No.2.....ブツウカモシカ

図 1 大崩山のカモシカ(「祖母、傾」引用)

文化財課が主導して継続した通常調査と、これまでに 5 回の特別調査が行われている。直近の調査は平成 30 年度・令和元年度に実施され、延岡市内では北川町上祝子の武平谷と松山で糞塊が確認されているが、大崩山コアエリア・杉ヶ越ブリッジエリアの推定生息頭数が 8～11 頭となっており、危機的状況にあると言える。本調査では、2020 年 4 月に可愛岳山麓に設置した自動撮影カメラで生息を確認した。



可愛岳山麓のカモシカ

(2) その他注目すべき哺乳類

アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758)

※特定外来生物

原産地はカナダ南部からパナマで、日本にはペットとして輸入されたものが野生化している。九州北部ではすでに広く分布しており（図 2: 環境省九州地方環境事務所の HP 引用）、延岡市でもこれまでに 3 件の捕獲事例が報告されている（平成 28 年 2 月北川町下赤の山林（オス 1 頭）、令和 2 年 11 月北方町蔵田の果樹園（オス 1 頭：写真）、令和 3 年 2 月北方町早日渡の山林（オス 1 頭））。着々と増加してきていると考えられ、防除を進める必要がある。



（宮崎県 HP より）

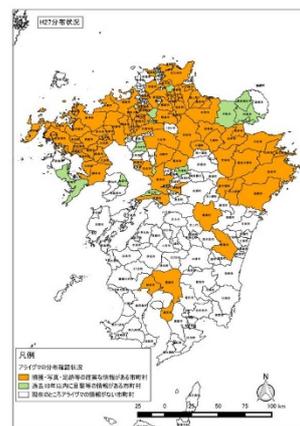


図 2 アライグマの分布 (H28)

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）－

中型のコウモリで、暗褐色の体毛に白っぽい刺し毛が混じって霜降り状に見える。樹洞、海蝕洞、岩の割れ目、建造物の隙間などに生息している。宮崎県ではこれまでに生息記録がなかったが、北方町や北川町での音声分析により生息が示唆され、高千穂町では本種の生息が確認された。オヒキコウモリ同様、可聴音を出すことが知られており（20～25kHz）、今後の音声録音分析により、より詳細な生息状況が明らかになると考えられる。2020 年版の宮崎県版レッドデータブックでは絶滅危惧 IB 類（EN-r）で掲載される予定である。



ニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* (Temminck, 1842)

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) -

小型のモグラの仲間で、毛色は変異に富み、背面は暗赤褐色または暗褐色で腹面は淡色または淡灰褐色。低地の河畔、水辺、農耕地周辺の藪、低山帯の低木林などに生息する。オスは繁殖期になるとわき腹の臭腺から独特な匂いを出すので、飼いネコが玩具にして遊ぶが、食べない。延岡市での記録を整理してみたところ、2011年報告書で「分布：延岡市」の記載があるが、具体的な確認記録を見いだせなかった。普通種と考えられるが、生息情報を収集する必要がある。



ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck, 1841

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) -

小型のモグラの仲間で、背面は黒色から黒褐色で腹面はやや淡色。低山帯の草原、低木林に多く、落葉、腐植層で半地下性の生活をしており、地表にもよく出現する。延岡市での記録を整理してみたところ、2003年度の河川水辺の国勢調査において、岩熊井堰下流で3例記録されているのみであった。普通種と考えられるが、生息情報を収集する必要がある。



(3) 延岡市に生息している可能性がある哺乳類

ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) DD-1

小型のモグラの仲間で、標高の高い山地から高地の山林やコケが付いたようなガレ場や溪流沿いの岩場を好む。トンネルはうまく掘れず、落葉層の下や地表でミミズや小昆虫を食べる。宮崎県内では、椎葉村丸十(立石・吉田, 1989)での記録が確実に宮崎県内での確認と言える記録である。祖母山の記録(内田・吉田, 1968)は大分県側が調査域となっている。ただし、祖母山の山頂付近でも捕獲されていることから、宮崎県側にも生息していたことは間違いなくであろう。延岡市においても大崩山塊の高標高地に生息している可能性がある。

(4) 絶滅した哺乳類

ツキノワグマ *Ursus thibetanus* G.Cuvier, 1823

(環境省 RL2020) - (宮崎県 RL2015) EX-d

九州において、最後に確実に確認された個体は 1987 年に大分県笠松山中腹で捕獲された個体であるが、本個体は後の DNA 分析によって福井県から岐阜県に分布しているツキノワグマの特徴を持っていることが明らかになり、その地域から持ち込まれたクマか、その子孫と判明している (大西・安河内, 2010)。したがって、九州産の最後の確認個体は 1957 年に発見された死体と考えられている。延岡市におけるツキノワグマの生息情報については、証拠を伴うようなものは見いだせていないが、加藤 (1958) の捕獲表に 2 つの記録があるので、捕獲表の一部を抜粋して掲載しておく。

捕獲年代	頭数	オスメス	目方(貫)	捕獲者	獲り方	捕獲場所	備考
明治 24 年	2	不明	20	小野 勸次	二回に亘り獲った	祝子川 三里河原	
明治 39 年頃	1	不明	不明	立山正次郎 平田利兵衛 外 5 人	罾にかかったのを 7 発で殺す	大崩山 ウドウチ谷	

ニホンカワウソ *Lutra lutra nippon* Imaizumi et Yoshiyuki, 1989

(環境省 RL2020) EX (宮崎県 RL2015) EX-d 国特別天然記念物

2000 年の報告書 (延岡市, 2000) では、「1940 年以前には五ヶ瀬川河口域において目撃したといわれているが、戦後現地調査を実施した結果、生息を確認する資料は得られなかった。」と報告されている。また、2011 年の報告書 (延岡市, 2011) では、「2004 年五ヶ瀬川河口において生息していた目撃証言があったものの、戦後は、延岡市管内のテナガエビが生息する清流の現地調査を行った結果、生息を確認することは出来なかった。」と報告されている。過去の生息情報が不明なため、5 章の哺乳類目録には含めていない。

4. 哺乳類から見た延岡市の重要な生息地

(1) 大崩山一帯の山岳地帯

自然植生が残る大崩山一帯の山岳地帯は、延岡市における哺乳類の生息地として重要な地域である。ニホンカモシカ、ニホンモモンガ、ヤマネ、カワネズミ、ムササビ、スミスネズミ、クロホオヒゲコウモリ、オヒキコウモリ、ヒナコウモリ、コテングコウモリ、ユビナガコウモリなどの希少種が確認されており、さらに調査が進めば、ヒメヒミズが確認される可能性もある。

(2) 行藤山

低地の発達した照葉樹林として、重要な哺乳類の生息地になっている。特にムササビの観察頻度は高く、観察会などの自然環境教育の舞台としても最適である。その他にも、コテングコウモリ、ユビナガコウモリなどのコウモリや、アカネズミ、ヒメネズミなども生息している。ニホンカモシカについては、直近の特別調査では糞塊が確認されなかったが、2012年には糞塊が確認されており、生息が続いていることを期待したい。この他にも調査が進めば、森林性のコウモリや樹上性げっ歯類なども確認される可能性がある。

(3) 桧山谷周辺

桧山谷周辺もカモシカの生息地となっている。2019年に実施されたカモシカ特別調査では、新糞が確認された(2020, 大分県・熊本県・宮崎県教育委員会)。カモシカが激減している中で、重要な生息地の一つである。

(4) 可愛岳

可愛岳周辺もカモシカの生息地となっている。直近の特別調査では糞塊が確認されなかったが、山麓に設置した自動撮影カメラで2020年4月にカモシカの生息が確認された。カモシカが激減している中で、重要な生息地の一つである。

(5) 曾木川上流域

曾木川上流域にもカモシカが生息しており、カモシカが目撃されている。曾木川上流域は特別調査の方形区が設置されていないが、カモシカの生息域はかつての山塊の中心部から周辺に分散してきており、今後注視する必要がある。

(6) 五ヶ瀬川、大瀬川、北川、祝子川の河川草地

五ヶ瀬川、大瀬川、北川、祝子川の河川草地は、カヤネズミの生息地となっており、河川水辺の国勢調査で球巣が確認されている。球巣が確認されている調査地点は、五ヶ瀬川の岡富第5樋門付近、小峰潜水橋付近、岩熊井堰下流、大瀬川の延岡大橋下流、延岡高等学校付近、大貫町、北川の北川緑地運動公園付近である。

(7) 愛宕山や市街地周辺の孤立林

愛宕山ではムササビの生息が確認されている。約 300ha の森林があることから、その他の哺乳類も生息していると思われるが、まだ調査が不足している。また、市街地に点在する孤立林についてもムササビの生息地となり得るため、保全することが望ましい。

(8) 南浦から北浦にかけての隧道（旧道のトンネル）

南浦から北浦にかけての旧道にある隧道は、現在コウモリ類の休息場所として利用されており、テングコウモリとモモジロコウモリが確認されている。人間がトンネルの利用を続ける限りメンテナンスの必要があるが、コウモリが生息を続けるためには、壁面や天井面の凹凸が必要である。特にコウモリはトンネル中央部を利用しているため、メンテナンスを行う際には、コウモリの利用に配慮した施工を行っていただきたい。

5. 延岡市で確認された哺乳類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	モグラ目	トガリネズミ科	カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephala</i> (Temminck, 1842)	LP	VU-r	
2	モグラ目	トガリネズミ科	ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i> (Temminck, 1842)			
3	モグラ目	モグラ科	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i> Temminck, 1841			
4	モグラ目	モグラ科	コウバモグラ	<i>Mogera wogura</i> (Temminck, 1842)			
5	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i> (Schreber, 1774)			
6	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i> Temminck, 1835			
7	コウモリ目	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i> (Temminck, 1840)			
8	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i> (Peters, 1880)			
9	コウモリ目	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i> (Temminck, 1840)		NT-r	
10	コウモリ目	ヒナコウモリ科	クロホオヒゲコウモリ	<i>Myotis pruinosus</i> (Yoshiyuki, 1971)	VU	CR-r	
11	コウモリ目	ヒナコウモリ科	テングコウモリ	<i>Murina hilgendorffi</i> (Peters, 1880)		VU-r	
12	コウモリ目	ヒナコウモリ科	コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i> Ognev, 1913		VU-r	
13	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i> (Hodgson, 1835)		NT-r	
14	コウモリ目	オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ	<i>Tadarida insignis</i> (Blyth, 1861)	VU	EN-r	
15	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i> (Blyth, 1875)			
16	ネズミ目	ヤマネ科	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i> (Schinz, 1845)		VU-g	
17	ネズミ目	ネズミ科	スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i> (Thomas, 1905)		VU-r	
18	ネズミ目	ネズミ科	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i> (Milne-Edwards, 1872)		DD-2	
19	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i> (Pallas, 1771)		NT-g	
20	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i> (Temminck, 1844)			
21	ネズミ目	ネズミ科	ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i> (Temminck, 1844)			
22	ネズミ目	ネズミ科	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i> (Berkenhout, 1769)			外来種
23	ネズミ目	ネズミ科	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i> (Linnaeus, 1758)			外来種
24	ネズミ目	ネズミ科	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i> Linnaeus, 1758			外来種
25	ネズミ目	リス科	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i> (Temminck, 1827)		NT-g	
26	ネズミ目	リス科	ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i> Temminck, 1844		EN-r	
27	ウサギ目	ウサギ科	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i> Temminck, 1845			
28	ネコ目	イヌ科	アカギツネ	<i>Vulpes vulpes</i> (Linnaeus, 1758)			
29	ネコ目	イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i> (Gray, 1834)			
30	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i> (Linnaeus, 1758)			外来種
31	ネコ目	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i> G.Cuvier, 1823		EX-d	
32	ネコ目	イタチ科	ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i> Temminck, 1844		DD-2	
33	ネコ目	イタチ科	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i> Pallas, 1773			外来種
34	ネコ目	イタチ科	ニホンテン	<i>Martes melampus</i> (Wagner, 1841)			
35	ネコ目	イタチ科	ニホンアナグマ	<i>Meles anakuma</i> Temminck, 1844			
36	ウシ目	シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i> Temminck, 1838			
37	ウシ目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i> Linnaeus, 1758			
38	ウシ目	ウシ科	ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i> (Temminck, 1845)	LP	OT-1	

6. 参考文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明, 2005. 日本の哺乳類 [改訂版]. 東海大学出版会. 神奈川.
- 福島英樹・外山真樹・中村 豊・山田真太郎・岩切康二, 2016. 宮崎県南部地域におけるカワネズミの生息状況. 宮崎県総合博物館総合調査報告書 県南地域調査報告書: 13-22.
- 船越公威, 1996. 宮崎県のコウモリ類. 宮崎県総合博物館研究紀要, 20: 17-24.
- 飯島正広・土屋公幸, 2015. モグラハンドブック. 文一総合出版. 東京.
- 加藤数功, 1958. 祖母傾山群に於ける熊の過去帳とかもしか. 祖母. 傾. 祖母傾自然公園開発促進協議会, 86-93.
- 木場頼孝・江藤 毅・森田哲夫・岩淵真奈美・湊 秋作, 2008. 大崩山におけるヤマネの生息確認. 宮崎県総合博物館総合調査報告書 県北地域調査報告書: 35-44.
- コウモリの会編, 2011. コウモリ識別ハンドブック改訂版. 文一総合出版. 東京.
- 宮崎県, 1982. 県北地域動物調査—動物調査報告書.
- 宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会 (編), 2011. 改訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境森林部自然環境課.
- 中島義人, 1993. 県北山系の動物. みやざきの自然, 7: 10-15.
- 中島 茂, 1958. 上日向の動物. 祖母. 傾. 祖母傾自然公園開発促進協議会, 77-85.
- 延岡市, 2000. 延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書.
- 延岡市, 2011. 第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書.
- 小野勇一・東 和敬・杉 泰昭・三嶋吉彦・岩本俊孝・原 誠・椿 宜高, 1972. 大崩山カモシカ調査報告. 祖母傾国定公園大崩山学術調査報告書. 宮崎県, 19-24.
- 大分県・熊本県・宮崎県教育委員会, 2020. 平成30年・令和元年度九州山地カモシカ特別調査報告書.
- 大久保慶信・江藤 毅・森田哲夫, 2009. 宮崎県におけるニホンモモンガの生息確認. リスとムササビ, 22: 15-15.
- 讃井孝義, 2001. シジユウカラの巣箱に入ったヤマネ. 森林防疫, 50: 56.
- 立石 隆・吉田博一, 1989. 宮崎県田野町と椎葉村における小哺乳類の分布. 生物福岡, 29: 1-5.
- 内田照章・庫本 正, 1968. 九州のヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, とくに分布と形態について. 哺乳類科学, 8(2): 17-26.
- 安田雅俊, 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス、ニホンモモンガ、およびムササビ—過去の生息記録と現状および課題—. 哺乳類科学, 47(2): 195-206.

鳥類

調査担当者：稲田 菊雄

調査協力者：中村 豊
永田 敏治
天江 良一

延岡市自然環境調査 報告書 (鳥類)

稲田 菊雄

1. はじめに

延岡市は日豊海岸国定公園、祖母傾国定公園や河川、山林などの豊かな自然に恵まれ「水辺の鳥」や「山野の鳥」の野鳥が観察できる。今回の延岡市の鳥類報告は2017年から2020年の野鳥調査と、2010年～2020年の野鳥記録や野鳥記録情報提供者の協力を得て作成した。記録された野鳥は233種亜種で、記録された野鳥を季節ごとの生息状況に分類すると留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥、迷鳥に分けられ、季節型の割合は留鳥28%、夏鳥12%、冬鳥37%、旅鳥20%、迷鳥3%となる。

2. 調査方法等

報告書は、以下の方法でデータを集積し、延岡市の鳥類生息状況をまとめた。

(1) 調査方法は2017年度から祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの移行地域の生態系スポットになっている地域と、重要な鳥類生息地と思われる場所をマイカー利用で繁殖期と越冬期を中心に定点調査及び徒歩調査を行った。ただ、容易に行動できない場所の調査は行わなかった。また、今回依頼した情報提供者の記録と個人の公開できる情報提供を頂いて記録追加した。

(2) 今回の調査と個人情報以外に利用した記録を以下に示す。

日本野鳥の会宮崎県支部,支部報

日本野鳥の会宮崎県支部,中村豊主催鳥情報

日本野鳥の会,モニタリングサイト1000調査

日本野鳥の会,全国鳥類繁殖分布調査

延岡市 SATOYAMA 保全推進会議,里山種調査

宮崎県自然環境課,鳥フル関連野鳥生息調査

宮崎日日新聞,野鳥記事

夕刊デイリー新聞,野鳥記事

なお、次頁以降の種解説のための写真は、以下の協力者に提供を受けた。以下に種名がないものについては、筆者撮影である。

岩切康二 (ヨシゴイ、チュウヒ、クロツグミ、コマドリ)

富山隆志 (ヤイロチョウ)

中原 聡 (アカショウビン)

中村 豊 (コシジロヤマドリ、カラスバト、ミゾゴイ、フクロウ)

峰田小百合 (ヒクイナ、タマシギ、ツミ、オオタカ、ガビチョウ)

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

1. アカヤマドリ：留鳥（L♂125cm・♀55cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）NT-g

ヤマドリの亜種で雄は全体が赤銅色で尾が長い。雌は小さく尾も短い。翼を震わせて「ドドドッ」と、ホロ打ちと呼ばれる音を出し、植物の種子、果実や昆虫などを食べる。主に山間部で観察できる。雄は狩猟鳥に指定されている。



2. コシジロヤマドリ：留鳥（L♂125cm・♀55cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）NT-g

アカヤマドリに似るが雄は腰部に顕著な白色斑があり、主に宮崎県南の山地に生息する。県北でも山間部で少数の記録があるが、腰部の白斑が小さい個体も観察されている。この個体はアカヤマドリとの交雑と考えられている。昭和39年に県鳥に制定された。



3. ツクシガモ：冬鳥（L63cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）VU-r

頭部が黒色で体は白く、茶色の胸帯があり雄雌同色。干潟などで小魚類や昆虫、甲殻類などを捕食する。個体数が少ないが、大瀬川河口や沖田川河口で観察された記録がある。



4. オシドリ：冬鳥、一部繁殖（L45cm）

（環境省 RL2020）DD （宮崎県 RL2015）DD-2

雄の体色は生殖羽で銀杏羽があり、雌は灰褐色で目の周囲が白い。習性行動は他のカモ類とは違い、森林に囲まれたダム湖、河川、溪流の淵などで観察され、ドングリの実などを食べる。主に冬鳥として観察されるが、夏季も少数が観察されていて繁殖した記録もある。



5. トモエガモ：冬鳥（L♂43cm・♀38cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）VU-r

雄の顔には黄白色と緑、黒色の巴型斑紋がある。雌は全体が赤褐色。食物は植物質が主で、河口や池で見られるが、ほとんどが移動するようである。全国的に渡来数が減ってきており、観察された記録も少ない。



6. カラスバト：留鳥（L40 cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）VU-r

全体が黒色で、頭頂と後頸、背に赤紫色があり、頸と胸には緑色金属光沢色がある。「ウッウー」と鳴き、半島のよく茂った常緑広葉樹林に生息し、果実や樹木の新芽等を食べる。個体数が少なく、わずかな観察記録しかない。



7. ヨシゴイ：夏鳥（L37cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）VU-r

頭上黒く、体は黄褐色。「オー、オー」と鳴き、アシの茂っている池や湿地、川などに生息し、魚、カエル、昆虫などを捕食する。個体数が少なく、わずかな観察記録しかない。



8. ミゾゴイ：夏鳥（L49cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）EN-r

上面が濃褐色で下面には縦縞模様がある。「ポォー、ポォー」とウシガエルのような声で鳴き、溪流のある森などに生息し、サワガニやミミズなどを捕食する。個体数が少なく、わずかな観察記録しかない。



9. ササゴイ：夏鳥、一部越冬（L52cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）－

頭上黒く、背と翼のうへは青緑の光沢がある黒褐色で雄雌同色。河口から中流域や池で見られ、魚を捕食する。過去に延岡市街地のイチョウ並木で集団繁殖した記録があるが近年見られなくなった。個体数が減少していて、記録も少ない。



10. クロサギ：留鳥（L63cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

全身が黒色型や白色をしたものや黒と白が混じっている中間型もいる。水際を歩きながら魚や甲殻類、貝などを捕食する。個体数が少ないが、海岸付近で観察できる。沖田ダム周辺でも記録がある。



11. クロツラヘラサギ：冬鳥（L74cm）

（環境省 RL2020）EN （宮崎県 RL2015）CR-r

全体が白色で黒色のしゃもじ形の長い嘴が特徴で雄雌同色。干潟や河口、入江などで嘴を水中に入れ左右に振りながら水生昆虫、甲虫類、魚類を捕食する。個体数が少ないが、沖田川河口で観察された記録がある。



12. クイナ：冬鳥（L29cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

上面がオリーブ褐色で黒い縦斑があり、下面に白黒の横斑がある。嘴が赤い。「ビュービュー」と鳴くほか、さまざまな声を出す。湿地を歩きながら昆虫、小魚、カエル、エビなどを捕食する。個体数が少なく、わずかな観察記録しかない。



13. ヒクイナ：留鳥（L23cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）NT-g

上面が暗緑褐色で頭から頬、前首、上腹にかけて赤茶色。植物の種子や昆虫、貝類を食べ、繁殖期になると「キョッ、キョッ、キョッ」と始めは遅く、次第にテンポが速くなる声で鳴く。個体数は少ないが、河川、湿原などで観察される。



14. ジュウイチ：夏鳥（L32cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

上面が光沢のある黒で、下面は橙黄色。雄雌同色。「ジュウイチー、ジュウイチー」と鳴くのでこの名前が付いた。樹上で昆虫類を捕食し、オオルリやコルリなどの巣に卵を産みつけ托卵する。個体数は少ないが、樹木の多い山間部で観察記録がある。

15. ツツドリ：夏鳥（L33cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

カッコウに似ていて上面は青灰色で、下面は白くて細い黒帯がある。「ポポ、ポポ」と竹筒を叩いたような声で鳴くのでこの名前が付いた。餌はガ類の幼虫を好んで食べる。主にウグイス類の巣に卵を産みつけ托卵する。樹木の多い山間部で観察できる。

16. カッコウ：夏鳥（L35cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-g

頭部と体の上面は青灰色、尾は灰黒色で白点があり、下面は白くて細い黒帯がある。「カッコウ、カッコウ」と鳴くのでこの名前が付いた。昆虫類を捕食し、オオヨシキリ、モズ、ホオジロの巣に卵を産みつけ托卵する。標高の高い山間部で少数が観察されるが、春の移動時期には平地や低い山でも鳴き声を聞くことがある。



17. ヨタカ：夏鳥（L29cm）

（環境省 RL2020）NT（宮崎県 RL2015）EN-r

全身が褐色系の不規則な模様で保護色になっている。夕方から活動し、「キョッキョッキョッキョ」と鳴きながら飛び、昆虫類を捕食する。個体数が少なく、夜行性のため観察記録も少ない。



18. イカルチドリ：留鳥（20.5cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-r

頭部から体上面が灰褐色で細い黒色の胸帯があり、腹部は白い。「ピオ、ピオ」と鳴き、昆虫などを啄んでは歩くという動作を繰り返す。砂礫の多い河川の中流域を中心に生息している。



19. シロチドリ：留鳥（L18cm）

（環境省 RL2020）VU（宮崎県 RL2015）VU-g

上面が灰褐色で下面は白くて黒い過眼線があるが、冬になると淡色になる。「ピュル、ピュル」と鳴き、昆虫類を捕食する。大瀬川河口や沖田川河口などで観察できる。沖田川河口では繁殖の記録もある。



20. セイタカシギ：旅鳥（L32cm）

（環境省 RL2020）VU（宮崎県 RL2015）NT-r

ピンク色の長い足を持ち、嘴は黒くて長く、雄の体上面は光沢のある黒緑色、下面は白色で、雌は背や翼に褐色味がある。「ピューイツ」と鳴き、昆虫類を捕食する。春、秋の渡りの時期に河口、水田などで時々観察できる。



21. オオソリハシシギ：旅鳥（L41cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）NT-r

やや上に反り返った長い嘴が特徴で、体上面が夏羽は赤褐色、冬羽になると灰褐色になる。渡りの時期に大瀬川河口や沖田川河口などで観察記録があるが、個体数が少ない。



22. ホウロクシギ：旅鳥（L62cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）VU-r

全体が褐色で、嘴が長くて下に曲がった最大型のシギ。「コーリュウ」または「ホーイ、ホーイ」と鳴き、カニなどを捕食する。渡りの時期に沖田川河口や大瀬川河口などで観察記録があるが個体数が少ない。



23. アカアシシギ：旅鳥（L28cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）NT-r

全体が褐色で嘴の先端が黒くて基部が赤く、白いアイリングがある。足は長くて赤い。「ピーチョイチョイ」と鳴き、昆虫類を捕食する。渡りの時期に休耕田や沖田川河口などで観察されるが個体数が少ない。



24. タカブシギ：旅鳥（L21.5cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）NT-r

体上面が灰黒褐色で白色の横斑があり、下面は白い。白くて長い眉斑があり、足は長めで黄色。ピッピッピッピッと鳴き、ミミズ、昆虫や小魚などを捕食する。渡りの時期に水田などで観察できるが、海岸で観察されることは少ない。



25. タマシギ：留鳥（L24cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）NT-r

雄雌とも目の周囲の白、胸側の白線、背の外側に黄色線があり、雄より雌の方が美しい。繁殖期の夜には「コー、コー」と鳴き、水生昆虫や水辺の小動物を嘴を左右に振って捕食する。水田、湿地などで観察記録があるが個体数が少ない。



26. ツバメチドリ：旅鳥（L27cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）VU-r

ツバメを大きくしたような体形で、体の上面は暗灰褐色で尾が黒い。飛翔する姿がツバメに似ていることからこの名前の由来になっている。「クリリ、クリリ」と鳴き、昆虫類を捕食する。個体が少ないが、渡りの時期に観察された記録がある。



27. ズグロカモメ：冬鳥（L33 cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）VU-r

夏羽は頭部が黒く、体上面は淡青灰色。冬羽は全体が白っぽくなり、目の後ろに薄い黒斑がある。「キッ、キッ」と鳴き、小魚や甲殻類を捕食する。大瀬川河口や沖田川河口で観察記録がある。



28. カンムリウミスズメ：夏鳥（L24cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）EN-r

上面が青灰色で冠羽があり、額から胸の両側にかけて黒色で、下面は白色。海面下浅く潜り、稚魚を捕食する。少数が海洋で観察された記録があるが、門川町枇榔島では繁殖が確認されている。



29. ハチクマ：夏鳥（L♂57cm・♀61cm）

（環境省 RL2020）NT （宮崎県 RL2015）DD-2

色彩に変化が多いが、飛翔中翼の前縁から出ている頭部が他のタカ類よりも長い。「ピーエー」と鳴き、ハチを主に、虫類、小鳥、小型哺乳類を捕食する。ほとんどの個体が渡り時期に観察されているが、個体数が少ない。



30. チュウヒ：冬鳥（L♂48cm・♀58cm）

（環境省 RL2020）EN （宮崎県 RL2015）EN-r

雄雌共に色彩に変異が多い。翼をVの字保って帆翔するのが特徴。小鳥類や小型哺乳類、カエル、昆虫類などを捕食する。個体数が少ないが、二ツ島町一帯で観察された記録がある。



31. ハイイロチュウビ：冬鳥（L♂45cm・♀51cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）VU-r

雄は上面が灰色で下面は白く、雌の上面は褐色で下面は黒い縦斑があり、上尾筒が白い。翼をVの字保って帆翔するのが特徴。小鳥類や小型哺乳類、カエル、昆虫類などを捕食する。個体数が少ないが、二ツ島町一帯で観察された記録がある。



32. ツミ：留鳥（L♂27cm・♀30cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-r

雄の体の上面は暗青灰色で下面は白く、胸脇が黄赤褐色で目が暗紅色。雌は下面に横斑がある。「ピョーピョピョピョ」と尻下がりに鳴く。平地から山地で小鳥類や昆虫類を捕食する。個体数が少なく、観察記録も少ない。



33. ハイタカ：冬鳥（L♂32cm・♀39cm）

（環境省 RL2020）NT（宮崎県 RL2015）NT-r

雄の上面は暗青灰色で下面は白色に黄赤褐色の横斑があり、雌の下面は白色に褐色の横斑がある。「キィーキィキィキィ」と鳴き小鳥類やネズミ類などの哺乳類を捕食する。平野部から山間部まで広い範囲で観察できる。



34. オオタカ：冬鳥（L♂50cm・♀57cm）

（環境省 RL2020）NT（宮崎県 RL2015）NT-r

上面が暗青灰色で白い眉斑があり尾に黒帯がある。下面は白地に横斑がある。小鳥などの小動物やカモ類を捕食する。昔、鷹狩り用に利用された。個体数が少なく、観察記録も少ない。



35. サシバ：夏鳥（L♂47cm・♀51cm）

（環境省 RL2020）VU（宮崎県 RL2015）NT-g

胸腹部に黒褐色の横斑があり、上面は褐色で喉は白く中央に黒色縦斑がある。「ピックイー」と鳴き、小型哺乳類や小鳥類を捕食する。山間部で少数繁殖しているが、渡り時期になると群れで移動しているのを観察することができる。



36. クマタカ：留鳥（L♂72cm・♀80cm）

（環境省 RL2020）EN （宮崎県 RL2015）VU-g

後頭の羽毛が少し長く冠羽状で、頭部から体の下面は白くて、背と翼は灰黒褐色。「ピー」または「キー」と鳴き、ウサギ、ハト、ヘビなどを捕食する。山間部に生息していて繁殖しているが、観察記録が少ない。



37. フクロウ：留鳥（L50cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）VU-g

上面は黒褐色に黄褐色の斑点があり、下面は白地に黒い縦斑がある。主に夜活動し、「ホッホ、グルスクホッホ」と鳴く。餌は小鳥や小型哺乳類で平地から低山の森林に生息している。夜行性のため観察記録が少ないが、夕方や夜中に鳴き声を聞くことがある。



38. アオバズク：夏鳥（L29cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）VU-g

目が黄色で上面は黒褐色、下面は白地に黒褐色の縦紋がある。5月の青葉、若葉が茂る頃渡ってくるのでこの名前が付いた。夜「ホッホッ、ホッホッ」と鳴き、昆虫類を捕食する。神社の森や市内の小学校で繁殖した記録がある。夜中に鳴き声を聞くことがあるが、個体数が減少している。



39. コミミズク：冬鳥（L40cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

全身が灰褐色で下面に縦斑があり目は黄色。短い羽角がある。河原や農耕地に生息し、夜行性だが日中でも活動し、ネズミ類や小鳥類、昆虫類を捕食する。個体数が少なく、わずかな観察記録しかない。



40. アカショウビン：夏鳥（L27cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-r

全身が褐色味のある赤色で嘴が赤く、足が紅色。「キョロロロロ」と鳴き、トカゲ、カエル、魚などを捕食する。山間部などで観察記録があるが個体数が少ない。



41. ブッポウソウ：夏鳥（L30cm）

（環境省 RL2020）EN （宮崎県 RL2015）EN-r

頭部が黒く体は青緑色で嘴と足は赤い。「ゲーッゲゲ」と鳴き、飛びながら昆虫類を捕食する。鉄橋などで繁殖しているのを見かけることがあるが、個体数が少ない。



42. オオアカゲラ：留鳥（L28cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-g

上面は黒に白い斑紋があり、下面は白に黒い斑紋と下尾筒にかけて赤い。「ケツケツケツ」と鳴き、木の表面を突いて昆虫などを捕食するが、木の実も食べる。樹木のある森林に生息するが、個体数が少ない。



43. ハヤブサ：留鳥（L♂38cm・♀51cm）

（環境省 RL2020）VU （宮崎県 RL2015）NT-r

上面が鼠色で頬に髭状黒斑があり、下面は白地に黒色横斑がある。古来タカ狩りに使われた代表的なタカであり、ハトやカモ類を捕食する。個体数は少ないが、海岸線や山間部などで観察できる。



44. ヤイロチョウ：夏鳥（L18cm）

（環境省 RL2020）EN （宮崎県 RL2015）EN-r

雄雌同色で八色の羽毛があることが名前の由来となっている。「ホヘン、ホヘン」と鳴き、地上でミミズ類や昆虫類を捕食する。山間部で観察記録があるが個体数が少ない。



45. サンコウチョウ：夏鳥（L♂45cm、♀17cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-g

雄は尾が長く、上面は赤紫色、下面は白色で、頭胸は紫黒色、目の周囲はコバルト色。雌は体上面が茶褐色で尾は雄より短い。雄雌共に囀り、鳴き声から「月日星、ホイホイホイ」と聞きなす。昆虫類を捕食し、低地から山地のよく茂った林に生息している。



46. ホシガラス：留鳥（L35cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）VU-r

頭は黒褐色で顔から背や腹は黒褐色地に白い斑点がある。「ガーッガーッ」と鳴き、木の実、種子、昆虫などを食べる。大崩山などの比較的標高の高い場所に生息しているが、個体数が少ない。

47. コシアカツバメ：夏鳥（L19cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-g

上面が黒色で腰は赤茶色。喉から腹は淡い橙色に黒い縦斑がある。「ジュビッ、チビッ」などと鳴き、飛びながら昆虫類を捕食する。ツバメのお椀型の巣と違って、とっくり型の巣を作る。個体数が減少している。



48. メボソムシクイ：夏鳥（L13cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）DD-2

上面がオリーブ色で下面は白っぽく、白い眉斑がある。「ジュリジュリ、ジュリジュリ」と囀り、木の枝移りをして昆虫やクモなどを捕食する。渡り時期に時々記録があるが、祖母傾国定公園の標高の高い山で繁殖していると思われる。

49. センダイムシクイ：夏鳥（L13cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-g

上面がオリーブ緑色で下面は汚白色。白い眉斑があり、汚白色の頭中央線がある。聞きなしで「焼酎1杯グイーッ」と鳴き、昆虫やクモ類を捕食する。山間部で記録があり、繁殖していると思われる。



50. トラツグミ：留鳥（L30cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）VU-g

全身が黄色地にヒョウ柄模様で、雄雌同色。夜に「ヒー、ヒョー」と口笛のような声で囀る。藪のある暗い林を好み、地上を歩いて昆虫類の幼虫やミミズ類などを捕食する。山間部で観察記録があるが、個体数が少ない。



51. クロツグミ：夏鳥（L22cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）DD-2

雄は上面と胸部が黒色で腹は白くて黒い三角斑があり、嘴が黄色。雌は体上面が茶褐色で下面が白くて胸から脇は淡褐色で黒い三角斑がある。「キョローン、キョローン、キョコキョコ」などと長く囀る。地上の昆虫類の幼虫やミミズ類などを捕食する。山間部で観察され、餌運びの個体も記録されているので繁殖していると思われる。



52. コマドリ：夏鳥（L14cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）EN-r

雄は頭部から上胸は橙赤褐色、背と翼は暗橙褐色で下胸は黒く、腹は白い。雌は雄より淡色。「ヒンカラララ」と囀り、馬のいななきに似ている所から名前が付いた。昆虫やクモなどを捕食し、ササ等が茂る斜面や谷沿いなどの地上付近で生活する。近年、ニホンジカによる食害の影響で生息環境の悪化により個体数が減少している。



53. ルリビタキ：冬鳥（L14cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）DD-2

雄の上面は明るい青色で下面は白く、脇が橙色。雌は上面がオリーブ褐色。「ヒッコロチョロチョロリ」などと囀り、冬になると「ヒッヒッ」と鳴く。昆虫やクモなどを捕食するが、木の実も食べる。樹木のある場所で観察できるが、茂みの中にいることが多い。2002年に高千穂町で繁殖が確認され、繁殖地の南限となっている。



54. コサメビタキ：夏、旅鳥（L13cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）DD-2

上面が灰褐色で下面は白くて不明瞭な縦斑がある。雄雌同色。小声で複雑に囀り、フライングキャッチをして昆虫類を捕食する。個体数が減少していて夏鳥としての記録がなく、渡り時期のわずかな観察記録しかない。



55. キビタキ：夏鳥（L14cm）

（環境省 RL2020）－（宮崎県 RL2015）NT-g

上面が黒色で眉斑が黄色、翼には白斑があり、腰と下面は黄色。「ポッピッピロロロ、オーシーツクツク」などと囀る。枝に止まり、林の中を飛ぶ虫をねらいフライングキャッチをして捕食する。よく茂った森林で観察記録があるが、渡り時期には市街地周辺でも見られる。



56. オオルリ：夏鳥（L16cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）NT-g

雄の体の上面は青紫色で下面は白く、喉、顔、胸は黒い。雌は全身が茶褐色。「ピーリーリー、ポイヒーピピ」などと複雑な声で鳴き、昆虫類を捕食する。渓谷辺りで観察できるが、個体数が減少している。



57. ホオアカ：冬鳥（L16cm）

（環境省 RL2020）－ （宮崎県 RL2015）OT-1

頭が灰色で頬が赤褐色、下面は白く胸に黒と褐色の横斑がある。「チョッチチリンジ」などと囀り、昆虫類や草の種子を食べる。高千穂町五ヶ所で繁殖しているが、延岡市では冬に農耕地などで観察できる。



58. ガビチョウ：留鳥（L24cm）

※特定外来生物

上面はオリーブ褐色で頭と腰は淡色。周眼部と眼の後方にのびる白い肩斑がある。囀りは複雑でクロツグミに似るが、より大きな声で伸ばす声が含まれる。中国南部などに生息するが、飼鳥として飼育されたものが野生化し、生息域が拡大した。延岡市で 2009 年頃から観察されるようになったが、在来種への影響が懸念される。



59. ソウシチョウ：留鳥（L15cm）

※特定外来生物

上面はオリーブ色で、喉は黄色、胸はオレンジ、嘴と翼の一部に紅色がある。中国南部などに生息するが、飼鳥として飼育されたものが野生化し、生息域が拡大した。延岡市で 1987 年からの観察記録があり、山間部で多く見られるが、冬になると市街地でも見られるようになった。生息場所がウグイス等と競合しており、在来種への影響が懸念される。



4. 鳥類から見た延岡市の重要な生息地

(1) 沖田川河口

河口周辺には干潟があるので春秋に旅鳥のシギ、チドリ類が飛来してゴカイ等を捕食している。また、冬にはカモ類も多く飛来している。留鳥のシロチドリは繁殖記録があるので重要な生息地である。今回の調査と情報で118種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのツクシガモ、オシドリ、クロサギ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、セイタカシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、ズグロカモメ、ハイタカ、コムミズク、ハヤブサを記録した。また、記録の少ないミヤコドリ、ミツユビカモメも飛来した。



(2) 沖田ダム周辺

ダム湖周辺や青谷城谷周辺には多く自然林があり、野鳥が生息する環境が整っている。また、春秋の渡り時期には移動中の鳥類の一時的な休息場所にもなっている。今回の調査と情報で64種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのアカヤマドリ、オシドリ、トモエガモ、クロサギ、ツツドリ、ツミ、ハイタカ、クマタカ、アオバズク、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、ルリビタキ、キビタキ、オオドリを記録した。



(3) 友内川周辺

河川に飛来するカモ類や周辺のヨシ原、二ツ島町田園地帯には多くの鳥類が観察される。周辺一帯には遊歩道もあり、野鳥が観察しやすい。また、稀に見られる野鳥の記録もある。今回の調査と情報で93種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのトモエガモ、ヨシゴイ、ヒクイナ、チュウビ、ハイイロチュウビ、ハイタカ、サシバ、コムミズク、ハヤブサ、キビタキ、ホオアカの記録やマガン、カリガネ、オウチュウ、タカサゴモズ、ムジセッカ、ホシムクドリなどの記録の少ない野鳥も観察されている。



(4) 行滕山

行滕山は国定公園に指定されていて豊かな自然があるが、シカ食害や害虫による立ち枯れの影響が多くなった。その影響で林床はスカスカ状態になり、野鳥生息にも影響している。今回の調査と情報で62種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ミゾゴイ、ツツドリ、カッコウ、ツミ、ハイタカ、クマタカ、アカショウビン、オオアカゲラ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、クロツグミ、コマドリ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(5) 松山谷周辺

松山の松山谷周辺には多くの自然林があり、野鳥の生息環境に適している。また、松山は国有林で無断立ち入り禁止となっている。今回の調査と情報で29種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ジュウイチ、ツツドリ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。しかし、松山谷へのルートやそれに伴う林道が険しくて調査が容易ではないので十分な野鳥観察ができていないのが実情である。そのため、今回の記録では得なかった多くの野鳥が生息していると思われる。



(6) 可愛岳

可愛岳は本峰や大内谷、三足谷、大峡谷周辺の樹林帯には多くの野鳥が生息する。今回の調査と情報で37種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録したが、伐採林搬出工事や林道開発工事により調査不足でもある。工事終了後は更なる野鳥生息情報が報告されると思う。



(7) 三川内大井地区

大井地区には荒内谷、本口谷、木和田谷、塩見谷や周辺の樹林帯には多くの野鳥が生息している。今回の調査と情報で44種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのアカヤマドリ、ツツドリ、ハイタカ、クマタカ、アカショウビン、オオアカゲラ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、コマドリ、ルリビタキを記録した。中でもコマドリが繁殖期に観察されたことは貴重な記録である。



(8) 北川湿原

家田と川坂にある湿原は「日本の重要な湿地」に指定されていて貴重な水生植物が多く観察される場所であるが、その環境から多くの野鳥も生息している。今回の調査と情報で66種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのオシドリ、ヒクイナ、ツミ、ハイタカ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、オオルリを記録した。繁殖期には夏鳥であるオオヨシキリが飛来して繁殖している。



(9) 森谷谷、中ノ内谷

谷を中心とした環境の樹林帯には多くの野鳥が生息している。今回の調査と情報で39種亜種を記録した。その中で宮崎県RLのハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ、プッポウソウ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、キビタキ、オオルリを記録した。上流域には植林帯も有り開発も進んでいるが、自然林もあるので野鳥が生息できる環境がある。記録の少ない冬鳥のクロジも観察した。



(10) 木口谷

香花谷へと続く谷沿いの林道はかなり荒れている。周辺には植林もあるが自然林も残っていて野鳥が生息する環境がある。今回の調査と情報で 32 種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(11) 清蔵ヶ谷

谷を中心とした環境の樹林帯には多くの野鳥が生息している。今回の調査と情報で 33 種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ハイタカ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。上流域は林道や歩道が無いので調査ができないが、多くの自然林が残っているため野鳥の生息環境に適している。



(12) 落水谷

祝子川ダム湖へと流れる落水谷周辺には林道と落水の滝への登山道がある。谷周辺には多くの樹林帯があり野鳥が生息する環境がある。今回の調査と情報で 38 種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ジュウイチ、ツツドリ、サシバ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(13) 惣下谷

桑ヶ内谷へと続く林道の谷周辺には植林があるが自然林もあるので野鳥が生息する環境がある。今回の調査と情報で37種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のハイタカ、クマタカ、アカショウビン、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(14) 門ヶ内谷

谷を中心とした環境の樹林帯は植林、雑木林や上流の私有地もあるが、多くの野鳥が生息している。今回の調査と情報で37種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、オシドリ、ジュウイチ、ツツドリ、クマタカ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(15) 波帰ノ内谷

谷を境に東側が北浦町、西側が北川町となっている。東側は植林帯だが、西側には雄大な自然林がある。今回の調査で37種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、ツツドリ、ヨタカ、ツミ、ハイタカ、クマタカ、アカショウビン、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、センダイムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、キビタキ、オオルリを記録した。今回、林道からの調査しかできていないが多くの野鳥が生息していると思われる。



(16) 藤ノ木地区

曾木川沿いや曾木川へと流れる柚木谷周辺には多くの自然林があり、野鳥に適した生息環境がある。今回の調査と情報で46種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、コシジロヤマドリ、オシドリ、ツツドリ、ツミ、ハイタカ、サシバ、クマタカ、アカショウビン、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。中でもコシジロヤマドリは貴重な生息記録である。



(17) 板上地区

曾木川沿いや石上地区には多くの自然林があり、野鳥に適した生息環境がある。今回の調査と情報で48種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のオシドリ、ツツドリ、ハイタカ、サシバ、クマタカ、アカショウビン、オオアカゲラ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンコウチョウ、クロツグミ、ルリビタキ、オオルリを記録した。



(18) 鹿川溪谷周辺

綱の瀬川の支流になる鹿川溪谷には遊歩道があるが、災害の影響で一昔前と違いかなり変化した。上流域にあるキャンプ場周辺は鬼ノ目山、鉾岳などの登山道もあり、多くの愛好家が訪れている。遊歩道やキャンプ場周辺で野鳥観察ができるが、足元が悪い場所も多い。また、近くの自然林がある場所には容易に行けないので野鳥生息実態は不明である。今回の調査と情報では41種亜種を記録した。その中で宮崎県 RL のアカヤマドリ、カクコウ、ハイタカ、アカショウビン、ルリビタキ、オオルリを記録した。今後の更なる調査で多くの野鳥生息が記録されると思われる。



5. 延岡市で確認された鳥類目録 (2010~2020年)

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	キジ目	キジ科	アカヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii soemmerringii</i>	NT	NT-g	留
2	キジ目	キジ科	コシジロヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii ijimae</i>	NT	NT-g	留
3	キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus versicolor</i>			留
4	カモ目	カモ科	ヒシクイ	<i>Anser fabalis serrirostris</i>	VU		冬稀
5	カモ目	カモ科	マガン	<i>Anser albifrons albifrons</i>	VU		冬稀
6	カモ目	カモ科	カリガネ	<i>Anser erythropus</i>	EN		冬稀
7	カモ目	カモ科	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus jankowskyi</i>			冬稀
8	カモ目	カモ科	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>			冬稀
9	カモ目	カモ科	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	VU	VU-r	冬稀
10	カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	DD	DD-2	冬(一部繁殖)
11	カモ目	カモ科	オカヨシガモ	<i>Anas strepera strepera</i>			冬
12	カモ目	カモ科	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>			冬
13	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>			冬
14	カモ目	カモ科	アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>			冬稀
15	カモ目	カモ科	マガモ	<i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i>			冬
16	カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>			留、冬
17	カモ目	カモ科	ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>			冬
18	カモ目	カモ科	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>			冬
19	カモ目	カモ科	シマアジ	<i>Anas querquedula</i>			旅
20	カモ目	カモ科	トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	VU	VU-r	冬
21	カモ目	カモ科	コガモ	<i>Anas crecca crecca</i>			冬
22	カモ目	カモ科	ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>			冬
23	カモ目	カモ科	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>			冬
24	カモ目	カモ科	スズガモ	<i>Aythya marila marila</i>			冬
25	カモ目	カモ科	カワアイサ	<i>Mergus merganser merganser</i>			冬稀
26	カモ目	カモ科	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>			冬稀
27	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis poggei</i>			留
28	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus cristatus</i>			冬
29	カイツブリ目	カイツブリ科	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis nigricollis</i>			冬
30	ハト目	ハト科	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT	VU-r	留
31	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>			留
32	ハト目	ハト科	アオバト	<i>Treron sieboldii sieboldii</i>			留
33	アビ目	アビ科	オオハム	<i>Gavia arctica viridigularis</i>			冬稀
34	コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	CR		迷
35	カツオドリ目	ウ科	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus pelagicus</i>	EN		冬稀
36	カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>			冬(一部繁殖)
37	カツオドリ目	ウ科	ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>			冬
38	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis sinensis</i>	NT	VU-r	夏
39	ペリカン目	サギ科	ミノゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU	EN-r	夏
40	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i>			留
41	ペリカン目	サギ科	ササゴイ	<i>Butorides striata amurensis</i>			夏
42	ペリカン目	サギ科	アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>			迷
43	ペリカン目	サギ科	アマサギ	<i>Bubulcus ibis coromandus</i>			夏
44	ペリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea jouyi</i>			留
45	ペリカン目	サギ科	ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea manilensis</i>			迷
46	ペリカン目	サギ科	ダイサギ	<i>Ardea alba alba</i>			冬
47	ペリカン目	サギ科	チュウダイサギ	<i>Ardea alba modesta</i>			留
48	ペリカン目	サギ科	チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>	NT		夏
49	ペリカン目	サギ科	コサギ	<i>Egretta garzetta garzetta</i>			留
50	ペリカン目	サギ科	クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>		NT-r	留
51	ペリカン目	トキ科	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN	CR-r	冬稀
52	ツル目	ツル科	ナベツル	<i>Grus monacha</i>	VU		冬稀
53	ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus indicus</i>		NT-r	冬
54	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	<i>Porzana fusca erythrothorax</i>	NT	NT-g	留
55	ツル目	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus chloropus</i>			留
56	ツル目	クイナ科	オオバン	<i>Fulica atra atra</i>			冬
57	カウウ目	カウウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>		NT-r	夏
58	カウウ目	カウウ科	ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>			夏
59	カウウ目	カウウ科	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		NT-r	夏
60	カウウ目	カウウ科	カウウ	<i>Cuculus canorus telephonus</i>		NT-g	夏
61	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus jotaka</i>	NT	EN-r	夏
62	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	<i>Apus pacificus kurodae</i>			夏
63	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis kuntzi</i>			留
64	チドリ目	チドリ科	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>			冬
65	チドリ目	チドリ科	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	DD		冬
66	チドリ目	チドリ科	ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>			旅
67	チドリ目	チドリ科	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>			冬
68	チドリ目	チドリ科	ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula tundrae</i>			冬稀
69	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>		NT-r	留
70	チドリ目	チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius curonicus</i>			夏

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	チドリ目	チドリ科	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus dealbatus</i>	VU	VU-g	留
72	チドリ目	チドリ科	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus stegmanni</i>			旅
73	チドリ目	チドリ科	オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>			旅
74	チドリ目	ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus osculans</i>			冬稀
75	チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	VU	NT-r	旅
76	チドリ目	セイタカシギ科	ソリハシセイタカシギ	<i>Recurvirostra avosetta</i>			旅稀
77	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>			冬
78	チドリ目	シギ科	タシギ	<i>Gallinago gallinago gallinago</i>			冬
79	チドリ目	シギ科	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica baueri</i>	VU	NT-r	旅
80	チドリ目	シギ科	チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus variegatus</i>			旅
81	チドリ目	シギ科	ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata orientalis</i>			旅
82	チドリ目	シギ科	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	VU	VU-r	旅
83	チドリ目	シギ科	アカアシシギ	<i>Tringa totanus ussuriensis</i>	VU	NT-r	旅
84	チドリ目	シギ科	コアアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>			旅
85	チドリ目	シギ科	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>			旅
86	チドリ目	シギ科	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>			旅、冬
87	チドリ目	シギ科	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	VU	NT-r	旅
88	チドリ目	シギ科	キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			旅
89	チドリ目	シギ科	ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>			旅
90	チドリ目	シギ科	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>			留
91	チドリ目	シギ科	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres interpres</i>			旅
92	チドリ目	シギ科	オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>			旅
93	チドリ目	シギ科	コオバシギ	<i>Calidris canutus rogersi</i>			旅
94	チドリ目	シギ科	ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>			旅、冬
95	チドリ目	シギ科	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>			旅
96	チドリ目	シギ科	オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>			旅
97	チドリ目	シギ科	ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>			旅
98	チドリ目	シギ科	ハマシギ	<i>Calidris alpina sakhalina</i>	NT		旅
99	チドリ目	シギ科	キリアイ	<i>Limicola falcinellus sibirica</i>			旅
100	チドリ目	シギ科	アカエリヒレアシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>			旅
101	チドリ目	タマシギ科	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i>	VU	NT-r	留
102	チドリ目	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	VU	VU-r	旅
103	チドリ目	カモメ科	ミツユビカモメ	<i>Rissa tridactyla</i>			冬稀
104	チドリ目	カモメ科	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>			冬
105	チドリ目	カモメ科	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	VU	VU-r	冬
106	チドリ目	カモメ科	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>			冬
107	チドリ目	カモメ科	シロカモメ	<i>Larus hyperboreus pallidissimus</i>			冬稀
108	チドリ目	カモメ科	セグロカモメ	<i>Larus argentatus vegae</i>			冬
109	チドリ目	カモメ科	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>			冬
110	チドリ目	カモメ科	オニアジサシ	<i>Sterna caspia</i>			迷
111	チドリ目	カモメ科	アジサシ	<i>Sterna hirundo longipennis</i>			夏
112	チドリ目	ウミスズメ科	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	CR		冬
113	チドリ目	ウミスズメ科	カムムリウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	VU	EN-r	夏
114	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	NT		留
115	タカ目	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus orientalis</i>	NT	DD-2	夏
116	タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans lineatus</i>			留
117	タカ目	タカ科	チュウヒ	<i>Circus spilonotus spilonotus</i>	EN	EN-r	冬
118	タカ目	タカ科	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus cyaneus</i>		VU-r	冬
119	タカ目	タカ科	ツミ	<i>Accipiter gularis gularis</i>		NT-r	留
120	タカ目	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i>	NT	NT-r	冬
121	タカ目	タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>	NT	NT-r	冬
122	タカ目	タカ科	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU	NT-g	夏
123	タカ目	タカ科	ノスリ	<i>Buteo buteo japonicus</i>			冬
124	タカ目	タカ科	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis orientalis</i>	EN	VU-g	留
125	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis fuscescens</i>		VU-g	留
126	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata japonica</i>		VU-g	夏
127	フクロウ目	フクロウ科	コミズク	<i>Asio flammeus flammeus</i>		NT-r	冬
128	サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ	<i>Upupa epops saturata</i>			旅稀
129	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda major</i>		NT-r	夏
130	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i>			留
131	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris lugubris</i>			留
132	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN	EN-r	夏
133	キツキ目	キツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla japonica</i>			冬
134	キツキ目	キツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki kizuki</i>			留
135	キツキ目	キツキ科	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos namiyei</i>		NT-g	留
136	キツキ目	キツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera horii</i>			留
137	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus interstinctus</i>			冬
138	ハヤブサ目	ハヤブサ科	コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius insignis</i>			冬稀
139	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo subbuteo</i>			旅
140	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>	VU	NT-r	留

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
141	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN	EN-r	夏
142	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	VU		旅
143	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>			留
144	スズメ目	オウチュウ科	オウチュウ	<i>Dicrurus macrocercus ssp.</i>			迷
145	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata atrocaudata</i>		NT-g	夏
146	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>			留
147	スズメ目	モズ科	タカサゴモズ	<i>Lanius schach schach</i>			迷
148	スズメ目	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius japonicus</i>			留
149	スズメ目	カラス科	ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes japonica</i>		VU-r	留
150	スズメ目	カラス科	コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>			冬
151	スズメ目	カラス科	ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus pastinator</i>			冬
152	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	<i>Corvus corone orientalis</i>			留
153	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>			留
154	スズメ目	クワイタダキ科	クワイタダキ	<i>Regulus regulus japonensis</i>			冬
155	スズメ目	ツリスガラ科	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus consobrinus</i>			冬
156	スズメ目	シジュウカラ科	コガラ	<i>Poecile montanus restrictus</i>			留
157	スズメ目	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius varius</i>			留
158	スズメ目	シジュウカラ科	ヒガラ	<i>Periparus ater insularis</i>			留
159	スズメ目	シジュウカラ科	キバラガラ	<i>Periparus venustulus</i>			迷
160	スズメ目	シジュウカラ科	シジュウカラ	<i>Parus minor minor</i>			留
161	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis japonica</i>			留
162	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica gutturalis</i>			留
163	スズメ目	ツバメ科	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica japonica</i>		NT-g	留
164	スズメ目	ツバメ科	イワツバメ	<i>Delichon dasypus dasypus</i>			冬(一部留)
165	スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>			留
166	スズメ目	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone cantans</i>			留
167	スズメ目	ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>			夏(一部越冬)
168	スズメ目	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus kiusiuiensis</i>			留
169	スズメ目	ムシクイ科	ムジセツカ	<i>Phylloscopus fuscatus fuscatus</i>			冬稀
170	スズメ目	ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	DD		旅
171	スズメ目	ムシクイ科	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		DD-2	夏
172	スズメ目	ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>			旅
173	スズメ目	ムシクイ科	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		NT-g	夏
174	スズメ目	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus japonicus</i>			留
175	スズメ目	ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			夏
176	スズメ目	セツカ科	セツカ	<i>Cisticola juncidis bruniceps</i>			留
177	スズメ目	レンジャク科	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus centralasiae</i>			冬
178	スズメ目	レンジャク科	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>			冬
179	スズメ目	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea roseilla</i>			留
180	スズメ目	ミンサザイ科	ミンサザイ	<i>Troglodytes troglodytes fumigatus</i>			留
181	スズメ目	ムクドリ科	ギンムクドリ	<i>Spodiopsar sericeus</i>			冬稀
182	スズメ目	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>			留
183	スズメ目	ムクドリ科	コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>			旅
184	スズメ目	ムクドリ科	カラムクドリ	<i>Sturnia sinensis</i>			冬稀
185	スズメ目	ムクドリ科	ホシムクドリ	<i>Sturnus vulgaris poltaratskyi</i>			旅
186	スズメ目	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasi pallasii</i>			留
187	スズメ目	ヒタキ科	マミジロ	<i>Zoothera sibirica davisoni</i>			旅
188	スズメ目	ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma aurea</i>		VU-g	留
189	スズメ目	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		DD-2	夏
190	スズメ目	ヒタキ科	マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>			旅
191	スズメ目	ヒタキ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			冬
192	スズメ目	ヒタキ科	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i>			旅
193	スズメ目	ヒタキ科	ツグミ	<i>Turdus naumanni eunomus</i>			冬
194	スズメ目	ヒタキ科	ハチジョウツグミ	<i>Turdus naumanni naumanni</i>			冬稀
195	スズメ目	ヒタキ科	コマドリ	<i>Luscinia akahige akahige</i>		EN-r	夏
196	スズメ目	ヒタキ科	ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>			旅
197	スズメ目	ヒタキ科	コルリ	<i>Luscinia cyane bochaiensis</i>			旅
198	スズメ目	ヒタキ科	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus cyanurus</i>		DD-2	冬
199	スズメ目	ヒタキ科	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus auroreus</i>			冬
200	スズメ目	ヒタキ科	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus stejnegeri</i>			旅
201	スズメ目	ヒタキ科	イノヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>			留
202	スズメ目	ヒタキ科	エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>			旅
203	スズメ目	ヒタキ科	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica dauurica</i>		DD-2	夏、旅
204	スズメ目	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina narcissina</i>		NT-g	夏
205	スズメ目	ヒタキ科	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i>		NT-g	夏
206	スズメ目	スズメ科	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans rutilans</i>			冬
207	スズメ目	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>			留
208	スズメ目	セキレイ科	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava taivana</i>			旅稀
209	スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea cinerea</i>			留
210	スズメ目	セキレイ科	シベリアハクセキレイ	<i>Motacilla alba baicalensis</i>			旅稀

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
211	スズメ目	セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>			留
212	スズメ目	セキレイ科	ホオジロハクセキレイ	<i>Motacilla alba leucopsis</i>			旅稀
213	スズメ目	セキレイ科	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>			留
214	スズメ目	セキレイ科	ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i>			冬
215	スズメ目	セキレイ科	タビバリ	<i>Anthus rubescens japonicus</i>			冬
216	スズメ目	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>			冬
217	スズメ目	アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica minor</i>			留
218	スズメ目	アトリ科	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>			冬
219	スズメ目	アトリ科	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus sanguinolentus</i>			冬
220	スズメ目	アトリ科	イスカ	<i>Loxia curvirostra japonica</i>			冬
221	スズメ目	アトリ科	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i>			冬
222	スズメ目	アトリ科	アカウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula rosacea</i>			冬
223	スズメ目	アトリ科	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i>			冬
224	スズメ目	アトリ科	コイカル	<i>Eophona migratoria migratoria</i>			冬稀
225	スズメ目	アトリ科	イカル	<i>Eophona personata personata</i>			留
226	スズメ目	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides ciopsis</i>			留
227	スズメ目	ホオジロ科	ホオアカ	<i>Emberiza fucata fucata</i>		OT-1	冬
228	スズメ目	ホオジロ科	コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>			冬稀
229	スズメ目	ホオジロ科	カシラダカ	<i>Emberiza rustica latifascia</i>			冬
230	スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans elegans</i>			冬
231	スズメ目	ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza spodocephala personata</i>			冬
232	スズメ目	ホオジロ科	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>			冬
233	スズメ目	ホオジロ科	オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus pyrrhulina</i>			冬
	タカ目	タカ科	ゲアシノスリ	<i>Buteo lagopus menzbieri</i>			参考記録
	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus thoracicus</i>			外来種
	ハト目	ハト科	カワラバト (ドバト)	<i>Columba livia</i>			
	チメドリ目	チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>			
	チメドリ目	チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>			

注記：目録は延岡市において2010～2020年に記録されたものを示す。なお、情報があっても記録として報告されていないものは含んでいない。

6. 参考文献

宮崎県, 2005. みやざきの野鳥. 鈺脈社. 宮崎.

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(編), 2011. 改訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境森林部自然環境課.

中村 豊・井上伸之・福島英樹, 2015. みやざきの野鳥図鑑. 鈺脈社. 宮崎.

延岡市, 2011. 第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書.

高野伸二, 2009. フィールドガイド日本の野鳥増補改訂新版. 日本野鳥の会. 東京.

両生類・爬虫類

調査担当者：末吉 豊文

調査協力者：岩切 康二

森田 祐介

西 邦雄

西田 伸

大塚 久喜

古中 隆裕

中島 洋雄

延岡市自然環境調査 報告書 (両生類・爬虫類)

末吉 豊文

1. はじめに

延岡市における両生類・爬虫類の調査及び記録において最古と思われるものは、1845(弘化2)年賀来飛霞が記した“高千穂採葉記”に北川町でのカジカガエルの記載である。

その後の調査及び記録は近年のものになり、1978(昭和53)年環境庁による“第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・爬虫類)宮崎県”には大崩山小積谷でのブチサンショウウオの記録が記載されている。1978年当時はコガタブチサンショウウオが種として独立していないことと現在明らかになったブチサンショウウオとコガタブチサンショウウオの分布から、本報告書に記載されている種はコガタブチサンショウウオと考えられる。

一般の著作物ではあるが、1979(昭和54)年に根岸幹雄は“延岡とその周辺の動物雑話”を出版し、確認地や確認年月日は記載されていないが、イモリ、ブチサンショウウオ、ウシガエル等が記載されている。

その後は、1982(昭和57)年宮崎県による“県北地域動物調査—動物調査報告書—”にウシガエルの記載がある。

延岡市は、2000(平成12)年に動物調査報告書、続いて2011(平成23)年第2次延岡市環境基本計画自然環境調査報告書を作成し、詳細な確認情報を示している。

2003(平成15)年～2006(平成18)年、宮崎県総合博物館は県北地域調査を実施し、その一環として筆者はサンショウウオ類の調査を行い“宮崎県北部地域におけるサンショウウオ科4種の生息の概要”として報告し、その調査成果として延岡市内でソボサンショウウオ(当時はオオダイガハラサンショウウオ)の生息を確認した。またその他の両生類・爬虫類の生息についても記録した。

2. 調査方法等

調査は現地調査、情報提供、文献調査等で行い、現地調査については対象種によって調査方法が異なる。以下に調査方法の詳細を示す。

(1) 現地調査

① ヘビ、トカゲ、カエル

日中、事前に選定した調査地の遊歩道、農道、畦、登山道等を徒歩移動し、出現した両生類・爬虫類を捕獲し、同定、記録した。なお、カエルについては、夜間のヤモリの調査時に、鳴き声によっても同定し記録した。

② ヤモリ

夜間、事前に選定した調査地において、建物等の壁や隙間、また岩の割れ目等を目視によって調査し、ヤモリを確認した場合は、網または素手で捕獲し、同定、記録した。

③ 淡水カメ

縦 60cm、横 43cm、高さ 22～30cm、開口部直径約 20cm、網目合 1cm のカゴワナに魚肉等のエサを入れ、ワナ上部が水面に出るようにして河川等に一昼夜設置し、イシガメ、クサガメ、スッポン、ミシシippiaカミミガメ等を捕獲し、同定、記録した。また、川岸から双眼鏡を用いての目視調査も実施した。

④ 小型サンショウウオ

事前に選定した調査地の沢を上流に移動しながら、沢の中の石を動かし、石の下にいる幼生の確認を行った。また、沢沿いのガレ場を掘り上げたり、岩や倒木を動かし、成体の確認を行った。確認できた場合は同定し記録した。

(2) 情報提供

両生類・爬虫類の同定のできる方から、延岡市においての両生類・爬虫類の情報を提供いただき、調査結果に加えた。

(3) 文献調査

学会や研究会の論文・報文、調査報告書、延岡市に係る一般書等を調査し、両生類・爬虫類に関する記載を記録した。なお、筆者が有する過去の確認記録は文献調査に加えた。

(4) 他調査記録の活用

県文化財課カモシカ調査、県レッドリスト作成に係る調査の記録も調査結果に加えた。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

(1) ソボサンショウウオ

環境省カテゴリ絶滅危惧 IB 類 (EN)、宮崎県カテゴリ絶滅危惧 IB 類 (EN-r) である。五ヶ瀬川以北で概ね標高 500m 以上の自然林等に生息し、延岡市の代表的な生息地は大崩山、鬼の目山、銚岳等である。なお、生息を確認した松山は、本種生息地の東端になる。

全長は 140~180mm で、体色は全身が濃い紫色をしている。4~5 月に川の源流部で繁殖を行い、コイル状の卵嚢を水中の石の下に 1 対産み付ける。幼生は水生昆虫等をエサとし、半年から 3 年後に変態して上陸する。

本種はオオダイガハラサンショウウオとされていたが、2014 年に祖母山から大崩山にかけて生息する個体群はソボサンショウウオとして新種記載された。宮崎県の地名を種名に含む動植物は複数存在するが、脊椎動物においてはソボサンショウウオのみであることから、祖母山から大崩山にかけて生息する動植物の中で代表的な種といえる。また、2017 年に本種の生息地の大部分が“祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク”として登録されたことで、エコパークのシンボリックな種ともいえる。



ソボサンショウウオ (成体)



ソボサンショウウオ (幼生)

(2) コガタブチサンショウウオ

環境省カテゴリ絶滅危惧 II 類 (VU)、宮崎県カテゴリ絶滅危惧 II 類 (VU-g) である。本種は長崎県を除く九州各地に生息しており、別府島原地溝帯を境に北部系統と南部系統に分けられ、延岡市に生息する個体群は南部系統となる。延岡市では 1999 (平成 11) 年に北浦町三川内塩見山で確認された 1 例しか記録はない。

全長 80~140mm で、体色は暗褐色で銀白色の小さな斑紋があるが、個体差が大きい。



コガタブチサンショウウオ (成体)

い。3～5月に地下の伏流水中に卵嚢を産卵し、孵化した幼生はそこで成長し、夏頃には変態する。コガタブチサンショウウオは中部・近畿地方、四国、九州に生息するとされていたが、2019（令和元）年、本種は4種に分けられ、九州産がコガタブチサンショウウオ、中部・近畿産はマホロバサンショウウオ、四国剣山周辺産はツルギサンショウウオ、他の四国産はイヨシマサンショウウオとして新種記載された。

(3) トノサマガエル

環境省カテゴリー準絶滅危惧（NT）、宮崎県カテゴリー準絶滅危惧（NT-g）である。本種は関東平野、仙台平野、信濃川流域を除く本州、四国、九州に生息している。延岡市では、上祝子、行藤町、家田、三川内歌糸、八峽等での記録がある。



全長 40～90mm。オスの体色は茶褐色から緑色で、繁殖期になると金色がかった婚姻色となる。メスは灰白色から暗灰色。繁殖期は4～7月で、水田や池沼などに 1,800～3,000 卵の入った卵塊を産卵する。孵化したオタマジャクシは秋までには変態し、周囲の草地や樹林で成長する。

以前は平野部でも確認できたが、生息地の環境が改変されたことで生息数が激減している。産卵に適した止水域が残された山間地の水田や湿地では本種を確認することができるが、生息数は減少している。

(4) ニホンヒキガエル

宮崎県カテゴリー準絶滅危惧（NT-g）である。本種は近畿以西の本州、九州、四国、奄岐、五島列島、屋久島、種子島に生息している。延岡市では、大崩山、上祝子、川坂等での記録がある。



全長 80～180mm。体色は茶褐色で、全身に多数の隆起があり、ずんぐりとした体型をしている。本県では 12～翌2月に水路や池沼、水たまりに産卵する。卵嚢はひも状で、6,000～14,000 卵が入っている。孵化したオタマジャクシは夏までに変態して上陸し、周囲の林床で土壌動物などを餌として成長する。

山間地においては、農耕地や樹林内で普通に確認できるが、平野部、特に住宅地周辺では確認することが希である。

(5) ニホンイシガメ

環境省カテゴリー準絶滅危惧（NT）、宮崎県カテゴリー絶滅危惧 II 類（VU-r）である。本種は本州、四国、九州及びその周辺の島々等に生息している。延岡市では、家田、川内名荒茂、深瀬、長野での記録がある。

甲長はオス約 15cm、メス約 20cm、背甲の色は黄色がかった褐色をしており、腹甲は黒色をしている。背甲の後縁部はのこぎり状の切れ込みがある。雑食性で魚類や甲殻類、水草などを餌とする。6～7月に4～10個の卵を産卵する。子ガメはゼニガメと呼ばれる。



河川の中流から上流や湿地等の他、流れの速い上流域にも生息する。ミシシippアカミガメやクサガメとの競合、河川改修などによる生息環境の改変により生息数は減少し、確認することは難しい。また、本種はクサガメと交雑し、その交雑個体（ウンキュウと呼ばれる）は繁殖能力があるため、本種とクサガメの生息地が重なる場合は遺伝子攪乱の可能性がある。

(6) アカウミガメ

環境省カテゴリー絶滅危惧 IB 類（EN）、宮崎県カテゴリー準絶滅危惧（NT-g）、ワシントン条約附属書 I 掲載種であり、種の保存法に係る国際稀少野生動植物に指定。また、宮崎市～高鍋町、延岡市、日南市の地域を定めて「アカウミガメ及びその産卵地」として県指定天然記念物に指定されている。

甲長 70～100cm で、背甲は赤みがかった褐色、腹甲は薄い黄色をしている。肉食性でエサは底生生物等。5～8月に3回程、1度に 100 個程を産卵する。卵は産卵後約 2 ヶ月で孵化する。延岡市を含む日本の産卵地は、北太平洋における本種唯一の産卵地となっており、本種の保護の観点から海岸の保全是大変重要な課題である。

(7) タワヤモリ

環境省カテゴリー準絶滅危惧（NT）、宮崎県カテゴリーその他保護上重要な種（OT-1）（※2020年版では準絶滅危惧（NT-g）となる予定）である。五ヶ瀬川以北の海岸近くに生息し、岩場や森林、建物の外壁等で確認できるが、確認場所は少ない。

全長 100～140mm で、体色は灰褐色で暗褐色の不規則な斑紋がある。背面に顆粒状の



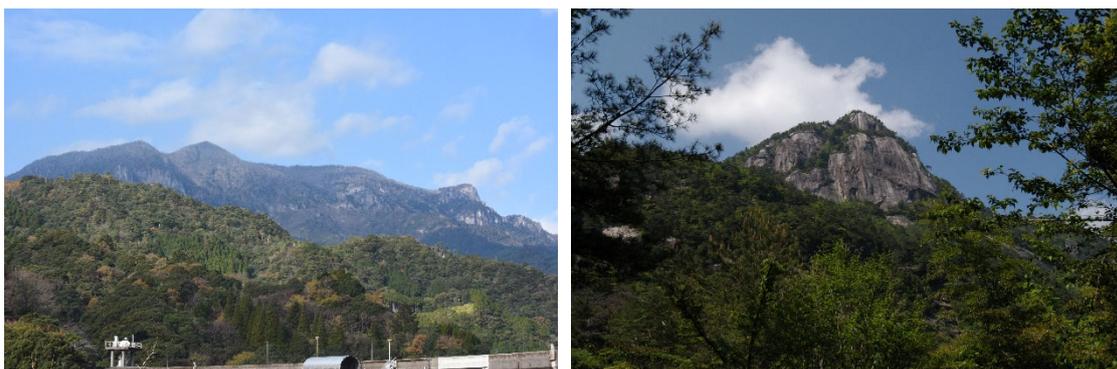
大型鱗がなく、尾の付け根のイボ状の突起が1対である。夜行性で昆虫等をエサとし、初夏に岩の割れ目等に産卵する。

瀬戸内海沿岸となる和歌山県～山口県、香川県～愛媛県、大分県、その周辺となる高知県、宮崎県に分布し、延岡市は分布の南限となる。本種はニホンヤモリと交雑することが明らかにされており、本種の生息確認地のいくつかではニホンヤモリも確認しており、交雑による遺伝子攪乱も懸念される。

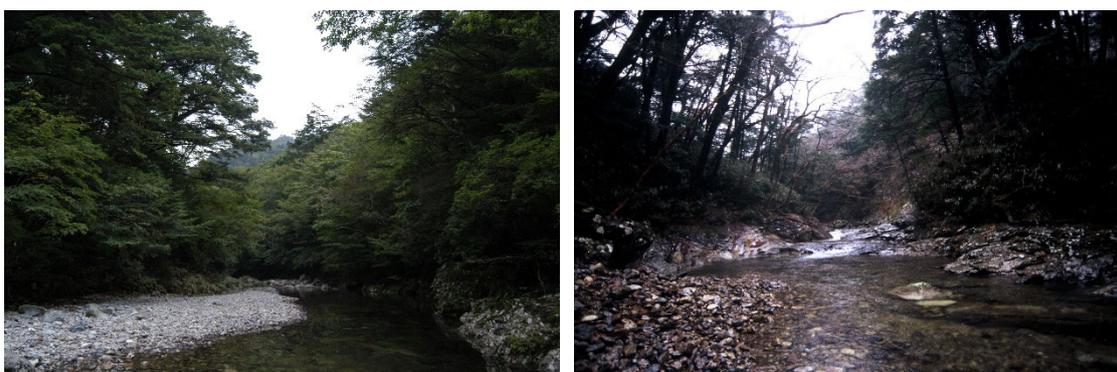
4. 両生類・爬虫類から見た延岡市の重要な生息地

(1) 大崩山周辺

延岡市においてのソボサンショウウオの貴重な生息地となっている。また、ソボサンショウウオに限らず、多くの両生類・爬虫類の生息地となっている。今回の調査では確認はできなかったが、コガタブチサンショウウオも生息しているものと考えられる。



大崩山の遠景と岩峰



ソボサンショウウオの生息地である三里河原

(2) 家田湿原及び周囲の水田と里山

家田湿原及び周囲の水田にはトノサマガエルをはじめ多様なカエル、アカハライモリ、それらをエサとするヘビ類が生息しており、両生類・爬虫類にとって貴重な生息場所になっている。また、周辺の里山にはニホンヒキガエルやツチガエルも生息しており、多様な生態系を維持している。



(3) 方財、長浜、新浜の砂浜海岸

方財、長浜、新浜の砂浜海岸は3.(3)で記したようにアカウミガメの貴重な産卵場所となっている。筆者は本海岸においてアカウミガメの現地調査は行っていないが、文献等によりアカウミガメの産卵状況や海岸の変化について把握できた。産卵環境の維持のために海岸の保全が必要である。

5. 外来種の生息状況

(1) ミシシippアカミミガメ

アカミミガメは環境省及び農林水産省が定めた生態系被害防止外来種リストにおいて緊急対策外来種とされている。ミシシippアカミミガメは延岡市において既に定着しており、4.(2)で記した家田湿原での目撃情報もある。本格的な調査の実施と定着が確認された場合にはその対策が必要である。

(2) カミツキガメ

カミツキガメは2007(平成19)年、三川内で確認されている。本個体がどのような経緯で三川内に持ち込まれたかは確認できなかったが、おそらく飼育個体が逃げ出したか遺棄されたものと考えられる。また、他個体が確認されていないことから本種は目録には加えていない。

6. 延岡市で確認された両生類・爬虫類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	有尾目	サンショウウオ科	コガタブチサンショウウオ	<i>Hynobius stejnegeri</i> Dunn, 1923	VU	VU-g	
2	有尾目	サンショウウオ科	ソボサンショウウオ	<i>Hynobius shinichisatoi</i> Nishikawa et Matsui, 2014	VU	EN-r	
3	有尾目	イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i> (Boie, 1826)	NT		
4	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i> Temminck et Schlegel, 1838		NT-g	
5	無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i> Gunther, 1859			
6	無尾目	アカガエル科	タグガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i> Okada, 1928			
7	無尾目	アカガエル科	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i> Boulenger, 1879			
8	無尾目	アカガエル科	ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i> Werner, 1903			
9	無尾目	アカガエル科	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i> Shaw, 1802			
10	無尾目	アカガエル科	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i> Temminck et Schlegel, 1838			
11	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	<i>Rana nigromaculata</i> Hallowell, 1861	NT	NT-g	
12	無尾目	ヌマガエル科	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i> Djong, Matsui, Kuramoto, Nishioka et Sumida, 2011			
13	無尾目	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i> (Gunther, 1858)			
14	無尾目	アオガエル科	カジガエル	<i>Buergeria buergeri</i> (Temminck et Schlegel, 1838)			
15	カメ目	ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i> (Linnaeus, 1758)	EN	NT-g	
16	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i> (Temminck et Schlegel, 1835)	NT	VU-r	
17	カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i> (Wied, 1839)			
18	カメ目	スッポン科	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i> (Wiegmann, 1834)	DD	DD-2	
19	有鱗目	ヤモリ科	タワヤモリ	<i>Gekko tawaensis</i> Okada, 1956	NT	OT-1	
20	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i> (Dumeril et Bibron, 1836)			
21	有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i> (Peters, 1864)			
22	有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i> (Schlegel, 1838)			
23	有鱗目	タカチホヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalina spinalis</i> Peters, 1869		DD-2	
24	有鱗目	ナミヘビ科	ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i> (Boie, 1826)			
25	有鱗目	ナミヘビ科	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i> (Boie, 1826)			
26	有鱗目	ナミヘビ科	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i> (Boie, 1826)			
27	有鱗目	ナミヘビ科	ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i> (Boie, 1826)			
28	有鱗目	ナミヘビ科	シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i> (Hilgendorf, 1880)		DD-2	
29	有鱗目	ナミヘビ科	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i> (Boie, 1826)			
30	有鱗目	クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydus blomhoffii</i> (Boie, 1826)			

7. 参考文献

- 環境庁, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 宮崎県.
宮崎県, 1982. 県北地域動物調査-動物調査報告書-.
宮崎県環境森林部自然環境課, 2005. 溜池調査報告書.
根岸幹雄, 1979. 延岡とその周辺の動物雑話. 「動物雑話」刊行会.
末吉豊文・岩切康二, 2008. 宮崎県北部地域におけるサンショウウオ科4種の生息の概要. 宮崎県総合博物館総合調査報告書県北地域調査報告書: 1-6.
末吉豊文, 2010. 賀来飛霞著「高千穂採葉記」に記載された両生爬虫類と宮崎県総合博物館所蔵の賀来飛霞収集爬虫類標本. 九州両生爬虫類研究会誌, (1): 2-6.

河川・河口域魚類

調査担当者：村瀬 敦宣

調査協力者：三木 涼平
新倉 弘基
緒方 悠輝也
向井 実佳
石丸 哲也
山崎 裕太
小山 彰彦
阪本 竜也
小林 優也
眞田 樹也
加藤 汰郎

延岡市自然環境調査 報告書 (河川・河口域魚類)

村瀬 敦宣

1. はじめに

延岡市内の河川・河口域の魚類相調査に関しては 1999 年度延岡市環境基本計画自然環境調査報告書および 2010 年度第 2 次延岡市環境基本計画自然環境調査報告書および北川水系全域を調査した江口ほか(2008:九州大学大学院農学研究院学芸雑誌 63, 15-25)がある。今回は特に絶滅危惧種が依存する環境が残されていると考えられる河口環境に重点を置いて調査を行った。実際に延岡市内で魚類の調査を行った地点は下記の通りである:熊野江川、須美江川、北川、小川(北川水系)、大瀬川、細見川(五ヶ瀬川水系)、沖田川、妙見湾。

2. 調査方法等

各調査地点において、2017 年 5 月から 2020 年 10 月の間に手網、投網、地曳網、徒手、釣りによる魚類の採集調査を実施した。採集した標本は研究室に持ち帰り、中坊(2013:日本産魚類検索 全種の同定 第三版)に従って同定を行った。中坊(2013)以降に日本列島で記録された種や学名が変更になった種については、根拠文献を種リストの備考欄に示した。なお、種リストにある科の順序は中坊(2013)に従ったが、種は学名のアルファベット順に配列した。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

(1) 干潟依存の絶滅危惧種

今回の調査で採集されたハゼ科魚類のうち、ヒモハゼ、クボハゼ、チクゼンハゼ、トビハゼ、マサゴハゼは河口域や潟湖の潮間帯に形成される干潟環境に依存する絶滅危惧種であり、各種が底質の粒径などで生息環境の特異性を持っている。そのため、河口環境の多様性を損なうような人間活動はこれらの種の延岡市内における絶滅の可能性を高める可能性がある。また、従来日本列島に分布し、チワラスボとされていた種は複数種に分けられることがわかっており、今回の調査ではチワラスボ属の一種 (*Taenioides gracilis*) のみが見つかった。本種はチワラスボと同様に開発の影響を受けやすい干潟環境に生息するが、環境省のレッドリストでランク付けされておらず、速やかな生態および生息状況の情報集約が求められる。江口ほか (2008) が北川で採集しているチワラスボ属標本については彼らの示した証拠標本の再同定を行った結果、本種であることがわかっているが、過去の延岡市における自然環境調査報告書の記録は証拠の詳細が不明のため、チワラスボが延岡市に分布しているかは定かではない。



ヒモハゼ
(UMNB-I 5945, 体長 29.6 mm, 妙見湾産)



クボハゼ
(KPM-NI 46483, 体長 20.8 mm, 妙見湾産)



チクゼンハゼ
(UMNB-I 3371, 体長 25.4 mm, 妙見湾産)



トビハゼ
(KPM-NI 41556, 体長 73.8 mm, 友内川産)



マサゴハゼ
(KPM-NI 48243, 体長 23.3 mm, 妙見湾産)



チワラスボ属の一種
(KPM-NI 57485, 体長 121.2 mm, 友内川産)

(2) その他の特筆すべき絶滅危惧種

今回記録された絶滅危惧種のうち、アカメおよびゴマハゼは本州から九州の黒潮流域沿岸の河口域にのみ分布する日本固有種であり、なおかつ河口域の特異的な環境を生活史の一部または全てで利用する。延岡市を含めた宮崎県沿岸はこれらの種の主要な再生産の場を提供している地域の一つと考えられる。アカメは仔稚魚期にコアマモ群落に依存した生活を送っており、コアマモの減退や消失が直接的影響を与えるものと考えられる。また、ゴマハゼは河口域の流速や波の影響の弱い障害物周辺に群れることが知られているのみであり、詳細な生息環境の選択性は未解明である。これらの絶滅危惧種を保全するためには、各種の出現状況を事前に把握し、河口域およびそれに隣接した環境の不用意な開発を避けることが求められる。



アカメ
(KPM-NI 40517, 体長 32.4 mm, 友内川産)



ゴマハゼ
(KPM-NI 40522, 体長 15.0 mm, 友内川産)

(3) 移入と考えられる種

細見川では、絶滅危惧種であるアリアケギバチやオヤニラミが記録された。これらの種は本来延岡市を中心とする宮崎県北部地域に分布するとは考えられない種であり、国内移入

種であると考えられる。在来種の保全および環境の維持・改善のためにも、延岡市内における移入種の分布域を把握し、対応策を取ることも必要になってくると考えられる。しかしながら、アリアケギバチのように本来の宮崎県内の生息地である大淀川水系の個体群が絶滅の危機に瀕しているような種については、クニマス（原産地では絶滅したが、別の場所に移植されたものが今も生息）の事例のように、細見川ほか、延岡市内の河川が移植地となる可能性もあり得る。いずれにせよ、時期尚早な判断は控えるべきであるが、今後のモニタリングと慎重な検討が求められる。

(4) 分布上興味深い種

今回の調査で妙見湾において採集されたハゼ科ウキゴリ属のニクハゼおよびビリンゴは、それぞれの太平洋沿岸域の分布の南限記録である可能性が高い。今後、宮崎県を中心にこれらの種の詳細な分布情報を再検討することが必要である。

4. 河川・河口域魚類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 熊野江川

ゴマハゼやチクゼンハゼなどの河口域の絶滅危惧種がその他の地点に比べ明らかに多数生息しているだけでなく、全体の魚類の種数も多い。実際にその流域面積に比して環境の多様性が高く、将来にわたって保全すべき重要な生息地の一つと判断される。



(2) 須美江川

絶滅危惧種のゴマハゼが記録されているほか、魚類の多様性が高い。また、干潮時に干出する広い干潟環境が存在することから、重要な生息地であると判断される。



(3) 友内川

延岡市でも数少ないコアマモ群落が密集している地点があるだけでなく、広い干潟環境も有しており、それを反映してコアマモおよび干潟依存の絶滅危惧種も複数採集されている。そのため、延岡市にある魚類の生息環境の中でも極めて重要な生息地であると考えられる。



(4) 妙見湾

湾内の表面積のうち 8 割以上が干出する広い干潟環境を有しており、生物生産性および水質浄化能力の高い場所であると考えられる。そのためか、干潟依存の絶滅危惧種であるマサゴハゼが数多く生息しているだけでなく、その他の魚種も種類が多い。以上のことから延岡市における魚類にとっての重要な生息地であると判断される。



5. 環境の多様性の重要性

今回、河口環境に重点を置いて調査を行った結果、複数の絶滅危惧種が記録された。その多くは特定の環境に依存する種であり、必要とする環境が消失すれば姿を消す可能性が極めて高い。また、それぞれの種は物理的に異なる環境の選択性によってすみ分けているものと考えられ、このことは河口環境の複雑さが多様な種の存在を可能としていることを意味する。人間活動による沿岸および河川の開発はそこにある魚類の生息環境を単純化することがふつうであり、種の減退や絶滅危惧種の消失を招くおそれがある。特に、近年では Murase et al. (2020: <https://doi.org/10.1016/j.ecss.2020.106831>) が延岡市でアユ仔稚魚の調査を行った事例のように、河口域を含む沿岸環境の連続性が水産上重要種の成育にとって重要な要因であることが示されてきている。今回調査を行った地点の魚類の生息場所としての詳細な機能については今後の定性・定量的な調査によって明らかになると考えられるが、現在の環境を維持・改善することなくしてはこのような河口環境の機能を明らかにし、延岡市の河川から海岸にかけて連続する環境の価値を示すことはできない。今回の結果から、今後延岡市内で詳細な調査を進めつつも、河川環境の保全・維持に努めることをこれまで以上に進めていく必要性が示されたと言える。

6. 延岡市で確認された河川・河口域魚類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	カライワシ目	カライワシ科	カライワシ	<i>Elops hawaiiensis</i> Regan 1909			
2	カライワシ目	イセゴイ科	イセゴイ	<i>Megalops cyprinoides</i> (Broussonet 1782)			
3	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i> Temminck & Schlegel 1846	EN		
4	ニシン目	ニシン科	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i> (Temminck & Schlegel 1846)			
5	コイ目	コイ科	ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i> (Günther 1877)			属名はSakai et al. (2020: Ichthyol Res 67)
6	コイ目	コイ科	カワムツ	<i>Candidia temminckii</i> (Temminck & Schlegel 1846)			
7	コイ目	コイ科	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i> (Temminck & Schlegel 1846)			
8	コイ目	コイ科	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i> (Temminck & Schlegel 1846)			
9	コイ目	コイ科	タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala juyui</i> (Jordan & Snyder 1901)			属名はSakai et al. (2020: Ichthyol Res 67)
10	ナマズ目	ギギ科	アリアケギバチ	<i>Tachysurus aurantiacus</i> (Temminck & Schlegel 1846)	VU	CR-r	宮崎県北部の個体は外来の可能性
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i> Linnaeus 1758		NT-g	
12	サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> (Temminck & Schlegel 1846)			
13	ボラ目	ボラ科	セスジボラ	<i>Chelon lauvergii</i> (Eydoux & Souleyet 1850)			学名は瀬能 (2018: 日本魚類館)
14	ボラ目	ボラ科	コボラ	<i>Chelon macrolepis</i> (Smith 1846)			
15	ボラ目	ボラ科	オニボラ	<i>Ellochelone vaigiensis</i> (Quoy & Gaimard 1825)	DD		
16	ボラ目	ボラ科	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i> Linnaeus 1758			
17	トゲウオ目	ヨウジウオ科	ガンテンイシヨウジ	<i>Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus</i> (Cantor 1849)			
18	スズキ目	コチ科	イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i> (Cuvier 1829)			
19	スズキ目	コチ科	マゴチ	<i>Platycephalus</i> sp.			
20	スズキ目	アカメ科	アカメ	<i>Lates japonicus</i> Katayama & Taki 1984	EN	VU-g	
21	スズキ目	ケツギョ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i> (Temminck & Schlegel 1843)	EN		宮崎県北部の個体は外来の可能性
22	スズキ目	スズキ科	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i> (Cuvier 1828)			
23	スズキ目	スズキ科	ヒラスズキ	<i>Lateolabrax latus</i> Katayama 1957			
24	スズキ目	アジ科	ロウニンアジ	<i>Caranx ignobilis</i> (Forsskål 1775)			
25	スズキ目	アジ科	オニヒラアジ	<i>Caranx papuensis</i> Alleyne & Macleay 1877			
26	スズキ目	アジ科	ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i> Quoy & Gaimard 1825			
27	スズキ目	フエダイ科	ゴマフエダイ	<i>Lutjanus argentimaculatus</i> (Forsskål 1775)			
28	スズキ目	フエダイ科	ニセクロホシフエダイ	<i>Lutjanus fulviflamma</i> (Forsskål 1775)			
29	スズキ目	フエダイ科	オキフエダイ	<i>Lutjanus fulvus</i> (Forster 1801)			
30	スズキ目	フエダイ科	クロホシフエダイ	<i>Lutjanus russellii</i> (Bleeker 1849)			
31	スズキ目	クロサギ科	イトヒキサギ	<i>Gerres filamentosus</i> Cuvier 1829			
32	スズキ目	タイ科	キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i> (Houttuyn 1782)			
33	スズキ目	タイ科	ヘダイ	<i>Rhabdosargus sarba</i> (Forsskål 1775)			
34	スズキ目	ニベ科	オオニベ	<i>Argyrosomus japonicus</i> (Temminck & Schlegel 1843)			
35	スズキ目	シマイサキ科	シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i> (Temminck & Schlegel 1843)			
36	スズキ目	シマイサキ科	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i> (Forsskål 1775)			
37	スズキ目	ユゴイ科	ユゴイ	<i>Kuhlia marginata</i> (Cuvier 1829)			
38	スズキ目	カジカ科	カマキリ	<i>Rheopresbe kazika</i> (Jordan & Starks 1904)	VU	NT-g	Goto et al (2020: Environ Biol Fish 103)
39	スズキ目	ドンコ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscurus</i> (Temminck & Schlegel 1845)			
40	スズキ目	カワアナゴ科	チチブモドキ	<i>Eleotris acanthopoma</i> Bleeker 1853			
41	スズキ目	ハゼ科	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i> (Temminck & Schlegel 1845)			
42	スズキ目	ハゼ科	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i> (Hilgendorf 1879)		NT-g	
43	スズキ目	ハゼ科	ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius</i> sp.			
44	スズキ目	ハゼ科	クロコハゼ	<i>Drombus</i> sp.			
45	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i> Jordan & Snyder 1901	NT	NT-g	
46	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i> (Bleeker 1860)			
47	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ属の一種	<i>Favonigobius</i> sp.			ミナミヒメハゼまたはヒメハゼ属の一種 (赤池、2020: 高尾野川河口周辺の生きものたち)
48	スズキ目	ハゼ科	ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i> (Temminck & Schlegel 1845)			
49	スズキ目	ハゼ科	ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i> (Steindachner 1880)			
50	スズキ目	ハゼ科	ニクハゼ	<i>Gymnogobius heptacanthus</i> (Hilgendorf 1879)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
51	スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i> (Rendahl 1924)		NT-g	
52	スズキ目	ハゼ科	クボハゼ	<i>Gymnogobius scrobiculatus</i> (Takagi 1957)	EN	VU-r	
53	スズキ目	ハゼ科	チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i> (Takagi 1957)	VU	VU-r	
54	スズキ目	ハゼ科	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i> Gill 1859			
55	スズキ目	ハゼ科	アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i> (Jordan & Snyder 1901)			
56	スズキ目	ハゼ科	ゴマハゼ	<i>Pandaka</i> sp.	VU		
57	スズキ目	ハゼ科	トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i> Cantor 1842	NT	VU-g	
58	スズキ目	ハゼ科	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i> (Tomiya 1936)	VU		
59	スズキ目	ハゼ科	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i> (Herre 1927)			
60	スズキ目	ハゼ科	クロヨシノボリ	<i>Rhinogobius brunneus</i> (Temminck & Schlegel 1845)			
61	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i> (Mizuno 1960)			
62	スズキ目	ハゼ科	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i> Jordan & Seale 1906			
63	スズキ目	ハゼ科	ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius similis</i> Gill 1859			
64	スズキ目	ハゼ科	ボウスハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i> (Tanaka 1909)			
65	スズキ目	ハゼ科	チワラスボ属の一種	<i>Taenioides gracilis</i> (Valenciennes 1837)			Murdy (2018: Ichthyol Res 65)
66	スズキ目	ハゼ科	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i> Katsuyama, Arai & Nakamura 1972			
67	スズキ目	ハゼ科	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i> (Temminck & Schlegel 1845)			
68	スズキ目	クロホシマンジュウダイ科	クロホシマンジュウダイ	<i>Scatophagus argus</i> (Linnaeus 1766)			
69	スズキ目	カマス科	オニカマス	<i>Sphyræna barracuda</i> (Edwards 1771)			
70	フグ目	フグ科	クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i> (Richardson 1845)			
71	フグ目	フグ科	コモンフグ	<i>Takifugu flavipeterus</i> Matsuura 2017			

7. 参考文献

- 赤池貴大, 2020. ヒメハゼ属の一種. 本村浩之・山本智子・田金秀一郎(編), p. 98. 鹿児島県北西部 不知火海にそそぐ 高尾野川河口周辺の生きものたち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 江口勝久, 中島 淳, 西田高志, 乾 隆帝, 中谷祐也, 鬼倉徳雄, 及川 信, 2008. 宮崎県北川の魚類相. 九州大学大学院農学研究院学芸雑誌, 63(1): 15-25.
- Goto, A., Yokoyama, R., Kinoshita, I. and Sakai, H., 2020. Japanese catadromous fourspine sculpin, *Rheopresbe kazika* (Jordan & Starks) (Pisces: Cottidae), transferred from the genus *Cottus*. *Environmental Biology of Fishes*, 103: 213-220.
- Koyama, A., Inui, R., Iyooka, H., Akamatsu, Y. and Onikura, N., 2016. Habitat suitability of eight threatened gobies inhabiting tidal flats in temperate estuaries: model developments in the estuary of the Kuma River in Kyushu Island, Japan. *Ichthyological Research*, 63: 307-314.
- Murase, A., Ishimaru, T., Ogata, Y., Yamasaki, Y., Kawano, H., Nakanishi, K. and Inoue, K., 2020. Where is the nursery for amphidromous nekton? Abundance and size comparisons of juvenile ayu among habitats and contexts. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, 241: 106831. <https://doi.org/10.1016/j.ecss.2020.106831>
- Murdy, E. O., 2018. A redescription of the gobiid fish *Taenioides purpurascens* (Gobiidae: Amblyopinae) with comments on, and a key to, species in the genus. *Ichthyological Research*, 65: 454-461.
- 中坊徹次(編), 2013. 日本産魚類検索全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 神奈川.
- Sakai, H., Watanabe, K. and Goto, A., 2020. A revised generic taxonomy for Far East Asian minnow *Rhynchocypris* and dace *Pseudaspius*. *Ichthyological Research*, 67: 330-334.
- 瀬能 宏, 2018. ボラ科. 中坊徹次(編), pp. 190-191. 日本魚類館. 小学館, 東京.

昆虫一十ヨウ類

調査担当者：安本潤一

延岡市自然環境調査 報告書 (昆虫-チョウ類)

安本 潤一

1. はじめに

延岡市のチョウについては、「延岡市自然環境調査報告書及びデータ集(2000)」及び「同補足調査報告書及びデータ集(2001)」でまとめたが、市は2006年に北浦町及び北方町、2007年には北川町とも合併し、対象地域が大幅に拡大した。そのため、旧3町を含めた新しい延岡市区域を対象に「第2次延岡市自然環境調査報告書」をまとめた。

今回さらに、西臼杵郡高千穂町、日之影町を加えて調査を行った。日之影町は、「日之影町史 資料編 自然」においてチョウ類の資料を発刊している。

2. 調査方法等

今回の調査は、以前とほぼ同じ方法で、対象地域の延岡市、日之影町及び高千穂町について2020年11月までの現地調査及び文献調査等をおこなった。本報告は、以下の方法でチョウに関するデータを集積し、これらのデータを解析することにより、チョウの生息状況及びその変化等について記載した。

- ・調査は、分布、出現時期、食餌植物及び、訪花吸蜜等の生態、近年の動向等について行った。
- ・データの集積方法は、文献による集積、未発表データの集積、現地調査による集積の3つの方法で行った。具体的には以下のとおりである。

① 前回報告以降の現地調査データ(筆者及び提供データ)

延岡市、日之影町及び高千穂町を対象地域として、その地域の注目すべき種、重要な生息地等に着目し、現地での採集、観察をおこなった(2020年11月まで)。

② 高千穂町及び日之影町の過去の未発表データの収集、データベース作成(2000年～2020年11月までの筆者及び提供データ)

③ 文献等の収集、データベースの作成

文献によるデータの集積は、「タテハモドキ」、「宮崎の蝶」、「宮崎県北部の蝶(県立延岡高校生物クラブ)」、「めも蝶」、「INSECTA MIYAZAKI」等の地元同好会誌等を中心に可能な限り行い、収集できる範囲で全国誌も取り入れた。また、原色日本蝶類生態図鑑、日本産蝶類標準図鑑、日本昆虫目録、さらには2020年に発刊された宮崎県昆虫目録等も参考にした。

- ・延岡市域においては前回調査以降に公表された文献(一部抜粋)

- ・日之影町及び高千穂町については以下の通り

「タテハモドキ」1～56号

「宮崎の蝶」15～19号、22～64号、一部抜粋

「宮崎県北部の蝶」、「INSECTA MIYAZAKI」等については抜粋

④ 既存文献の漏れていたデータ、地元の方々による提供情報等。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

ミヤマセセリ (県 RL : NT-g)

日当たりの良いクヌギやコナラの雑木林疎林や草地等でよく見られる。このような里山環境が残っている高千穂町、日之影町では広く分布していると考えられるが、旧延岡市では局所的な分布で個体数も多くない。北浦町では記録が少ない。



ミヤマセセリ 2019年4月 高千穂町

キバネセセリ (県 RL : VU-r)

宮崎県では霧島山麓では時々見ることができるとは、県北では非常に少なく珍しい種である。高千穂町上野竜ヶ岩、日之影町見立、北川町大崩山等に少数の記録があるのみで、近年は情報がない。

スジグロチャバネセセリ (県 RL : VU-r, 環境省 RL : NT)

ヘリグロチャバネセセリ (県 RL : VU-r)

外見上よく似た 2 種で、共に疎林や林縁付近の草原に生息する。高千穂町、日之影町及び延岡市 (以下、1 市 2 町という) では、全てに記録があるが、高千穂町に記録が多い。日之影町は両種とも記録が少ない。延岡市では両種とも 1988 年に霧子山で記録があったが、草原が衰退しその後の記録はない。延岡市高平山では、1981 年にヘリグロチャバネセセリの記録があるが、現在では見られない。県北地方では、スジグロチャバネセセリの方が分布域は広いが、生息地での個体数はヘリグロチャバネセセリの方が多く傾向にあると思われる。



ヘリグロチャバネセセリ左♂右♀ 1996年7月 高千穂町



スジグロチャバネセセリ左♂右♀ 2003年7月 高千穂町

ミヤマチャバネセセリ (県 RL : NT-g)

1 市 2 町に記録があるが、高千穂町以外では少ない。特に延岡市での近年の記録は局所的で、珍しい種となっている。4~5 月及び 7~8 月に発生のピークがあり、年 2 回発生が主流であろう。

ミカドアゲハ (県 RL : OT-1)

1 市 2 町に記録があるが、延岡市に記録が多く、内陸部の日之影町、高千穂町では少ない。神社内のオガタマノキや人家のタイサンボクに食痕が見られたり、幼虫が観察されたりするので、これらが発生木となっているのであろう。成虫は、4 月中旬頃から第 1 化

虫が現れ、年3回程度の出現の後、蛹で越冬する。この3回程度の成虫出現は、全ての個体が年3回程度発生を繰り返すのではなく、年1回及び年数回の羽化のパターンが混ざり合ったものようである。4月及び5月の第1化の記録が圧倒的に多いのは、春期の第1化には全てのパターンが羽化するためであろう。また、本種は後翅裏面の斑紋が赤班型と黄班型があり、延岡市の個体は大部分が黄班型であるが、稀に赤班型にかなり近い赤橙班型が見られる。

オナガアゲハ（県 RL：NT-g）

1市2町に記録があるが、日之影町、高千穂町の内陸部に記録が多い。この2町では、個体数は多いわけではないが広く分布していると考えられる。

ツマグロキチョウ（県 RL：NT-g，環境省 RL：EN）

本種は、比較的広く分布しているが、近似種キタキチョウに比べると、生息地が局所的で個体数も少ない。特に近年は減少傾向が見られ、延岡市では2000年以降減少が著しい。多種のマメ科植物を食草にできるキタキチョウに対し、ほぼカワラケツメイのみを食草としている本種は、カワラケツメイの群落減少が悪影響を与えていると思われる。

ヤマトスジグロシロチョウ（県 RL：NT-r）

本種は、エゾスジグロシロチョウ群の再検討の結果、従来「エゾスジグロシロチョウ(*Pieris napi*)」とされていたものが、今回、「エゾスジグロシロチョウ(*Pieris dulcinea*)」と「ヤマトスジグロシロチョウ(*Pieris nesis*)」に分かれ、本種が独立種扱いになったものである。前者(*Pieris dulcinea*)は九州には分布しないため、本市を含む宮崎県で記録されていたエゾスジグロシロチョウは全てヤマトスジグロシロチョウとなる。本県では、その分布はほぼ県北に限定され、県南部、西部、中部の大部分には記録はない。



ヤマトスジグロシロチョウ 2014年4月
延岡市祝子町

1市2町では、高千穂町に多産する。近縁種のスジグロシロチョウが多種のアブラナ科植物を自然状態で利用しているのに対し、当地での本種はほぼスズシロソウのみに依存しているようで、このことが分布の制限要因となっているのであろう。高千穂町では農地周辺がよく草刈り等管理された土手にスズシロソウの大群落がみられることがあり、このような場所では多産する。地区の農業形態との関連が深いと思われる。日之影町でも同様な環境が見られる所に点々と産地が見られる。延岡市では、以前は稀であると思われていたが、近年今回の現地調査も含めて、局所的で個体数は少ないものの多くの産地が見つかった。

アカシジミ

ミズイロオナガシジミ

これら 2 種は、低地性のミドリシジミ類として知られていたが、近年の調査の結果、延岡市内において標高 0m の海岸地帯など低標高地帯にも広く生息していることがわかった。今まで高千穂町、日之影町の低山地を中心に分布している種と思われていたが、平地のコナラやクヌギを含む河畔林や海岸林にも生息していたのは驚きである。



ミズイロオナガシジミ 2019 年 6 月 延岡市



ミズイロオナガシジミおよびアカシジミの海岸地帯の生息地（標高 0m）延岡市妙見町

ウラキンシジミ（県 RL：NT-g）

高千穂町では五ヶ所、向山、岩戸など山地に広く分布しているが、生息地は局所的である。日之影町では、見立大吹谷、上鹿川鹿納谷等、延岡市では北川町大崩山、松山等山地を中心に局所的に生息地が見られる。終令幼虫は食樹であるシオジなどの葉柄を咬みきり、幼虫自身が葉と共にパラシュートのように地上に落下し、その後周辺で蛹化する特異な行動が見られる。



ウラキンシジミ（葉と共に落下した終令幼虫）2011 年 5 月

ウラクロシジミ（県 RL：DD-2）

本種の食樹のマンサクが生息の必要条件となり、宮崎県では高い山の岩峰などが発生地となっている。高千穂町祖母山、日之影町見立鹿納谷、延岡市北川町大崩山等に局所的に生息する。

アイノミドリシジミ（県 RL：NT-g）

メスアカミドリシジミ（県 RL：NT-g）

エゾミドリシジミ（県 RL：NT-g）

これらは 1 市 2 町の高標高地のミズナラ帯に生息し、互いに競合関係にあるように思える。しかしながら、食樹が主にミズナラ {アイノミドリシジミ（以下、アイノ）、エゾミド

リシジミ（以下、エゾ）} やサクラ類 {メスアカミドリシジミ（以下、メスアカ）} と利用する植物が異なったり、産卵時期や食樹への産卵場所（アイノは樹冠の休眠芽が中心、エゾは樹幹部）が異なったり、オスのテリトリーを張る時間帯が異なったり（アイノは早朝、メスアカは午前中が中心、エゾは午後が中心）、互いに同じ生息圏をシェアしているようにも見える。高千穂町では祖母山、親父山等、日之影町では見立本谷谷、鬼の目山等、延岡市では北川町大崩山、松山等に局地的に生息している。

ヒサマツミドリシジミ(県 RL : VU-r)

キリシマミドリシジミ（県 RL : NT-g）

これら 2 種は主に照葉樹林に生息するが、ヒサマツミドリシジミ（以下、ヒサマツ）は食樹がイチイガシを中心にウラジロガシも利用するので、キリシマミドリシジミ（以下、キリシマ）よりも低標高地を主な生息地とする。キリシマはアカガシを中心としてヒサマツより高い標高地を中心に生息するが、さらに高標高のミズナラ帯、ブナ帯では少ない。一方でアラカシ等も利用するなど、低標高地でも少ないながら見られる。ヒサマツは延岡市松山谷のみに記録がある稀な種である。



キリシマミドリシジミ
2003 年 延岡市

ウラジロミドリシジミ（県 RL : NT-g）

クロミドリシジミ（県 RL : EN-r）

オオミドリシジミ（県 RL : NT-g）

コナラ、クヌギ林等の里山林に生息するミドリシジミ類 3 種である。ウラジロミドリシジミ（以下、ウラジロ）は、クヌギ林に混植されているナラガシワを食樹とし、1 市 2 町では岩戸馬背野や田原染野など高千穂町のみに生息する。近年減少傾向が見られ危惧されているが、ナラガシワを増殖することで本種の増殖を図ることは可能と考える。

クロミドリシジミは、九州中央部の熊本県、宮崎県の産地が他の本州産地と離れていて特異な分布を示す。宮崎県では高千穂町と五ヶ瀬町に記録があるが、前者が分布の中心である。1950~60 年代の発見当時からかなり稀な種であったが、一時はかなりの個体数が採集された。しかしながら、近年は記録が少なく、2020 年に再調査をおこない上岩戸で 1♂を採集したが、他には確認できなかった。短期間の調査であるので断定的なことは言えないが、個体数が少なくなっているかもしれないと感じた。本種は、クヌギの古木である大木を好むようで、クヌギ林の組成にも関係があり、今後も調査を継続していく必要があるとされている。

オオミドリシジミはこれら 3 種の中では、最も広く分布する種で、里山林のコナラ幼木に好んで産卵する。高千穂町では山麓の里山林に生息する他、ミズナラ帯でもしばしばミズ

ナラ幼木に産卵しているのが見つかる。日之影町や延岡市では上鹿川、見立、大崩山山麓等で越冬卵が採集されている。

フジミドリシジミ (県 RL : NT-g)

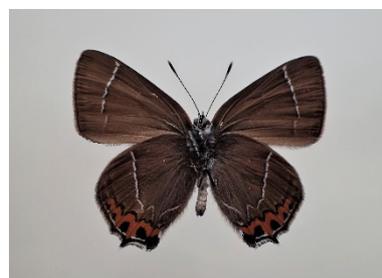
本種はブナ、イヌブナを食樹とし、ブナ帯を中心に生息している。イヌブナも食樹とするため、1,000m 以下においても産卵が確認されている。高千穂町では祖母山、二上山等、日之影町では、上鹿川鹿納谷、日隠山等、延岡市では北川町大崩山等が主な生息地である。



フジミドリシジミ 1995年 日之影町

カラスシジミ (県 RL : NT-g)

食樹であるハルニレが見られる低山地に生息していて、その分布は食樹の分布と良く一致することが多く、局所的である。高千穂町では上野、向山、日之影町では日之影川沿いの諸和久等に記録が見られる。延岡市でも祝子川や北川のハルニレが混じる低標高の河畔林に見られる。



カラスシジミ 2005年5月 延岡市

コツバメ (県 RL : NT-g)

早春、コナラ等の雑木林の明るい所でよく見られる。早いものは2月下旬(初見日2月20日)から出現し、年1回の発生である。幼虫はアセビの蕾、花、実を食べる。1市2町では、里山的環境の場所に広く分布しているが、個体数は多くはない。

ゴイシシジミ (県 RL : NT-g)

本種は、幼虫が純肉食性という特異な性質を持ち、エサであるアブラムシと深い関係にある。延岡市でもタケツノアブラムシのコロニーから卵や幼虫が観察されている(小松, 1995)。延岡市では、低標高地の河畔林に伴う竹林等に生息するケースもある。日之影町、高千穂町では、低山地に広く分布しているが、前述のアブラムシとの関係で発生地は限定的となる。

クロシジミ (県 RL : EN-r, 環境省 RL : EN)

本種は、アリとアブラムシ等と密接な関係を持つ特異な生活史をもつチョウである。調査地域の中では、唯一安定して生息しているのは高千穂町五ヶ所周辺のみで、日之影町では1960年小原の記録、延岡市の旧市内では1959年行隣山、北浦町飯塚山周辺では1982年の記録が最後となる。飯塚山周辺は当時採草地であり、日常の草刈りや毎年の野焼きもおこなわれていて草原環境が保たれていた。その後採草、野焼きもなくなり、現在は木が茂り環境が大きく変わったとのことである(北浦町在住: 星川 剂氏より)。これらのことより延岡市、日之影町では、絶滅したと思われる。

スギタニルリシジミ (県 RL : NT-g)

近縁で多化性のルリシジミは、1市2町に広く分布し個体数も多いが、年1回発生の本種はその分布が局所的である。高千穂町では、向山、岩戸、上野等、日之影町では見立、岩井川等各所に生息しているが、生息地はそれほど広くはない。延岡市では北方町、北川町に産地が見られ旧市内では松山周辺に生息する。北浦町では未確認である。



スギタニルリシジミ 2019年4月
高千穂町

タイワンツバメシジミ (県 RL : EN-g, 環境省 RL : EN)

1980年代以前は、県北の低地を中心として広い地域に見られたが、近年衰退が著しい。門川町遠見山では1995年までは多産していたが、1996年以降は激減した。延岡市北方町、北川町でも1980年頃までは各所に見られたようであるが、それ以降、2009年北川町の記録(2009年9月5日1♂, 鏡山, 安本潤一採集, 未発表)を除いて情報は無い。1980年頃は日之影町でも記録があるが、それ以後の情報は無い。なお、高千穂町は未記録である。2010年以降は、延岡市北浦町数カ所が唯一の確実な産地であったが、2017年以降は、それらの地からも未確認である。



タイワンツバメシジミ 2017年9月
延岡市北浦町

テングチョウ

海岸地帯から山地まで1市2町全域に広く生息する。近年増加傾向が見られ、発生期の5月中下旬から6月にかけては、林道などでおびただしい数の本種が吸水しているのがよく見られる。食樹はエノキであるが、食樹が同じであるヒオドシチョウ、ゴマダラチョウ、オオムラサキの各種が減少又は現状維持傾向なのに、本種のみが増加しているのは興味深いことである。

ツマグロヒョウモンおよびその他のヒョウモン類

日本の多くのヒョウモンチョウ類は幼虫で越冬し、初夏～夏に羽化する年1回発生の生活史が基本であるが、唯一ツマグロヒョウモンは多化性で年4回以上の発生を繰り返す。本種は暖地産の大型ヒョウモン類に見られる夏眠の習性も見られず、近年ヒョウモン類に減少傾向が見られる中、本種だけは勢力を拡大中である。当地においても低地を中心にツマグロヒョウモン以外のヒョウモン類の衰退傾向が顕著で、各種ヒョウモン類の現状についてここで述べる。

*オオウラギンヒョウモン (県 RL : CR-g, 環境省 RL : CR)

延岡市では 1980 年愛宕山の記録を最後に記録がなく絶滅したと思われる。日之影町も 1960 年小原の記録を最後に情報がなく、絶滅したと思われる。2000 年以降、何回か情報があるのが高千穂町で、細々と生息しているかと思われる。1975 年頃には延岡市北浦町古江飯塚山には本種が普通に見られたとの情報(星川 剂氏)もあり、この時代にはまだ各所に生息していたと推測される。このような事例は全国各地で数多く見られ、多くの産地で絶滅した。



オオウラギンヒョウモン
2003 年 7 月 高千穂町

*ウラギンスジヒョウモン (県 RL : CR-g, 環境省 RL : VU)

オオウラギンヒョウモンと共に草原の環境を好むヒョウモンである。本種はもともと宮崎県では稀な種であり、記録数は少ない。延岡市でも 1994 年以降では高平山と北浦町森山林道の 2 ヶ所が生息地として確認されていたが、2004 年を最後にその後は情報がない。日之影町、高千穂町でも過去の記録はあるようだが、近年の情報はなく絶滅の可能性がある。



ウラギンスジヒョウモン
1998 年 6 月 延岡市

*クモガタヒョウモン (県 RL : NT-g)

*オオウラギンスジヒョウモン (県 RL : NT-g)

クモガタヒョウモンは、日之影町では岩井川、分城、高千穂町では向山等での生息確認が今回の現地調査でなされ、2 町では個体数は少ないものの広く分布していると推測される。一方、延岡市では 2000 年以降は北浦町で記録あるだけで減少傾向が見られる。

オオウラギンスジヒョウモンは、高千穂町では上岩戸や五ヶ所で確認されているが、日之影町や延岡市では過去の記録はあるが近年は情報がない。

*ウラギンヒョウモン (県 RL : サト型 EN-g, ヤマ型 VU-r)

宮崎県レッドリストでは、本種をサト型とヤマ型に分けてそれぞれ異なる区分をしているが、ここでは従来通りウラギンヒョウモン 1 種として扱った。

本種は、高千穂町、日之影町では今回の調査でも各所に見られることを確認したが、延岡市では近年減少傾向である。特に旧市内では 2000 年を最後に情報がなかったが、2020 年久しぶりに市街地周辺(野地町)で確認された。



ウラギンヒョウモン
2020 年 9 月 延岡市

*メスグロヒョウモン

*ミドリヒョウモン

両種とも、高千穂町、日之影町では普通に見られるヒョウモンである。延岡市でもこの2種はツマグロヒョウモンを除くヒョウモン類ではよく見られるが、個体数は少ない。特にミドリヒョウモンが最近減少傾向にあるように感じる。



メスグロヒョウモン♀
2020年6月 日之影町

ミスジチョウ(県 RL : VU-r)

高千穂町、日之影町では安定した産地が見られるが、いずれも個体数は多くない。延岡市では、北川町上祝子、桧山、行簾町で記録があるが稀である。

シータテハ(県 RL : NT-g)

高千穂町、日之影町には広く分布しているが、生息地は食樹のハルニレがある環境に限られ個体数も多くない。延岡市では、北川町上祝子周辺で見られる。低標高地の桑平町で発生した記録もあるが稀な例である。



シータテハ幼虫(ハルニレにて)
2012年5月

ヒオドシチョウ(県 RL : NT-g)

1市2町に低地から高標高地まで広く分布する。羽化直後5~6月と越冬後の3~4月に活動するが、それ以外の時期は姿を見せないことが多い。ただ、高千穂町五ヶ所などの高標高地では8月に確認されている。本種は延岡市では1990年代には普通に見られたが、減少傾向が見られる。近年、生息地であるエノキを含む河畔林が復活気味なので、本種の個体数増加に期待したい。

タテハモドキ

1973年に初めて延岡市に入った本種は、市南部を中心に定着し、1980年代には記録も増加した。1990年半ばには内陸部である行簾町でも時々姿を見るようになり(怒和, 1995)、北方町にも分布を広げたが、そこから先の内陸部進入は容易ではないようで、日之影町及び高千穂町では記録がない。



タテハモドキ 2020年9月 延岡市

コムラサキ（県 RL：NT-g）

本種は、ヤナギ類が食樹で、これらが混じった河畔林が好みの生息環境と言える。近年はヤナギ類を含む河畔林が増加傾向で、このような環境での本種の個体数も増加傾向にある。本種には普通型（褐色型）と黒色型の 2 つの遺伝型が知られている。普通型は全国的にも広く分布するが、黒色型の分布は狭く限られ、静岡県中西部から愛知、岐阜、長野（南部）、富山、石川にかけての本州中部地方と熊本県以南の九州南部地方にその分布が集中している（福田ほか、1983）。

延岡市の黒色型と普通型の割合はほぼ半々（1972-1999 年 n=198 の集計）であるが、日之影町、高千穂町では黒色型の割合がこれ以上に相当高いと思われる。

オオムラサキ（県 RL：NT-g, 環境省 RL：NT）

高千穂町、日之影町には広く分布しているが、個体数は多くない。延岡市では北方町、北川町には広く生息しているが北浦町の記録は 1981 年古江飯塚山のみである。旧市内では高平山や行藤町で記録があるが稀である。



オオムラサキ（越冬幼虫）
2015 年 2 月 高千穂町

ウラナミジャノメ（県 RL：NT-g, 環境省 RL：NT）

近縁のヒメウラナミジャノメが 1 市 2 町に広く分布し、各所に普通かつ個体数も多いのに対し、本種は局所的に生息し個体数も少なく近年減少傾向である。河川敷、農地周辺等の明るい草地在が生息地となっている。高千穂町五ヶ所、田原、日之影町見立などに記録は見られるが個体数は多くない。延岡市では、過去に記録のあった河川敷等で見られなくなった例が多い。

ジャノメチョウ（県 RL：NT-g）

高千穂町では草原や農地周辺に広く生息し、個体数も多い。日之影町でも広い範囲に生息しているが、高千穂町のように多くない。今回の調査では、大字分城の草原で普通に見られた。延岡市では、北方町上鹿川や北川町大崩山山麓ではよく見られるが、旧市内では過去に記録のあった市街地周辺や低標高地では見られなくなった産地が多い。鏡山山麓（熊野江町）では少ないながら安定して見られる。



ジャノメチョウ 2009 年 9 月 延岡市

ヒメキマダラヒカゲ (県 RL : VU-r)

高千穂町では祖母山や五ヶ所、日之影町では見立等に見られるが近年は少ない。延岡市では、大崩山や北方町の限られた高標高地から記録されているが、同様に少なくなっている。食草であるササ類がシカの食害で減少していて、そのことが影響している可能性がある。

キマダラモドキ (県 RL : NT-r, 環境省 RL : NT)

草原周辺の疎林や林縁によく見られる。高千穂町五ヶ所では、数は少ないながら安定して見ることができる。高千穂町以外では、延岡市北方町上鹿川に採集記録(1965年7月8日1♂)があるが、その後の情報はない。日之影町には記録がない。

サトキマダラヒカゲ

ヤマキマダラヒカゲ

この2種は以前「キマダラヒカゲ」1種として扱われていたが、1970年以降、高橋真弓氏らの研究によりサトキマダラヒカゲ(以下、サト)とヤマキマダラヒカゲ(以下、ヤマ)の2種に分けられた。当地では概ね標高250m以下ではサトのみが出現し、ヤマは概ね250m以上から出現し始める。従って、これ以上の標高ではサトとヤマの混棲となり、概ね750m以上ではヤマが多くなる傾向がある。両種とも年1~2回の発生で、年2回発生の場合、春型と夏型を生じるが、標高750mより高いところは年1回発生 of 春型が見られる。サトは1市2町に広く分布するが、ヤマは高千穂町、日之影町、延岡市北方町、北川町で見られ、延岡市北浦町、旧延岡市では記録がない。近年食草であるササ類がシカの食害で減少し、その影響が懸念される。



サトキマダラヒカゲ春型 北方町



サトキマダラヒカゲ夏型 美郷町



ヤマキマダラヒカゲ春型 日之影町



ヤマキマダラヒカゲ夏型 日之影町

4. チョウ類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 頭巾岳～五葉岳～鹿納山～大崩山～鬼の目山～榎峠～松山（日之影町～延岡市）

五葉岳周辺の谷は椎葉村と西臼杵地方のみ生息する希少なミヤマカラスシジミの生息地であり、当該産地は最も東側に位置する。また、これらの山の山頂付近の岩峰や斜面にはマンサクが自生していて、ウラクロシジミが生息している。また、周辺の見立本谷谷や鹿納谷にはフジミドリシジミ、アイノミドリシジミ、エゾミドリシジミ、メスアカミドリシジミなどの1市2町に分布する多くのミドリシジミ類も生息する。

松山周辺になると照葉樹が多くなり、キリシマミドリシジミがよく見られる。また、松山谷では1市2町で唯一ヒサマツミドリシジミの記録がある。

(2) 鏡山～森山林道

2008～2009年までタイワンツバメシジミが確認できたが、その後は未確認の場所である。食草のシバハギが良い状態で残っていれば今後復活する可能性もある。また、絶滅が危惧されるウラギンシジヒョウモンが2000年まで生息確認がされている。現在でも、鏡山頂上付近の斜面には、ウラギンシジヒョウモン、ジャノメチョウ、ウラナミジャノメ等の県レッドリスト種の生息地となっている。



タイワンツバメシジミのかつての多産地。シバハギも絶滅。



タイワンツバメシジミの生息地（北浦町）
林道横の崖地にシバハギが生える。



鏡山の草原

(3) 高平山

高平山は県絶滅危惧Ⅰ類のウラギンスジヒョウモンが2004年まで確認され、1市2町の中では直近の記録である。1990年代までは普通に確認されていた本種だが、2005年以降の情報は無い。1981年にはヘリグロチャバネセセリも確認されているようだが、今は見られない。しかし現在でも、準絶滅危惧種のミヤマセセリやウラナミジャノメの生息地となっている。頂上付近の草原はもう長い間草刈りがされていなく、徐々に草原環境が失われていて、このことが希少な草原性のチョウ類を衰退させている。



草原が衰退する高平山の山頂付近
2012年4月

(4) 祝子町坂宮周辺の河畔林

エノキ、ハルニレ、ヤナギ類が混じる河畔林があり、カラスシジミ、ヒオドシチョウ、コムラサキ等の希少なチョウが生息する。また、スズシロソウの群落があり、ヤマトスジグロシロチョウが見られる。



延岡市祝子町 スズシロソウが咲く
2014年3月

5. その他の延岡市で注目すべきチョウ

(1) 外来種・侵入種

1市2町では、概ね1965年以降人為的なチョウ類の外来種侵入は確認されていない。

自然侵入種としては、1979年に延岡市愛宕山で初めて記録されたヤクシマルリシジミが1989年頃から旧市内に広く生息域を広げ、北浦町、北川町まで広がっている。しかしながら、現時点では日之影町、高千穂町には侵入していないようだ。

1973年に延岡市延岡港で初めて記録されたタテハモドキは、1980年には市南部では普通に見られるまで広がった。さらに1990年以降、北方町、北浦町、北川町に侵入したが、前種と同様、現時点で日之影町、高千穂町には侵入していないようだ。

(2) 迷チョウ

風などにより遠くから運ばれてくるチョウで、その地に定着できない種を「迷チョウ」と呼んでいる。迷チョウは飛来した地で、2次的3次的に発生を繰り返すことはあるが、越冬できないなど定着できない。

高千穂町では、タッパンルリシジミ及びウスイロコノマチョウの2種が記録されている。前者は7～8月に標高の高い山の山頂に飛来することが多く、ここでは祖母山山頂で記録されている。本種に関しては、大陸や台湾から飛来する迷チョウ説の他に土着説もあり決着がつかないが、今回は迷チョウとして扱う。祖母山は本種がよく飛来する山であるが、近年は規制のためか情報がない。

ウスイロコノマチョウは、高千穂町その他、日之影町、延岡市でも記録されている。本種は以前毎年のように飛来があったが、近年は少ない。当地で2次的発生することはあるようだが、定着したという証拠はない。

迷チョウが多いのは海岸部のある延岡市で、目撃記録のみの種を除いて14種が確認されている。目撃記録のみの種は6種であり、その中には、ツマベニチョウやオオゴマダラのように他種と見誤る可能性が低く確実性が高い種もあるが、今回は参考記録にとどめた。その他、近隣の門川町でナミエシロチョウが記録されている。また、2010年には宮崎市においてクロボシセセリが確認され、分布を広げているようであるが1市2町では確認されていない。

① 稀に記録される偶産種

カワカミシロチョウ、シロウラナミシジミ、リュウキュウアサギマダラ、ウスコモンマダラの4種は記録が1回のみで、非常に稀に飛来すると考えられる。リュウキュウアサギマダラは2019年に延岡市大貫町で初めて記録された(宮崎県初記録)。スジグロカバマダラは2例の記録があるが、周辺には食草となりうる植物も自生していて2次発



ルリウラナミシジミ
2009年10月 延岡市安井町

生する可能性もある。ヤエヤマムラサキは4例の記録があるが、いずれも1984年の記録で、稀な種である。ルリウラナミシジミも12例の記録があるが、これは全て2009年のもので、この年に延岡市を含め宮崎県内各所で2次的に発生したため、比較的多くの記録が見られた。2020年も鹿児島、宮崎県南部で多数確認されたが、延岡市では未確認であった。

② 比較的記録の多くある種

ウスイロコノマチョウ、メスアカムラサキ、アオタテハモドキは、比較的良く記録された迷チョウであるが、アオタテハモドキは2000年以降記録がない。また、ウスイロコノマチョウは近年飛来が少ない。

また、メスアカムラサキは幼虫が確認されているほか、ウスイロコノマチョウなどは新鮮な個体が得られているなど、この3種については2次的に発生した個体が含まれる可能性が強い。

③ 近年記録が増加している種

リュウキュウムラサキ、カバマダラ、クロマダラソテツシジミ、ウスキシロチョウの記録が近年増加している。カバマダラは2000年に入っての記録が多く、飛来した年には市内各地で2次的に発生したことがある。クロマダラソテツシジミは、2008年に本市で初めて記録され、それ以後毎年記録される近年最も普通な迷チョウである。飛来後は市内のソテツ植栽地で2次的に発生し、市内に広く拡散することがある。ウスキシロチョウも2000年以後記録が多いが、他の3種と異なり、本市には食樹がないため2次的な発生はしていないと考えられる。ただ、県南の日南市南郷町での2次的発生が毎年のように確認されているので、このことは近年の記録増加に影響があると思われる。



カバマダラ成虫(左)と幼虫(右)
成虫:2009年10月 幼虫:2009年9月 延岡市野田町



クロマダラソテツシジミ(低温型)
2009年10月

6. 延岡市で確認されたチョウ類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	チョウ目	セセリチョウ科	ミヤマセセリ	<i>Erynnis montana</i>		NT-g	●
2	チョウ目	セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>			●
3	チョウ目	セセリチョウ科	コウトウシロシタセセリ	<i>Tagiades trebellius</i>			☆
4	チョウ目	セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii</i>			●
5	チョウ目	セセリチョウ科	キバナセセリ	<i>Burara aquilina</i>		VU-r	●
6	チョウ目	セセリチョウ科	コチャバナセセリ	<i>Thoressa varia</i>			●
7	チョウ目	セセリチョウ科	ホソバセセリ	<i>Isotheon lamprospilus</i>			●
8	チョウ目	セセリチョウ科	スジグロチャバナセセリ	<i>Thymelicus leoninus</i>	NT	VU-r	●
9	チョウ目	セセリチョウ科	ヘリグロチャバナセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus</i>		VU-r	●
10	チョウ目	セセリチョウ科	ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>			●
11	チョウ目	セセリチョウ科	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>			●
12	チョウ目	セセリチョウ科	クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia</i>			●
13	チョウ目	セセリチョウ科	オオチャバナセセリ	<i>Polytrems pellucida</i>			●
14	チョウ目	セセリチョウ科	ミヤマチャバナセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>		NT-g	●
15	チョウ目	セセリチョウ科	チャバナセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>			●
16	チョウ目	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>			●
17	チョウ目	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	<i>Atrophaneura alcinous</i>			●
18	チョウ目	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>			●
19	チョウ目	アゲハチョウ科	ミカドアゲハ	<i>Graphium doson</i>		OT-1	●
20	チョウ目	アゲハチョウ科	アゲハ(ナミアゲハ)	<i>Papilio xuthus</i>			●
21	チョウ目	アゲハチョウ科	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>			●
22	チョウ目	アゲハチョウ科	シロオビアゲハ	<i>Papilio polytes</i>			☆
23	チョウ目	アゲハチョウ科	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>			●
24	チョウ目	アゲハチョウ科	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>			●
25	チョウ目	アゲハチョウ科	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>		NT-g	●
26	チョウ目	アゲハチョウ科	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>			●
27	チョウ目	アゲハチョウ科	カラスアゲハ	<i>Papilio dehaanii</i>			●
28	チョウ目	アゲハチョウ科	ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>			●
29	チョウ目	シロチョウ科	ウスキシロチョウ	<i>Catopsilia pomona</i>			○
30	チョウ目	シロチョウ科	ウラナミシロチョウ	<i>Catopsilia pyranthe</i>			☆
31	チョウ目	シロチョウ科	モンキチョウ	<i>Colias erate</i>			●
32	チョウ目	シロチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>			●
33	チョウ目	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i>	EN	NT-g	●
34	チョウ目	シロチョウ科	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>			●
35	チョウ目	シロチョウ科	ツマベニチョウ	<i>Hebomoia glaucippe</i>		NT-r	☆
36	チョウ目	シロチョウ科	ナミエシロチョウ	<i>Appias paulina</i>			★
37	チョウ目	シロチョウ科	カワカミシロチョウ	<i>Appias albina</i>			○
38	チョウ目	シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>			●
39	チョウ目	シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>			●
40	チョウ目	シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ	<i>Pieris nesis</i>		NT-r	●
41	チョウ目	シジミチョウ科	ムラサキシジミ	<i>Arhopala japonica</i>		DD-2	●
42	チョウ目	シジミチョウ科	ムラサキツバメ	<i>Arhopala bazalus</i>			●
43	チョウ目	シジミチョウ科	ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>		NT-g	●
44	チョウ目	シジミチョウ科	アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>			●
45	チョウ目	シジミチョウ科	ミスイロオナガシジミ	<i>Antigua attilia</i>			●
46	チョウ目	シジミチョウ科	ウラクロシジミ	<i>Iratsume orsedice</i>		DD-2	●
47	チョウ目	シジミチョウ科	アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brilliantinus</i>		NT-g	●
48	チョウ目	シジミチョウ科	メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus</i>		NT-g	●
49	チョウ目	シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i>		VU-r	●
50	チョウ目	シジミチョウ科	キリシマミドリシジミ	<i>Thermozephyrus ataxus</i>		NT-g	●
51	チョウ目	シジミチョウ科	エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i>		NT-g	●
52	チョウ目	シジミチョウ科	オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>		NT-g	●
53	チョウ目	シジミチョウ科	フジミドリシジミ	<i>Shibatanozephyrus fujisanus</i>		NT-g	●
54	チョウ目	シジミチョウ科	カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album</i>		NT-g	●
55	チョウ目	シジミチョウ科	コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>		NT-g	●
56	チョウ目	シジミチョウ科	トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>			●
57	チョウ目	シジミチョウ科	ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada</i>		NT-g	●
58	チョウ目	シジミチョウ科	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>			●
59	チョウ目	シジミチョウ科	クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	EN	EN-r	▲
60	チョウ目	シジミチョウ科	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>			●
61	チョウ目	シジミチョウ科	アマミウラナミシジミ	<i>Nacaduba kurava</i>			○
62	チョウ目	シジミチョウ科	ルリウラナミシジミ	<i>Jamides bochus</i>			○
63	チョウ目	シジミチョウ科	シロウラナミシジミ	<i>Jamides alecto</i>			○
64	チョウ目	シジミチョウ科	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha</i>			●
65	チョウ目	シジミチョウ科	ヤクシマルシジミ	<i>Acytolepis puspa</i>			●
66	チョウ目	シジミチョウ科	サツマシジミ	<i>Udara albocaerulea</i>			●
67	チョウ目	シジミチョウ科	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>			●
68	チョウ目	シジミチョウ科	スギタニルリシジミ	<i>Celastrina sugitanii</i>		NT-g	●
69	チョウ目	シジミチョウ科	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>			●
70	チョウ目	シジミチョウ科	タイワンツバメシジミ	<i>Everes lacturnus</i>	EN	EN-g	●

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	チョウ目	シジミチョウ科	クロマダラソテツシジミ	<i>Chilades pandava</i>			●
72	チョウ目	シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>			●
73	チョウ目	タテハチョウ科	テングチョウ	<i>Libythea lepita</i>			●
74	チョウ目	タテハチョウ科	ウスコモンマダラ	<i>Tirumala limniace</i>			○
75	チョウ目	タテハチョウ科	リュウキュウアサギマダラ	<i>Ideopsis similis</i>			○
76	チョウ目	タテハチョウ科	カバマダラ	<i>Danaus chrysippus</i>			○
77	チョウ目	タテハチョウ科	スジグロカバマダラ	<i>Danaus genutia</i>			○
78	チョウ目	タテハチョウ科	オオゴマダラ	<i>Idea leuconoe</i>			☆
79	チョウ目	タテハチョウ科	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>			●
80	チョウ目	タテハチョウ科	ウラギンズジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>	VU	CR-g	●
81	チョウ目	タテハチョウ科	オオウラギンズジヒョウモン	<i>Argyronome ruslana</i>		NT-g	●
82	チョウ目	タテハチョウ科	メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>			●
83	チョウ目	タテハチョウ科	クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene</i>		NT-g	●
84	チョウ目	タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>			●
85	チョウ目	タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe</i>		*	●
86	チョウ目	タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	CR	CR-g	▲
87	チョウ目	タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>			●
88	チョウ目	タテハチョウ科	ヤエヤマイチモンジ	<i>Athyma selenophora</i>			☆
89	チョウ目	タテハチョウ科	イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla</i>			●
90	チョウ目	タテハチョウ科	コムシジ	<i>Neptis sappho</i>			●
91	チョウ目	タテハチョウ科	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>			●
92	チョウ目	タテハチョウ科	ミスジチョウ	<i>Neptis phillyra</i>		VU-r	●
93	チョウ目	タテハチョウ科	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>			●
94	チョウ目	タテハチョウ科	シータテハ	<i>Polygonia c-album</i>		NT-g	●
95	チョウ目	タテハチョウ科	ヒドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>		NT-g	●
96	チョウ目	タテハチョウ科	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>			●
97	チョウ目	タテハチョウ科	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>			●
98	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>			●
99	チョウ目	タテハチョウ科	タテハモドキ	<i>Junonia almana</i>			●
100	チョウ目	タテハチョウ科	アオタテハモドキ	<i>Junonia orithya</i>			○
101	チョウ目	タテハチョウ科	メスアカムラサキ	<i>Hypolimnas misippus</i>			○
102	チョウ目	タテハチョウ科	リュウキュウムラサキ	<i>Hypolimnas bolina</i>			○
103	チョウ目	タテハチョウ科	ヤエヤマムラサキ	<i>Hypolimnas anomala</i>			○
104	チョウ目	タテハチョウ科	スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus</i>			●
105	チョウ目	タテハチョウ科	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>			●
106	チョウ目	タテハチョウ科	コムラサキ	<i>Apatura metis</i>		NT-g	●
107	チョウ目	タテハチョウ科	ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis</i>			●
108	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	NT	NT-g	●
109	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>			●
110	チョウ目	タテハチョウ科	ウラナミジャノメ	<i>Ypthima multistriata</i>	VU	NT-g	●
111	チョウ目	タテハチョウ科	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>		NT-g	●
112	チョウ目	タテハチョウ科	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>			●
113	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>		VU-r	●
114	チョウ目	タテハチョウ科	キマダラモドキ	<i>Kirinia fentoni</i>	NT	NT-r	●~▲
115	チョウ目	タテハチョウ科	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>			●
116	チョウ目	タテハチョウ科	ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica</i>			●
117	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>			●
118	チョウ目	タテハチョウ科	コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i>			●
119	チョウ目	タテハチョウ科	クロノマチョウ	<i>Melanitis phedima</i>			●
120	チョウ目	タテハチョウ科	ウスイロノマチョウ	<i>Melanitis leda</i>			○

備考凡例

* : 宮崎県ではEN-g(サト型),VU-r(ヤマ型)に分けている

- : 土着種と考えられている種
- : 非土着又は迷チョウと考えられている種。採集や撮影などで確認されているもの
- ★ : 門川町での迷チョウ記録（参考記録）
- ☆ : 目撃記録があるのみで、採集記録や撮影記録のないもの
- ▲ : 絶滅した可能性が高い種。過去に生息は確認されているが、20-50年以上信頼のおける情報がないもの
- ~▲ : 過去に生息は確認されているが、概ね20年以上信頼のおける情報がなく、絶滅の可能性のあるもの

7. 参考文献

- 福田晴夫他, 1983. 原色日本生態図鑑 (II). 保育社.
- 岩崎郁雄, 1987. 宮崎県北部のタイワンツバメシジミ分布とその発生期, 成虫の一知見. タテハモドキ, (22)
- 岩崎郁雄, 1999. 日之影町史, 資料編 1, 自然 第 5 節 2 チョウ類. 日之影町.
- 岩崎郁雄編, 2020. 宮崎県昆虫目録, 宮崎昆虫調査研究会.
- 小松孝寛, 1995. 延岡市榊津町付近の蝶(3), めも蝶 61 号.
- 日本昆虫目録編集委員会編, 2013. 日本昆虫目録, 第 7 巻鱗翅目. 権歌書房.
- 怒和貞賞, 2003. 九州のクロミドリの 40 年.
- 怒和貞賞, 2004. 九州のウラクロシジミ.
- 安本潤一, 2000. 延岡市環境基本計画, 自然環境調査, 報告書, チョウ類. 延岡市.
- 安本潤一, 2000. 延岡市環境基本計画, 自然環境調査, データ集 (チョウ類). 延岡市.
- 安本潤一, 2001. 延岡市環境基本計画, 自然環境補足調査, 報告書及びデータ集 (チョウ). 延岡市.
- 安本潤一, 2008. 宮崎県北部地方及びその周辺における *Neope* 属の分布等について. 宮崎県総合博物館総合調査報告書「県北地域調査報告書」.
- 安本潤一, 2011. 第 2 次延岡市環境基本計画, 自然環境調査, 報告書, チョウ類. 延岡市.

昆虫一方類

調査担当者：柳田 恒一郎

調査協力者：小松 孝寛
岩切 康二

延岡市自然環境調査 報告書 (昆虫ーガ類)

柳田 恒一郎

1. はじめに

延岡市における蛾類調査は、以前、2000 年度（延岡市環境基本計画 自然環境調査）および 2011 年度（第 2 次延岡市環境基本計画 自然環境調査）に実施し、1204 種の蛾の記録を報告した。今回はそれ以降の記録の収集とともに、2018 年度から 2020 年度の野外調査を行い、データをまとめた。その結果、7 種のレッドデータ種及び 160 種の延岡市初記録種を含む計 831 種の生息を確認したので、ここに報告する。

なお、2020 年に発行された「宮崎県昆虫目録」の内容を参考にして、今回得られたデータの宮崎県初記録または延岡市初記録を調査した。

2. 調査方法等

蛾類は夜間灯火に集まる性質を持つものが多いので、灯火調査を中心に実施した。調査は、夜間のみならず、翌朝や昼間に、夜間光がつく場所を見回ることによって多くの記録を得ることができた。しかし近年はこうした照明施設の LED 化が進んでおり、虫が集まる短波長を含まないため、以前に比べると飛来数が減少傾向にある。

また、光に集まりにくい種でも、夜間、花を訪れる種が多いので、夜間の花の見回りも実施した。

そのほか、昼間に草地や森林でネットを用いたスリーピング調査、目視によるルッキング調査を実施した。

記録は写真撮影により行った（同定容易な種については目撃記録を含む）。接写に便利な Olympus TG-5（リングストロボ付）が撮影記録には便利であった。電柱の設置された街灯など高い位置にある照明に飛来した蛾を撮影する場合、望遠機能とオートフォーカス機能の優れている Sony RX10VI が撮影記録に重宝した。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

今回の調査で記録されたレッドリスト種、及び延岡市初記録種、その他特筆すべき種について下記にまとめる。蛾類は蝶と比べると種類数が多いことと研究者も少ないことから、今回も多く初記録種が確認できた。

(1) レッドリスト種（宮崎県）

キイロトゲエダシャク：宮崎県 DD-2（情報不足）

早春にのみ姿を見せる珍しい蛾。本州以南、沖縄、台湾まで分布し、宮崎県内では、都農町（尾鈴山）、宮崎市、小林市、日南市から記録されており、延岡市初記録となる。愛宕山で2000年3月末に自動販売機の光に飛来した個体を2頭確認できた。トゲエダシャクの仲間は独特の止まり方をする。似た種類のオカモトトゲエダシャクは市内でしばしば見ることができる。



エゾヨツメ：宮崎県 NT-g（準絶滅危惧）

行滕町行滕神社の灯火に飛来した個体を3月末に一晩で3頭確認、撮影した。蛹で越冬し、早春に成虫が出現する。ヨーロッパから日本までユーラシア北部に分布し、北海道産と本州～九州産は別亜種とされる。宮崎県内では生息地は限定され、延岡市、日之影町、高千穂町、木城町、都農町（尾鈴山）、西米良村、小林市、えびの市、日南市北郷町から記録がある。翅を開くと目玉模様が目立つが、翅を閉じていると枯葉のようで目立たないため、灯火下以外で見つけるのは困難である。幼虫は、クリ、コナラなどのブナ科や、ハンノキなどのカバノキ科などを食べることで知られている。



ルリモンホソバ：宮崎県 NT-g（準絶滅危惧）

九州南部以南、南西諸島まで分布する南方系の種。宮崎県北の延岡から高千穂にかけて産地も多く、個体数も少なくない。延岡市では行滕神社、愛宕山、北方町から複数確認できた。瑠璃色の光沢部を持つ美しい蛾である。



ヤマトハガタヨトウ：宮崎県 NT-g（準絶滅危惧）

晩秋に出現する蛾。2019年の晩秋に行隣神社で確認することができた。近似種のヒマラヤハガタヨトウも混生しているが、前翅の地色がヒマラヤはチョコレート色なのに対し本種は黒褐色～灰褐色をしている点や、前翅外側に黒い矢印模様が明瞭に3つ見える点で区別できる。県内では延岡市、日之影町、小林市から記録がある。



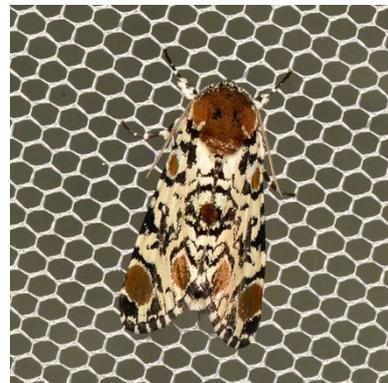
ヘーネアオハガタヨトウ：宮崎県 NT-g（準絶滅危惧）

常緑カシ林が良く保存された地域に生息する。関東地方以西、九州まで分布し、前種同様に晩秋に出現する。県内では日之影町、日向市、宮崎市、小林市、えびの市、日南市から記録されており、これが延岡市初記録となる。前種と同じ場所で2020年1月に確認することができた。ヤマトハガタヨトウやヒマラヤハガタヨトウの近似種だが、前翅の白紋が目立つため容易に区別できる。



スギタニゴマケンモン：宮崎県 NT-r（準絶滅危惧）

延岡市初記録でもある。鬼の目林道で記録された。北海道から九州まで分布し、宮崎県内では、日之影町、美郷町、椎葉村から記録がある。筆者は以前長野県軽井沢で本種を採集したことがあるが、知見の少ない種である。幼虫はオオカメノキを食べることが知られている。



ヤクシマヒメキシタバ：宮崎県 EN-r（絶滅危惧 IB 類）

後翅に鮮やかな斑紋を持つカトカラ（Catocala）属の蛾は愛好家の多いグループ。カトカラの1種である本種は1972年に屋久島で発見された、比較的新しい種で、生息地が限定される。アカガシやウラジロガシからなる原生林に生息することが知られている。宮崎県内では西都市・宮崎市・綾町・小林市から産地が知られていたが、今回、延岡市からも初記録が得られた（2019年6月、北方町）。



(2) 延岡市初記録種

アトボシハマキ

北川町家田湿原と北方町蔵田～下鹿川線から記録された。普通種であり、他にも産地があると思われる。幼虫はバラ科、ブナ科など多数の植物につく。



トビモンコハマキ

行滕山と愛宕山から記録された。北海道から南西諸島にかけて分布する普通種。



コギンボシハマキ

宮崎県初記録。沖田ダムで記録された。関東地方以西に分布。記録情報の少ない蛾だが、インターネット情報では「昆虫親父日記」で2019年6月23日に美郷町で、12月7日に日向市東郷町で撮影されている。
(http://insectsubaru.blogspot.com/2020/04/blog-post_28.html)



ハイイロフユハマキ

天下町で記録された。かつてはフユシャクモドキと呼ばれたこともあるという、晩冬に出現する蛾。本州、四国、九州に生息している。宮崎県内では日之影町とえびの市から記録されている。



ギンスジクロハマキ

鬼の目林道から記録された。宮崎県初記録。国内では北海道～九州、海外では朝鮮、中国、ロシア、ヨーロッパ、イギリスにかけて広く分布している。幼虫はミズキの果実につくことが知られている。



フタスジクリイロハマキ

北方町三ヶ村～藤の木で記録された。北海道～九州に分布し、幼虫はツツジ類、アラカシ、ソヨゴなどの葉をつづる。県内ではえびの市から記録されている。



コトサカハマキ

鬼の目林道で記録された。宮崎県初記録。北海道～九州に分布し、幼虫はシデ、カシワの葉につく。



プライヤハマキ

北川町家田湿原、北方町三ヶ村～藤の木、行藤山、鬼の目林道から記録された。北海道～九州に分布する普通種。



ギンヨスジハマキ

宮崎県初記録。佐野町と北方町三ヶ村～藤の木から記録された。北海道～九州に分布する。幼虫はコナラ、ソメイヨシノ、ノイバラ、ナナカマドなど多くの植物につく。



クロサンカクモンヒメハマキ

宮崎県初記録。行藤神社で記録された。



シロテンアカマダラヒメハマキ

沖田ダムで記録された。九州以南、東南アジアまで分布する南方系の種。県内では日向市、宮崎市、綾町、日南市、串間市から記録されている。



サクラマルモンヒメハマキ

宮崎県初記録。北方町三ヶ村～藤の木で記録された。幼虫はサクラ類につく。



オオシロアシヒメハマキ

行藤山と北方町三ヶ村～藤の木で記録された。県内各地で記録されている種であり他にも生息地があると思われる。



コシロモンヒメハマキ

北方町三ヶ村～藤の木で記録された。北海道から九州に分布する。県内では日之影町、高原町、えびの市から記録されている。



スネブトヒメハマキ（別名アシブトヒメハマキ）

石田川で記録された。本州以南、東南アジアに広く分布する。県内では高千穂町、日向市、宮崎市、小林市から記録されている。



コシロアシヒメハマキ

北川町家田湿原、北方町三ヶ村～藤の木、石田川、北浦町岳山で記録された。県内各地で記録されている種であり他にも生息地があると思われる。



クローバヒメハマキ

宮崎県初記録。舞野町で記録された。北海道から屋久島まで分布する普通種。



ホソバチビヒメハマキ

鬼の目林道で記録された。四国、九州以南インドまで分布する南方系の種。県内では日向市、宮崎市、小林市で記録されている。



ヒノキカワモグリガ

北川町家田湿原で記録された。本州から屋久島まで分布する。県内では宮崎市から記録がある。幼虫はスギ、ヒノキの樹皮下に食い入って形成層を食害する。



ヒロオビヒメハマキ

宮崎県初記録。北川町家田湿原、北方町三ヶ村～藤の木で記録された。本州から屋久島まで分布し、県内では日向市、宮崎市、綾町、小林市で記録されている。



シロマルモンヒメハマキ

宮崎県初記録。北方町三ヶ村～藤の木で記録された。



ツマキクロヒメハマキ

宮崎県初記録。北方町三ヶ村～藤の木で記録された。北海道から屋久島まで分布。



ブドウホソハマキ

北浦町岳山と鬼の目林道で記録された。北海道から屋久島・奄美大島まで分布。



マエモンヒロズコガ

北方町蔵田～下鹿川線、行勝山、上祝子大野原谷で記録された。本州～九州に分布する普通種。



モトキメンコガ

行勝山で記録された。本州～屋久島に分布。県内では、日之影町と宮崎市から記録がある。よく似たクロエリメンコガは頭頂部が紫光沢ある灰褐色なのに対し、本種は黄色いので区別できる。



ヒモミノガの一種

この仲間は未記載種で種名・学名がついていない。愛宕山で交尾個体を発見した。幼虫はひも状の細長い形をして木の幹についているという。



トガリギンバネスガ

鬼の目林道で記録された。本州～九州の山地に生息している。県内では日向市から記録がある。



オオボシオオスガ

愛宕山で記録された。北海道～九州までに分布する普通種だが、県内では日向市と高千穂町からしか記録されていない。幼虫はニシキギ科のマユミを食べる。



ツマグロハイスガ

今山で記録した。本州～九州に分布し、県内では宮崎市と串間市から記録されている。



コウゾハマキモドキ

天下町で記録した。北海島から九州に分布する普通種であり新産地が他にもあると思われる。幼虫はコウゾ、ツルコウゾ、ヤマグワを食べる。



イヌビワハマキモドキ

平原町で記録した。イヌビワ周辺を探せば他にも新産地があると思われる。本州から沖縄のイヌビワ自生地に生息する。



ネズミエグリキバガ (別名ネズミエグリヒラタマルハキバガ)

愛宕山で記録された。本州から九州に産する普通種であるが、県内では宮崎市からしか記録がない。



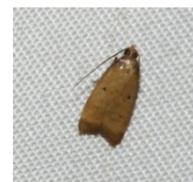
ホソオビキマルハキバガ

愛宕山、行藤山、石田川で記録された。本州から沖縄に分布する普通種。県内では日向市、綾町、高原町、串間市から記録されている。



カレハヒメマルハキバガ

宮崎県初記録。行藤山で記録された。本州から九州に分布し、幼虫は枯葉で作った長円錐形のケース状の中において、枯葉を食べることが知られている。



ギンモンカバマルハキバガ

北川町家田湿原で記録された。北海道～九州に分布するが、県内では日之影町からしか記録がない。



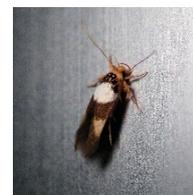
キバラハイスヒロキバガ

沖田ダム、佐野町、北川町家田湿原で記録された。普通種であり産地が他にもあると思われる。九州・対馬・屋久島に産する。



オビマイコガ

宮崎県初記録。平原町で記録された。本州～屋久島に分布し、幼虫はサクラの樹皮間に糸をはるが、コケ類（フトリュビゴケ）も食べる。小型種だが美しい色彩を持っている。



カザリバ

北川町家田湿原で記録された。イネ科のネザサ、アズマネザサに潜ってこれを食す。本州、九州に分布し、県内では霧島山のみから記録されている。



キベリハイヒゲナガキバガ

愛宕山で記録された。本州から南西諸島にかけて分布し、県内では日向市と宮崎市からのみ記録がある。



カクバネヒゲナガキバガ

宮崎県初記録。北方町で記録された。本州から沖縄に分布する普通種。幼虫は枯葉を綴り、その中で枯葉を食べる。



オビカクバネヒゲナガキバガ

宮崎県初記録。愛宕山で記録された。北海道～九州に分布。



モンギンホソキバガ

平原町で記録された。本州、九州、屋久島などに分布し、幼虫はシラカシを食べることが知られている。宮崎県内では霧島山のみから記録がある。



カバイロキバガ

佐野町と行藤山で記録された。北海道～九州に分布する普通種。幼虫はサクラやウメにつく。



ウスヅマスジキバガ

宮崎県初記録。北川町家田湿原と北方町三ヶ村～藤の木で記録された。



マダライラガ

鬼の目林道で記録された。北海道から九州に分布し、県内では日之影町からのみ記録がある。幼虫はイロハカエデにつくことが知られている。



シロエグリツトガ

石田川で記録された。普通種であり、ほかにも産地があると思われる。



チビツトガ

平原町と鬼の目林道で記録された。本州から屋久島まで分布する普通種。



モンチビツトガ

平原町で記録された。本州、九州に分布。チビツトガに似るが、内横線が中央で角ばる点で異なる。



ウスクロスジツトガ

鬼の目林道で記録された。北海道から屋久島まで分布する普通種。県内では日之影町、綾町、えびの市、霧島山で記録されている。



ナカグロツトガ

宮崎県初記録。佐野町で記録された。本州～九州に分布する。



シロテンノメイガ

沖田ダムで記録された。日本全土に生息するが県内では日向市、宮崎市、小林市から記録があるのみ。



ハナダカノメイガ

行滕山で記録された。日本全土に生息し県内各地に普通。



エグリノメイガ

石田川、舞野町、北方町で記録された。北海道以南東南アジアまで広く分布する。県内では日之影町と日向市から記録されているが、今回の調査で高千穂町からも記録した。



ナカグロチビノメイガ

宮崎県初記録。平原町で夜間フジバカマの花で吸蜜する個体を撮影記録した。伊豆諸島、四国（高知県）、九州（熊本県、鹿児島県）、屋久島、沖縄、海外では台湾からインドまで分布する南方系の種。珍しい種のようなのである。インターネット情報では、「私家版里山図鑑」で、2016年11月4日に串間市で撮影されている。<https://ameblo.jp/hayenokaze/entry-12220006734.html>



マタスジノメイガ

愛宕山で記録された。北海道～屋久島、奄美大島まで分布する。県内では西都市、高原町、小林市、日南市から記録されている。幼虫はムラサキシキブを食べる。



ナカオビノメイガ

平原町で記録された。九州以南、南西諸島にかけて分布する南方系の種。県内では日向市、小林市、日南市から記録がある。



ハカジモドキノメイガ

愛宕山で記録された。本州以南、南西諸島にかけて分布する普通種。



ナカキノメイガ

北川町家田湿原で記録された。本州以南に分布し、県内では日向市と小林市から記録されている。



ホソバソトグロキノメイガ

愛宕山で記録された。ソトグロキノメイガと異なり、前翅中室内の黄色い部分がその下の黄色い部分と連続しているため、本種と判断した。



ソトグロキノメイガ

北方町蔵田～下鹿川線で記録された。九州から沖縄に分布する。



ヒメウコンノメイガ

上祝子大野原谷で記録された。本州、九州に分布する。



シロハラノメイガ

北川町家田湿原で記録された。北海道～奄美大島まで分布。



オオキバラノメイガ

北川町家田湿原で記録された。北海道から九州、石垣島に分布する。幼虫はカエデやトチノキの葉を巻いて食べる。



フタホシノメイガ

愛宕山で記録された。本州以南、南西諸島にかけて分布する。幼虫はクワ科のオオイタビを食べる。県内では日之影町、椎葉村、綾町、高原町、日南市から記録があるが少ない種である。



ヤツボシノメイガ

愛宕山で記録された。本州以南に分布し県内では日向市、宮崎市、小林市、日南市から記録されている。



ヒメチャバネトガリノメイガ

沖田ダム、北川町川坂湿原で記録された。九州以南に分布する南方系の種。県内では日向市と宮崎市から記録されている。



コキモンウスグロノメイガ

行滕山で記録された。本州から屋久島まで分布する普通種。

ウスベニオオノメイガ

北川町家田湿原で記録された。北海道から九州に分布するが宮崎県から初記録。幼虫はクララを食べることが知られている。



モンシロルリノメイガ

鬼の目林道で記録された。本州～九州に分布し、県内では日之影町、日向市、宮崎市、小林市から記録されている。幼虫はウツギを食べる。



オオモンシロルリノメイガ

行滕山で記録された。普通種であり、ほかにも産地があると思われる。



マダラミズメイガ

北川町川坂湿原と家田湿原で記録された。幼虫はコウホネやヒシ、ジュンサイなどを食べる湿原性の蛾。北海道から九州に分布し、県内では宮崎市のみから記録がある。



ツマグロフトメイガ

鬼の目林道で記録された。本州～九州に分布し、県内では日之影町と高千穂町で記録されている。幼虫はクヌギなどを食べる。



ネアオフトメイガ

愛宕山で記録された。北海道から九州に分布し、県内でも普通種。



ツマアカシマメイガ

愛宕山、行滕山、鬼の目林道で記録された。普通種であり、ほかにも産地があると思われる。



クロスジキシマメイガ

愛宕山で記録された。関東以南に分布する南方系の種で、南西諸島では多いが、本土では少ないという。県内では綾町のみで記録されている。



アカヘリシマメイガ

北浦町岳山と愛宕山で記録された。本州以南、南西諸島にかけて分布する。南西諸島では多産するが、宮崎県内ではえびの市と日南市からしか記録がない。



フタシロテンホソマダラメイガ

中川原町で記録された。日本全土に分布するが、県内では日之影町、小林市、えびの市から記録があるのみ。



ウスキオビマダラメイガ

宮崎県初記録。行滕山で記録された。本州、九州に分布する。



ヒゲブトマダラメイガ

鬼の目林道で記録された。普通種であり、ほかにも産地があると思われる。



ホソアカオビマダラメイガ

上祝子大野原谷で記録された。本州～九州に分布し幼虫はクマヤナギを食べる。県内ではえびの市から記録されている。

スジグロマダラメイガ

上祝子大野原谷で記録された。北海道から九州に分布するが、県内では日之影町とえびの市からしか記録がない。



ヒメハイイロカギバ

鬼の目林道で記録された。北海道から九州まで分布し、県内では日之影町、椎葉村、西米良村、綾町で記録がある。幼虫はクルミ類を食べる。



エゾカギバ

鬼の目林道で記録された。ヤマトカギバに似るが、翅の色が暗く、前翅の横脈点を欠く点で異なる。ブナ、ミズナラなどを食べる。シベリア、北海道～九州などに分布し、県内では日之影町のみから記録されている。



フタテンシロカギバ

北方町蔵田～下鹿川線で記録された。北海道から九州に分布し、県内各地で普通に見られる。



マダラカギバ

北浦町岳山で記録された。北海道から屋久島まで分布し、県内では椎葉村、美郷町、小林市、日南市から記録されている。幼虫はミズキを食べる。



クロバネフユシャク

宮崎県初記録。天下町で記録された。厳冬期にのみ出現するフユシャクの仲間、本州、四国、九州の限られた場所にのみ生息する。九州での正式な記録は鹿児島県のみから知られている。幼虫はコナラ、クヌギを食べる。



オオシロアヤシャク

上祝子大野原谷で記録された。関東から屋久島まで分布し、県内では日之影町と小林市から記録されている。



マルモンヒメアオシャク

上祝子大野原谷と行藤神社で記録された。本州～九州に分布する。幼虫はコナラにつく。



ウスキヒメアオシャク

北方町蔵田～下鹿川線と鹿狩瀬町で記録された。本州から屋久島まで分布。



ナミスジコアオシャク

中川原町で記録された。北海道から屋久島まで分布する。



クロモンウスチャヒメシャク

愛宕山で記録された。四国南部、九州南部以南に分布する南方系の種で、県内では椎葉村、小林市、えびの市から記録がある。県北から初めて見つけた。



モントビヒメシャク

鬼の目林道で記録された。全国に分布。本種を含むヒメシャク亜科の Scopula 属、Idaea 属の蛾は区別が難しいものが多い。



ヨツボシウスキヒメシャク

北川町川坂湿原で記録された。本州～九州に分布するが、県内では日之影町からしか記録がない。



オイワケヒメシャク

愛宕山、平原町、中川原町で記録された。普通種であり他にも産地があると思われる。



シロテンコバネナミシャク

愛宕山と行藤神社で記録された。本州～九州に分布する、早春に出現する蛾。県内では椎葉村と宮崎市から記録されている。



ギフウスキナミシャク

愛宕山で記録された。北海道から九州に分布する。県内では日之影町からのみ記録がある。幼虫はコナラなどにつく。



ホソスジナミシヤク

愛宕山で記録された。本州から屋久島まで分布し、県内では小林市のみから記録されている。幼虫はツタを食べる。



サザナミフユナミシヤク

行藤山と天下町で記録された。初冬に出現するフユシヤクの一種で、本州と対馬に分布する。九州本土からの記録は初めてかもしれない。幼虫はクヌギ、コナラを食べる。



トビスジトガリナミシヤク

中川原町で記録された。本州～九州に分布し、幼虫はセンニンソウにつく。宮崎県初記録。

テンスジヒメナミシヤク

愛宕山で記録された。北海道から九州に分布し、県内では日之影町、高千穂町、椎葉村、宮崎市、小林市から記録されている。幼虫はアカシデを食べる。



ヘリスジナミシヤク

愛宕山で記録された。普通種。



マエナミカバナミシヤク

今山、愛宕山、行藤神社で記録された。本州から屋久島、奄美大島まで分布し、県内各地に普通。早春に出現する。



セアカカバナミシヤク

愛宕山で記録された。カバナミシヤク類は区別が難しいが、本種は腹部背面が赤褐色をしている点の特徴。幼虫はキク科のオオヨモギを食べることが知られている。県内では日之影町から記録されている。



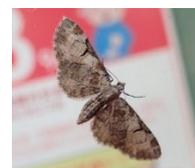
トシマカバナミシヤク

愛宕山で記録された。春に出現する普通種。



アミモンカバナミシヤク

中川原町で記録された。宮崎県初記録。北海道から九州に分布し、早春に出現する。



ホソバチビナミシヤク

愛宕山で記録された。本州以南、南西諸島にかけて分布する小さな蛾。普通種。



クロテンサビイロナミシヤク

愛宕山、行藤神社で記録された。



シロミヤクオエダシヤク

愛宕山で記録された。本州から屋久島まで分布している。



オオシロエダシヤク

鬼の目林道で記録された。



リュウキュウフトスジエダシヤク

愛宕山で記録された。本州（三重県）、四国（高知県）、九州（鹿児島県）から南西諸島にかけて分布する。宮崎県初記録。近似種のヤクシマフトスジエダシヤク（九州本土にも分布）と比べて後翅の横脈環が明瞭で、後翅の外横線が横脈環の外で強く突出することで区別できる。幼虫はシシアクチ（ヤブコウジ科）を食べることが知られている。



ソトシロオビエダシヤク

鬼の目林道で記録された。ニシキギ科のマユミを食べる。北海道～九州に分布している。



キイロトゲエダシヤク

愛宕山で記録された。3. (1) 項を参照。

ナンカイキイロエダシヤク

愛宕山で記録された。近似種キイロエダシヤクも愛宕山に分布しており、毎年区別点を確認していたが、2020年に初めてナンカイキイロエダシヤクを確認することができた。前脚の附節の色と、前翅の縁の色で区別できる。



キマダラツマキリエダシャク

北川町家田湿原、北方町蔵田～下鹿川線、北方町三ヶ村～藤の木で記録された。



ヘリグロキエダシャク

愛宕山、行滕山、北方町で記録された。



カバイロフタオ

鬼の目林道で記録された。



クロフタオ

鬼の目林道で記録された。



ウスズミカレハ

行滕町で記録された。晩秋から初冬に出現する。県内では日之影町、門川町、綾町から記録されている。



ヒメヤママユ

行滕神社で記録された。晩秋に出現する。県内では、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、小林市、えびの市、都城市、日南市から記録がある。



エゾシモフリスズメ

上祝子大野原谷で記録された。県内では日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、小林市で記録がある。



ブドウスズメ

北川町家田湿原・川坂湿原、沖田ダム、佐野町で記録された。普通種であるが、延岡市からは記録がなかったようである。



ノヒラトビモンシャチホコ

愛宕山で記録された。早春に出現する。県内では日之影町のみから記録されている。



スゲドクガ

宮崎県初記録。北川町川坂湿原で撮影された。九州本土からの初記録かもしれない。



キドクガ

鬼の目林道で記録された。



ツマキホソバ

北川町家田湿原、愛宕山、佐野町から記録された。普通種であり、他にも産地があると思われる。



ニセキマエホソバ

愛宕山、石田川、北川町川坂湿原から記録された。

シロホソバ

愛宕山で記録された。

ナガサキムジホソバ

愛宕山、石田川、北浦町岳山、北川町川坂湿原から記録された。

クロスジチビコケガ

愛宕山で記録された。



ヒメコブガ

鬼の目林道で記録された。



ソトジロコブガ

愛宕山で記録された。本州～南西諸島、台湾に分布する。



ヒメケンモン

宮崎県初記録。中川原町で記録された。



スギタニゴマケンモン

鬼の目林道で記録された。3. (1) 項を参照。



オオカブラヤガ

愛宕山で記録された。県内では、日之影町、高千穂町、小林市から記録がある。



ホソアオバヤガ

宮崎県初記録。鬼の目林道で記録された。



ウスイロアカフヤガ

北方町蔵田～下鹿川線、鬼の目林道で記録された。幼虫はオオバコやセリなどを食べる。県内では日之影町、高千穂町、美郷町、霧島山から記録がある。

ヒロバモクメキリガ

行滕神社で記録した。関東南部以西、九州まで分布する。初冬に出現し成虫越冬する。県内では日之影町、日向市、宮崎市、綾町、小林市から記録がある。



ミドリハガタヨトウ

愛宕山で記録した。晩秋から初冬に出現する。県内では五ヶ瀬町のみで記録されている。



アオフシラクモヨトウ

北方町で記録した。本州、四国、九州の暖温帯のみに分布し、県内では高千穂町と宮崎市からしか記録がない。



クロハナギンガ

鬼の目林道で記録された。幼虫はシナノキを食べる。



ミドリキノカワガ

行滕神社で記録された。四国（高知県）、九州、屋久島、奄美大島のみに生息する珍しい蛾である。宮崎県内では、五ヶ瀬町、西都市、宮崎市、小林市、日南市から記録されている。インターネット情報では「春夏秋冬の昆虫写真館」に大分県の蒲江町での 2016 年 6 月 11 日の撮影記録が掲載されている。
<http://syunnkasyuutousyasinncann.web.fc2.com/ga2.html>



ネスジキノカワガ

愛宕山で記録された。本州、四国、九州、西表島などに分布し、幼虫はクリやクヌギの実を食べる。



アミメギンウワバ

平原町で夜間フジバカマの花に来た個体を、舞野町で灯火に飛来した個体を記録した。アフリカ、マダガスカル、アジアの熱帯地方から地中海、ヨーロッパ南部と広域に分布しており、日本では本州以南に生息している。宮崎県からは初記録。



マメキシタバ

鬼の目林道で記録された。幼虫はクヌギ、アラカシなどを食べる。北海道～九州、朝鮮に分布する。



アサマクビグロクチバ

鬼の目林道で記録された。本州～九州、対馬、朝鮮、アムールに分布し、幼虫はマメ科のハギ類や、ブナ科のカシワなどを食べる。



ハイイロオオエグリバ

北方町の複数地点で記録された。本州中部以南、九州まで分布し、幼虫はツツラフジを食べる。県内では綾町と小林市から記録がある。



オオルリオビクチバ

鬼の目林道で記録された。美しい色彩を持つ南方系の蛾。南西諸島では普通に見られるが、本州や九州では偶産種とされている。宮崎県内では、高千穂町、五ヶ瀬町、えびの市、日南市から記録がある。



オオトウスグロクチバ

北浦町岳山と愛宕山で記録された。本州～九州に記録があり、県内では高千穂町、日向市、宮崎市、小林市、えびの市で記録されている。



ソトハガタアツバ

石田川で記録された。県内では日向市、宮崎市、綾町、小林市、えびの市、日南市、串間市で記録されており、普通種とされている。今回の調査で、高千穂町でも確認できた。



シロツマキリアツバ

愛宕山で記録された。北海道を除く本土域に分布するが、県内では日之影町と小林市からしか記録がない。



ムラサキアツバ

行滕山と北方町で記録された。北海道から九州まで分布し、幼虫はカワラタケなどのキノコを食べる。県内では日之影町、日向市、綾町、日南市から記録されている。



ベニトガリアツバ

上祝子大野原谷と鬼の目林道で記録された。鮮やかなピンク色をした美しい蛾。北海道から九州北部に分布しており、県内では綾町、小林市から記録がある。



ウラモンチビアツバ

石田川で記録された。「大図鑑」では本州、対馬が産地とされており、九州本土からの記録は貴重である。インターネット情報では「南四国の蛾」に四国で撮影された写真が掲載されており（2008年11月2日、高知県仁淀川町）、四国や九州にも分布しているものと推測される。

(<http://homepage64.private.cocacn.jp/z42atuba1.html>)



クロテンカバアツバ

北浦町岳山で記録された。北海道から九州に分布し、幼虫はズミを食べる。



メスカバフアツバ

愛宕山で記録した。内横線や外横線の形状、「大図鑑」と「日本の蛾」の記載から本種と判断した。「宮崎県昆虫目録」には県内に分布するものの分布不詳とされている。



ナカシロテンアツバ

沖田ダムで記録された。九州と屋久島、中国に分布し、県内各地で普通に見られる。



マガリウスツマアツバ

鬼の目林道で記録された。北海道～九州、中国に分布する。



フサキバアツバ

愛宕山で記録された。北海道南部～九州に分布する。県内では高千穂町、日向市、宮崎市、小林市から記録があるが少ない種。



シロモンアツバ

上祝子大野原谷で記録された。北海道から九州に分布し、県内では日之影町、西米良村、小林市、霧島山から記録がある。幼虫はカシワの枯葉を食べる。



ニセミスジアツバ

愛宕山で記録された。本州から屋久島まで分布し、県内各地に普通。



(3) その他特筆すべき種

キョウチクトウスズメ：偶産種

安本（タテハモドキ No.56）により 2019 年 11 月に、中島町のツルニチニチソウから幼虫 5 頭の記録が報告されている。

クロモンシタバ：美しい色彩の偶産種

2020 年 11 月に、夜間、平原町の花壇のブルーサルビアの花で吸蜜している個体を撮影した。



シラホシアシブトクチバ：偶産種

2019 年 11 月に平原町で撮影した。



ツマムラサキアツバ

2016年4月に愛宕山で撮影した。宮崎県からは、延岡市と日之影町から記録があるが、珍しい種である。



4. ガ類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 北川湿原/家田湿原

湿地性の植物に依存する蛾類（ミズメイガやノメイガ等）の未記録種が多く確認された。幼虫がコウホネを食べるマダラミズメイガの他、カザリバなど貴重な蛾類が生息しており、延岡市における貴重な調査地の一つと考えられる。また、今回記録されたスゲドクガは分布上貴重な記録である。

(2) 鬼の目林道

今回の小松氏・岩切氏の夜間調査で、多くの貴重な蛾類の生息があきらかとなった。山地性の蛾として、トガリギンバネスガ、マダライラガ、ヒメハイイロカギバ、エゾカギバ、オオシロエダシャク、クロハナギンガ、マメキシタバ、スギタニゴマケンモン、偶産種のオオルリオビクチバなどが、延岡市から初めて記録できた。

(3) 行藤山

イチイガシ等からなる照葉樹林であり、レッドリスト種のエゾヨツメ、ルリモンホソバ、ヤマトハガタヨトウ、ヘーネアオハガタヨトウが生息し、さらにミドリキノカワガのような貴重種など、照葉樹林を生息環境とする貴重な蛾類が記録されている。冬季の蛾の観察にも適している。晩秋から出現するヒメヤヤマユヤウスズミカレハなど、延岡市未記録種が記録できた。これらは過去の調査時に発見できていなかったものである。もともこの時期は蛾の活動が活発ではないため、今後も少しずつ新発見が得られると期待される。冬に出現するフユシャク類も同様であり、過去に発見できていなかったサザナミフユナミシャク等が今回発見できた。

(4) 愛宕山

市街地から近く、観察に訪れやすいフィールドである。毎年多くの延岡市未記録種が発見できる。今回の調査でも、レッドリスト種のキイロトゲエダシャクや、オオボシオオスガ、ネズミエグリキバガ、マタスジノメイガ、フタホシノメイガ、ヤツボシノメイガ、クロモンウスチャヒメシャク、シロテンコバナナミシャク、ギフウスキナミシャク、ホソスジナミシャク、ヘリスジナミシャク、シロミヤクオエダシャク、リュウキュウフトスジエダシャク、ナンカイキイロエダシャク、ミドリハガタヨトウなどの初記録種を確認できた。

5. 延岡市で確認されたガ類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	チョウ目	ポクトウガ科	ゴマフポクトウ	<i>Zeuzera multistrigata leuconota</i>			
2	チョウ目	ハマキガ科	ビロードハマキ	<i>Cerace xanthocosma</i>			
3	チョウ目	ハマキガ科	アカトビハマキ	<i>Pandemis cinnamomeana</i>			
4	チョウ目	ハマキガ科	クロシオハマキ	<i>Archips peratrata</i>			
5	チョウ目	ハマキガ科	ミタレカクモンハマキ	<i>Archips fuscocupreana</i>			
6	チョウ目	ハマキガ科	アトボシハマキ	<i>Choristoneura longicellana</i>			延岡市初記録
7	チョウ目	ハマキガ科	チャハマキ	<i>Homona magnanima</i>			
8	チョウ目	ハマキガ科	スギハマキ	<i>Homona issikii</i>			
9	チョウ目	ハマキガ科	リンゴコカクモンハマキ	<i>Adoxophyes orana fasciata</i>			
10	チョウ目	ハマキガ科	チャノコカクモンハマキ	<i>Adoxophyes honmai</i>			
11	チョウ目	ハマキガ科	トビモンコハマキ	<i>Neocalyptis congruentana</i>			延岡市初記録
12	チョウ目	ハマキガ科	コギンボシハマキ	<i>Drachmobola periastra</i>			宮崎県初記録
13	チョウ目	ハマキガ科	ハイロフコハマキ	<i>Kawabeia razowskii</i>			延岡市初記録
14	チョウ目	ハマキガ科	ギンボシトビハマキ	<i>Spatalistis christophana</i>			
15	チョウ目	ハマキガ科	ギンシジクハマキ	<i>Spatalistis egesta</i>			宮崎県初記録
16	チョウ目	ハマキガ科	フタスジクハハマキ	<i>Acleris platynotana</i>			延岡市初記録
17	チョウ目	ハマキガ科	コトサカハマキ	<i>Acleris delicatana</i>			宮崎県初記録
18	チョウ目	ハマキガ科	マエキハマキ	<i>Acleris pulchella</i>			
19	チョウ目	ハマキガ科	ブライヤハマキ	<i>Acleris affinatana</i>			延岡市初記録
20	チョウ目	ハマキガ科	ギンヨスジハマキ	<i>Acleris leechi</i>			宮崎県初記録
21	チョウ目	ハマキガ科	クロサンカクモンヒメハマキ	<i>Cryptaspasma trigonana</i>			宮崎県初記録
22	チョウ目	ハマキガ科	シロテンアカマダラヒメハマキ	<i>Gatesclarkeana idia</i>			延岡市初記録
23	チョウ目	ハマキガ科	ハスオビヒメハマキ	<i>Sorolopha sphaerocopa</i>			
24	チョウ目	ハマキガ科	ツマモンヒメハマキ	<i>Eudemopsis kirishimensis</i>			
25	チョウ目	ハマキガ科	ヤマモモヒメハマキ	<i>Eudemis gyrotis</i>			
26	チョウ目	ハマキガ科	サクラマルモンヒメハマキ	<i>Eudemis porphyrana</i>			宮崎県初記録
27	チョウ目	ハマキガ科	オオシロアシヒメハマキ	<i>Phaecasiophora fernaldana</i>			延岡市初記録
28	チョウ目	ハマキガ科	コシロモンヒメハマキ	<i>Statherotmantis shicotana</i>			延岡市初記録
29	チョウ目	ハマキガ科	スネブトヒメハマキ	<i>Phaecadophora fimbriata</i>			延岡市初記録
30	チョウ目	ハマキガ科	コシロアシヒメハマキ	<i>Hystrichoscelus spathantum</i>			延岡市初記録
31	チョウ目	ハマキガ科	クローバヒメハマキ	<i>Olethreutes doubledayanus</i>			宮崎県初記録
32	チョウ目	ハマキガ科	ホソバチビヒメハマキ	<i>Lobesia aeolopa</i>			延岡市初記録
33	チョウ目	ハマキガ科	ヒノキカワモグリガ	<i>Coenobiodes granitalis</i>			延岡市初記録
34	チョウ目	ハマキガ科	ヒロオビヒメハマキ	<i>Epinotia bicolor</i>			宮崎県初記録
35	チョウ目	ハマキガ科	シロマルモンヒメハマキ	<i>Zeiraphera demutata</i>			宮崎県初記録
36	チョウ目	ハマキガ科	ツマキクハヒメハマキ	<i>Hendecaneura cervina</i>			宮崎県初記録
37	チョウ目	ハマキガ科	ヨモギネムシガ	<i>Epiblema foenellum</i>			
38	チョウ目	ハマキガ科	ブドウホソハマキ	<i>Eupoecilia ambiguella</i>			延岡市初記録。春の蛾
39	チョウ目	ヒロスコガ科	マエモンヒロスコガ	<i>Dinica endochrysa</i>			延岡市初記録。別名マエモンシロヒロスコガ。
40	チョウ目	ヒロスコガ科	モトキメンコガ	<i>Opogona thiadelpha</i>			延岡市初記録
41	チョウ目	ホソガ科	ヌルデハマキホソガ	<i>Caloptilia recitata</i>			
42	チョウ目	ミノガ科	ヒモミノガの一種	未記載種			
43	チョウ目	コナガ科	コナガ	<i>Plutella xylostella</i>			
44	チョウ目	スガ科	トガリギンバナスガ	<i>Thecobathra eta</i>			延岡市初記録
45	チョウ目	スガ科	オオボシオオスガ	<i>Oreta fuscopurpurea</i>			延岡市初記録
46	チョウ目	スガ科	ツマグロハイスガ	<i>Yponomeuta yanagawanus</i>			延岡市初記録
47	チョウ目	ハマキモドキガ科	コウソハマキモドキ	<i>Choreutis hyligenes</i>			延岡市初記録
48	チョウ目	ハマキモドキガ科	イヌビワハマキモドキ	<i>Choreutis japonica</i>			延岡市初記録
49	チョウ目	エグリキバガ科	ネズミエグリキバガ	<i>Acria ceramitis</i>			延岡市初記録。別名ネズミエグリキバガ。宮崎県昆虫目録では延岡市初記録あり。[まれ]
50	チョウ目	マルハキバガ科	ホソオビキマルハキバガ	<i>Cryptolechia malacobyrssa</i>			延岡市初記録
51	チョウ目	マルハキバガ科	カレハヒメマルハキバガ	<i>Pseudodoxia achlyphanes</i>			宮崎県初記録
52	チョウ目	マルハキバガ科	ギンモンカバマルハキバガ	<i>Promalactis jezonica</i>			延岡市初記録
53	チョウ目	スヒロキバガ科	チシャノキオオスヒロキバガ	<i>Ethmia assamensis</i>			
54	チョウ目	スヒロキバガ科	キバラハイスヒロキバガ	<i>Ethmia epitrocha</i>			延岡市初記録
55	チョウ目	ニセマイコガ科	オビマイコガ	<i>Stathmopoda opticaspis</i>			宮崎県初記録
56	チョウ目	カザリバガ科	カザリバ	<i>Cosmopterix fulminella</i>			延岡市初記録
57	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	フタクロボシハビロキバガ	<i>Scythropiodes issikii</i>			別名フタクロボシキバガ
58	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロハビロキバガ	<i>Scythropiodes leucostola</i>			別名ゴマフシロキバガ
59	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	キベリハイヒゲナガキバガ	<i>Homaloxestis myeloxesta</i>			延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
60	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	カクバナヒゲナガキバガ	<i>Lecitholaxa thiodora</i>			宮崎県初記録
61	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	オビカクバナヒゲナガキバガ	<i>Daltoplastia apostatis</i>			宮崎県初記録
62	チョウ目	キバガ科	モンギンホソキバガ	<i>Palumbina pylartis</i>			延岡市初記録
63	チョウ目	キバガ科	カバイロキバガ	<i>Dichomeris heriguronis</i>			延岡市初記録
64	チョウ目	キバガ科	ウスツマスジキバガ	<i>Cymotricha japonicella</i>			宮崎県初記録
65	チョウ目	キバガ科	ヒマラヤスギミツボシキバガ	<i>Autosticha kyotensis</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録) 別名ヒマラヤスギキバガ
66	チョウ目	ニジュウシトリバガ科	ヤマトニジュウシトリバ	<i>Alucita japonica</i>			
67	チョウ目	ニジュウシトリバガ科	ニジュウシトリバ	<i>Alucita spilodesma</i>			
68	チョウ目	マダラガ科	オキナワリチラシ	<i>Eterusia aedeae sugitanii</i>			
69	チョウ目	マダラガ科	サツマニシキ	<i>Erasmia pulchella nipponica</i>			
70	チョウ目	マダラガ科	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	チョウ目	マダラガ科	ウメスカシクロバ	<i>Illiberis rotundata</i>			
72	チョウ目	イラガ科	マダライラガ	<i>Kitanola uncula</i>			延岡市初記録
73	チョウ目	イラガ科	ナシイラガ	<i>Narosoidea flavidorsalis</i>			
74	チョウ目	イラガ科	テングイラガ	<i>Microleon longipalpis</i>			
75	チョウ目	イラガ科	アカイラガ	<i>Phrixolepia sericea</i>			
76	チョウ目	イラガ科	ムラサキイラガ	<i>Austrapoda dentata</i>			
77	チョウ目	イラガ科	クロシタアオイラガ	<i>Parasa sinica</i>			
78	チョウ目	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida lepida</i>			
79	チョウ目	イラガ科	タイワンイラガ	<i>Phlossa conjuncta</i>			
80	チョウ目	イラガ科	クロスジイラガ	<i>Natada takemurai</i>			
81	チョウ目	マドガ科	マドガ	<i>Thyris usitata</i>			
82	チョウ目	マドガ科	アカジママドガ	<i>Striglina cancellata</i>			
83	チョウ目	マドガ科	マダラマドガ	<i>Rhodoneura vittula</i>			
84	チョウ目	マドガ科	スギタニマドガ	<i>Rhodoneura sugitanii</i>			
85	チョウ目	マドガ科	ハスオビマドガ	<i>Pyrioides aurea</i>			
86	チョウ目	ツトガ科	ホソバヤマメイガ	<i>Scoparia isochroalis</i>			
87	チョウ目	ツトガ科	シロエグリツトガ	<i>Glaucoccharis exsectella</i>			延岡市初記録
88	チョウ目	ツトガ科	チビツトガ	<i>Microchilo inouei</i>			延岡市初記録
89	チョウ目	ツトガ科	モンチビツトガ	<i>Microchilo inexpectellus</i>			延岡市初記録
90	チョウ目	ツトガ科	ホソスジツトガ	<i>Pseudargyria interruptella</i>			
91	チョウ目	ツトガ科	ウスクロスジツトガ	<i>Chrysoteuchia diplogramma</i>			延岡市初記録
92	チョウ目	ツトガ科	シロスジツトガ	<i>Crambus argyrophorus</i>			
93	チョウ目	ツトガ科	ナカグロツトガ	<i>Crambus virgatellus</i>			宮崎県初記録
94	チョウ目	ツトガ科	クロスジツトガ	<i>Flavocrambus striatellus</i>			
95	チョウ目	ツトガ科	モンキシロノメイガ	<i>Cirrhochrista brizoalis</i>			
96	チョウ目	ツトガ科	クロスカシトガリノメイガ	<i>Cotachena alysoni</i>			
97	チョウ目	ツトガ科	シロテンノメイガ	<i>Diathrausta brevifascialis</i>			延岡市初記録
98	チョウ目	ツトガ科	クビシロノメイガ	<i>Pileocera aegimiusalis</i>			
99	チョウ目	ツトガ科	コガタシロノメイガ	<i>Pileocera sodalis</i>			
100	チョウ目	ツトガ科	ハナダカノメイガ	<i>Camptomastix hisbonalis</i>			延岡市初記録
101	チョウ目	ツトガ科	コガタシロノメイガ	<i>Pileocera sodalis</i>			
102	チョウ目	ツトガ科	シロオビナカボカシノメイガ	<i>Cangetta rectilinea</i>			
103	チョウ目	ツトガ科	ナカアカクルマメイガ	<i>Clupeosoma pryeri</i>			別名ナカアカノメイガ
104	チョウ目	ツトガ科	エグリノメイガ	<i>Diplopseustis perieresalis</i>			延岡市初記録
105	チョウ目	ツトガ科	シロスジエグリノメイガ	<i>Sufetula sunidesalis</i>			
106	チョウ目	ツトガ科	フタオビノメイガ	<i>Trichophysetis cretacea</i>			
107	チョウ目	ツトガ科	フタオビノメイガ	<i>Trichophysetis cretacea</i>			
108	チョウ目	ツトガ科	ミツテンノメイガ	<i>Mabra charonialis</i>			
109	チョウ目	ツトガ科	ナカグロチビノメイガ	<i>Mabra eryxalis</i>			宮崎県初記録。フジバカマ吸蜜。
110	チョウ目	ツトガ科	クロオビノメイガ	<i>Pycnarmon pantherata</i>			
111	チョウ目	ツトガ科	シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>			
112	チョウ目	ツトガ科	アヤチノメイガ	<i>Eurhyarodes accessalis</i>			
113	チョウ目	ツトガ科	ウスムラサキノメイガ	<i>Agrotera nemoralis</i>			
114	チョウ目	ツトガ科	クロウスムラサキノメイガ	<i>Agrotera posticalis</i>			
115	チョウ目	ツトガ科	マタスジノメイガ	<i>Pagyda quinquelineata</i>			延岡市初記録
116	チョウ目	ツトガ科	ヨスジノメイガ	<i>Pagyda quadrilineata</i>			
117	チョウ目	ツトガ科	ナカオビノメイガ	<i>Hydriris ornatalis</i>			延岡市初記録
118	チョウ目	ツトガ科	コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>			
119	チョウ目	ツトガ科	ハカジモドキノメイガ	<i>Cnaphalocrocis stereogona</i>			宮崎県初記録
120	チョウ目	ツトガ科	シロモンノメイガ	<i>Bocchoris inspersalis</i>			
121	チョウ目	ツトガ科	ナカキノメイガ	<i>Sameodes aptalis usitatus</i>			延岡市初記録
122	チョウ目	ツトガ科	オオシロモンノメイガ	<i>Chabula telphusalis</i>			
123	チョウ目	ツトガ科	シロヒトモンノメイガ	<i>Analthes semitritalis orbicularis</i>			
124	チョウ目	ツトガ科	キボシノメイガ	<i>Analthes insignis</i>			
125	チョウ目	ツトガ科	ホソバソトグロキノメイガ	学名未定			延岡市初記録
126	チョウ目	ツトガ科	ソトグロキノメイガ	<i>Analthes euryterminalis</i>			宮崎県初記録
127	チョウ目	ツトガ科	クロスジノメイガ	<i>Tyspanodes striatus striatus</i>			
128	チョウ目	ツトガ科	モモノゴマダラノメイガ	<i>Conogethes punctiferalis</i>			
129	チョウ目	ツトガ科	マツノゴマダラノメイガ	<i>Conogethes pinicolalis</i>			
130	チョウ目	ツトガ科	シロテンキノメイガ	<i>Nacoleia commixta</i>			
131	チョウ目	ツトガ科	サツマキノメイガ	<i>Nacoleia satsumalis</i>			
132	チョウ目	ツトガ科	クロミスジシロノメイガ	<i>Metoea foedalis</i>			
133	チョウ目	ツトガ科	ヒメクロミスジノメイガ	<i>Omiodes miserus</i>			
134	チョウ目	ツトガ科	マウスキノメイガ	<i>Omiodes indicatus</i>			
135	チョウ目	ツトガ科	クロミスジノメイガ	<i>Omiodes similis</i>			
136	チョウ目	ツトガ科	キハラノメイガ	<i>Omiodes noctescens</i>			
137	チョウ目	ツトガ科	オオキノメイガ	<i>Botyodes principalis</i>			
138	チョウ目	ツトガ科	ヒメウコンノメイガ	<i>Pleuroptya brevipennis</i>			宮崎県初記録
139	チョウ目	ツトガ科	シロハラノメイガ	<i>Pleuroptya deficiens</i>			延岡市初記録
140	チョウ目	ツトガ科	ヨツメノメイガ	<i>Pleuroptya quadrimaculalis</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
141	チョウ目	ツトガ科	オオキバラノメイガ	<i>Pleuroptya harutai</i>			延岡市初記録
142	チョウ目	ツトガ科	ホソミスジノメイガ	<i>Pleuroptya chlorophanta</i>			
143	チョウ目	ツトガ科	モンシロクロノメイガ	<i>Syllepte segnalis</i>			
144	チョウ目	ツトガ科	タイワンモンキノメイガ	<i>Syllepte taiwanalis</i>			
145	チョウ目	ツトガ科	オオツチイロノメイガ	<i>Syllepte fuscoinvalidalis</i>			
146	チョウ目	ツトガ科	マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>			
147	チョウ目	ツトガ科	ワタヘリクロノメイガ	<i>Diaphania indica</i>			フジバカマ吸蜜
148	チョウ目	ツトガ科	アヤナミノメイガ	<i>Eurrhyarodes accessalis</i>			
149	チョウ目	ツトガ科	ヨツボシノメイガ	<i>Talanga quadrimaculalis</i>			
150	チョウ目	ツトガ科	ミツシロモンノメイガ	<i>Glyphodes actorionalis</i>			
151	チョウ目	ツトガ科	チビスカシノメイガ	<i>Glyphodes duplicalis</i>			旧名クワノメイガ。
152	チョウ目	ツトガ科	クワノメイガ	<i>Glyphodes pyloalis</i>			
153	チョウ目	ツトガ科	フタホシノメイガ	<i>Glyphodes bipunctalis</i>			延岡市初記録
154	チョウ目	ツトガ科	キササゲノメイガ	<i>Sinomphisa plagialis</i>			
155	チョウ目	ツトガ科	ヤツボシノメイガ	<i>Prophantis adusta</i>			延岡市初記録
156	チョウ目	ツトガ科	ヒメチャバネトガリノメイガ	<i>Hyalobathra dialychna</i>			
157	チョウ目	ツトガ科	キベリハネボソノメイガ	<i>Circobotys aurealis</i>			
158	チョウ目	ツトガ科	マメノメイガ	<i>Maruca vitrata</i>			
159	チョウ目	ツトガ科	ワモンノメイガ	<i>Nomophila noctuella</i>			フジバカマ吸蜜
160	チョウ目	ツトガ科	アカウスグロノメイガ	<i>Bradina angustalis pryeri</i>			
161	チョウ目	ツトガ科	マエキノメイガ	<i>Herpetogramma rudis</i>			
162	チョウ目	ツトガ科	ヘリグロノメイガ	<i>Herpetogramma cynarale</i>			
163	チョウ目	ツトガ科	コキモンウスグロノメイガ	<i>Herpetogramma pseudomagnum</i>			延岡市初記録
164	チョウ目	ツトガ科	モンキクロノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosale zelleri</i>			
165	チョウ目	ツトガ科	ヒロバウスグロノメイガ	<i>Paranacoleia lophophoralis</i>			
166	チョウ目	ツトガ科	キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>			
167	チョウ目	ツトガ科	ウスベニオオノメイガ	<i>Uresiphita prunipennis</i>			宮崎県初記録
168	チョウ目	ツトガ科	モンシロルリノメイガ	<i>Uresiphita tricolor</i>			延岡市初記録
169	チョウ目	ツトガ科	オオモンシロルリノメイガ	<i>Uresiphita dissipatalis</i>			延岡市初記録
170	チョウ目	ツトガ科	キムジノメイガ	<i>Prodasyncnemis inornata</i>			
171	チョウ目	ツトガ科	キムジノメイガ	<i>Prodasyncnemis inornata</i>			
172	チョウ目	ツトガ科	マエベノメイガ	<i>Paliga minnehaha</i>			
173	チョウ目	ツトガ科	ヘリジロキンノメイガ	<i>Paliga auratalis</i>			
174	チョウ目	ツトガ科	アワノメイガ	<i>Ostrinia furnacalis</i>			
175	チョウ目	ツトガ科	クロモンキノメイガ	<i>Udea testacea</i>			畑害虫 フジバカマ吸蜜
176	チョウ目	ツトガ科	ヒトモンノメイガ	<i>Pyrausta unipunctata</i>			
177	チョウ目	ツトガ科	キベリスカシノメイガ	<i>Callibotys wilemani</i>			
178	チョウ目	ツトガ科	ヘリアカキンノメイガ	<i>Carminibotys carminalis iwawakisana</i>			
179	チョウ目	ツトガ科	キベリスカシノメイガ	<i>Callibotys wilemani</i>			
180	チョウ目	ツトガ科	マダラミズメイガ	<i>Elophila interruptalis</i>			延岡市初記録
181	チョウ目	ツトガ科	ゼニガサミズメイガ	<i>Paracymoriza prodigalis</i>			
182	チョウ目	ツトガ科	イネコミズメイガ	<i>Parapoynx vittalis</i>			「まれ」（宮崎県昆虫目録）
183	チョウ目	ツトガ科	キオビミズメイガ	<i>Potamomusa midas</i>			
184	チョウ目	ツトガ科	アトモンミズメイガ	<i>Nymphicula saigusai</i>			
185	チョウ目	ツトガ科	アカマダラメイガ	<i>Oncocera semirubella</i>			
186	チョウ目	メイガ科	マエグロツツリガ	<i>Cataposopus monstrosus</i>			
187	チョウ目	メイガ科	ツマグロフトメイガ	<i>Noctuides melanophia</i>			延岡市初記録
188	チョウ目	メイガ科	ナカアフトメイガ	<i>Teliphasa elegans</i>			
189	チョウ目	メイガ科	クロフトメイガ	<i>Termioptycha nigrescens</i>			
190	チョウ目	メイガ科	ナカジロフトメイガ	<i>Termioptycha margarita</i>			
191	チョウ目	メイガ科	トサカフトメイガ	<i>Locastra muscosalis</i>			
192	チョウ目	メイガ科	ナカムラサキフトメイガ	<i>Lista ficki</i>			
193	チョウ目	メイガ科	ネアフトメイガ	<i>Orthaga onerata</i>			延岡市初記録
194	チョウ目	メイガ科	アフトメイガ	<i>Orthaga olivacea</i>			
195	チョウ目	メイガ科	ナカトピフトメイガ	<i>Orthaga achatina achatina</i>			
196	チョウ目	メイガ科	トビイロシメメイガ	<i>Hypsopygia regina</i>			
197	チョウ目	メイガ科	カシノシマメイガ	<i>Pyralis farinalis</i>			貯穀害虫
198	チョウ目	メイガ科	ギンモンシマメイガ	<i>Pyralis regalis</i>			
199	チョウ目	メイガ科	シロモンシマメイガ	<i>Pyralis albittata</i>			
200	チョウ目	メイガ科	トビイロフタスジシマメイガ	<i>Stemmatophora valida</i>			
201	チョウ目	メイガ科	ナカアカシマメイガ	<i>Tamraa torridalis</i>			
202	チョウ目	メイガ科	マエモンシマメイガ	<i>Tegulifera bicoloralis</i>			
203	チョウ目	メイガ科	フタスジシマメイガ	<i>Orthopygia glaucinalis</i>			
204	チョウ目	メイガ科	ツマアカシマメイガ	<i>Orthopygia nannodes</i>			延岡市初記録
205	チョウ目	メイガ科	クロスジシマメイガ	<i>Orthopygia repetita</i>			延岡市初記録。「まれ」（宮崎県昆虫目録）
206	チョウ目	メイガ科	アカヘリシマメイガ	<i>Herculia drabicialis</i>			延岡市初記録
207	チョウ目	メイガ科	ウスオビトガリメイガ	<i>Endotricha consocia</i>			
208	チョウ目	メイガ科	カバイロトガリメイガ	<i>Endotricha theonalis</i>			
209	チョウ目	メイガ科	キモントガリメイガ	<i>Endotricha kuznetzovi</i>			
210	チョウ目	メイガ科	オオウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha icelusalis</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
211	チョウ目	メイガ科	キベリトガリメイガ	<i>Endotricha minialis</i>			
212	チョウ目	メイガ科	ウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha olivacealis</i>			
213	チョウ目	メイガ科	フタシロテンホソマダラメイガ	<i>Assara korbi</i>			延岡市初記録
214	チョウ目	メイガ科	ミカドマダラメイガ	<i>Nephoterix mikadella</i>			
215	チョウ目	メイガ科	アカマダラメイガ	<i>Oncocera semirubella</i>			
216	チョウ目	メイガ科	オオクロモンマダラメイガ	<i>Pempelia vinacea</i>			
217	チョウ目	メイガ科	ウスキオビマダラメイガ	<i>Acrobasis flavifasciella</i>			宮崎県初記録
218	チョウ目	メイガ科	ウスアカムラサキマダラメイガ	<i>Addyme confusalis</i>			
219	チョウ目	メイガ科	フタクロマダラメイガ	<i>Trachycera dichromella</i>			
220	チョウ目	メイガ科	コフタクロマダラメイガ	<i>Trachycera pseudodichromella</i>			
221	チョウ目	メイガ科	ヒゲブトマダラメイガ	<i>Spatulipalpia albistrialis</i>			延岡市初記録
222	チョウ目	メイガ科	ホソアカオビマダラメイガ	<i>Acrobasis rufizonella</i>			延岡市初記録
223	チョウ目	メイガ科	スジクロマダラメイガ	<i>Ceroprepes nigrolineatella</i>			延岡市初記録
224	チョウ目	トリバガ科	エソギクトリバ	<i>Platyptilia farfarella</i>			
225	チョウ目	カギバガ科	マエキカギバ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>			
226	チョウ目	カギバガ科	ヒメハイロカギバ	<i>Pseudalbara parvula</i>			延岡市初記録
227	チョウ目	カギバガ科	ヤマトカギバ	<i>Nordstromia japonica</i>			
228	チョウ目	カギバガ科	エソカギバ	<i>Nordstromia grisearia</i>			延岡市初記録
229	チョウ目	カギバガ科	ウスオビカギバ	<i>Sabra harpagula olivacea</i>			
230	チョウ目	カギバガ科	オビカギバ	<i>Drepana curvatula acuta</i>			
231	チョウ目	カギバガ科	ウコンカギバ	<i>Tridrepana crocea</i>			
232	チョウ目	カギバガ科	ヒメウコンカギバ	<i>Tridrepana unispina</i>			
233	チョウ目	カギバガ科	ギンモンカギバ	<i>Callidrepana patrana</i>			
234	チョウ目	カギバガ科	フタデンシロカギバ	<i>Ditrigona virgo</i>			延岡市初記録
235	チョウ目	カギバガ科	マダラカギバ	<i>Callicilix abraxata abraxata</i>			延岡市初記録
236	チョウ目	カギバガ科	ウスギヌカギバ	<i>Macrocilix mysticata watsoni</i>			
237	チョウ目	カギバガ科	モンウスギヌカギバ	<i>Macrocilix maia</i>			
238	チョウ目	カギバガ科	アシベニカギバ	<i>Oreta pulchripes</i>			
239	チョウ目	カギバガ科	アシベニカギバ	<i>Oreta pulchripes</i>			
240	チョウ目	カギバガ科	オオフトカギバ	<i>Oreta fuscopurpurea</i>			
241	チョウ目	カギバガ科	アカウラカギバ	<i>Hypsomadius insignis</i>			
242	チョウ目	カギバガ科	モントガリバ	<i>Thyatira batis japonica</i>			
243	チョウ目	カギバガ科	カウムラトガリバ	<i>Horithyatira kawamurae</i>			
244	チョウ目	カギバガ科	オオアヤトガリバ	<i>Habrosyne fraterna japonica</i>			
245	チョウ目	カギバガ科	オオバトガリバ	<i>Tethea ampliata ampliata</i>			
246	チョウ目	カギバガ科	ホソトガリバ	<i>Tethea octogesima octogesima</i>			
247	チョウ目	カギバガ科	オオマエベニトガリバ	<i>Tethea consimilis consimilis</i>			
248	チョウ目	カギバガ科	ムラサキトガリバ	<i>Epipsestis ornata</i>			
249	チョウ目	カギバガ科	マユミトガリバ	<i>Neoploca arctipennis</i>			
250	チョウ目	シャクガ科	シロオビフユシャク	<i>Alsophila japonensis</i>			
251	チョウ目	シャクガ科	クロバナフユシャク	<i>Alsophila foedata</i>			宮崎県初記録
252	チョウ目	シャクガ科	クロテンフユシャク	<i>Inurois membranaria</i>			
253	チョウ目	シャクガ科	エグリトガリシャク	<i>Ozola japonica</i>			
254	チョウ目	シャクガ科	オオシロアヤシャク	<i>Pingasa alba brunnescens</i>			延岡市初記録
255	チョウ目	シャクガ科	アシプトチズモンアオシャク	<i>Agathia visenda curvifiniens</i>			
256	チョウ目	シャクガ科	カギバアオシャク	<i>Tanaorhinus reciprocatus confuciaris</i>			
257	チョウ目	シャクガ科	キマエアオシャク	<i>Neohipparchus vallatus</i>			
258	チョウ目	シャクガ科	ヒメシロアオシャク	<i>Eucyclodes infractus</i>			
259	チョウ目	シャクガ科	クスアオシャク	<i>Pelagodes subquadrarius</i>			
260	チョウ目	シャクガ科	マルモンヒメアオシャク	<i>Jodis praeurupta</i>			延岡市初記録
261	チョウ目	シャクガ科	ウスキヒメアオシャク	<i>Jodis urosticta</i>			延岡市初記録
262	チョウ目	シャクガ科	ヒメツバメアオシャク	<i>Maxates protrusa</i>			
263	チョウ目	シャクガ科	ヘリグロヒメアオシャク	<i>Hemithea tritonaria</i>			
264	チョウ目	シャクガ科	ナミスジアオシャク	<i>Idiochlora ussuriaria</i>			延岡市初記録
265	チョウ目	シャクガ科	ヨツモンマエジロアオシャク	<i>Comibaena procumbaria</i>			
266	チョウ目	シャクガ科	ヘリジロヨツメアオシャク	<i>Comibaena amoenaria</i>			
267	チョウ目	シャクガ科	ギンスジアオシャク	<i>Comibaena argentataria</i>			
268	チョウ目	シャクガ科	ヨツメアオシャク	<i>Thetidia albocostaria</i>			
269	チョウ目	シャクガ科	コヨツメアオシャク	<i>Comostola subtilitaria nympha</i>			
270	チョウ目	シャクガ科	アカホシヒメアオシャク	<i>Comostola rubripunctata</i>			
271	チョウ目	シャクガ科	フタナミトビヒメシャク	<i>Pylargocles steganioides steganioides</i>			
272	チョウ目	シャクガ科	ベニスジヒメシャク	<i>Timandra recompacta prouti</i>			
273	チョウ目	シャクガ科	クロモンウスチャヒメシャク	<i>Perixera absconditaria absconditaria</i>			延岡市初記録
274	チョウ目	シャクガ科	ウンモンオオシロヒメシャク	<i>Somatina indicataria morata</i>			
275	チョウ目	シャクガ科	マエキヒメシャク	<i>Scopula nigropunctata imbellia</i>			
276	チョウ目	シャクガ科	モントビヒメシャク	<i>Scopula medicaria</i>			延岡市初記録
277	チョウ目	シャクガ科	クロテンシロヒメシャク	<i>Scopula apicipunctata</i>			
278	チョウ目	シャクガ科	ナミスジチビヒメシャク	<i>Scopula personata</i>			
279	チョウ目	シャクガ科	キトガリヒメシャク	<i>Scopula emissaria lactea</i>			
280	チョウ目	シャクガ科	サツマヒメシャク	<i>Scopula insolata satsumaria</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
281	チョウ目	シャクガ科	ヤスジマルバヒメシャク	<i>Scopula floslactata claudata</i>			
282	チョウ目	シャクガ科	ヨツボシウスキヒメシャク	<i>Scopula superciliata</i>			延岡市初記録。「まれ」。
283	チョウ目	シャクガ科	ギンバネヒメシャク	<i>Scopula epiorrhoe</i>			
284	チョウ目	シャクガ科	ウスキクロテンヒメシャク	<i>Scopula ignobilis</i>			
285	チョウ目	シャクガ科	ベニヒメシャク	<i>Idaea muricata minor</i>			
286	チョウ目	シャクガ科	キオビベニヒメシャク	<i>Idaea impexa impexa</i>			
287	チョウ目	シャクガ科	フチベニヒメシャク	<i>Idaea jakima</i>			
288	チョウ目	シャクガ科	ヨスジキヒメシャク	<i>Idaea auricruda</i>			
289	チョウ目	シャクガ科	ホソスジキヒメシャク	<i>Idaea remissa</i>			
290	チョウ目	シャクガ科	キュウシュウヒメシャク?	<i>Idaea kyushuensis</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録)
291	チョウ目	シャクガ科	ウスキヒメシャク	<i>Idaea biselata</i>			
292	チョウ目	シャクガ科	オイワケヒメシャク	<i>Idaea invalida invalida</i>			延岡市初記録
293	チョウ目	シャクガ科	ミジンキヒメシャク	<i>Idaea trisetata</i>			
294	チョウ目	シャクガ科	シロテンコバナナミシャク	<i>Trichopteryx grisearia</i>			延岡市初記録
295	チョウ目	シャクガ科	シロシタコバナナミシャク	<i>Trichopteryx fastuosa</i>			
296	チョウ目	シャクガ科	シタコバナナミシャク	<i>Trichopteryx hemana</i>			
297	チョウ目	シャクガ科	ウスミドリコバナナミシャク	<i>Trichopteryx miracula</i>			
298	チョウ目	シャクガ科	ウスベニスジナミシャク	<i>Esakiopteryx volitans</i>			
299	チョウ目	シャクガ科	ウスアカモンナミシャク	<i>Trichopterygia consobrinaria</i>			
300	チョウ目	シャクガ科	キリバナネソナミシャク	<i>Brabira artemidora artemidora</i>			
301	チョウ目	シャクガ科	コバナネヒゲトナミシャク	<i>Sauris marginepunctata</i>			
302	チョウ目	シャクガ科	ウスミドリナミシャク	<i>Episteira nigrilinearia nigrilinearia</i>			
303	チョウ目	シャクガ科	ウスミドリナミシャク	<i>Episteira nigrilinearia nigrilinearia</i>			
304	チョウ目	シャクガ科	フタモンクロナミシャク	<i>Catarhoe obscura obscura</i>			
305	チョウ目	シャクガ科	ナカモンキナミシャク	<i>Idiotephria evanescens</i>			
306	チョウ目	シャクガ科	モンキナミシャク	<i>Idiotephria amelia</i>			
307	チョウ目	シャクガ科	ギフウスキナミシャク	<i>Idiotephria debilitata</i>			延岡市初記録。春の蛾。
308	チョウ目	シャクガ科	ツマキシロナミシャク	<i>Gandaritis whitelyi leechi</i>			
309	チョウ目	シャクガ科	キマダラオオナミシャク	<i>Gandaritis fixseni</i>			
310	チョウ目	シャクガ科	キガシラオオナミシャク	<i>Gandaritis agnes agnes</i>			
311	チョウ目	シャクガ科	セスジナミシャク	<i>Evecliptopera illitata illitata</i>			
312	チョウ目	シャクガ科	オオハガタナミシャク	<i>Ecliptopera umbrosaria umbrosaria</i>			
313	チョウ目	シャクガ科	オオハガタナミシャク	<i>Ecliptopera umbrosaria umbrosaria</i>			
314	チョウ目	シャクガ科	キアミメナミシャク	<i>Eustroma japonicum</i>			
315	チョウ目	シャクガ科	ハガタナミシャク	<i>Eustroma melancholicum melancholicum</i>			
316	チョウ目	シャクガ科	ホソスジナミシャク	<i>Lobogonodes complicata complicata</i>			延岡市初記録
317	チョウ目	シャクガ科	シロホソスジナミシャク	<i>Lobogonodes multistriata</i>			
318	チョウ目	シャクガ科	ビロードナミシャク	<i>Sibatania mactata</i>			
319	チョウ目	シャクガ科	シロシタトビイロナミシャク	<i>Heterothera postalbida</i>			
320	チョウ目	シャクガ科	ナミスジフユナミシャク	<i>Operophtera brunnea</i>			
321	チョウ目	シャクガ科	サザナミフユナミシャク	<i>Operophtera japonaria</i>			県内初記録
322	チョウ目	シャクガ科	クロオビフユナミシャク	<i>Operophtera relegata</i>			
323	チョウ目	シャクガ科	アキナミシャク	<i>Epirrita autumnata autumnata</i>			
324	チョウ目	シャクガ科	ミドリアキナミシャク	<i>Epirrita viridipurpurens</i>			
325	チョウ目	シャクガ科	ナカオビアキナミシャク	<i>Nothoporia mediolineata</i>			
326	チョウ目	シャクガ科	トビズジトガリナミシャク	<i>Zola terranea terranea</i>			宮崎県初記録
327	チョウ目	シャクガ科	テンスジヒメナミシャク	<i>Hydrelia nisaria</i>			延岡市初記録
328	チョウ目	シャクガ科	ヘリスジナミシャク	<i>Eschatarchia lineata lineata</i>			延岡市初記録
329	チョウ目	シャクガ科	マエチナミシャク	<i>Acolutha pictaria shirozui</i>			
330	チョウ目	シャクガ科	アカモンコナミシャク	<i>Palpoctenidia phoenicosoma semilauta</i>			
331	チョウ目	シャクガ科	ハマダラナミシャク	<i>Pomasia denticlathrata</i>			
332	チョウ目	シャクガ科	ナカオビカバナミシャク	<i>Eupithecia subbreviata</i>			早春性の普通種だが宮崎県では少ない。
333	チョウ目	シャクガ科	ウスカバナミシャク	<i>Eupithecia proterva</i>			
334	チョウ目	シャクガ科	マエナミカバナミシャク	<i>Eupithecia nipponaria</i>			延岡市初記録
335	チョウ目	シャクガ科	ソトカバナミシャク	<i>Eupithecia signigera</i>			
336	チョウ目	シャクガ科	キモンカバナミシャク	<i>Eupithecia flavoapicaria</i>			
337	チョウ目	シャクガ科	アキカバナミシャク	<i>Eupithecia subfumosa</i>			
338	チョウ目	シャクガ科	アミモンカバナミシャク	<i>Eupithecia insigniata insignioides</i>			延岡市初記録
339	チョウ目	シャクガ科	セアカカバナミシャク	<i>Eupithecia quadripunctata</i>			延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
340	チョウ目	シャクガ科	シロテンカバナミシャク	<i>Eupithecia tripunctaria</i>			
341	チョウ目	シャクガ科	トシマカバナミシャク	<i>Eupithecia tenuisquama</i>			延岡市初記録
342	チョウ目	シャクガ科	クロシオカバナミシャク	<i>Eupithecia kuroshio</i>			
343	チョウ目	シャクガ科	クニガミカバナミシャク	<i>Eupithecia ryukyuensis</i>			
344	チョウ目	シャクガ科	ヨホシナミシャク	<i>Eupithecia costimacularia</i>			
345	チョウ目	シャクガ科	ホソバチビナミシャク	<i>Spiralisigna subpumilata</i>			延岡市初記録
346	チョウ目	シャクガ科	ケブカチビナミシャク	<i>Gymnoscelis esakii</i>			
347	チョウ目	シャクガ科	クロスジアオナミシャク	<i>Chloroclystis v-ata lucinda</i>			
348	チョウ目	シャクガ科	マダラアオナミシャク	<i>Chloroclystis hypopyrrha</i>			「少ない」(宮崎県昆虫目録)
349	チョウ目	シャクガ科	サビイロナミシャク	<i>Pseudocollix hyperythrus catalalia</i>			
350	チョウ目	シャクガ科	クロテンサビイロナミシャク	<i>Pseudocollix kawamura</i>			延岡市初記録。横脈点が大いことから写真判断

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
351	チョウ目	シャクガ科	ナカジロナミシャク	<i>Melanthia procellata inquinata</i>			
352	チョウ目	シャクガ科	ユウマダラエダシャク	<i>Abraxas miranda miranda</i>			
353	チョウ目	シャクガ科	マエキシロエダシャク	<i>Lomographa inamata</i>			
354	チョウ目	シャクガ科	クロズウスキエダシャク	<i>Lomographa simplicior simplicior</i>			
355	チョウ目	シャクガ科	フタホシシロエダシャク	<i>Lomographa bimaculata subnotata</i>			
356	チョウ目	シャクガ科	バラシロエダシャク	<i>Lomographa temerata</i>			
357	チョウ目	シャクガ科	ウスフタスジシロエダシャク	<i>Lomographa subspersata</i>			
358	チョウ目	シャクガ科	ヤマトエダシャク	<i>Peratostega deletaria hypotaenia</i>			
359	チョウ目	シャクガ科	ウチムラサキヒメエダシャク	<i>Ninodes splendens</i>			
360	チョウ目	シャクガ科	クロミスジシロエダシャク	<i>Myrteta angelica</i>			
361	チョウ目	シャクガ科	キスジシロエダシャク	<i>Orthocabera sericea sericea</i>			
362	チョウ目	シャクガ科	ナミスジシロエダシャク	<i>Orthocabera tinagmaria tinagmaria</i>			
363	チョウ目	シャクガ科	ウスアオエダシャク	<i>Parabapta clarissa</i>			
364	チョウ目	シャクガ科	シロミヤクオエダシャク	<i>Rhynchobapta eburnivena</i>			延岡市初記録
365	チョウ目	シャクガ科	マエキオエダシャク	<i>Plesiomorpha flaviceps</i>			
366	チョウ目	シャクガ科	モンオビオエダシャク	<i>Plesiomorpha punctilinearis</i>			
367	チョウ目	シャクガ科	ウスオビヒメエダシャク	<i>Euchristophia cumulata cumulata</i>			
368	チョウ目	シャクガ科	ハグルマエダシャク	<i>Synegia hadassa hadassa</i>			
369	チョウ目	シャクガ科	スジハグルマエダシャク	<i>Synegia limitatoides</i>			
370	チョウ目	シャクガ科	クロハグルマエダシャク	<i>Synegia esther</i>			
371	チョウ目	シャクガ科	ウラキトガリエダシャク	<i>Hypephyra terrosa pryeraria</i>			
372	チョウ目	シャクガ科	フタテンオエダシャク	<i>Chiasmia defixaria</i>			
373	チョウ目	シャクガ科	ウスオエダシャク	<i>Chiasmia hebesata</i>			
374	チョウ目	シャクガ科	スカシエダシャク	<i>Krananda semihyalina</i>			
375	チョウ目	シャクガ科	ツマシロエダシャク	<i>Krananda latimarginaria</i>			
376	チョウ目	シャクガ科	ウメエダシャク	<i>Cystidia couaggaria couaggaria</i>			アジサイ吸蜜
377	チョウ目	シャクガ科	シロジマエダシャク	<i>Euryotheidia languidata languidata</i>			
378	チョウ目	シャクガ科	シロジマエダシャク	<i>Euryotheidia languidata languidata</i>			
379	チョウ目	シャクガ科	キオビゴマダラエダシャク	<i>Xandrames dholaria</i>			
380	チョウ目	シャクガ科	ゴマダラシロエダシャク	<i>Antipercnia albinigrata albinigrata</i>			「少ない」(宮崎県昆虫目録)
381	チョウ目	シャクガ科	オオゴマダラエダシャク	<i>Parapercnia giraffata</i>			
382	チョウ目	シャクガ科	クロフオオシロエダシャク	<i>Pogonopygia nigralbata nigralbata</i>			
383	チョウ目	シャクガ科	クロフシロエダシャク	<i>Dilophodes elegans elegans</i>			
384	チョウ目	シャクガ科	オオシロエダシャク	<i>Metabraxas clerica clerica</i>			延岡市初記録
385	チョウ目	シャクガ科	ヒョウモンエダシャク	<i>Arichanna gaschkevitchii gaschkevitchii</i>			
386	チョウ目	シャクガ科	チャノウンモンエダシャク	<i>Jankowskia fuscaria fuscaria</i>			
387	チョウ目	シャクガ科	クロクモエダシャク	<i>Apocleora rimosa</i>			
388	チョウ目	シャクガ科	シロテンエダシャク	<i>Cleora leucophaea</i>			
389	チョウ目	シャクガ科	ヤクシマフトスジエダシャク	<i>Cleora minutaria</i>			
390	チョウ目	シャクガ科	リュウキュウフトスジエダシャク	<i>Cleora injectaria injectaria</i>			宮崎県初記録
391	チョウ目	シャクガ科	オレクギエダシャク	<i>Protoboarmia simpliciaris</i>			
392	チョウ目	シャクガ科	オレクギエダシャク	<i>Protoboarmia simpliciaris</i>			
393	チョウ目	シャクガ科	ニセオレクギエダシャク	<i>Protoboarmia faustinata</i>			
394	チョウ目	シャクガ科	ナカウスエダシャク	<i>Alcis angulifera</i>			
395	チョウ目	シャクガ科	フタヤマエダシャク	<i>Rikiosatoa grisea grisea</i>			
396	チョウ目	シャクガ科	ウスバキエダシャク	<i>Pseuderannis lomozeria</i>			
397	チョウ目	シャクガ科	ウスバシロエダシャク	<i>Pseuderannis amplipennis</i>			
398	チョウ目	シャクガ科	ハミスジエダシャク	<i>Hypomecis roboraria displicens</i>			
399	チョウ目	シャクガ科	オオバナミガタエダシャク	<i>Hypomecis lunifera</i>			
400	チョウ目	シャクガ科	ウスバミスジエダシャク	<i>Hypomecis punctinalis conferenda</i>			
401	チョウ目	シャクガ科	ソトシロオビエダシャク	<i>Calicha ornataria ornataria</i>			延岡市初記録
402	チョウ目	シャクガ科	リンゴツノエダシャク	<i>Phthonosema tendinosarium</i>			
403	チョウ目	シャクガ科	ヨツメエダシャク	<i>Ophthalmitis albosignaria albosignaria</i>			
404	チョウ目	シャクガ科	ヨツメエダシャク	<i>Ophthalmitis albosignaria albosignaria</i>			
405	チョウ目	シャクガ科	ヨモギエダシャク	<i>Ascotis selenaria cretacea</i>			
406	チョウ目	シャクガ科	ヒロバウスアオエダシャク	<i>Paradarisa chloauges kurosawai</i>			
407	チョウ目	シャクガ科	シナトビスジエダシャク	<i>Paradarisa consonaria</i>			
408	チョウ目	シャクガ科	オオトビスジエダシャク	<i>Ectropis excellens</i>			
409	チョウ目	シャクガ科	シロモンキエダシャク	<i>Parectropis similaria japonica</i>			
410	チョウ目	シャクガ科	ホシミスジエダシャク	<i>Racotis boarmiaria japonica</i>			
411	チョウ目	シャクガ科	ハンノトビスジエダシャク	<i>Aethalura ignobilis</i>			
412	チョウ目	シャクガ科	チビトビスジエダシャク	<i>Myrioblephara nanaria</i>			
413	チョウ目	シャクガ科	ハラゲエダシャク	<i>Diplurodes vestita fuscovestita</i>			
414	チョウ目	シャクガ科	ハラゲチビエダシャク	<i>Satoblephara parvularia parvularia</i>			
415	チョウ目	シャクガ科	シロスジオオエダシャク	<i>Xandrames latiferaria latiferaria</i>			
416	チョウ目	シャクガ科	キマダラツバメエダシャク	<i>Thinopteryx crocoptera striolata</i>			
417	チョウ目	シャクガ科	ヒロバフユエダシャク	<i>Larerrannis miracula</i>			2006年調査でも記録
418	チョウ目	シャクガ科	シロフユエダシャク	<i>Agriopsis dira</i>			
419	チョウ目	シャクガ科	クロスジフユエダシャク	<i>Pachyerrannis obliquaria</i>			
420	チョウ目	シャクガ科	チャバネフユエダシャク	<i>Erannis golda</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
421	チョウ目	シャクガ科	シモフリゲエダシャク	<i>Cleora leucophaea</i>			
422	チョウ目	シャクガ科	シロトゲエダシャク	<i>Phigalia verecundaria</i>			
423	チョウ目	シャクガ科	オカモトゲエダシャク	<i>Apochima juglansaria</i>			
424	チョウ目	シャクガ科	キイロトゲエダシャク	<i>Apochima praeacutaria</i>		DD-2	延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
425	チョウ目	シャクガ科	チャエダシャク	<i>Megabiston plumosaria</i>			
426	チョウ目	シャクガ科	クロズエダシャク	<i>Biston marginata</i>			
427	チョウ目	シャクガ科	トビモンオオエダシャク	<i>Biston robustus robustus</i>			
428	チョウ目	シャクガ科	ウスイロオオエダシャク	<i>Amraica superans superans</i>			
429	チョウ目	シャクガ科	アミメオオエダシャク	<i>Mesastrape fulguraria consors</i>			
430	チョウ目	シャクガ科	ニトベエダシャク	<i>Wilemania nitobei</i>			
431	チョウ目	シャクガ科	アトジロエダシャク	<i>Pachyligia dolosa</i>			
432	チョウ目	シャクガ科	ハスオビエダシャク	<i>Descoreba simplex simplex</i>			
433	チョウ目	シャクガ科	キイロエダシャク	<i>Doratoptera virescens Marumo</i>			
434	チョウ目	シャクガ科	ナンカイキイロエダシャク	<i>Doratoptera amabilis</i>			延岡市初記録
435	チョウ目	シャクガ科	カバエダシャク	<i>Colotois pennaria ussuriensis</i>			
436	チョウ目	シャクガ科	ホソバトガリエダシャク	<i>Planociampa modesta</i>			
437	チョウ目	シャクガ科	ヒロバトガリエダシャク	<i>Planociampa antipala</i>			
438	チョウ目	シャクガ科	ウスクモエダシャク	<i>Menophra senilis</i>			
439	チョウ目	シャクガ科	ハスオビキエダシャク	<i>Scardamia aurantiacaria</i>			
440	チョウ目	シャクガ科	オオマエキトビエダシャク	<i>Nothomiza oxygoniodes</i>			
441	チョウ目	シャクガ科	エグリヅマエダシャク	<i>Odontoptera arida arida</i>			
442	チョウ目	シャクガ科	モンシロツマキエダシャク	<i>Xerodes albonotarius nesiotis</i>			
443	チョウ目	シャクガ科	ミスジツマキエダシャク	<i>Xerodes rufescentarius rufescentarius</i>			
444	チョウ目	シャクガ科	キマダラツマキエダシャク	<i>Zanclidia testacea</i>			延岡市初記録
445	チョウ目	シャクガ科	キエダシャク	<i>Auaxa sulphurea</i>			
446	チョウ目	シャクガ科	ミミモンエダシャク	<i>Eilicrinia wehrlii</i>			
447	チョウ目	シャクガ科	ツマキリウスエダシャク	<i>Pareclipsis gracilis</i>			
448	チョウ目	シャクガ科	エグリエダシャク	<i>Fascellina chromataria</i>			
449	チョウ目	シャクガ科	ナシモンエダシャク	<i>Garaeus mirandus mirandus</i>			
450	チョウ目	シャクガ科	キバラエダシャク	<i>Garaeus specularis mactans</i>			
451	チョウ目	シャクガ科	モミジツマキエダシャク	<i>Endropiodes indictinarius</i>			
452	チョウ目	シャクガ科	ナカキエダシャク	<i>Plagodis dolabraria</i>			
453	チョウ目	シャクガ科	ナカキエダシャク	<i>Plagodis dolabraria</i>			
454	チョウ目	シャクガ科	コナフエダシャク	<i>Plagodis pulveraria japonica</i>			
455	チョウ目	シャクガ科	アカネエダシャク	<i>Heterolocha coccinea</i>			
456	チョウ目	シャクガ科	ウラベエダシャク	<i>Heterolocha aristonaria</i>			
457	チョウ目	シャクガ科	シダエダシャク	<i>Petrophora chlorosata</i>			
458	チョウ目	シャクガ科	ツマトビシロエダシャク	<i>Spilopera debilis</i>			
459	チョウ目	シャクガ科	ヒメウコンエダシャク	<i>Corymica arnearia</i>			
460	チョウ目	シャクガ科	ウコンエダシャク	<i>Corymica pryeri</i>			
461	チョウ目	シャクガ科	ヘリグロキエダシャク	<i>Corymica deducta deducta</i>			延岡市初記録
462	チョウ目	シャクガ科	ウスキツバメエダシャク	<i>Ourapteryx nivea</i>			
463	チョウ目	シャクガ科	コガタツバメエダシャク	<i>Ourapteryx obtusicauda</i>			
464	チョウ目	シャクガ科	シロツバメエダシャク	<i>Ourapteryx maculicaudaria</i>			
465	チョウ目	ツバメガ科	ヤクシマギンツバメ	<i>Pseudomicronia advocataria</i>			
466	チョウ目	アゲハモドキガ科	アゲハモドキ	<i>Epicopeia hainesii hainesii</i>			
467	チョウ目	ツバメガ科	カバイロフタオ	<i>Oroplema oyamana</i>			延岡市初記録
468	チョウ目	ツバメガ科	ハガタフタオ	<i>Dysaethria flavistriga</i>			
469	チョウ目	ツバメガ科	クロホシフタオ	<i>Dysaethria moza</i>			
470	チョウ目	ツバメガ科	クロフタオ	<i>Epilema styx</i>			延岡市初記録
471	チョウ目	ツバメガ科	マルバナフタオ	<i>Notholodes prunaria</i>			
472	チョウ目	カレハガ科	ホシカレハ	<i>Gastropacha populifolia angustipennis</i>			
473	チョウ目	カレハガ科	カレハガ	<i>Gastropacha orientalis</i>			
474	チョウ目	カレハガ科	ギンモンカレハ	<i>Somadasya brevivenis brevivenis</i>			
475	チョウ目	カレハガ科	マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>			
476	チョウ目	カレハガ科	クヌギカレハ	<i>Kunugia undans flaveola</i>			
477	チョウ目	カレハガ科	ヤマダカレハ	<i>Kunugia yamadai</i>			急増中の椎茸原木害虫
478	チョウ目	カレハガ科	ウスズミカレハ	<i>Poecilocampa tamanukii</i>			延岡市初記録
479	チョウ目	カイコガ科	クワコ	<i>Bombyx mandarina</i>			
480	チョウ目	カイコガ科	オオクワゴモドキ	<i>Oberthueria falcigera</i>			
481	チョウ目	イボタガ科	イボタガ	<i>Brahmaea japonica</i>			
482	チョウ目	ヤママユガ科	ヤママユ	<i>Antheraea yamamai yamamai</i>			
483	チョウ目	ヤママユガ科	クスサン	<i>Satumia japonica japonica</i>			
484	チョウ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Satumia jonasii jonasii</i>			延岡市初記録
485	チョウ目	ヤママユガ科	オオミズアオ	<i>Actias aliena aliena</i>			
486	チョウ目	ヤママユガ科	エソツツメ	<i>Aglia japonica microtau</i>		NT-g	県の準絶滅危惧 (NT-g)
487	チョウ目	スズメガ科	クロメンガタスズメ	<i>Acherontia lachesis</i>			
488	チョウ目	スズメガ科	エゾシモフリスズメ	<i>Meganoton analis scribae</i>			延岡市初記録
489	チョウ目	スズメガ科	シモフリスズメ	<i>Psilogamma incretum</i>			
490	チョウ目	スズメガ科	サザナミスズメ	<i>Dolbina tancrei</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
491	チョウ目	スズメガ科	ホソバスズメ	<i>Ambulyx ochracea</i>			
492	チョウ目	スズメガ科	モモスズメ	<i>Marumba gaschkewitschii ecephron</i>			
493	チョウ目	スズメガ科	ウンモンズズメ	<i>Callambulyx tatarinovii gabyae</i>			
494	チョウ目	スズメガ科	ウンモンズズメ	<i>Callambulyx tatarinovii gabyae</i>			
495	チョウ目	スズメガ科	エソスズメ	<i>Phyllosphingia dissimilis dissimil</i>			
496	チョウ目	スズメガ科	キョウチクトウスズメ	<i>Daphnis nerii</i>			遇産種。hostツルニチソウ
497	チョウ目	スズメガ科	クルマスズメ	<i>Ampelophaga rubiginosa rubiginosa</i>			
498	チョウ目	スズメガ科	ハネナガブドウスズメ	<i>Acosmeryx naga naga</i>			
499	チョウ目	スズメガ科	ブドウスズメ	<i>Acosmeryx castanea</i>			延岡市初記録
500	チョウ目	スズメガ科	ホシヒメホウジャク	<i>Neogurelca himachala sangaica</i>			
501	チョウ目	スズメガ科	ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrrothosticta</i>			
502	チョウ目	スズメガ科	クロホウジャク	<i>Macroglossum saga</i>			
503	チョウ目	スズメガ科	フリツエホウジャク	<i>Macroglossum fritzei</i>			
504	チョウ目	スズメガ科	ベニスズメ	<i>Deilephila elpenor lewisii</i>			
505	チョウ目	スズメガ科	キイロスズメ	<i>Theretra nessus</i>			
506	チョウ目	スズメガ科	サツマスズメ	<i>Theretra clotho clotho</i>			
507	チョウ目	スズメガ科	コスズメ	<i>Theretra japonica</i>			
508	チョウ目	スズメガ科	セスジスズメ	<i>Theretra oldenlandiae oldenlandiae</i>			
509	チョウ目	スズメガ科	イッポンセスジスズメ	<i>Theretra silhetensis silhetensis</i>			
510	チョウ目	スズメガ科	ミスジビロードスズメ	<i>Rhagastis trilineata</i>			
511	チョウ目	シャチホコガ科	ギンモンズズメモドキ	<i>Tarsolepis japonica japonica</i>			
512	チョウ目	シャチホコガ科	シャチホコガ	<i>Stauropus fagi persimilis</i>			
513	チョウ目	シャチホコガ科	オオアオシャチホコ	<i>Syntypistis cyanea cyanea</i>			
514	チョウ目	シャチホコガ科	バイバラシロシャチホコ	<i>Cnethodonta griseescens griseescens</i>			
515	チョウ目	シャチホコガ科	シロシャチホコ	<i>Cnethodonta japonica</i>			
516	チョウ目	シャチホコガ科	タツタカモクメシャチホコ	<i>Paracerura tattakana</i>			
517	チョウ目	シャチホコガ科	ギンシャチホコ	<i>Harpyia umbrosa</i>			
518	チョウ目	シャチホコガ科	ホソバシャチホコ	<i>Fentonia ocypete</i>			
519	チョウ目	シャチホコガ科	クロシタシャチホコ	<i>Mesophalera sigmata</i>			
520	チョウ目	シャチホコガ科	ホソバネグロシャチホコ	<i>Disparia variegata sordida</i>			
521	チョウ目	シャチホコガ科	クロシタシャチホコ	<i>Mesophalera sigmata</i>			
522	チョウ目	シャチホコガ科	ホソバネグロシャチホコ	<i>Disparia variegata sordida</i>			
523	チョウ目	シャチホコガ科	オオネグロシャチホコ	<i>Eufentonia nihonica</i>			
524	チョウ目	シャチホコガ科	クロツマキシャチホコ	<i>Phalera minor</i>			
525	チョウ目	シャチホコガ科	モンクロシャチホコ	<i>Phalera flavescens</i>			
526	チョウ目	シャチホコガ科	ヘリスジシャチホコ	<i>Neopheosia fasciata japonica</i>			
527	チョウ目	シャチホコガ科	アオバシャチホコ	<i>Zaranga permagna</i>			
528	チョウ目	シャチホコガ科	クビワシャチホコ	<i>Shaka atrovittatus</i>			
529	チョウ目	シャチホコガ科	セダカシャチホコ	<i>Rabta cristata</i>			
530	チョウ目	シャチホコガ科	キシャチホコ	<i>Torigea straminea</i>			
531	チョウ目	シャチホコガ科	マエジロシャチホコ	<i>Notodonta albicosta</i>			
532	チョウ目	シャチホコガ科	ナカキシャチホコ	<i>Peridea gigantea</i>			
533	チョウ目	シャチホコガ科	ルリモンシャチホコ	<i>Peridea oberthueri</i>			
534	チョウ目	シャチホコガ科	シノノメシャチホコ	<i>Peridea elzet</i>			
535	チョウ目	シャチホコガ科	ネスジシャチホコ	<i>Fusadonta basilinea</i>			
536	チョウ目	シャチホコガ科	スズキシャチホコ	<i>Pheosiosis cinerea</i>			
537	チョウ目	シャチホコガ科	コトビモンシャチホコ	<i>Drymonia japonica</i>			
538	チョウ目	シャチホコガ科	ノヒラトビモンシャチホコ	<i>Drymonia basalis</i>			延岡市初記録
539	チョウ目	シャチホコガ科	タカオシャチホコ	<i>Hiradonta takaonis</i>			
540	チョウ目	シャチホコガ科	ツマジロシャチホコ	<i>Hexafrenum leucodera</i>			
541	チョウ目	シャチホコガ科	ツマジロシャチホコ	<i>Hexafrenum leucodera</i>			
542	チョウ目	シャチホコガ科	ハガタエグリシャチホコ	<i>Hagapteryx admirabilis</i>			
543	チョウ目	シャチホコガ科	シロスジエグリシャチホコ	<i>Fusapteryx ladislai</i>			
544	チョウ目	シャチホコガ科	ウスイロギンモンシャチホコ	<i>Spatialia doerriesi</i>			
545	チョウ目	シャチホコガ科	ツマアカシャチホコ	<i>Clostera anachoreta</i>			
546	チョウ目	シャチホコガ科	セグロシャチホコ	<i>Clostera anastomosis</i>			
547	チョウ目	ドクガ科	スギドクガ	<i>Calliteara argentata</i>			
548	チョウ目	ドクガ科	リンゴドクガ	<i>Calliteara pseudabietis</i>			
549	チョウ目	ドクガ科	アカヒゲドクガ	<i>Calliteara lunulata</i>			
550	チョウ目	ドクガ科	シタキドクガ	<i>Calliteara taiwana aurifera</i>			
551	チョウ目	ドクガ科	ブドウドクガ	<i>Ilema eurydice</i>			
552	チョウ目	ドクガ科	ヒメシロモンドクガ	<i>Orgyia thyellina</i>			
553	チョウ目	ドクガ科	スゲドクガ♀	<i>Laelia coenosa sangaica</i>			宮崎県初記録
554	チョウ目	ドクガ科	エルモンドクガ	<i>Arctormis l-nigrum ussuricum</i>			
555	チョウ目	ドクガ科	キアシドクガ	<i>Ivela auripes</i>			
556	チョウ目	ドクガ科	シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia albofascia</i>			
557	チョウ目	ドクガ科	マイマイガ	<i>Lymantria dispar japonica</i>			
558	チョウ目	ドクガ科	ナンネマイマイ	<i>Lymantria monacha</i>			
559	チョウ目	ドクガ科	マエグロマイマイ	<i>Lymantria xyliana nobunaga</i>			
560	チョウ目	ドクガ科	ニワトコドクガ	<i>Topomesoides jonassii</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
561	チョウ目	ドクガ科	クロモンドクガ	<i>Pida niphonis</i>			
562	チョウ目	ドクガ科	モンシロドクガ	<i>Sphrageidus similis</i>			
563	チョウ目	ドクガ科	ゴマフリドクガ	<i>Somena pulverea</i>			
564	チョウ目	ドクガ科	キドクガ	<i>Euproctis piperita</i>			延岡市初記録
565	チョウ目	ドクガ科	サカグチキドクガ	<i>Artaxa sakaguchii</i>			
566	チョウ目	ドクガ科	チャドクガ	<i>Somena pulverea</i>			
567	チョウ目	ヒトリガ科	ムジホソバ	<i>Eilema deplana pavescens</i>			
568	チョウ目	ヒトリガ科	ツマキホソバ	<i>Eilema laevis</i>			延岡市初記録
569	チョウ目	ヒトリガ科	キシタホソバ	<i>Eilema aegrota</i>			
570	チョウ目	ヒトリガ科	ヤネホソバ	<i>Eilema fuscodorsalis</i>			
571	チョウ目	ヒトリガ科	キマエホソバ	<i>Eilema japonica japonica</i>			
572	チョウ目	ヒトリガ科	ニセキマエホソバ	<i>Eilema nankingica</i>			延岡市初記録
573	チョウ目	ヒトリガ科	シロホソバ	<i>Eilema degenerella</i>			延岡市初記録
574	チョウ目	ヒトリガ科	ヒメキホソバ	<i>Eilema cribrata</i>			
575	チョウ目	ヒトリガ科	ナガサキムジホソバ	<i>Tigrioides immaculatus</i>			延岡市初記録
576	チョウ目	ヒトリガ科	ルリモンホソバ	<i>Chrysaeglia magnifica taiwana</i>		NT-g	県の準絶滅危惧 (NT-g)
577	チョウ目	ヒトリガ科	キマエクロホソバ	<i>Ghoria collitoides</i>			
578	チョウ目	ヒトリガ科	マエグロホソバ	<i>Conilepia nigricosta</i>			
579	チョウ目	ヒトリガ科	ヨツボシホソバ	<i>Lithosia quadra</i>			
580	チョウ目	ヒトリガ科	クビワウスグロホソバ	<i>Macrobrotis staudingeri staudingeri</i>			
581	チョウ目	ヒトリガ科	アサジシロコケガ	<i>Cyana hamata hamata</i>			
582	チョウ目	ヒトリガ科	クロスジチビコケガ	<i>Stictane rectilinea chinesica</i>			延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
583	チョウ目	ヒトリガ科	シロオビクロコケガ	<i>Siccia minuta</i>			
584	チョウ目	ヒトリガ科	ヒメホシキコケガ	<i>Lyclene dharma butleri</i>			
585	チョウ目	ヒトリガ科	クロテンハイロコケガ	<i>Eugoa grisea</i>			
586	チョウ目	ヒトリガ科	ハガタバニコケガ	<i>Barsine aberrans aberrans</i>			
587	チョウ目	ヒトリガ科	ベニヘリコケガ	<i>Miltchrista miniata rosaria</i>			
588	チョウ目	ヒトリガ科	スジベニコケガ	<i>Barsine striata striata</i>			
589	チョウ目	ヒトリガ科	ゴマダラキコケガ	<i>Stigmatophora leacrita</i>			
590	チョウ目	ヒトリガ科	チャオビチビコケガ	<i>Philenora latifasciata</i>			
591	チョウ目	ヒトリガ科	ウスハフタホシコケガ	<i>Schistophleps bipuncta</i>			
592	チョウ目	ヒトリガ科	スカシコケガ	<i>Nudaria ranruna</i>			
593	チョウ目	ヒトリガ科	スジモンヒトリ	<i>Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata</i>			
594	チョウ目	ヒトリガ科	アカヒトリ	<i>Lemyra flammeola</i>			
595	チョウ目	ヒトリガ科	クワゴマダラヒトリ	<i>Lemyra imparilis</i>			
596	チョウ目	ヒトリガ科	アカハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma punctarium</i>			
597	チョウ目	ヒトリガ科	シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>			
598	チョウ目	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>			
599	チョウ目	コブガ科	クロスジシロコブガ	<i>Nola taeniata</i>			
600	チョウ目	コブガ科	マエモンコブガ	<i>Nola japonibia</i>			
601	チョウ目	コブガ科	ヒメコブガ	<i>Nola confusalis</i>			延岡市初記録
602	チョウ目	コブガ科	ナミコブガ	<i>Nola nami</i>			
603	チョウ目	コブガ科	フタモンコブガ	<i>Nola exumbrata</i>			
604	チョウ目	コブガ科	ソトジロコブガ	<i>Manoba fasciatus</i>			延岡市初記録
605	チョウ目	コブガ科	シロフチビコブガ	<i>Manoba microphasma</i>			
606	チョウ目	コブガ科	イナスマコブガ	<i>Meganola triangularis</i>			
607	チョウ目	ヤガ科	ホリシャキシタケンモン	<i>Trisuloides sericea</i>			
608	チョウ目	ヤガ科	コウスバリケンモン	<i>Anacronicta caliginea</i>			
609	チョウ目	ヤガ科	カラフトゴマケンモン	<i>Panthea coenobita idea</i>			
610	チョウ目	ヤガ科	ゴマケンモン	<i>Moma alpium</i>			
611	チョウ目	ヤガ科	スギタニゴマケンモン	<i>Harrisimema marmorata</i>	NT-r		延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
612	チョウ目	ヤガ科	ヒメケンモン	<i>Gerbathodes angusta</i>			宮崎県初記録
613	チョウ目	ヤガ科	シロシタケンモン	<i>Hylonycta hercules</i>			
614	チョウ目	ヤガ科	ナシケンモン	<i>Viminia rumicis</i>			
615	チョウ目	ヤガ科	シマケンモン	<i>Craniophora fasciata</i>			
616	チョウ目	ヤガ科	アミケンモン	<i>Lophonycta confusa</i>			
617	チョウ目	ヤガ科	ウスアオキノコトウ	<i>Stenoloba clara</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録)
618	チョウ目	ヤガ科	ウンモンキノコトウ	<i>Stenoloba manleyi manleyi</i>			
619	チョウ目	ヤガ科	シロスジキノコトウ	<i>Stenoloba jankowskii</i>			
620	チョウ目	ヤガ科	タバコガ	<i>Helicoverpa assulta assulta</i>			
621	チョウ目	ヤガ科	オオカブラヤガ	<i>Agrotis tokionis</i>			延岡市初記録
622	チョウ目	ヤガ科	カブラヤガ	<i>Agrotis segetum</i>			
623	チョウ目	ヤガ科	ホソアオバヤガ	<i>Actebia praecox flavomaculata</i>			宮崎県初記録
624	チョウ目	ヤガ科	クロクモヤガ	<i>Hermonassa cecilia</i>			
625	チョウ目	ヤガ科	カバズジャガ	<i>Sineugraphe exusta</i>			
626	チョウ目	ヤガ科	オオバコヤガ	<i>Diarsia canescens</i>			
627	チョウ目	ヤガ科	ウスイロアカフヤガ	<i>Diarsia ruficauda</i>			延岡市初記録
628	チョウ目	ヤガ科	シロモンヤガ	<i>Xestia c-nigrum</i>			
629	チョウ目	ヤガ科	キシタミドリヤガ	<i>Xestia efflorescens</i>			
630	チョウ目	ヤガ科	ヨトウガ	<i>Mamestra brassicae</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
631	チョウ目	ヤガ科	フタスジトウ	<i>Protomiselia bilinea</i>			
632	チョウ目	ヤガ科	ケンモンキリガ	<i>Egira saxeae</i>			
633	チョウ目	ヤガ科	カバキリガ	<i>Orthosia evanida</i>			
634	チョウ目	ヤガ科	カギモンキリガ	<i>Orthosia nigromaculata</i>			
635	チョウ目	ヤガ科	フナキリガ	<i>Orthosia paromoea</i>			
636	チョウ目	ヤガ科	シロヘリキリガ	<i>Orthosia limbata</i>			
637	チョウ目	ヤガ科	スモモキリガ	<i>Anorthoa munda</i>			
638	チョウ目	ヤガ科	ウスベニキリガ	<i>Orthosia cedermarki</i>			死体。延岡市2例目。わけ球しい。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
639	チョウ目	ヤガ科	アカバキリガ	<i>Orthosia carnipennis</i>			
640	チョウ目	ヤガ科	フタオビキョトウ	<i>Mythimna turca</i>			
641	チョウ目	ヤガ科	ウラギンキョトウ	<i>Mythimna hamifera</i>			
642	チョウ目	ヤガ科	スジグロキョトウ	<i>Mythimna nigrilinea</i>			
643	チョウ目	ヤガ科	マメチャイロキョトウ	<i>Mythimna stolidia</i>			
644	チョウ目	ヤガ科	アウヨトウ	<i>Mythimna separata</i>			
645	チョウ目	ヤガ科	ケンモンミドリキリガ	<i>Daseochaeta viridis</i>			
646	チョウ目	ヤガ科	ヒロバモクメキリガ	<i>Xylena changi</i>			延岡市初記録
647	チョウ目	ヤガ科	キバラモクメキリガ	<i>Xylena formosa</i>			
648	チョウ目	ヤガ科	チャマダラキリガ	<i>Rhynchaglaea scitula</i>			
649	チョウ目	ヤガ科	ナワキリガ	<i>Conistra nawae</i>			
650	チョウ目	ヤガ科	ヒマラヤハガタヨトウ	<i>Nyctycia strigidisca owadai</i>			
651	チョウ目	ヤガ科	ヤマトハガタヨトウ	<i>Nyctycia stenoptera</i>		NT-g	絶滅危惧種(NT-g)
652	チョウ目	ヤガ科	ヘーネアオハガタヨトウ	<i>Nyctycia hoenei</i>		NT-g	県の準絶滅危惧(NT-g)
653	チョウ目	ヤガ科	オオハガタヨトウ	<i>Mniotype melanodonta</i>			
654	チョウ目	ヤガ科	ミドリハガタヨトウ	<i>Meganephria extensa</i>			延岡市初記録
655	チョウ目	ヤガ科	ネスジシラクモヨトウ	<i>Apamea hamponi</i>			
656	チョウ目	ヤガ科	アオフシラクモヨトウ	<i>Antapamea conciliata</i>			延岡市初記録。「少ない」(宮崎県昆虫目録)
657	チョウ目	ヤガ科	イネヨトウ	<i>Sesamia inferens</i>			
658	チョウ目	ヤガ科	ソトシロフヨトウ	<i>Colocassida albifera</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録)
659	チョウ目	ヤガ科	マエグロシラオビアカガネヨトウ	<i>Phlogophora albiovittata</i>			
660	チョウ目	ヤガ科	シロアアオトウ	<i>Xenotrachea niponica</i>			
661	チョウ目	ヤガ科	クロモクメヨトウ	<i>Dypterygia caliginosa</i>			
662	チョウ目	ヤガ科	モクメヤガ	<i>Axylia putris</i>			
663	チョウ目	ヤガ科	アオアカガネヨトウ	<i>Karana laetevirens</i>			
664	チョウ目	ヤガ科	ハスモンヨトウ	<i>Spodoptera litura</i>			
665	チョウ目	ヤガ科	スジキリヨトウ	<i>Spodoptera depravata</i>			フジバカマ吸蜜
666	チョウ目	ヤガ科	クロテンヨトウ	<i>Athetis cinerascens</i>			
667	チョウ目	ヤガ科	シロテンウスグロトウ	<i>Athetis albispinata</i>			
668	チョウ目	ヤガ科	ヒメサビスジヨトウ	<i>Athetis stellata</i>			
669	チョウ目	ヤガ科	シロモンオビヨトウ	<i>Athetis lineosa</i>			
670	チョウ目	ヤガ科	オオシマカラスヨトウ	<i>Amphipyra monolitha sumia</i>			
671	チョウ目	ヤガ科	カラスヨトウ	<i>Amphipyra livida corvina</i>			
672	チョウ目	ヤガ科	ツクシカラスヨトウ	<i>Callyna contracta</i>			
673	チョウ目	ヤガ科	シマキリガ	<i>Cosmia achatina</i>			
674	チョウ目	ヤガ科	クロハナギンガ	<i>Chasminodes sugii</i>			延岡市初記録。「ごくまれ」(宮崎県昆虫目録)
675	チョウ目	ヤガ科	ウススジギンガ	<i>Chasminodes cilia</i>			
676	チョウ目	ヤガ科	オオホシミミヨトウ	<i>Condica illecta</i>			フジバカマ吸蜜
677	チョウ目	ヤガ科	キクビヒメヨトウ	<i>Prometopus flavicollis</i>			
678	チョウ目	ヤガ科	ムラサキツマキリヨトウ	<i>Callopietria juvenina</i>			
679	チョウ目	ヤガ科	ヒメツマキリヨトウ	<i>Callopietria duplicans</i>			
680	チョウ目	ヤガ科	マダラツマキリヨトウ	<i>Callopietria repleta</i>			
681	チョウ目	ヤガ科	アヤナツマキリヨトウ	<i>Callopietria placodoides</i>			
682	チョウ目	ヤガ科	マルモンシロガ	<i>Sphragifera sigillata</i>			
683	チョウ目	ヤガ科	ヤマトホソヤガ	<i>Lophoptera hayesi</i>			
684	チョウ目	コバガ科	リュウキュウキノカワガ	<i>Risoba prominens</i>			
685	チョウ目	コバガ科	キノカワガ	<i>Blenina senex</i>			
686	チョウ目	コバガ科	ミドリキノカワガ	<i>Blenina angulipennis</i>			延岡市初記録。稀種。
687	チョウ目	コバガ科	ネスジキノカワガ	<i>Garella ruficirra</i>			延岡市初記録
688	チョウ目	コバガ科	マエモンシロキノカワガ	<i>Nycteola costalis</i>			
689	チョウ目	コバガ科	ヘニモンアオリンガ	<i>Earias roseifera</i>			
690	チョウ目	コバガ科	クロモンオビリンガ	<i>Gelastocera rubicundula</i>			
691	チョウ目	コバガ科	ウスアオリンガ	<i>Paracrama angulata</i>			
692	チョウ目	コバガ科	ミドリリンガ	<i>Clethrophora distincta</i>			
693	チョウ目	コバガ科	ツクシアオリンガ	<i>Hylophilodes tsukusensis</i>			
694	チョウ目	コバガ科	アオスジアオリンガ	<i>Pseudoips prasinanus</i>			
695	チョウ目	コバガ科	トビイロリンガ	<i>Siglophora ferreilutea</i>			
696	チョウ目	コバガ科	ギンボシリンガ	<i>Ariolica argentea</i>			
697	チョウ目	コバガ科	ハイイロリンガ	<i>Gabala argentata</i>			
698	チョウ目	ヤガ科	クロハナコヤガ	<i>Aventiola pusilla</i>			
699	チョウ目	ヤガ科	シマフコヤガ	<i>Corgatha nitens</i>			
700	チョウ目	ヤガ科	カバイロシマコヤガ	<i>Corgatha argillacea</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
701	チョウ目	ヤガ科	ツマトビコヤガ	<i>Autoba tristalis</i>			
702	チョウ目	ヤガ科	ウスベニコヤガ	<i>Sophta subrosea</i>			
703	チョウ目	ヤガ科	テンモンシマコヤガ	<i>Sophta ruficeps</i>			
704	チョウ目	ヤガ科	ヤマトコヤガ	<i>Arasada ornata</i>			
705	チョウ目	ヤガ科	モモイロツマキリコヤガ	<i>Lophorufa pulcherrima</i>			
706	チョウ目	ヤガ科	モンシロクルマコヤガ	<i>Oruza glaucotoma</i>			
707	チョウ目	ヤガ科	ウスキコヤガ	<i>Oruza brunnea</i>			
708	チョウ目	ヤガ科	ヒメオビコヤガ	<i>Maliattha arefacta</i>			
709	チョウ目	ヤガ科	ヒメネジロコヤガ	<i>Maliattha signifera</i>			
710	チョウ目	ヤガ科	ネジロコヤガ	<i>Maliattha chalcogramma</i>			
711	チョウ目	ヤガ科	シロフコヤガ	<i>Protodeltote pygarga</i>			
712	チョウ目	ヤガ科	シロマダラコヤガ	<i>Protodeltote distinguenda</i>			
713	チョウ目	ヤガ科	ウスアオモンコヤガ	<i>Bryophilina mollicula</i>			
714	チョウ目	ヤガ科	モンキコヤガ	<i>Hyperstrotia flavipuncta</i>			
715	チョウ目	ヤガ科	ヒメシロテンコヤガ	<i>Amyna axis</i>			
716	チョウ目	ヤガ科	サビイロコヤガ	<i>Amyna stellata</i>			
717	チョウ目	ヤガ科	フタガリコヤガ	<i>Xanthodes transversa</i>			
718	チョウ目	ヤガ科	イラクサギンウワバ	<i>Trichoplusia ni</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録)
719	チョウ目	ヤガ科	キクキンウワバ	<i>Thysanoplusia intermixta</i>			
720	チョウ目	ヤガ科	アミメギンウワバ	<i>Trichoplusia daubei</i>			宮崎県初記録
721	チョウ目	ヤガ科	エゾギクキンウワバ	<i>Ctenoplusia albostrata</i>			
722	チョウ目	ヤガ科	ミツモンキンウワバ	<i>Ctenoplusia agnata</i>			
723	チョウ目	ヤガ科	イチジクキンウワバ	<i>Chrysodeixis eriosoma</i>			
724	チョウ目	ヤガ科	マメキシタバ	<i>Catocala duplicata</i>			延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
725	チョウ目	ヤガ科	エゾシロシタバ	<i>Catocala dissimilis</i>			「まれ」(宮崎県昆虫目録)
726	チョウ目	ヤガ科	ゴマシオキシタバ	<i>Catocala nubila</i>			
727	チョウ目	ヤガ科	ウスイロキシタバ	<i>Catocala intacta intacta</i>			
728	チョウ目	ヤガ科	ヤクシマヒメキシタバ	<i>Catocala tokui tokui</i>		EN-r	県の絶滅危惧1B類(EN-r) 延岡市初記録。
729	チョウ目	ヤガ科	クロモンシタバ	<i>Ophiura tirhaca</i>			過産種。記録はある。
730	チョウ目	ヤガ科	シラホシアシブトクチバ	<i>Achaea janata</i>			フジバカマ吸蜜 ★南方系の過産種
731	チョウ目	ヤガ科	オキナワアシブトクチバ	<i>Bastilla arcuata</i>			
732	チョウ目	ヤガ科	ムラサキアシブトクチバ	<i>Bastilla maturata</i>			
733	チョウ目	ヤガ科	ホソオビアシブトクチバ	<i>Parallelia arctotaenia</i>			
734	チョウ目	ヤガ科	ヒメアシブトクチバ	<i>Parallelia dulcis</i>			
735	チョウ目	ヤガ科	ナガグロクチバ	<i>Grammodes geometrica</i>			
736	チョウ目	ヤガ科	オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>			
737	チョウ目	ヤガ科	ウンモンクチバ	<i>Mocis annetta</i>			
738	チョウ目	ヤガ科	ニセウンモンクチバ	<i>Mocis ancilla</i>			
739	チョウ目	ヤガ科	サンカククチバ	<i>Trigonodes hyppasia hyppasia</i>			
740	チョウ目	ヤガ科	ムクゲコノハ	<i>Thyas junio</i>			
741	チョウ目	ヤガ科	ツキワクチバ	<i>Artena dotata</i>			
742	チョウ目	ヤガ科	フクラスズメ	<i>Arcte coerulea</i>			
743	チョウ目	ヤガ科	カキバトモエ	<i>Hypopyra vespertilio</i>			
744	チョウ目	ヤガ科	オスグロトモエ	<i>Spirama retorta</i>			
745	チョウ目	ヤガ科	ハグルマトモエ	<i>Spirama helicina</i>			
746	チョウ目	ヤガ科	オオトモエ	<i>Erebus ephesperis</i>			
747	チョウ目	ヤガ科	シロスジトモエ	<i>Metopta rectifasciata</i>			
748	チョウ目	ヤガ科	アサマクビグロクチバ	<i>Lygephila vulcana</i>			延岡市初記録
749	チョウ目	ヤガ科	アカキリバ	<i>Gonitis mesogona</i>			
750	チョウ目	ヤガ科	オオアカキリバ	<i>Rusicada commoda</i>			
751	チョウ目	ヤガ科	ムラサキオオアカキリバ	<i>Rusicada leucolopha</i>			
752	チョウ目	ヤガ科	ブライヤキリバ	<i>Gonicraspidum pryeri</i>			
753	チョウ目	ヤガ科	オオエグリバ	<i>Calyptra gruesa</i>			
754	チョウ目	ヤガ科	ハイイロオオエグリバ	<i>Calyptra albivirgata</i>			延岡市初記録
755	チョウ目	ヤガ科	ヒメエグリバ	<i>Oraesia emarginata</i>			
756	チョウ目	ヤガ科	アカエグリバ	<i>Oraesia excavata</i>			
757	チョウ目	ヤガ科	キンモンエグリバ	<i>Plusiodonta coelonota</i>			
758	チョウ目	ヤガ科	アケビコノハ	<i>Eudocima tyrannus</i>			
759	チョウ目	ヤガ科	タイワンキシタクチバ	<i>Hypocala subsatura</i>			
760	チョウ目	ヤガ科	オオルリオビクチバ	<i>Ischyja manlia</i>			延岡市初記録。過産種。
761	チョウ目	ヤガ科	アヤシラフクチバ	<i>Sypnoides hercules</i>			
762	チョウ目	ヤガ科	オオシロテンクチバ	<i>Hypersypnoides submarginata</i>			
763	チョウ目	ヤガ科	ハガタクチバ	<i>Daddala lucilla</i>			
764	チョウ目	ヤガ科	コウンモンクチバ	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>			
765	チョウ目	ヤガ科	ナカジロシタバ	<i>Hypomecis definita</i>			
766	チョウ目	ヤガ科	ウスグロクチバ	<i>Avitta puncta</i>			
767	チョウ目	ヤガ科	オオトウウスグロクチバ	<i>Avitta fasciosa</i>			延岡市初記録
768	チョウ目	ヤガ科	カバフヒメクチバ	<i>Mecodina cineracea</i>			
769	チョウ目	ヤガ科	シャクドウクチバ	<i>Mecodina nubiferalis</i>			
770	チョウ目	ヤガ科	カザリツマキリアツバ	<i>Tamba igniflua</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
771	チョウ目	ヤガ科	チョウセンツマキリアツバ	<i>Tamba corealis</i>			
772	チョウ目	ヤガ科	ソトハガタアツバ	<i>Olulis puncticinctalis</i>			延岡市初記録
773	チョウ目	ヤガ科	ツマムラサキアツバ	<i>Olulis japonica</i>			珍?九州本土記録少
774	チョウ目	ヤガ科	ウスモイロアツバ	<i>Olulis ayumiae</i>			
775	チョウ目	ヤガ科	ソトウスベニアツバ	<i>Sarcopteron fasciatum</i>			
776	チョウ目	ヤガ科	シロツマキリアツバ	<i>Pangrapta porphyrea</i>			延岡市初記録。「まれ」(宮崎県昆虫目録)
777	チョウ目	ヤガ科	ムラサキツマキリアツバ	<i>Callopietria juvenina</i>			
778	チョウ目	ヤガ科	マエモンツマキリアツバ	<i>Pangrapta costinotata</i>			
779	チョウ目	ヤガ科	リンゴツマキリアツバ	<i>Pangrapta obscurata</i>			
780	チョウ目	ヤガ科	ヒメエグリアツバ	<i>Euwilemania angulata</i>			
781	チョウ目	ヤガ科	シマアツバ	<i>Hepatica linealis</i>			
782	チョウ目	ヤガ科	ナンキシマアツバ	<i>Hepatica nakatanii</i>			
783	チョウ目	ヤガ科	ムラサキアツバ	<i>Diomea cremata</i>			延岡市初記録
784	チョウ目	ヤガ科	ヨツモンムラサキアツバ	<i>Diomea discisigna</i>			
785	チョウ目	ヤガ科	トビフタスジアツバ	<i>Leiostola mollis</i>			
786	チョウ目	ヤガ科	ベニトガリアツバ	<i>Naganoella timandra</i>			延岡市初記録
787	チョウ目	ヤガ科	ニジオビベニアツバ	<i>Homodes vivida</i>		かつてNT-g	
788	チョウ目	ヤガ科	ウスグロセニジモンアツバ	<i>Paragona inchoata</i>			
789	チョウ目	ヤガ科	スジモンアツバ	<i>Microxylla confusa</i>			
790	チョウ目	ヤガ科	ウラモンチビアツバ	<i>Micreremites pyraloides</i>			延岡市初記録
791	チョウ目	ヤガ科	クロテンカバアツバ	<i>Anachrostis nigripunctalis</i>			延岡市初記録
792	チョウ目	ヤガ科	フタテンチビアツバ	<i>Neachrostia bipuncta</i>			まれ。
793	チョウ目	ヤガ科	テングロアツバ	<i>Rivula sericealis</i>			
794	チョウ目	ヤガ科	タケアツバ	<i>Rivula leucanioides</i>			
795	チョウ目	ヤガ科	フタテンアツバ	<i>Rivula inconspicua</i>			
796	チョウ目	ヤガ科	シロズアツバ	<i>Ectogonia butleri</i>			
797	チョウ目	ヤガ科	マエキトガリアツバ	<i>Anoratha costalis</i>			
798	チョウ目	ヤガ科	タイウンキシタアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>			
799	チョウ目	ヤガ科	オオトビモンアツバ	<i>Hypena occata</i>			
800	チョウ目	ヤガ科	ウスチャモンアツバ	<i>Hypena innocuoides</i>			
801	チョウ目	ヤガ科	トビモンアツバ	<i>Hypena indicatalis</i>			
802	チョウ目	ヤガ科	アオアツバ	<i>Hypena subcyanea</i>			
803	チョウ目	ヤガ科	ハナトガリアツバ	<i>Hypena sp.</i>			大図鑑Plate221:18-20(CatNo無し)
804	チョウ目	ヤガ科	アオアツバ	<i>Hypena subcyanea</i>			
805	チョウ目	ヤガ科	サザナミアツバ	<i>Hypena abducalis</i>			
806	チョウ目	ヤガ科	メスカバフアツバ	<i>Hypena sp.</i>			延岡市初記録
807	チョウ目	ヤガ科	ナカシロテンアツバ	<i>Bomolocha albopunctalis</i>			延岡市初記録
808	チョウ目	ヤガ科	ヤマガタアツバ	<i>Bomolocha stygiana</i>			
809	チョウ目	ヤガ科	ハンダアツバ	<i>Bomolocha squalida</i>			
810	チョウ目	ヤガ科	マガリウスツマアツバ	<i>Bomolocha mandarina</i>			延岡市初記録
811	チョウ目	ヤガ科	シラナミクアツバ	<i>Adrapsa simplex</i>			
812	チョウ目	ヤガ科	フジロアツバ	<i>Adrapsa notigera</i>			
813	チョウ目	ヤガ科	ニセフジロアツバ	<i>Adrapsa subnotigera</i>			
814	チョウ目	ヤガ科	ソトウスグロアツバ	<i>Hydrillodes lentalis</i>			
815	チョウ目	ヤガ科	ヒロオビウスグロアツバ	<i>Hydrillodes morosus</i>			
816	チョウ目	ヤガ科	マルシラホシアツバ	<i>Edessena gentiusalis</i>			
817	チョウ目	ヤガ科	オオシラホシアツバ	<i>Edessena hamada</i>			
818	チョウ目	ヤガ科	ソトウスアツバ	<i>Hadennia obliqua</i>			
819	チョウ目	ヤガ科	ヒメハナマガリアツバ	<i>Hadennia nakatanii</i>			
820	チョウ目	ヤガ科	フサキバアツバ	<i>Mosopia sordida</i>			延岡市初記録
821	チョウ目	ヤガ科	ハナオイアツバ	<i>Cidariplura gladiata</i>			
822	チョウ目	ヤガ科	シロモンアツバ	<i>Paracolax albinotata</i>			延岡市初記録
823	チョウ目	ヤガ科	ウスキモンアツバ	<i>Paracolax sugii</i>			
824	チョウ目	ヤガ科	ニセミスジアツバ	<i>Paracolax bilineata</i>			延岡市初記録
825	チョウ目	ヤガ科	フタスジアツバ	<i>Bertula bistrigata</i>			
826	チョウ目	ヤガ科	オオアカマエアツバ	<i>Simplicia niphona</i>			
827	チョウ目	ヤガ科	ニセアカマエアツバ	<i>Simplicia xanthoma</i>			
828	チョウ目	ヤガ科	ウスグロアツバ	<i>Zanclognatha fumosa</i>			
829	チョウ目	ヤガ科	トビスジアツバ	<i>Leiostola mollis</i>			
830	チョウ目	ヤガ科	トビイロトラガ	<i>Sarbanissa subflava</i>			
831	チョウ目	ヤガ科	ベニモントラガ	<i>Sarbanissa venusta</i>			

6. 参考文献

日本産蛾類大図鑑（講談社）昭和 57 年 9 月 20 日

日本の蛾（学研）岸田泰則 2020 年 8 月 11 日

宮崎県昆虫目録 宮崎昆虫調査研究会 2020 年 9 月 10 日

冬尺蛾（むし社）2017 年 10 月 25 日

WEB「みんなで作る日本産蛾類図鑑」(<http://www.jpmoth.org/index.html>)

WEB「昆虫親父日記」(http://insectsubaru.blogspot.com/2020/04/blog-post_28.html)

WEB「私家版里山図鑑」(<https://ameblo.jp/hayenokaze/>)

WEB「春夏秋冬の昆虫写真館」(<http://syunnkasyuutousyasinnkann.web.fc2.com/index.html>)

WEB「南四国の蛾」(<http://homepage64.private.coocan.jp/index.htm>)

延岡市環境基本計画自然環境調査報告書データ集（2000）

第 2 次延岡市環境基本計画自然環境調査報告書データ集（2011）

蛾類通信 No.281 p.137, 2017 年 5 月 1 日（ミドリキノカワガ、四国の記録）

昆虫－カメムシ類

調査担当者：小松 孝寛

調査協力者：岩切 康二

延岡市自然環境調査 報告書 (昆虫ーカメムシ類)

小松 孝寛

1. はじめに

カメムシ類(半翅目異翅亜目および頸吻亜目)の調査は過去2回の延岡市自然環境調査では行われていない。今回が初めての調査となるので、過去の文献や標本も調査し、全体像をつかむように努力した。その中で、1970年に行われた大崩山の自然林伐採時のヒラタカメムシ類の調査に興味をひかれた。大規模な自然林伐採直後にしか採集されていない種がいくつかあり、その後は県内での記録はなく、全国的にも非常に珍しい種が記録されていた。また、大崩山や鬼の目山には県内では珍しい北方系の種が生息していたことが印象に残った。

2. 調査方法等

過去の標本記録、過去の文献記録、過去の採集記録(未発表分)
ライト採集、ビーティング、スワイピング、撮影、目視

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

文献記録だけのものも含めると、今回の調査で異翅亜目324種、頸吻亜目106種の合計430種の半翅目昆虫が確認できた。ただし、腹吻亜目については調査を行っていない。注目すべき種として以下のものがある。

オオキンカメムシ

Eucorysses grandis (Thunberg, 1783)

照葉樹林内に生えているアブラギリを寄主としている。行動範囲は広く、市街地に近い今山からも記録されている。幼虫はアブラギリの実で多く見られ、成虫は常緑樹の葉裏などで越冬する。



図1 オオキンカメムシ♀

アカスジキンカメムシ

Poecilocoris lewisi (Distant, 1883)

金緑色と赤橙色の模様が美しいカメムシである。種々の樹木を寄主とするが、県内ではキブシを好んで用いている。カメムシとしては珍しく終齢幼虫で越冬する。冬期に林内を探すと、成虫とは全く姿の異なる鳥の糞に擬態した終齢幼虫が見つかる。



図2 アカスジキンカメムシ♀

アオクチブトカメムシ

Dinorhynchus dybowskyi Jakovlev, 1876

北方系の肉食性カメムシで大崩山から記録がある。樹上で生活し、主に鱗翅目幼虫を捕食する。カメムシとしては珍しく卵で越冬する。今回の調査では、上鹿川鬼の目山林道で広葉樹をスイープすることで得られた。



図3 アオクチブトカメムシ♂

トゲシラホシカメムシ

Eysarcoris aeneus (Scopoli, 1763)

県内に生息するシラホシカメムシ属 *Eysarcoris* 4種のなかで最も個体数が少ないが、家田・川坂の湿原地帯には多産する。前胸背側角が突出し、小楯板基部の黄白色紋が斜めに走る。エノコログサなど野生のイネ科植物に寄生するが、ときに水田にも侵入する。



図4 交尾するトゲシラホシカメムシ

ベニツチカメムシ

Parastrachia japonensis (Scott, 1880) 宮崎県 NT-g

紅色に大きな黒紋がある綺麗なカメムシである。ポロポロノキを寄主とし、子育てをするカメムシとして知られている（塚本・藤條 1992）。母虫は地面に巣を造り、ポロポロノキの実を巣まで運び、仔虫に与える。帰巣するためのナビゲーション能力を具えていたり、交尾は雌雄同方向を向いて行うなど、興味深い生態を持っている。集団を形成して休眠する。



図5 ベニツチカメムシ♂



図6 ベニツチカメムシ休眠集団
(撮影：谷口幸司)

ベニモンツノカメムシ

Elasmostethus humeralis Jakovlev, 1883

北方系のツノカメムシで、県内では主に高標高地に生息している。大崩山や五ヶ瀬町の白岩山などで記録されているが、1959年と1960年には延岡市内での記録も残っている。今回の調査では、上鹿川の鬼の目山林道で確認した。



図7 ベニモンツノカメムシ♀

ヒメアオモンツノカメムシ

Elasmostethus rotundus Yamamoto, 2003

前種と同じく北方系のツノカメムシで、北海道以外では山地性となる。県内でも椎葉村大河内や大崩山などの高標高地帯で記録されている。南方系のアオモンツノカメムシに似ているが、背中の赤いX字状の紋が特徴である。上鹿川鬼の目山林道でのライト調査時にアオモンツノカメムシと一緒に確認できた。



図8 ヒメアオモンツノカメムシ♀

ケブカキベリナガカスミカメ

Dryophilocoris miyamotoi Yasunaga, 1999

宮崎県内では、2018年に宮崎市と延岡市北方町で初めて記録された(小松2018)。図鑑にはミズナラとカシワに寄生するとあるが、北方町の産地では同属のコナラから採集した。



図9 ケブカキベリナガカスミカメ♀

キアシクロホソカスミカメ

Phylus miyamotoi Yasunaga, 1999

日本全国に広く分布し、西日本では年に一度5~6月に発生する。過去に宮崎県内の記録は見当たらなかったが、今回の調査で延岡市北方町に生えるコナラから採集した。これが宮崎県内初記録と思われる。



図10 キアシクロホソカスミカメ♀

ケブカアカツヤカスミカメ

Cimicicapsus koreanus (Linnavuori, 1963)

高標高で自然林の生える場所に生息している。個体数の少ない種類であり、県内からは今回の記録が2例目となる。最初の記録は西米良村の天包山である（小松2016）。今回の調査では大崩山登山口近くに生えているハルニレから採集した。西米良村で確認されたのは終齢幼虫であったので、成虫の記録はこれが初めてだと思われる。



図 11 ケブカアカツヤカスミカメ♂

ソデフリカスミカメ

Ernestinus kasumi Yasunaga & Ishikawa, 2016

2016年に新たに記載された種で、南西諸島に分布するモンシロクワズイモカスミカメに酷似している（安永2017）。クワズイモ科テンナンショウ属のオオハンゲを主な寄主としており、宮崎県では2014年と2017年に宮崎市鏡洲の丸野稲荷神社で確認された（前田2018）。今回の調査では下三輪町と安井町の道路沿いに生えるオオハンゲから確認した。県北初記録である。



図 12 ソデフリカスミカメ♀

ベニモンマキバサシガメ

Gorpis (Gorpis) japonicus Kerzhner, 1968

本州・四国・九州の山地に棲む個体数の少ない種である。図鑑によるとクルミやキリの葉裏で小さい昆虫を捕食すると書かれているが、どのような種類の昆虫を捕食するのかは具体的には解明されていない。今回、延岡市で42年ぶりに2個体を確認した。ひとつは大崩山山麓で夜間採集しているときにライトに来たもので、もうひとつは北方町蔵田でヌルデの花をスweepingして得られた。ヌルデをスweepしたネットにヨコバイの幼虫も多数いた。このヨコバイ幼虫の飼育を試みたところ、数日後にホシヒメヨコバイ *Limassolla multipunctata* が羽化した。このことから、ベニモンマキバサシガメはホシヒメヨコバイの幼虫を捕食していたものと思われる。



図 13 ベニモンマキバサシガメ♀



図 14 ホシヒメヨコバイの終齢幼虫と成虫

アシナガナガカメムシ（環境省 RL 準絶滅危惧 NT）

Poecantius lineatus Stål, 1874

本州から九州にかけて局地的に分布する海浜性のカメムシである。動きは敏捷で、海浜性のハンミョウ類やハマベツチカメムシが生息している場所で見つかることが多い。県内では日向市と宮崎市から記録されているが、延岡市では初めての記録と思われる。



図 15 アシナガナガカメムシ♂

イトカメムシ

Yemma exilis Horváth, 1905

イトカメムシは細長い体に糸のように細い触角と脚が付いている。県内では、延岡市神戸町で 2017 年に初めて記録された（小松 2017）。今回、北方町蔵田で確認した個体は 2 例目となる。いずれもボタンヅルなどが絡んでいるクズの群落をビーティングすることにより得られた。



図 16 イトカメムシ♀

ヒメジュウジナガカメムシ

Tropidothorax sinensis (Reuter, 1888)

本種は本州以南に分布している。宮崎県内では長らく 1948 年の日南市梅ヶ浜の記録しかなかったが、2016 年に門川町で再確認された（小松 2016）。延岡市内を流れる五ヶ瀬川河川敷に「このはなロード」という場所があり、「コノハナロード市民応援隊」の皆さんが種々の花を植えられている。今回の調査では、この花壇に植えられたフウセントウワタから多数の成虫と幼虫が確認できた。

ヒメマダラナガカメムシ *Graptostethus servus* (Fabricius, 1787)

本種も本州以南に分布しているが、宮崎県内からの報告は見当たらず、今回の調査で得られたものが宮崎県初記録と思われる。ヒメジュウジナガカメムシと同じく「このはなロード」のフウセントウワタから確認できた。



図 17 ヒメジュウジナガカメムシ



図 18 ヒメマダラナガカメムシ



図 19 ヒメマダラナガカメムシ
(色彩変異)

ミナミオオヘリカメムシ

Molipteryx asahinai Kikuhara, 2006

ミナミオオヘリカメムシは2006年にオオヘリカメムシから別種とされた大型のヘリカメムシである。県内ではオオヘリカメムシよりミナミオオヘリカメムシの方が優勢であり、特に海岸沿いの山地のホウロクイチゴやフユイチゴが生えるところで見られる。今回の調査では延岡市上伊形町でホウロクイチゴから終齢幼虫が得られた。



図 20 ホウロクイチゴ葉上のミナミオオヘリカメムシ終齢幼虫

ヨツモンカメムシ

Urochela quadrinotata (Reuter, 1881)

北方系の種類で寄主はニレ科植物。成虫で越冬後、交尾し、ゼリー状物資で覆われた卵塊を産む。県内ではハルニレで見られるが個体数は少ない。今回の調査では、大崩山山麓のハルニレから終齢幼虫を確認した。



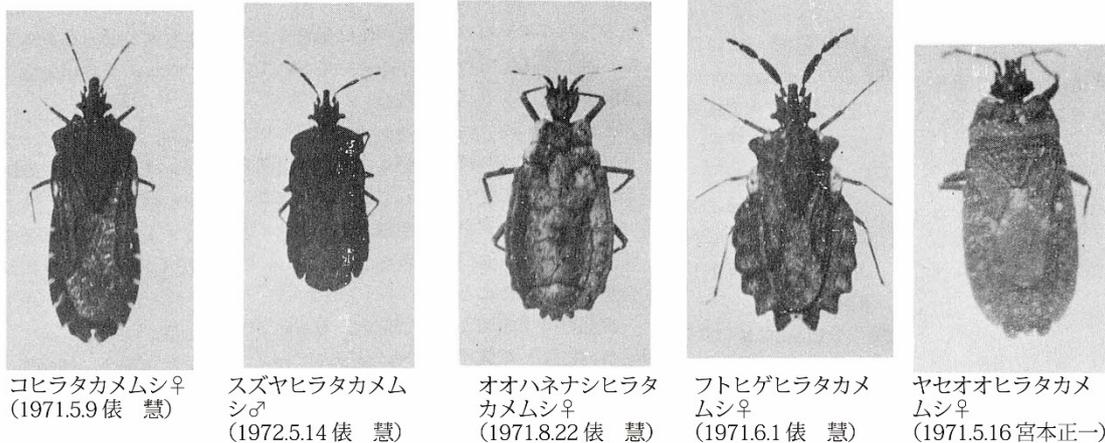
図 21 ハルニレにいたヨツモンカメムシ終齢幼虫

大崩山のヒラタカメムシ類

大崩山を含む祖母・傾山系は1965年に国定公園に指定された。しかし、大崩山は特別保存地区に入っておらず、1968年には大崩山荘の近くまで原生林の伐採が進んだ。それに対し、1970年4月の動物学会、植物学会、生態学会の九州支部合同大会で、学術研究の場として大崩山を保存することが決議された。その後も原生林の伐採は続いたが、1970年10月に林野庁が各営林署に自然保護についての通達を出し、これを受けて九州営林局が大崩山の伐採事業を凍結した。1970年11月に動植物の大崩山学術合同調査が行われたが、これとは別に九州大学の宮本正一博士と宮崎昆虫同好会の俵 慧氏を中心となって、原生林伐採跡地でヒラタカメムシ類の調査が行われた。その結果、従来日本には生息していないと思われていた種類を含むヒラタカメムシ類が数多く得られた。当時の報告に掲載されたものを下記に示したが、この中にはその後確認されていない種類もある。ユネスコエコパークに登録された大崩山を含む祖母・傾山系は、シカ害の影響が大きくなってきており、ヒラタカメムシ類の生息状況が懸念される。

コヒラタカメムシ *Aradus lugubris* Fallén, 1807

北海道、本州、九州から記録があるが近年の報告はない。宮崎県では大崩山の自然林が伐採された1971～1972年に多数記録されているが、その後確認されていない。



コヒラタカメムシ♀
(1971.5.9 俵 慧)

スズヤヒラタカメムシ♂
(1972.5.14 俵 慧)

オオハネナシヒラタカメムシ♀
(1971.8.22 俵 慧)

フトヒゲヒラタカメムシ♀
(1971.6.1 俵 慧)

ヤセオオヒラタカメムシ♀
(1971.5.16 宮本正一)

図 22 大崩山のヒラタカメムシ類 (俵慧、タテハモドキ 12 号 (1977) p6 より転載。原報告には、ヤセオオヒラタカメムシを除き、ヒラタカメムシの一種 (*Aradus* sp.) やハネナシヒラタカメムシの一種 (*Trigonaptera* sp.) と記載されていた。同定は長島聖大氏による。)

スズヤヒラタカメムシ *Aradus corticalis* (Linnaeus, 1758)

北海道、本州ではトドマツ、エゾマツなどの針葉樹の倒木などから得られており、北海道以外では極めて稀である。日本昆虫目録第 4 巻準新翅類 (2016) では、九州は分布域に含まれていない。しかし、大崩山自然林伐採跡で 1972 年に記録があり、写真も残されている。

オオハネナシヒラタカメムシ *Notoplocaptera taiwanica* Heiss et Nagashima, 2008

南方系の種で本州 (紀伊半島)、九州、沖縄本島に分布する。宮崎県では 1971 年に大崩山自然林伐採跡から 5 頭が採集されたのが唯一の記録である。

フトヒゲヒラタカメムシ *Aradus miyamotoi* Heiss et Shono, 2003

本州、四国、九州に分布している。宮崎県内では 1971 年に大崩山自然林伐採跡から唯一 1 ♀ が記録されている。

ヤセオオヒラタカメムシ *Mezira tremulae* (Germar, 1822)

環境省 NT 宮崎県 DD-2

北方系の種で北海道、本州と九州に分布する。宮崎県内では 1971 年に大崩山自然林伐採跡から 1 ♀ が採集されたのが唯一の記録である。

トゲヒゲボソヒラタカメムシ *Aradus montandoni* Reuter, 1885

宮崎県 DD-2

ロシアなど大陸には分布しているが、国内からは宮崎県のみ記録がある。1971 年 5 月から 7 月にかけて、大崩山自然林伐採跡から合計 81 頭を採集した記録が残されている。しかし、宮崎県総合博物館、延岡市社会教育センター、宮崎大学農学部など県内の昆虫標本が保管されている場所には、トゲヒゲボソヒラタカメムシの標本は残されていなかった。

エサキヒラタカメムシ *Aradus esakii* Kormilev et Heiss, 1976

普通種のコギリヒラタカメムシに似るが、側縁葉状部と触角第3節が白い。北海道、本州、四国と九州から記録されている。県内では大崩山自然林伐採跡地で1971年に採集された個体(♀)と1976年に西諸県郡須木村柚園で採集された個体(♂)の2例のみが知られている。

カドムネヒラタカメムシ *Odontonotus sauteri* Kormilev, 1955

宮崎県 DD-2

本州、四国と九州に分布する比較的珍しい種類と言われているが、宮崎県内では大崩山伐採跡地以外に、宮崎市内海、清武町、田野町、綾町から確認されている。



図23 トゲヒゲ
ボソヒラタカ
メムシ♂
(日本原色カメ
ムシ 図鑑
III(2012)より)



図24 エサキ
ヒラタカ
メムシ♂



図25 カドム
ネヒラタ
カメムシ

大崩山の原生林跡からは、これら希少なヒラタカメムシ類が記録されているが、なぜ宮崎県レッドリストにはDD-2に3種類しか挙げられていないのか、その理由は不明である。

<参考> 宮崎県レッドリストのランク (宮崎県ホームページより)

情報不足 Data Deficient (DD)

DD-1: 県内における証拠標本や、信頼のおける記録があり、かつて生息していたと思われるが、現存するかどうか判断できないもので、絶滅の可能性の考えられるもの。確認されれば「絶滅危惧IA類」に位置付けられる可能性の高いもの。

DD-2: 県内では、現在明らかに生息しているが、評価するだけの情報が不足しているもの。

タガメ *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864)

環境省 VU 宮崎県 VU-g

全国的に減少が著しく、宮崎県内でもほとんど見られなくなったが、2012年と2013年に貝の畑町でライトに飛来した個体が採集されている (安本 2013)。



図26 タガメ

コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864

環境省 NT 宮崎県 NT-g

過去に家田湿原の記録があり、今回の調査では川坂湿原で確認した。卵から成虫まで全てのライフステージを水中で完結できるので、護岸工事などの影響は受け難い。



図27 コオイムシ

オオアメンボ *Aquarius elongatus* (Uhler, 1897)

宮崎県 NT-g

家田湿原や川坂湿原がある北川町長井で記録されている。県北の記録は少ないが、宮崎市内からは最近でも確認されている。

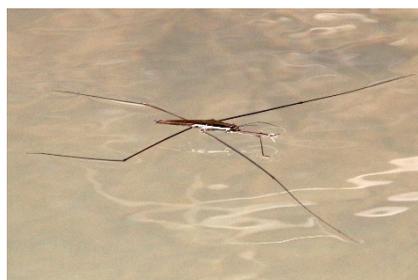


図 28 オオアメンボ

ハルゼミ

Terpnosia vacua (Olibier, 1790) 宮崎県 NT-g

マツ林に生息するセミで、高平山からの記録がある。5 月頃に「ムゼー・ムゼー・ギー」と鳴く。

ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura, 1917

年数の経った照葉樹林に生息するセミで、延岡市内では照葉樹林の残る里山に広く生息している。ハルゼミより遅く出現し、7 月頃に照葉樹の山に入ると、山全体が「ヴィーン・ヴィーン」と唸っているように聞こえる。



図 29 ハルゼミ



図 30 ヒメハルゼミ

オオアワフキ

Aphropsis galloisi (Matsumura, 1940)

日本最大のアワフキで、図鑑によると「ヤナギに生息するが稀種に属する」と書かれている。また、最新の昆虫目録でも九州が分布域に含まれていないが、県内では過去に大森岳と霧島山系の 2 カ所で記録されている (小松 2015)。今回の調査では、北方町蔵田の林道でライトに 1 ♀が飛来した。

クロフアワフキ

Sinophora submacula Metcalf & Horton, 1934

日本全国に分布するが、個体数は多くない。2011 年にえびの高原で得られた個体 (♂) が宮崎県初記録である (小松 2015)。今回の調査では、上鹿川の鬼の目山林道で得られた。おそらく延岡市初記録である。

クロスジホソアワフキ

Aphilaenus nigripectus (Matsumura, 1903)

国内では北海道、本州、四国から記録されている。本種を含めた *Aphilaenus* Vilbaste, 1968 は、現在日本から 3 種が知られているが、いずれも九州からの記録はこれまで報告されていない。本種はサクラやズミなどバラ科に寄生するとされている。本個体は農村の中に自然林の残る林道沿いで、樹木をビーティングすることによって得られた。



図 31 オオアワフキ

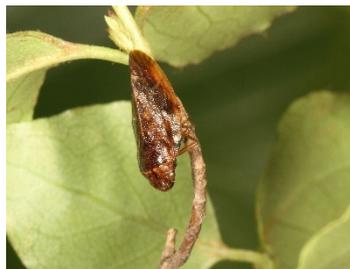


図 32 クロフアワフキ



図 33 クロスジホソアワフキ

キスジハネビロウンカ

Rhotana satsumana Matsumura, 1914

翅を入れても約 7mm の小さいウンカだが、翅が広く、それに金色に近い黄色い筋が入っている綺麗なウンカである。個体数は少く、県内での確認例も少ない。延岡市石田町の溜池でライト採集したときに得た (小松 2019)。



図 34 キスジハネビロウンカ

シコクコガシラウンカ

Cixidia shikokuana (Ishihara, 1954)

図鑑によると「本州および四国で獲られるがまれ」と書かれている。最新の昆虫目録では九州も分布域に含まれているが、今回の調査で、北方町と北浦町で記録された 2 例が県内での初記録と思われる。



図 35 シコクコガシラウンカ

スカシハゴロモドキ *Pisacha naga* Distant, 1906

「日本昆虫目録第 4 巻準新翅類」(2016) には国内分布は本州・四国・対馬・奄美・沖縄・宮古・八重山と記載されており、宮崎県を含む九州本土は除外されているが、筆者らはえびの市、綾町と延岡市でスカシハゴロモドキを記録している (奥田・小松 2017)。今回調査では、北方町の早日渡林道で確認された。



図 36 スカシハゴロモドキ

4. カメムシ類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 祝子川上流～大崩山山麓

大崩山の原生林に日本でも希少なヒラタカメムシ類が生息していたことは確実である。ユネスコエコパークに指定された現在、原生林に生息する昆虫類を守るためにも植生に多大な害を与えている鹿対策が急務である。また、上祝子を中心とした大崩山山麓には杉林と自然林が混生している。そこに、ケブカアカツヤカスミカメ、ミイロカスミカメ、ベニモンマキバサシガメ、ヨツモンカメムシ、ヒメアオモンツノカメムシなどの県内では比較的珍しい北方系の種類が生息している。



図 37 祝子川上流の溪谷と自然林

(2) 貝の畑町

2012年にタガメが確認されている。タガメは全国的に激減しており、宮崎県内で確実に生息しているのは美郷町西郷区と言われている。今後もタガメが記録されるなら貴重な生息地となる。

(3) 藤の木の二次林

北方町藤の木は落葉樹と常緑樹の混交林の間に農作地が点在する里山風景を残している地区である。九州初記録となるクロスジホソアワフキの他、県内では個体数の少ないウシカメムシやヤニサシガメを確認していた。今年度の春の調査では、シイの花やコナラの若葉から県内初記録となる種を含む希少なカスミカメ類を確認した。具体的には、ケブカキベ



図 38 北方町藤の木の二次林

リナガカスミカメ、キアシクロホソカスミカメ、シイノキクロカスミカメ、クヌギカスミカメ、ケナガカスミカメであるが、いずれも良好な里山環境に依存する種である。

(4) 上鹿川 鬼の目山林道

上鹿川から天然杉のある鬼の目山へ続く林道沿いには自然林が広がり、宮崎県としては珍しい北方系の半翅目昆虫が生息している。具体的には、アオクチブトカメムシ、ベニモンツノカメムシ、ヒメアオモンツノカメムシやクロフアワフキである。



図 39 北方町上鹿川 鬼の目山林道 入口より 5km 付近

5. 延岡市で確認されたカメムシ類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	半翅目 (異翅亜目)	クビナガカメムシ科	ヒメクビナガカメムシ	<i>Hoplitocoris (Pseudenicoccephalus) lewisi</i> (Distant, 1903)			
2	半翅目 (異翅亜目)	クビナガカメムシ科	クロクビナガカメムシ	<i>Stenopirates japonicus</i> (Esaki, 1935)			
3	半翅目 (異翅亜目)	ムクゲカメムシ科	カワラムクゲカメムシ	<i>Cryptostemma japonicum</i> Miyamoto			
4	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	ヘクソカズラグンバイ	<i>Dulinius conchatus</i> Distant, 1903			
5	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	キクグンバイ	<i>Galeatus affinis</i> (Herrich-Schaeffer, 1835)			
6	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	ヤナギグンバイ	<i>Metasalis populi</i> (Takeya, 1932)			
7	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	ツツジグンバイ	<i>Stephanitis(Stephanitis) pyrioides</i> (Scott, 1874)			
8	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	シキミグンバイ	<i>Stephanitis(Stephanitis) svensoni</i> Drake, 1948			
9	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	トサカグンバイ	<i>Stephanitis(Stephanitis) takeyai</i> Drake et Maa, 1955			
10	半翅目 (異翅亜目)	グンバイムシ科	アザミグンバイ	<i>Tingis(Tingis) ampliata</i> (Herrich-Schaeffer, 1838)			
11	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	タルマカメムシ	<i>Isometopus japonicus</i> Hasegawa, 1946			
12	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	コガシラタルマカメムシ属	<i>Myiomma</i> sp.			
13	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	タルマキノコカスミカメ	<i>Bothriomiris gotohi</i> Yasunaga, 2000			
14	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ツシマキノコカスミカメ	<i>Fulvius nozawai</i> Yasunaga & Wolski, 2017			
15	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	クロキノコカスミカメ	<i>Punctifulvius kerzhneri</i> Schmitz, 1978			
16	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ツヤキノコカスミカメ	<i>Yamatofulvius miyamotoi</i> Yasunaga, 2000			
17	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ガマカスミカメ	<i>Coridromius chinensis</i> Liu et Zhao, 1999			
18	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオクロトビカスミカメ	<i>Ectometopterus micantulus</i> (Horváth, 1905)			
19	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	カタグロミドリカスミカメ	<i>Cyrtorhinus lividipennis</i> Reuter, 1884			
20	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ケブカキベリナガカスミカメ	<i>Dryophilocoris miyamotoi</i> Yasunaga, 1999			
21	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	キュウシュウハシリカスミカメ	<i>Hallodapus kyushuensis</i> Miyamoto, 1966			キュウシュウチビメクラガメ
22	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	モンシロハシリカスミカメ	<i>Hallodapus linnavuorii</i> Miyamoto, 1966			モンシロチビメクラガメ
23	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	チャイロホシチビカスミカメ	<i>Atractotomoidea castanea</i> Yasunaga, 1999			
24	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	コミドリチビカスミカメ	<i>Campylomma livida</i> Reuter, 1885			原報：ミドリチビメクラガメ
25	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ネムチビカスミカメ	<i>Campylomma miyamotoi</i> Yasunaga, 2001			
26	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	マツトビカスミカメ	<i>Kasumiphylus kyushuensis</i> (Linnavuori, 1961)			
27	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	キアシクロホソカスミカメ	<i>Orthonotus bicoloripes</i> Kerzhner, 1988			
28	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	カシワトビカスミカメ	<i>Psallus(Hylopsallus) tonnaichanus</i> Muramoto, 1973			
29	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	シラゲヨモギカスミカメ	<i>Europiella artemisiae</i> (Becker, 1864)			ナスメクラガメ
30	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒメヨモギカスミカメ	<i>Plagiognathus yomogi</i> Miyamoto, 1969			
31	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ツヤヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus lucidus</i> Linnavuori, 1962			
32	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	マツヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus miyamotoi</i> Linnavuori, 1961			
33	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヨモギヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus okamotoi</i> Miyamoto et Lee, 1966			
34	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	クロヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus typicus</i> (Distant, 1909)			
35	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ズアカシダカスミカメ	<i>Manalocoris filicis</i> (Linnaeus, 1758)			
36	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	タバコカスミカメ	<i>Nesidiocoris tenuis</i> (Reuter, 1895)			
37	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ソデフリカスミカメ	<i>Ernestinus kasumi</i> Yasunaga & Ishikawa, 2016			
38	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	マツノヒゲボソカスミカメ	<i>Alloeotomus simplicis</i> (Uhler, 1896)			
39	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ケブカアカツヤカスミカメ	<i>Cimicicapsus koreanus</i> (Linnavuori, 1963)			
40	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	カワヤナギヤカスミカメ	<i>Deraeocoris claspericapilatus</i> Kulik, 1965			
41	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	コベニモンカスミカメ	<i>Deraeocoris elegantulus</i> Horváth, 1905			
42	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒロオオモンキカスミカメ	<i>Deraeocoris erythromelas</i> Yasunaga et Nakatani, 1998			原報：オオモンキメクラガメ
43	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオウスバツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris kerzhneri</i> Josifov, 1983			原報：キイロツヤメクラガメ
44	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	クロソジツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris yasunagai</i> Nakatani, 1995			
45	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ハナダカスミカメ	<i>Fingulus longicornis</i> Miyamoto, 1965			
46	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒコサンテングカスミカメ	<i>Termatophyllum hikosanum</i> Miyamoto, 1965			原報：テングメクラガメ
47	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカアシカスミカメ	<i>Onomaus lautus</i> (Uhler, 1896)			
48	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヨツモンカスミカメ	<i>Adelphocoris albonotatus</i> (Jakovlev, 1881)			
49	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i> (Jakovlev, 1882)			
50	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	プチヒゲクロカスミカメ	<i>Adelphocoris triannulatus</i> (Stål, 1858)			
51	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒゲナガカスミカメ	<i>Adelphocorisella lespedezae</i> Miyamoto et Yasunaga, 1993			
52	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	クロバカスミカメ	<i>Apolygopsis nigrifluta</i> (Linnavuori, 1963)			
53	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	コアオカスミカメ	<i>Apolygus pallens</i> (Yasunaga, 1991)			
54	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	コアソカスミカメ	<i>Apolygus pallens</i> (Yasunaga, 1991)			
55	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ツマグロハギカスミカメ	<i>Apolygus subpulchellus</i> (Kerzhner, 1988)			
56	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヨツボシカスミカメ	<i>Bertsia lankana</i> (Kirby, 1891)			
57	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	シノキノクロカスミカメ	<i>Castanopsides hasegawai</i> Yasunaga, 1992			
58	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	クヌギカスミカメ	<i>Castanopsides kerzhneri</i> (Josifova, 1985)			
59	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒメセダカカスミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i> Linnavuori, 1961			
60	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ミナミコセダカカスミカメ	<i>Charagochilus longicornis</i> Reuter, 1885			
61	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカホシカスミカメ	<i>Creontiades coloripes</i> Hsiao, 1963			
62	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	マダラカスミカメ	<i>Cyphodemeida saundersi</i> (Reutr, 1896)			
63	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカソジヒゲトカスミカメ	<i>Eolygus rubrolineatus</i> (Matsumura, 1913)			
64	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	メンガタカスミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i> (Kirkaldy, 1902)			
65	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ハギメンガタカスミカメ	<i>Eurystylus sauteri</i> Poppius, 1915			
66	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカシジロオカスミカメ	<i>Giantomiris jupiter</i> Miyamoto et Yasunaga, 1988			
67	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	ムモンミドリカスミカメ	<i>Lygocoris idoneus</i> (Linnavuori, 1963)			
68	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	シマアオカスミカメ	<i>Mermitelocerus annulipes</i> Reuter, 1908			
69	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	フタモンウスカスミカメ	<i>Neolygus honshuensis</i> (Linnavuori, 1961)			
70	半翅目 (異翅亜目)	カスミカメムシ科	モンミドリカスミカメ	<i>Neolygus lobatus</i> (Linnavuori, 1963)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	コモシドリカスミカメ	<i>Neolygus tillicola</i> (Kulik, 1965)			
72	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヘリグロミドリカスミカメ	<i>Neolygus zhuzei</i> (Yasunaga, 1991)			
73	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ミイロカスミカメ	<i>Neomegacoelem vitreum</i> (Kerzhner, 1988)			
74	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオクロカスミカメ	<i>Orientocapsus aquilus</i> Yasunaga et Schwartz, 2007			
75	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオチャイロカスミカメ	<i>Orientomiris tricolor</i> (Scott, 1880)			
76	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	モンキマキバカスミカメ	<i>Orthops(Orthops) scutellatus</i> Uhler, 1877			
77	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	アシアカクロカスミカメ	<i>Philostephanus rubripes</i> (Jakovlev, 1876)			
78	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオマダラカスミカメ	<i>Phytocoris ohataensis</i> Linnavuori, 1963			
79	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	アシマダラクロカスミカメ	<i>Polymerus(Polymerus) pekinensis</i> Horváth, 1901			
80	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオクロセダカスミカメ	<i>Proboscidoecoris varicornis</i> (Jakovlev, 1904)			
81	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカスジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i> (Matsumura, 1913)			
82	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ウスモンミドリカスミカメ	<i>Taylorilygus apicalis</i> (Fieber, 1861)			
83	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ケバカスミカメ	<i>Tingitotum perlatum</i> Linnavuori, 1961			
84	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	オオケナガカスミカメ	<i>Tolongia pilosa</i> (Yasunaga, 1991)			
85	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ツヤカスミカメダマシ	<i>Warrisia deraeocoroides</i> (Yasunaga et Nakatani, 1998)			
86	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	チャマダラカスミカメ	<i>Yamatolygus pilosus</i> Yasunaga, 1994			
87	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ベニナガムギカスミカメ	<i>Stenodema(Stenodema) longula</i> Zheng, 1981			
88	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	アカミヤカスミカメ	<i>Stenodema(Stenodema) rubrinervis</i> Horváth, 1905			
89	半翅目(異翅亜目)	カスミカメムシ科	ヒメホソミドリカスミカメ	<i>Trigonotylus tenuis</i> (Reuter, 1893)			
90	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	ホソマキバサシガメ	<i>Arbela tabida</i> (Uhler, 1896)			
91	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	ベニモンマキバサシガメ	<i>Gorpis(Gorpis) japonicus</i> Kerzhner, 1968			
92	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ	<i>Gorpis(Oronabis) brevilineatus</i> (Scott, 1874)			
93	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	ハラビロマキバサシガメ	<i>Himacerus(Himacerus) apterus</i> (Fabricius, 1798)			
94	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	コバナマキバサシガメ	<i>Nabis(Milu) apicalis</i> Matsumura, 1913			
95	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	<i>Nabis(Nabis) stenoferus</i> Hsiao, 1964			
96	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	ミナミマキバサシガメ	<i>Nabis(Tropiconabis) kinbergii</i> Reuter, 1872			
97	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	オキナワマキバサシガメ	<i>Stenonabis orientalis</i> (Reuter, 1910)			
98	半翅目(異翅亜目)	マキバサシガメ科	セスジマキバサシガメ	<i>Stenonabis uhleri</i> Miyamoto, 1964			
99	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	チビクロハナカメムシ	<i>Anthocoris chibi</i> Hiura, 1959			
100	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	キモンクロハナカメムシ	<i>Anthocoris miyamotoi</i> Hiura, 1959			
101	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ヒメメハナカメムシ	<i>Billa japonica</i> Carayon et Miyamoto, 1960			
102	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ナミメハナカメムシ	<i>Orius(Heterorius) sauteri</i> (Poppius, 1909)			
103	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	クビレヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus constrictus</i> (Stål, 1860)			
104	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus obscuriceps</i> (Poppius, 1909)			
105	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ケシハナカメムシ	<i>Cardiastethus exiguus</i> Poppius, 1913			
106	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ユミアシハナカメムシ	<i>Physopleurella armata</i> Poppius, 1909			
107	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ズイムシハナカメムシ	<i>Lyctocoris beneficus</i> (Hiura, 1957)	NT		
108	半翅目(異翅亜目)	ハナカメムシ科	ケバカハナカメムシ	<i>Lasiochilus(Dilasia) japonicus</i> Hiura, 1967			
109	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヒロウドサシガメ	<i>Ectrychotes andreae</i> (Thunberg, 1784)			
110	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クビグロアカサシガメ	<i>Haematoloecha delibuta</i> (Distant, 1883)			
111	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	アカシマサシガメ	<i>Haematoloecha nigrorufa</i> (Stål, 1867)			
112	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クロバアカサシガメ	<i>Labidocoris insignis</i> Distant, 1883			
113	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヒメマダラカモドキサシガメ	<i>Empicoris minutus</i> Usinger, 1946			
114	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	マダラカモドキサシガメ	<i>Empicoris rubromaculatus</i> (Blackburn, 1889)			原報：カモドキサシガメ
115	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ウスイロカモドキサシガメ	<i>Tridemula ishiharai</i> Tomokuni, 1994			
116	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヨコヅナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i> (Signoret, 1862)			
117	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	アカサシガメ	<i>Cydnocoris russatus</i> Stål, 1894			
118	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i> (Dallas, 1850)			
119	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	トゲサシガメ	<i>Polididus armatissimus</i> Stål, 1859			
120	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヒゲナガサシガメ	<i>Serendiba staliana</i> (Horváth, 1879)			
121	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	シマサシガメ	<i>Sphecanolestes impressicollis</i> (Stål, 1861)			
122	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i> (Uhler, 1860)			
123	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クロサシガメ	<i>Peirates cinctiventris</i> Horváth, 1879			
124	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クロモンサシガメ	<i>Peirates turpis</i> Walker, 1873			
125	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	キイロサシガメ	<i>Sirthenea flavipes</i> (Stål, 1855)			
126	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	チャイロサシガメ	<i>Reduvius decliviceps</i> Hsiao, 1976			
127	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クビアカサシガメ	<i>Reduvius humeralis</i> (Scott, 1874)			
128	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	トビイロサシガメ	<i>Oncocephalus assimilis</i> Reuter, 1882			
129	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	クロトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus breviscutum</i> Reuter, 1882			
130	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	モモブトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus femoratus</i> Reuter, 1882			
131	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヒゲナガトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus germari</i> Reuter, 1882			
132	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	シロスジトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus heissi</i> Ishikawa, Cai et Tomokuni, 2006			
133	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ホソサシガメ	<i>Pygolampis bidentata</i> (Goeze, 1778)			
134	半翅目(異翅亜目)	サンガメ科	ヒメホソサシガメ	<i>Sastrapada oxyptera</i> Bergroth, 1922			
135	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ヒメヒラタカメムシ	<i>Aneurys(Neaneurus) macrotylus</i> Jakovlev, 1880			
136	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ミナミメヒラタカメムシ	<i>Paraneurus hainanensis</i> (Kormilev, 1968)			
137	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ツヤヒメヒラタカメムシ	<i>Paraneurus nitidulus</i> (Kormilev, 1955)			
138	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ヒラタカメムシ	<i>Aradus consentaneus</i> Horváth, 1905			
139	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	スズヤヒラタカメムシ	<i>Aradus corticalis</i> (Linnaeus, 1758)			
140	半翅目(異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	エサキヒラタカメムシ	<i>Aradus esakii</i> Kormilev et Heiss, 1976			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
141	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	コヒラタカメムシ	<i>Aradus lugubris</i> Fallén, 1807			
142	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	フトヒゲヒラタカメムシ	<i>Aradus miyamotoi</i> Heiss et Shono, 2003			
143	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	トゲヒゲボソヒラタカメムシ	<i>Aradus montandoni</i> Reuter, 1885		DD-2	
144	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ノコギリヒラタカメムシ	<i>Aradus orientalis</i> Bergroth, 1885			
145	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	マツヒラタカメムシ	<i>Aradus unicolor</i> Kiritshenko, 1913			
146	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	アカヒラタカメムシ	<i>Arbanatus</i> sp. Nagashima et Shono, 2012			
147	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	クロヒラタカメムシ	<i>Brachyrhynchus taiwanicus</i> (Kormilev, 1957)			
148	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	オオヒラタカメムシ	<i>Mezira scabrosa</i> Scott, 1874			
149	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	アラゲオオヒラタカメムシ	<i>Mezira subsetosa</i> Josifov et Kerzhner, 1974			
150	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ヤセオオヒラタカメムシ	<i>Mezira tremulae</i> (Germar, 1822)	NT	DD-2	
151	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	オオヒラタカメムシ亜科日本未記載種	<i>Neartabanus</i> sp.?			
152	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	クロナガヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus ater</i> (Jakovlev, 1878)			
153	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	トビイロオオヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus castaneus</i> (Jakovlev, 1878)			
154	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	チャイロナガヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus taiwanicus</i> Kormilev, 1955			
155	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	ヒラタカメムシ科	<i>Odontonotus sauteri</i> Kormilev, 1955		DD-2	
156	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	イボヒラタカメムシ	<i>Usingerida verrucigera</i> (Bergroth, 1892)			
157	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	シモフリヒラタカメムシ	<i>Carventus insularis</i> Heiss et Nagashima, 2008			
158	半翅目 (異翅亜目)	ヒラタカメムシ科	オオハネナシヒラタカメムシ	<i>Notoplocoptera taiwanica</i> Heiss et Nagashima, 2008			
159	半翅目 (異翅亜目)	ヒゲナガカメムシ科	ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i> (Uhler, 1860)			
160	半翅目 (異翅亜目)	ヒゲナガカメムシ科	クロスジヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha similis</i> Uhler, 1896			
161	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヨツボシチビナガカメムシ	<i>Botocudo japonicus</i> (Hidaka, 1959)			
162	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヤスマツチビナガカメムシ	<i>Botocudo yasumatsui</i> (Hidaka, 1959)			
163	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒナナガカメムシ	<i>Iodinus ferrugineus</i> Lindberg, 1927			
164	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	クロナガカメムシ	<i>Drymus (Sylvadrymus) marginatus</i> Distant, 1883			
165	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒラシマナガカメムシ	<i>Eremocoris planus</i> Uhler, 1896			
166	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	クツツナガカメムシ	<i>Lamproplax membranacea</i> Distant, 1883			
167	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒラシマヒサゴナガカメムシ	<i>Mizaldus hirashimai</i> (Hidaka, 1961)			
168	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒサゴナガカメムシ	<i>Neomizaldus lewisi</i> (Distant, 1901)			
169	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	チャモンナガカメムシ	<i>Paradieuches dissimilis</i> (Distant, 1883)			
170	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒメネジロツツナガカメムシ	<i>Diniella pallipes</i> (Scott, 1874)			
171	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	オオチャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus assamensis</i> (Distant, 1901)			
172	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i> (Scott, 1874)			
173	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	エサキナガカメムシ	<i>Neolethaeus esakii</i> (Hidaka, 1962)			
174	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ルイスチャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus lewisi</i> (Distant, 1883)			
175	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Gyndes pallicornis</i> (Dallas, 1852)			
176	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	サビヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera inconspicua</i> (Dallas, 1852)			
177	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	キベリヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera lateralis</i> (Scott, 1874)			
178	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒラタヒョウタンナガカメムシ	<i>Pachybrachius luridus</i> Hahn, 1826			
179	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	スコットヒョウタンナガカメムシ	<i>Pamerana scotti</i> (Distant, 1901)			
180	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	クロナシホソナガカメムシ	<i>Paromius jejunos</i> (Distant, 1883)			
181	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ホソヒョウタンナガカメムシ	<i>Pseudopachybrachius gutta</i> (Dallas, 1852)			
182	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ウスチャヒョウタンナガカメムシ	<i>Remaudiereana flavipes</i> (Motschulsky, 1863)			
183	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	イチゴチビナガカメムシ	<i>Stigmatonotum geniculatum</i> (Motschulsky, 1863)			
184	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ウスイロナガカメムシ	<i>Bryanellacoris orientalis</i> Hidaka, 1962			
185	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	チャイロホソナガカメムシ	<i>Prosomoeus brunneus</i> Scott, 1874			
186	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ヒョウタンナガカメムシ	<i>Caridops albomarginatus</i> (Scott, 1874)			
187	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	オオシロヘリナガカメムシ	<i>Dieuches albomarginatus</i> (Uhler, 1860)			
188	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	キベリナガカメムシ	<i>Dieuches uniformis</i> Distant, 1903			
189	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i> Scott, 1874			
190	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	モンシロナガカメムシ	<i>Panaorus albomaculatus</i> (Scott, 1874)			
191	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i> (Stål, 1874)			
192	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	アシナガナガカメムシ	<i>Poentius lineatus</i> Stål, 1874	NT		
193	半翅目 (異翅亜目)	ヒョウタンナガカメムシ科	ケシナガカメムシ	<i>Tomocoris miyamotoi</i> Esaki et Hidaka, 1958			
194	半翅目 (異翅亜目)	オオメナガカメムシ科	ヒメオオメナガカメムシ	<i>Geocoris (Geocoris) proteus</i> Distant, 1883			
195	半翅目 (異翅亜目)	オオメナガカメムシ科	オオメナガカメムシ	<i>Geocoris (Geocoris) varius</i> (Uhler, 1860)			
196	半翅目 (異翅亜目)	コバネナガカメムシ科	ヒメコバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus bicoloripes</i> (Distant, 1883)			
197	半翅目 (異翅亜目)	コバネナガカメムシ科	キュウシュウコバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus gibbus</i> (Fabricius, 1798)			
198	半翅目 (異翅亜目)	コバネナガカメムシ科	ニッポンコバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus japonicus</i> (Hidaka, 1959)			
199	半翅目 (異翅亜目)	コバネナガカメムシ科	ツノコバネナガカメムシ	<i>Iphicrates spinicaput</i> (Scott, 1874)			
200	半翅目 (異翅亜目)	コバネナガカメムシ科	ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i> (Distant, 1883)			
201	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ウスイロヒラタナガカメムシ	<i>Kleidocerys resedae</i> (Panzer, 1797)			
202	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ムラサキナガカメムシ	<i>Pylorgus colon</i> (Thunberg, 1784)			
203	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	イシハラナガカメムシ	<i>Pylorgus ishiharai</i> Hidaka et Izzard, 1960			
204	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	セスジナガカメムシ	<i>Arocatus melanostoma</i> Scott, 1874			
205	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	アカヘリナガカメムシ	<i>Arocatus melanostoma</i> Scott, 1874			
206	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ヒメマダラナガカメムシ	<i>Graptoctethus servus</i> (Fabricius, 1787)			
207	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	コマダラナガカメムシ	<i>Spilostethus hospes</i> (Fabricius, 1794)			
208	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ヒメジュウジナガカメムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i> (Reuter, 1888)			
209	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ヘリゴロヒメナガカメムシ	<i>Nysius hidakai</i> Nakatani, 2015			
210	半翅目 (異翅亜目)	マダラナガカメムシ科	ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebeius</i> Distant, 1883			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
211	半翅目 (異翅亜目)	ホソメダカナガカメムシ科	ホソメダカナガカメムシ	<i>Ninonimus flavipes</i> (Matsumura, 1913)			
212	半翅目 (異翅亜目)	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i> Scott, 1874			
213	半翅目 (異翅亜目)	メダカナガカメムシ科	オオメダカナガカメムシ	<i>Malcus japonicus</i> Ishihara et Hasegawa, 1941			
214	半翅目 (異翅亜目)	イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ	<i>Metacanthus pulchellus</i> Dallas, 1852			
215	半翅目 (異翅亜目)	イトカメムシ科	イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i> Horváth, 1905			
216	半翅目 (異翅亜目)	イトカメムシ科	オオイトカメムシ	<i>Metatropis rufescens</i> (Herrich-Schaeffer, 1835)			
217	半翅目 (異翅亜目)	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i> (Brumeister, 1834)			
218	半翅目 (異翅亜目)	オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta parviceps</i> Blöte, 1931			
219	半翅目 (異翅亜目)	ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sibiricus</i> Kuschakewitsch, 1866			
220	半翅目 (異翅亜目)	ホシカメムシ科	クロホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i> Reuter, 1885			
221	半翅目 (異翅亜目)	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i> Dallas, 1852			
222	半翅目 (異翅亜目)	ホソヘリカメムシ科	ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i> Scott, 1874			
223	半翅目 (異翅亜目)	ホソヘリカメムシ科	ニセヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius vulgaris</i> (Hsiao, 1964)			
224	半翅目 (異翅亜目)	ホソヘリカメムシ科	ヒメホソヘリカメムシ	<i>Melanacanthus ferrugineus</i> (Stål, 1871)			
225	半翅目 (異翅亜目)	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus (Riptortus) pedestris</i> (Fabricius, 1775)			
226	半翅目 (異翅亜目)	ヒメヘリカメムシ科	ケバカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschyntelus) sapporensis</i> (Matsumura, 1905)			
227	半翅目 (異翅亜目)	ヒメヘリカメムシ科	コバチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus minutus</i> Blöte, 1934			
228	半翅目 (異翅亜目)	ヒメヘリカメムシ科	フチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i> (Goeze, 1778)			
229	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ヒメトゲヘリカメムシ	<i>Coriomeris scabricornis</i> (Panzer, 1805)			
230	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i> (Thunberg, 1783)			
231	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Colpura) lativentris</i> (Motschulsky, 1866)			
232	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Hygia) opaca</i> (Uhler, 1860)			
233	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ミナミトゲヘリカメムシ	<i>Paradasynus spinosus</i> Hsiao, 1963			
234	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i> (Dallas, 1852)			
235	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ハリカメムシ	<i>Stelus schmidtii</i> Kiritschenko, 1916			
236	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ	<i>Plinactus bicoloripes</i> Scott, 1874			
237	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	オオクモヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Anacanthocoris) stricornis</i> Scott, 1874			
238	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Tlaponius) dilatatus</i> Horváth, 1879			
239	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	アズキヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Tlaponius) marginiventris</i> Dohrn, 1860			
240	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Tlaponius) unipunctatus</i> (Thunberg, 1783)			
241	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	ミナオオヘリカメムシ	<i>Molipteryx asahinae</i> Kikuhara, 2006			
242	半翅目 (異翅亜目)	ヘリカメムシ科	オオヘリカメムシ	<i>Molipteryx fuliginosa</i> (Uhler, 1860)			
243	半翅目 (異翅亜目)	クヌギカメムシ科	ヨツモンカメムシ	<i>Urochela quadrinotata</i> (Reuter, 1881)		DD-2	
244	半翅目 (異翅亜目)	クヌギカメムシ科	ハラクヌギカメムシ	<i>Urostylis annulicornis</i> Scott, 1874			
245	半翅目 (異翅亜目)	クヌギカメムシ科	サジクヌギカメムシ	<i>Urostylis stricornis</i> Scott, 1874			
246	半翅目 (異翅亜目)	クヌギカメムシ科	クヌギカメムシ	<i>Urostylis westwoodii</i> Scott, 1874			
247	半翅目 (異翅亜目)	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ	<i>Coptosoma biguttulum</i> Motschulsky, 1860			
248	半翅目 (異翅亜目)	マルカメムシ科	タデマルカメムシ	<i>Coptosoma parvipictum</i> Montandon, 1892			
249	半翅目 (異翅亜目)	マルカメムシ科	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i> (Montandon, 1896)			
250	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	チビツヤツチカメムシ	<i>Chilocorus confusus</i> Horváth, 1919			
251	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	チャイロツヤツチカメムシ	<i>Parachilocorus japonicus</i> Lis, 1994			
252	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	ヨコツナツチカメムシ	<i>Adrisa magna</i> (Uhler, 1860)			
253	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	ミナミマルツチカメムシ	<i>Aethus pseudindicus</i> Lis, 1993			
254	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i> (Dallas, 1851)			
255	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i> Scott, 1874			
256	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	マルツチカメムシ	<i>Macropsorus nigrita</i> (Fabricius, 1794)			
257	半翅目 (異翅亜目)	ツチカメムシ科	ベニツチカメムシ	<i>Parastrachia japonensis</i> (Scott, 1880)		NT-g	
258	半翅目 (異翅亜目)	キンカメムシ科	アカギカメムシ	<i>Cantao ocellatus</i> (Thunberg, 1784)			
259	半翅目 (異翅亜目)	キンカメムシ科	オオキンカメムシ	<i>Eucoorysses grandis</i> (Thunberg, 1783)			
260	半翅目 (異翅亜目)	キンカメムシ科	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i> (Distant, 1883)			
261	半翅目 (異翅亜目)	キンカメムシ科	チャイロキンカメムシ	<i>Eurygaster testudinaria</i> (Geoffroy, 1785)			
262	半翅目 (異翅亜目)	ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i> Dallas, 1851			
263	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	シロヘリクチフトカメムシ	<i>Andrallus spinidens</i> (Fabricius, 1787)			
264	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	チャイロクチフトカメムシ	<i>Arma custos</i> (Fabricius, 1794)			
265	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	アオクチフトカメムシ	<i>Dinorhynchus dybowskyi</i> Jakovlev, 1876			
266	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	シモフリクチフトカメムシ	<i>Eocanthecona japonicola</i> (Esaki et Ishihara, 1950)			
267	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	キューシュウクチフトカメムシ	<i>Eocanthecona kyushuensis</i> (Esaki et Ishihara, 1950)			
268	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	クチフトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i> Scott, 1874			
269	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	アカアシクチフトカメムシ	<i>Pinthaeus sanguinipes</i> (Fabricius, 1781)			
270	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i> Scott, 1874			
271	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i> (Stål, 1855)			
272	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i> (Walker, 1868)			
273	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i> (Motschulsky, 1861)			
274	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	トゲカメムシ	<i>Carbula abbreviata</i> (Motschulsky, 1866)			
275	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	トゲシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i> (Scopoli, 1763)			
276	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i> Breddin, 1909			
277	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	マルシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris guttigerus</i> (Thunberg, 1783)			
278	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i> (Westwood, 1837)			
279	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i> (Thunberg, 1783)			
280	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i> (Scott, 1880)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
281	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ナカボシカメムシ	<i>Menida musiva</i> (Jakovlev, 1876)			
282	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i> Motschulsky, 1861			
283	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	フタテンカメムシ	<i>Laprius gastricus</i> (Thunberg, 1822)			
284	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i> (Walker, 1867)			
285	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i> (Motschulsky, 1860)			
286	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i> Scott, 1874			
287	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ミナミアオカメムシ	<i>Nezara viridula</i> (Linnaeus, 1758)			
288	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i> (Distant, 1882)			
289	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	アジアアカメムシ	<i>Pentatoma rufipes</i> (Linnaeus, 1758)			
290	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	イチモンジカメムシ	<i>Piezodorus hybneri</i> (Gmelin, 1790)			
291	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	シロヘリカメムシ	<i>Aenaria lewisi</i> (Scott, 1874)			
292	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	イネカメムシ	<i>Niphe elongata</i> (Dallas, 1851)			
293	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ヒメナガメ	<i>Eurydema dominulus</i> (Scopoli, 1763)			
294	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i> Motschulsky, 1861			
295	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i> (Uhler, 1860)			
296	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	アカスジカメムシ	<i>Graphosoma rubrolineatum</i> (Westwood, 1837)			
297	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> (Brunmeister, 1834)			
298	半翅目 (異翅亜目)	カメムシ科	ヒメクロカメムシ	<i>Scotinophara scottii</i> Horváth, 1879			
299	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i> Jakovlev, 1880			
300	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	エソツノカメムシ	<i>Acanthosoma expansum</i> Horváth, 1905			
301	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forclicula</i> Jakovlev, 1880			
302	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma labiduroides</i> Jakovlev, 1880			
303	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ミヤマツノカメムシ	<i>Acanthosoma spinicolle</i> Jakovlev, 1880			
304	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ベニモンツノカメムシ	<i>Elasmotethus humeralis</i> Jakovlev, 1883			
305	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	アオモンツノカメムシ	<i>Elasmotethus nubilus</i> (Dallas, 1851)			
306	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ヒメアオモンツノカメムシ	<i>Elasmotethus rotundus</i> Yamamoto, 2003			
307	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i> Scott, 1874			
308	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	セグロヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha signoreti</i> Scott, 1874			
309	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i> Hasegawa, 1959			
310	半翅目 (異翅亜目)	ツノカメムシ科	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i> (Scott, 1874)			
311	半翅目 (異翅亜目) 水生	タイコウチ科	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i> Scott, 1874			
312	半翅目 (異翅亜目) 水生	タイコウチ科	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i> Mayer, 1865			
313	半翅目 (異翅亜目) 水生	コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i> Vuillefroy, 1864	NT	NT-g	
314	半翅目 (異翅亜目) 水生	コオイムシ科	タガメ	<i>Kirkaldyia deyrolli</i> (Vuillefroy, 1864)	VU	VU-g	
315	半翅目 (異翅亜目) 水生	メズムシ科	メズムシ	<i>Ochterus marginatus marginatus</i> (Latreille, 1804)			
316	半翅目 (異翅亜目) 水生	マツモムシ科	マツモムシ	<i>Notonecta (Paranecta) triguttata</i> Motschulsky, 1861			
317	半翅目 (異翅亜目) 水生	マツモムシ科	コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarenensis</i> Matsumura, 1915			
318	半翅目 (異翅亜目) 水生	イトアメンボ科	オキナワイトアメンボ	<i>Hydrometra okinawana</i> Drake, 1951			
319	半翅目 (異翅亜目) 水生	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ	<i>Hydrometra procera</i> Horváth, 1905			
320	半翅目 (異翅亜目) 水生	アメンボ科	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i> (Uhler, 1897)		NT-g	
321	半翅目 (異翅亜目) 水生	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum</i> (Fabricius, 1794)			
322	半翅目 (異翅亜目) 水生	アメンボ科	ヒメアメンボ	<i>Gerris (Gerris) latibdominis</i> Miyamoto, 1958			
323	半翅目 (異翅亜目) 水生	アメンボ科	シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i> (White, 1883)			
324	半翅目 (異翅亜目) 水生	ミズギワカメムシ科	ミズギワカメムシ	<i>Saldula saltatoria</i> (Linnaeus, 1758)			
325	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i> (Fabricius, 1794)			
326	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i> (Walker, 1858)			
327	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i> (Motschulsky, 1866)			
328	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i> (Olibier, 1790)		NT-g	
329	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ヒメハルゼミ	<i>Euterpnosia chibensis</i> Matsumura, 1917			
330	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i> (Walker, 1850)			
331	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i> (Distant, 1892)			
332	半翅目 (頭吻亜目)	セミ科	ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i> (Motschulsky, 1866)			
333	半翅目 (頭吻亜目)	コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	<i>Euscarta assimilis</i> (Uhler, 1896)			
334	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	クロスジホソアワフキ	<i>Amarusa nigripictus</i> (Matsumura, 1903)			
335	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	マツアワフキ	<i>Aphrophora flavipes</i> Uhler, 1896			
336	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i> Uhler, 1896			
337	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	モンキアワフキ	<i>Aphrophora major</i> Uhler, 1896			
338	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i> Matsumura, 1903			
339	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	ヒメシロオビアワフキ	<i>Aphrophora obliqua</i> Uhler, 1896			
340	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	ヒメモンキアワフキ	<i>Aphrophora rugosa</i> (Matsumura, 1903)			
341	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	ホシアワフキ	<i>Aphrophora stictica</i> Matsumura, 1903			
342	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	オオアワフキ	<i>Aphropsis galloisi</i> (Matsumura, 1940)			
343	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	マダラアワフキ	<i>Awafukia nawae</i> (Matsumura, 1904)			
344	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	ミヤマアワフキ	<i>Peuceptelus nigroscutellatus</i> Matsumura, 1904			
345	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i> Uhler, 1896			
346	半翅目 (頭吻亜目)	アワフキムシ科	クロアワフキ	<i>Sinophora submacula</i> Metcalf & Horton, 1934			
347	半翅目 (頭吻亜目)	ツノゼミ科	ツノゼミ	<i>Butragulus flavipes</i> (Uhler, 1896)			
348	半翅目 (頭吻亜目)	ツノゼミ科	マルツノゼミ	<i>Gargara genistae</i> (Fabricius, 1775)			
349	半翅目 (頭吻亜目)	ツノゼミ科	オビマルツノゼミ	<i>Gargara katoi</i> Metcalf & Wade, 1965			
350	半翅目 (頭吻亜目)	ヨコバイ科	シダヨコバイ	<i>Japanagallia pteridis</i> (Matsumura, 1905)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
351	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	カエデズキンヨコバイ	<i>Idiocerus ishiyamae</i> (Matsumura, 1905)			
352	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヤノズキンヨコバイ	<i>Idiocerus yanonis</i> Matsumura, 1912			
353	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ズキンヨコバイ	<i>Podulmorinus vitticollis</i> (Matsumura, 1905)			
354	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	オサヨコバイ	<i>Tartessus ferrugineus</i> (Walker, 1851)			
355	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ミミズク	<i>Ledra auditura</i> Walker, 1858			
356	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	コミミズク	<i>Ledropsis discolor</i> (Uhler, 1896)			
357	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヒラタミミズク	<i>Tituria angulata</i> (Matsumura, 1912)			
358	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i> (Fabricius, 1787)			
359	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i> (Linnaeus, 1758)			
360	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	マエジロオオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i> (Motschulsky, 1859)			
361	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	クワキヨコバイ属	<i>Pagaronia</i> sp.			
362	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	クロスジホソサジヨコバイ	<i>Sophonia orientalis</i> (Matsumura, 1912)			
363	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	アオズキンヨコバイ	<i>Batracomorphus mundus</i> (Uhler, 1897)			
364	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ホシアオズキンヨコバイ	<i>Batracomorphus stigmaticus</i> (Matsumura, 1912)			
365	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	セグロアオズキンヨコバイ	<i>Trocnadella suturalis</i> (Melichar, 1902)			
366	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	イネヒラタヨコバイ	<i>Stroggylocephalus agrestis</i> (Fallén, 1806)			
367	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	クロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Exitianus indicus</i> (Distant, 1908)			
368	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ	<i>Nephotettix cincticeps</i> (Uhler, 1896)			
369	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	シロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Paramesodes albinervosus</i> (Matsumura, 1902)			
370	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヨツテンウスバヨコバイ	<i>Macrosteles quadrimaculatus</i> (Matsumura, 1900)			
371	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	アライヒシモンヨコバイ	<i>Hishimonus arai</i> Okada, 1978			
372	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	サツマヨコバイ	<i>Satsumanus satsumae</i> (Matsumura, 1914)			
373	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i> Lethierry, 1876			
374	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	タイワンブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus formasanus</i> Matsumura, 1912			
375	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus nigrifemoratus</i> (Matsumura, 1905)			
376	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ニトベブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus nitobei</i> Matsumura, 1912			
377	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ムサシブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus vilbastei</i> Zhang et Webb, 1996			
378	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ブチミヤクヨコバイ族の1種	Drabescini sp.			
379	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ホシサジヨコバイ	<i>Parabolopona guttata</i> (Uhler, 1896)			
380	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	リンゴマダラヨコバイ	<i>Orientus ishidae</i> (Matsumura, 1902)			
381	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	イチモンジヨコバイ	<i>Limotettix intricans</i> Anufeivv, 1978			
382	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヒトツメヨコバイ	<i>Phlogotettix cyclops</i> (Mulsant et Rey, 1855)			
383	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	シロセスジヨコバイ	<i>Scaphoideus albovittatus</i> Matsumura, 1913			
384	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	モモグロヨコバイ	<i>Paralaevicephalus nigrifemoratus</i> (Matsumura, 1902)			
385	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	オナガトガリヨコバイ	<i>Doratulina grandis</i> (Matsumura, 1914)			
386	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	フタテンヒメヨコバイ	<i>Arboridia apicalis</i> (Nawa, 1913)			
387	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヨツモンコヒメヨコバイ	<i>Empoasca limbata</i> (Matsumura, 1907)			
388	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ベコヒメヨコバイ	<i>Dayus takagii</i> Dworakowska, 1971			
389	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ミドリヒメヨコバイ属	<i>Empoasca</i> sp.			
390	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ヒトツメヒメヨコバイ	<i>Ishiharella polyphemus</i> (Matsumura, 1931)			
391	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	シロスヒメヨコバイ	<i>Aguriahana triangularis</i> (Matsumura, 1932)			
392	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	シロヒメヨコバイ	<i>Eurhadina betularia</i> Anufriev, 1969			
393	半翅目(頭吻亜目)	ヨコバイ科	ホシヒメヨコバイ	<i>Limassolla multipunctata</i> (Matsumura, 1920)			
394	半翅目(頭吻亜目)	ヒシウンカ科	オビカウウンカ	<i>Andes harimaensis</i> (Matsumura, 1914)			
395	半翅目(頭吻亜目)	ヒシウンカ科	ヤナギカウウンカ	<i>Andes marmoratus</i> (Uhler, 1896)			
396	半翅目(頭吻亜目)	ヒシウンカ科	ハスオビヒシウンカ	<i>Betacixius obliquus</i> (Matsumura, 1914)			
397	半翅目(頭吻亜目)	ヒシウンカ科	ヒシウンカ	<i>Pentastiridius apiclis</i> (Uhler, 1896)			
398	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	ハリマナガウンカ	<i>Stenocranus harimensis</i> Matsumura, 1935			
399	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	タマガワナガウンカ	<i>Stenocranus tamagawanus</i> Matsumura, 1935			
400	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	コブウンカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i> Signoret, 1860			
401	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	ヒメコブウンカ	<i>Tropidocephala festiva</i> (Distant, 1906)			
402	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	ゴマフウンカ	<i>Cemus nigropunctatus</i> (Matsumura, 1940)			
403	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	ヒメトビウンカ	<i>Laodelphax stratella</i> (Fallén, 1826)			
404	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	トビイロウンカ	<i>Nilaparvata lugens</i> (Stål, 1854)			
405	半翅目(頭吻亜目)	ウンカ科	セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i> (Horv?th, 1899)			
406	半翅目(頭吻亜目)	シマウンカ科	シマウンカ	<i>Nisia nervosa</i> (Motschulsky, 1863)			
407	半翅目(頭吻亜目)	ハネナガウンカ科	マダラハネナガウンカ	<i>Pamendanga matsumurae</i> (Muir, 1918)			
408	半翅目(頭吻亜目)	ハネナガウンカ科	キスジハネビロウンカ	<i>Rhotana satsumana</i> Matsumura, 1914			
409	半翅目(頭吻亜目)	ハネナガウンカ科	ウスベコハネビロウンカ	<i>Saccharodite kagoshimana</i> (Matsumura, 1914)			
410	半翅目(頭吻亜目)	ハネナガウンカ科	アカメガシワハネビロウンカ	<i>Vekunta malloti</i> Matsumura, 1914			
411	半翅目(頭吻亜目)	コガシラウンカ科	シクコガシラウンカ	<i>Cixidia shikokuana</i> (Ishihara, 1954)			
412	半翅目(頭吻亜目)	コガシラウンカ科	ナワコガシラウンカ	<i>Rhotala nawae</i> Matsumura, 1914			
413	半翅目(頭吻亜目)	コガシラウンカ科	スジコガシラウンカ	<i>Rhotala vittata</i> Matsumura, 1907			
414	半翅目(頭吻亜目)	テングスケバ科	テングスケバ	<i>Dictyophara patruelis</i> (Stål, 1859)			
415	半翅目(頭吻亜目)	テングスケバ科	ツマグロスケバ	<i>Orthopagus lunulifer</i> Uhler, 1896			
416	半翅目(頭吻亜目)	グンバイウンカ科	タテスジグンバイウンカ	<i>Gatullia vittata</i> Matsumura, 1914			
417	半翅目(頭吻亜目)	グンバイウンカ科	オヌキグンバイウンカ	<i>Mesepora onukii</i> (Matsumura, 1905)			
418	半翅目(頭吻亜目)	グンバイウンカ科	トビイログンバイウンカ	<i>Ommatissus lofoensis</i> Muir, 1913			
419	半翅目(頭吻亜目)	グンバイウンカ科	ヒラタグンバイウンカ	<i>Ossoides lineatus</i> Bierman, 1910			
420	半翅目(頭吻亜目)	マルウンカ科	サツマクサウンカ	<i>Eusarima satsumana</i> (Matsumura, 1916)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
421	半翅目 (頭吻亜目)	マルウンカ科	カタビロクサビウンカ	<i>Issus harimensis</i> Matsumura, 1913			
422	半翅目 (頭吻亜目)	マルウンカ科	クサビウンカ	<i>Sarima amagisana</i> Melichar, 1903			
423	半翅目 (頭吻亜目)	マルウンカ科	キボシマルウンカ	<i>Ishiharanus iguchii</i> (Matsumura, 1916)			
424	半翅目 (頭吻亜目)	マルウンカ科	マルウンカ	<i>Gergithus variabilis</i> (Butler, 1875)			
425	半翅目 (頭吻亜目)	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i> (Walker, 1858)			
426	半翅目 (頭吻亜目)	アオバハゴロモ科	トビイロハゴロモ	<i>Mimophantia maritima</i> Matsumura, 1900			
427	半翅目 (頭吻亜目)	ハゴロモドキ科	スカシハゴロモドキ	<i>Pisacha naga</i> Distant, 1906			
428	半翅目 (頭吻亜目)	ハゴロモ科	スケバハゴロモ	<i>Euricania facualis</i> (Walker, 1858)			
429	半翅目 (頭吻亜目)	ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i> (Melichar, 1898)			
430	半翅目 (頭吻亜目)	ハゴロモ科	アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i> (Uhler, 1896)			
431	半翅目 (頭吻亜目)	ハゴロモ科	ヒメベッコウハゴロモ	<i>Ricania taeniata</i> Stål, 1870			

6. 参考文献

- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀編, 2012. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第3巻. 576pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 紙谷聡志, 2008. アワフキムシ科. 平嶋義宏・森本桂新訂監修, 新訂原色昆虫大圖鑑Ⅲ, 183-186. 北隆館, 東京.
- 木野田 毅, 2012. 宮崎県内で採集したカメムシ類. タテハモドキ, (48): 46-52.
- 小松孝寛, 2012. カメムシの記録. タテハモドキ, (48): 1-15.
- 小松孝寛, 2013. カメムシの記録 (2) . タテハモドキ, (49): 39-59.
- 小松孝寛, 2014. カメムシの記録の見直し. タテハモドキ, (50): 117-120.
- 小松孝寛, 2015. アワフキとミミズクの記録. タテハモドキ, (51): 22-24.
- 小松孝寛, 2016. 宮崎県の陸生カメムシ. 142pp. 黒潮文庫, 宮崎.
- 小松孝寛, 2017. 延岡市でイトカメムシを確認. タテハモドキ, (53): 16.
- 小松孝寛, 2018. 宮崎県初記録のケブカキベリナガカスミカメ, キアシクロホソカスミカメとクヌギカスミカメ. タテハモドキ, (55): 59-61.
- 小松孝寛, 2019. 綺麗なウンカ, ハネナガウンカの紹介. 宮崎の自然と環境, (4): 15-17.
- 前田幸治, 2018. ソデフリカスミカメの宮崎市での記録. タテハモドキ(55): 65.
- 宮本正一, 1977. 宮崎県北部のカメムシ [分布資料Ⅱ] 補遺. タテハモドキ, (12): 38-39.
- 日本昆虫目録編集委員会編集 2016, 日本昆虫目録 Catalogue of the Insects of Japan 第4巻準新翅類 Volume 4 Paraneoptera. 権歌書房, 福岡.
- 延岡 SATOYAMA 保全推進会議編, 2017. のべおか里山種ガイドブック～五ヶ瀬川下流域の里山に生息する野生動植物～. 96pp. 延岡市, 延岡.
- 奥田恭介・小松孝寛, 2017. スカシハゴロモモドキの九州からの初記録. Rostris, (61): 12-13.
- 清水 薫, 1969. 日豊海岸の動物 (獣・鳥・昆虫・蜘蛛) . 宮崎県・大分県 日豊海岸国定公園指定促進協議会, 日豊海岸自然公園候補地 学術調査報告書, pp59-88.
- 俵 慧, 1970. 宮崎県北部のカメムシ [分布資料Ⅰ] . タテハモドキ, (5): 43-74
- 俵 慧, 1977. 宮崎県北部のカメムシ [分布資料Ⅱ] . タテハモドキ, (12): 1-37.
- 塚本リサ・藤條純夫, 1992. ベニツチカメムシの繁殖と給餌. インセクタリウム, (29):136-142.
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫, 1993. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－ (友国雅章監修) . (10)+382pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第2巻 (安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫編) . 354pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 安永智秀, 2017. カスミカメムシ類8種の和名と学名. Rostris, (61): 51-53.
- 安本潤一, 2013. 延岡市と五ヶ瀬町のタガメ採集記録 (2011年～2013年) . タテハモドキ, (49): 68.

昆虫－コウチュウ類

調査担当者：岩切 康二

調査協力者：小松 孝寛

西 邦雄

片山 和久

延岡市自然環境調査 報告書 (昆虫ーコウチュウ類)

岩切 康二

1. はじめに

延岡市におけるコウチュウ類昆虫の記録は、2000年3月発行の「延岡市環境基本計画 自然環境調査 報告書」で478種が、3町合併後の2011年3月に発行された「第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査 報告書」で830種が報告されている。

平成29年度(2017年度)より開始された自然環境モニタリング事業では、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークで示された「移行地域の生物多様性の高いスポット」を中心に調査が行われ、令和2年度(2020年度)までの4年間で、行藤山、大崩山麓(大野原谷)、鬼の目山(鬼の目林道)、松山(松山林道)、鏡山、岳山、北川湿原(家田・川坂湿原)、沖田ダム、小川周辺、石田川、佐野川、松瀬・下塚、三ヶ村・藤の木、直海海岸、下阿蘇海岸、熊野江海岸、須美江海岸、白浜海岸、長浜海岸、新浜海岸、櫛津干潟、方財町、赤水町、下赤等で調査を進めてきた。コウチュウ類は種数が多く、筆者の同定能力不足から採集したすべての昆虫を同定できていないが、これまでに分かった延岡市のコウチュウ類について報告する。

現地調査結果に加えて、宮崎県昆虫目録(以下、「目録」)での延岡市の分布記録、その他の文献記録等を整理した結果、75科1097種の生息記録を確認した。

2. 調査方法等

現地調査は、夜間の灯火採集を中心に、地上ピットフォールトラップ調査、ルッキングやスウィーピングによる任意採集調査を実施した。その他、海浜性の甲虫については海岸踏査や漂着物探索調査、水生甲虫についてはタモ網を用いての採集調査も実施した。

文献調査は、宮崎昆虫同好会の機関誌「タテハモドキ」、宮崎昆虫調査研究会の機関誌「INSECTA MIYAZAKI」を中心に、延岡市でのコウチュウ類の記録を収集した。また、目録における延岡市の生息記録についても収集した。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

確認された 75 科 1097 種のうち、環境省レッドリスト（2020）に掲載されている種が 34 種、宮崎県レッドリスト（2015）に掲載されている種が 53 種であった。これらの種を一覧表で整理すると、表 1 のようになる。絶滅危惧種（CR、EN、VU）について、延岡市での確認状況を述べる

表 1 延岡市で記録があるレッドリスト掲載のコウチュウ類

		環境省レッドリスト（2020）					なし
		CR	EN	VU	NT	DD	
宮崎県 レッドリスト (2015)	CR						
	EN		コミズスマシ	ルイスツブゲンゴロウ ツマキレオナガミズスマシ			セスジゲンゴロウ オナガミズスマシ
	VU		イカリモンハンミョウ	ハラビロハンミョウ ヨドシロヘリハンミョウ ムツボシツヤコツブゲンゴロウ ヒメケシゲンゴロウ アサカミキリ	キベリマメゲンゴロウ オオミズスマシ		ハイクボタル ミドリカミキリ
	NT			コガタノゲンゴロウ ダイコクコガネ	アイヌハンミョウ シロヘリハンミョウ シャープツブゲンゴロウ シマゲンゴロウ クロゲンゴロウ		エリザハンミョウ コハンミョウ サウダマメゲンゴロウ クロマメゲンゴロウ ツノクロツヤムシ マダラクワガタ ヒメオオクワガタ ルリクワガタ オニクワガタ ムネアカセンチコガネ クロカナブン ヒメボタル ハラグロオオテントウ オオナガクチキ イヨヒメハナカミキリ ムナコバハナカミキリ トラフカミキリ ヤノトラカミキリ ケナガカミキリ シナノクロフカミキリ ツチイロフトヒゲカミキリ セダカコバヤハズカミキリ ヒゲナガカミキリ キバネニセリノゴカミキリ ヒゲナガシラホシカミキリ セミスジニセリノゴカミキリ カスガキモンカミキリ フチグロヤツボシカミキリ
	DD						ナガイツツナガクチキ オオクワカミキリ ナカバヤシモモフトカミキリ
	なし	シジミガムシ ヨツボシカミキリ	クチキゴミムシ スナハラゴミムシ キバネキバナガミズギワゴミムシ コオナガミズスマシ ヨコミソドロムシ	ヒトツメアオゴミムシ オオトックリゴミムシ エチゴトックリゴミムシ ケンゲンゴロウ キベリクロヒメゲンゴロウ ミユキシジミガムシ ガムシ クロシオガムシ	ニッポンミズスマシ		

(1) 絶滅危惧 IA 類 (CR)

該当種なし

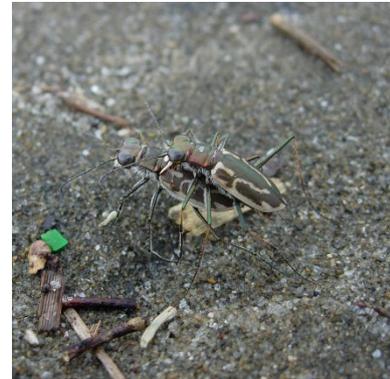
(2) 絶滅危惧 IB 類 (EN)

コミズスマシ (ミズスマシ科) (環境省 RL : EN, 宮崎県 RL : EN-g)

止水域の流れのゆるやかな場所に生息する。北川町家田、山ノ内、山下で記録がある。ただし、北川湿原のミズスマシは、三宅・堤内 (2019) によりニッポンミズスマシと報告されていることから、家田や山ノ内の記録は再検討する必要があるかもしれない。目録での産地に延岡市がある。

イカリモンハンミョウ (ハンミョウ科) (環境省 RL : EN, 宮崎県 RL : VU-g)

初夏～夏にかけて発生し、海浜の波打ち際の濡れた砂地を徘徊し無脊椎動物を捕食する。1970 年に松原町で、1988 年に長浜町で記録があるが、近年は確認されていなかった。2020 年に新浜海岸、長浜海岸、方財海岸、白浜、須美江海岸、熊野江海岸、下阿蘇海岸、直海海岸、波瀬川原海岸で調査を行ったが、確認には至らなかった。本市における本種の生息は非常に危機的状況にあると考えられるが、ハンミョウ類を調査している片山和久氏から、2020 年 8 月に北部の海岸で確認したとの情報が寄せられた。



シジミガムシ (ガムシ科) (環境省 RL : EN, 宮崎県 RL : なし)

止水域に生息し、水生植物が豊富なやや水深のある環境から採集されている。小野町、北川町小積谷での記録がある。本種が属するシジミガムシ属は似ている種が多く同属種との区別が難しいため、過去の記録は再検討する必要があるかもしれない。

ヨツボシカミキリ (カミキリムシ科) (環境省 RL : EN, 宮崎県 RL : なし)

クリの咲く時期に多く、好んでクリの花を訪れるほか、ブナ科の薪や集、灯火にもよく飛来する。高野町 (1971 年)、松山町 (1979 年)、北川町上祝子 (1972 年) で記録があるが、近年の記録は見当たらない。

ルイスツブゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) (環境省 RL : VU, 宮崎県 RL : EN-r)

植物が豊富な止水域に生息し、平野部の水湿の良好な環境を好む。1994 年に北川町の野での記録がある。

ツマキレオナガミズスマシ（ミズスマシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：EN-r）

河川の中下流域や付随する湧水池に生息する。水質が良好でゆるやかな流れのある、植生の豊富な岸際で見られる。1994年に北川町川内名夕府での記録がある。また、目録での産地に、延岡市がある。

セスジゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：EN-r）

干上がりやすい浅い湿地に生息し、河川敷の水たまりや池沼の岸際の植生帯などで採集されることが多い。延岡市二ツ島町で記録がある。本種が属するセスジゲンゴロウ属は似ている種が多いため、種の同定にはオスの交尾器を調べる必要がある。

オナガミズスマシ（ミズスマシ科）（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：EN-r）

河川の上流域に生息し、低水温で水質が良好な環境を好む。1993年に北川町上祝子の祝子川で記録がある。

（3）絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ハラビロハンミョウ（ハンミョウ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：VU-r）

成虫は春～秋にかけて見られ、海浜の濡れた砂地を徘徊し無脊椎動物を捕食する。イカリモンハンミョウと同様に、2020年の夏に本種の探索を行ったが確認できなかった。目録での産地に延岡市がある。

ヨドシロヘリハンミョウ（ハンミョウ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：VU-r）

河川の河口域のヨシ群落に隣接している砂泥地に生息している。延岡市では二ツ島町、川島町等の北川河口域、粟野名町の祝子川河口域、方財町の五ヶ瀬川河口域で記録があり、2020年現在も安定して生息している。



ムツボシツヤコツブゲンゴロウ（コツブゲンゴロウ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：VU-r）

植物が豊富な止水域に生息し、水質の良い明るく開けた環境を好む。1995年に北川町山下で採集された記録があるが、近年の生息状況は不明である。

ヒメケシゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：VU-r）

植物が豊富な止水域に生息し、比較的水温が低い薄暗い環境を好む。1989年と1992年に北川町家田での記録がある。

アサカミキリ（カミキリムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：VU-r）

アザミの生育する草地に生息し、成虫は5～8月に出現する。アザミの生育する草地が減少しつつあり、本種も減少している。1995年に北川町上祝子での記録がある。

コガタノゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：NT-g）

水生植物が豊富な浅い止水域を好むが、水生植物がない水たまりや、河川の岸際の植生帯などでも見られる。一時、減少した時期があったが、近年は増加傾向にある。灯火にも飛来する。1993年に稲葉崎町、1997年に三須町で記録があり、2020年には川坂や下赤で確認された。

ダイコクコガネ（コガネムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：NT-r）

放牧地や草原に生息し、草丈の短い草地か裸地上の新鮮な牛糞にあつまる大型の糞虫である。シカの増加に伴い、林内に住む個体群がいることが分かってきている。目録での産地に延岡市があるが、具体的な確認記録は見いだせなかった。

クチキゴミムシ（オサムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：なし）

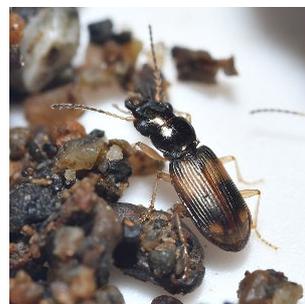
大径木の多い原生的な樹林環境で、倒木の樹皮下や腐朽木の内部で生活し、夜間は朽ち木表面を徘徊する。1972年に祝子川ダムで採集された記録があるが、近年の生息状況は不明である。

スナハラゴミムシ（オサムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：なし）

おもに池沼周辺や河川敷等の草原、草地の地表に生息していると考えられ、やや湿性の環境を好む。灯火に飛来する。1997年に岡富町での記録があるが、目録での産地に延岡市の記載はなく、1997年の記録が再検討されたのかもしれない。

キバネキバナガミズギワゴミムシ（オサムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：なし）

海浜性の種で、河口付近の潮間帯に限ってみられる。満潮時には完全に水没する砂泥中に潜み、干潮時には露出した砂泥上で活動する。中島ら（2008）で北川の人工ワンドでの記録が報告されており、河川水辺の国勢調査でも採集されているようであるが、目録には本種が掲載されていない。2020年8月の調査では、方財町の五ヶ瀬川河口域で生息が確認された。



コオナガミズスマシ（ミズスマシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：なし）

河川中流域のゆるやかな流れのある環境に生息し、それらに付随する流れ込みのある池沼でも見られる。目録での産地に延岡市と延岡市北川町がある。2007年に貝の畑町で採集されている。

ヨコミゾドロムシ（ヒメドロムシ科）（環境省 RL：VU，宮崎県 RL：なし）

河川の中～下流域の岸際の植生帯や流木上に生息する。北川町で実施された環境調査で採集されているようである。

キベリマメゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：VU-r）

河川の中～下流域に生息し、水質の良好な流水環境を好み、岸際の植物の根際に潜む。1988年と1992年に大貫町で、1997年に野田町での記録がある。近年では河川水辺の国勢調査で確認されているようである。

オオミズスマシ（ミズスマシ科）（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：VU-g）

止水～緩流域で見られる。産地での個体数は多いが、全国的に減少傾向にある。1988年と1993年に稲葉崎での採集記録があるが、近年の生息状況は不明である。

ヘイケボタル（ホタル科）（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：VU-g）

平地から丘陵地において、水田や湿地などの止水域で繁殖する。かつてはごく普通種であったが、水質環境の変化により減少しているという。愛宕山、川島町、追内町、差木野町で記録がある。

ミドリカミキリ（カミキリムシ科）（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：VU-r）

4～8月に出現し、クリ、ウツギ、ノリウツギなどに訪花する。また、広葉樹の伐採木などにも集まる。古い採集記録が多いが、行勝山、大崩山、舞野町、小野町、土々呂町、愛宕山で採集されている。

(4) その他の注目すべき種

シロヘリハンミョウ（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：NT-r）

海岸の岩礁や付近の砂浜海岸に生息する。近年まで延岡市での正確な採集記録は知られていなかったが、2017年に笹岡康則氏により島浦島で採集され、初記録となった。また、2020年8月に片山和久氏によって赤水町の海岸でも確認された。



オオトックリゴミムシ（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：なし）

平野部から低山地の河川敷やため池、ダム湖、湿原の水辺に生息する。宮崎県ではこれまで記録がなかったが、2015年に宮崎市で初めて採集され、2017年には北川町家田でも採集された。次種のエチゴトックリゴミムシと同所的に生息していたが、本種の方が個体数が少なかった。



エチゴトックリゴミムシ（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：なし）

周囲に湿性草草が広がる規模の大きなため池周辺や湿地に生息する。主に本州（関東地方以北）の限られた地域に分布し、九州での記録は1994年に福岡県の能古島で採集された記録しか知られていない。2017年に北川町家田で採集されたのに続き、2020年にも北川町川坂で採集されており、2020年現在は安定して生息しているといえる。



ミユキシジミガムシ（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：なし）

平地の水生植物が豊富なごく浅い湿地に生息し、水際の水中の泥の上を動き回る。本種の同定には、オスの交尾器を調べる必要があり、生息状況はよく分かっていなかった。北川町で実施された環境調査で採集されているようである。

クロシオガムシ（環境省 RL：NT，宮崎県 RL：なし）

河口域の干潟に生息し、砂礫底の環境を好む。成虫は干潮時に活動し、満潮時は水没して過ごす。夏から秋に新成虫が出現し、成虫で越冬する。中島ら（2008）で北川の人工ワンドでの記録が報告されており、河川水辺の国勢調査でも採集されているようであるが、目録には本種が掲載されていない。

ニッポンミズスマシ（環境省 RL：DD，宮崎県 RL：なし）

これまで長らく謎の種であったが、三宅・堤内（2019）により、北川湿原に生息しているミズスマシが、「ニッポンミズスマシ」である可能性が高いことが報告された。現在、北川湿原と大分県の一部で確認されているのみである。産地での個体数は少ない。



クワガタムシ類（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：NT-r）

マダラクワガタ、ヒメオオクワガタ、ルリクワガタ、オニクワガタ

これらのクワガタは、比較的標高の高い山地帯に生息している種で、大崩山周辺や鬼の目山で採集されている。

カミキリムシ類（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：NT-r,g）

イヨヒメハナカミキリ、ムナコブハナカミキリ、トラフカミキリ、ヤノトラカミキリ、ケナガカミキリ、シナノクロフカミキリ、ツチイロフトヒゲカミキリ、セダカコブヤハズカミキリ、ヒゲナガカミキリ、キバネニセリングカミキリ、ヒゲナガシラホシカミキリ、セミスジニセリングカミキリ、カスガキモンカミキリ、フチグロヤツボシカミキリ

これらのカミキリムシは、低山から高山まで様々な環境に生息し、食樹もさまざまであるが、大崩山周辺や鬼の目山で採集されている。

オオイタキバナガゴミムシ（環境省 RL：なし，宮崎県 RL：なし）

オサムシ科の中型のゴミムシの仲間で、2007年に大分県津久見市、2009年に大分県白杵市で採集され、2010年に新種記載された種である。大分県特産種と考えられていたが、2011年に鏡山で採集されて宮崎県初記録として報告された。



4. コウチュウ類から見た延岡市の重要な生息地

(1) 北川湿原（家田湿原・川坂湿原）

前回 2011 年の報告でも重要な生息地と挙げられ、ヒメケシゲンゴロウ、シャープツブゲンゴロウ等の希少種の生息が報告されていたが、それ以降にも、ニッポンミズスマシの再発見や、エチゴトックリゴミムシ、オオトックリゴミムシ等の湿地性ゴミムシが確認されるなど、新しい発見が相次いでいる。太陽光発電や宅地造成などで里山の水辺環境が急速に失われつつある中、北川湿原は残された里山の水辺環境として、その重要性はさらに高まってきている。また、コウチュウ相についてもまだ解明されたとは言えず、これからも継続した調査を行いながら、保全していく必要がある。

(2) 五ヶ瀬川・北川・祝子川・友内川・大瀬川河口域

五ヶ瀬川、北川、祝子川、友内川、大瀬川の河口干潟ではヨドシロヘリハンミョウ、キバネキバナガミズギワゴミムシ、クロシオガムシ等が生息し、河原の砂地にはエリザハンミョウやコハンミョウが生息している。特にヨドシロヘリハンミョウとキバネキバナガミズギワゴミムシの生息に適した干潟は局地的に分布していると考えられるため、分布状況を詳細に把握する必要がある。

(3) 五ヶ瀬川以北の砂浜海岸（白浜、須美江、熊野江、下阿蘇、直海、波瀬川原）

五ヶ瀬川以北は岩礁海岸が多くなり砂浜海岸は一気に少なくなるが、それでも自然環境が残された砂浜海岸が点在している。延岡市では現在唯一となっているかもしれないイカリモンハンミョウの生息地があり、海浜性のハネカクシやエンマムシ、ニセハマヒョウタンゴミムシダマシなどの海浜性甲虫が見られる。

(4) 長浜海岸、新浜海岸

過去にイカリモンハンミョウの確認記録がある海岸であるが、近年の調査では確認されていない。どこかでまだ生息している可能性があるので、引き続き調査を行う必要がある。

(5) 市南部の岩礁海岸

鯛名町から赤水町にかけての岩礁海岸である。本地域の海岸はシロヘリハンミョウの生息地となっている。

(6) 島浦島

延岡市初記録となるシロヘリハンミョウが確認されている。笹岡康則氏が採集記録を報告しているが、コウチュウ類の調査は全体的に不足している。特に海浜性（岩礁、砂浜）の種や、湿地性の種について調査を進める必要がある。

(7) 北川・小川の河川環境

小川はゲンジボタルの生息地として有名であり、河口からの連続した流れが保たれている。北川沿いも砂州やワンドがあり河畔林も見られ、多様なコウチュウ類の生息地と考えられる。ただ、調査は不足している。過去に、ルイスツブゲンゴロウ、ツマキレオナガミズスマシ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウなどが確認されており、水生甲虫類の調査を進める必要がある。

(8) 行滕山

低地に発達した照葉樹林広がり、森林性のコウチュウの重要な生息地となっている。現地調査や文献調査の結果、行滕山を含む行滕町一帯で 153 種のコウチュウ類が確認されている。2013 年に新種記載されたヒユウガホソカタムシ、1998 年に北川町鏡山で 125 年ぶりに確認されたキマダラマグソコガネ、宮崎県レッドリスト（2015）掲載種のみドリカミキリやケナガカミキリが確認されている。

(9) 大崩山周辺の山塊

これまでに延岡市で最もコウチュウ類の調査が行われてきた地域である。大崩山周辺およびその山麓の上祝子で、541 種のコウチュウ類が確認されている。そのうち、環境省レッドリスト（2020）掲載種が 5 種、宮崎県レッドリスト（2015）掲載種が 17 種となっている。

5. 延岡市で確認されたコウチュウ類目録

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	コウチュウ目	セスジムシ科	チャイロヒラタセスジムシ	<i>Clinidium veneficum</i>			
2	コウチュウ目	カワラゴミムシ科	カワラゴミムシ	<i>Omophron aequalis</i>			
3	コウチュウ目	ハンミョウ科	アイヌハンミョウ	<i>Cicindela gemmata aino</i>	NT	NT-g	
4	コウチュウ目	ハンミョウ科	ニワハンミョウ	<i>Cicindela japana</i>			
5	コウチュウ目	ハンミョウ科	ナミハンミョウ	<i>Cicindela japonica</i>			
6	コウチュウ目	ハンミョウ科	ハラビロハンミョウ	<i>Calomera angulata niponensis</i>	VU	VU-r	
7	コウチュウ目	ハンミョウ科	エリザハンミョウ	<i>Cylindera elisae elisae</i>		NT-r	
8	コウチュウ目	ハンミョウ科	イカリモンハンミョウ	<i>Abroscelis anchoralis</i>	EN	VU-g	
9	コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ	<i>Myriochile specularis</i>		NT-g	
10	コウチュウ目	ハンミョウ科	ヨドシロヘリハンミョウ	<i>Callyttron inspecularis</i>	VU	VU-r	
11	コウチュウ目	ハンミョウ科	シロヘリハンミョウ	<i>Callyttron yuasai yuasai</i>	NT	NT-r	
12	コウチュウ目	オサムシ科	エソカタビロオサムシ	<i>Campalita chinense</i>			
13	コウチュウ目	オサムシ科	オオオサムシ	<i>Carabus dehaanii dehaanii</i>			
14	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメオサムシ	<i>Carabus japonicus japonicus</i>			
15	コウチュウ目	オサムシ科	マイマイカブリ	<i>Carabus blaptoides blaptoides</i>			
16	コウチュウ目	オサムシ科	キュウシュウクロナガオサムシ	<i>Carabus kyushuensis kyushuensis</i>			
17	コウチュウ目	オサムシ科	クロナガオサムシ	<i>Carabus procerulus procerulus</i>			
18	コウチュウ目	オサムシ科	フトキノカワゴミムシ	<i>Leistus crassus</i>			
19	コウチュウ目	オサムシ科	ナガキノカワゴミムシ	<i>Leistus prolongatus</i>			
20	コウチュウ目	オサムシ科	オオマルクビゴミムシ	<i>Nebria macrogona</i>			
21	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina castanea</i>			
22	コウチュウ目	オサムシ科	コヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina vulgivaga</i>			
23	コウチュウ目	オサムシ科	チャヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina westwoodi</i>			
24	コウチュウ目	オサムシ科	ホソヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites acutidens</i>			
25	コウチュウ目	オサムシ科	ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i>			
26	コウチュウ目	オサムシ科	オサムシモドキ	<i>Craspedonotus tibialis</i>			
27	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタキイロチビゴミムシ	<i>Trechus ephippiatus</i>			
28	コウチュウ目	オサムシ科	テンリュウメダカチビカワゴミムシ	<i>Asaphidion tenryuense tenryuense</i>			
29	コウチュウ目	オサムシ科	コホソトビミスギワゴミムシ	<i>Bembidion aeneipes</i>			
30	コウチュウ目	オサムシ科	ヒョウゴミスギワゴミムシ	<i>Bembidion hiogoense</i>			
31	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツボシミスギワゴミムシ	<i>Bembidion morawitzi</i>			
32	コウチュウ目	オサムシ科	アトモンミスギワゴミムシ	<i>Bembidion niloticum batesi</i>			
33	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメスジミスギワゴミムシ	<i>Bembidion pliculatum</i>			
34	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタアオミスギワゴミムシ	<i>Bembidion pseudolucillum</i>			
35	コウチュウ目	オサムシ科	フタモンミスギワゴミムシ	<i>Bembidion semilunium</i>			
36	コウチュウ目	オサムシ科	ドウイロミスギワゴミムシ	<i>Bembidion stenoderum</i>			
37	コウチュウ目	オサムシ科	クロチビカワゴミムシ	<i>Tachyta nana</i>			
38	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツモンミスギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i>			
39	コウチュウ目	オサムシ科	カワチゴミムシ	<i>Diplous caligatus</i>			
40	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツボシツヤナガゴミムシ	<i>Abacetus tanakai</i>			
41	コウチュウ目	オサムシ科	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i>			
42	コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	<i>Pterostichus fortis</i>			
43	コウチュウ目	オサムシ科	コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>			
44	コウチュウ目	オサムシ科	ノグチナガゴミムシ	<i>Pterostichus noguchii</i>			
45	コウチュウ目	オサムシ科	アシミノナガゴミムシ	<i>Pterostichus sulcitaris</i>			
46	コウチュウ目	オサムシ科	ムナビロヒメナガゴミムシ	<i>Pterostichus straneoii</i>			
47	コウチュウ目	オサムシ科	オオイタキバナゴミムシ	<i>Stomis miyakei</i>			
48	コウチュウ目	オサムシ科	ムラサキオオゴミムシ	<i>Trigonognatha coreana</i>			
49	コウチュウ目	オサムシ科	ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>			
50	コウチュウ目	オサムシ科	アオグロヒラタゴミムシ	<i>Agonum chalconum</i>			
51	コウチュウ目	オサムシ科	タンゴヒラタゴミムシ	<i>Agonum leucopus</i>			
52	コウチュウ目	オサムシ科	チビモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes aurelius aurelius</i>			
53	コウチュウ目	オサムシ科	オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes buehneri</i>			
54	コウチュウ目	オサムシ科	ハラアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes japonicus</i>			
55	コウチュウ目	オサムシ科	チャイロホソモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes kyushuensis hondonus</i>			
56	コウチュウ目	オサムシ科	コハラアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes lampros</i>			
57	コウチュウ目	オサムシ科	サドモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes limodromoides</i>			
58	コウチュウ目	オサムシ科	イクビモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes modestior</i>			
59	コウチュウ目	オサムシ科	クビアカモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes rubriolus</i>			
60	コウチュウ目	オサムシ科	ルリヒラタゴミムシ	<i>Dicranoncus femoralis</i>			
61	コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>			
62	コウチュウ目	オサムシ科	ベーツヒラタゴミムシ	<i>Euplynes batesi</i>			
63	コウチュウ目	オサムシ科	オオヒラタゴミムシ	<i>Platynus magnus</i>			
64	コウチュウ目	オサムシ科	コヒラタゴミムシ	<i>Platynus protensus</i>			
65	コウチュウ目	オサムシ科	マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>			
66	コウチュウ目	オサムシ科	キアシツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus callitheres callitheres</i>			
67	コウチュウ目	オサムシ科	クワツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>			
68	コウチュウ目	オサムシ科	オオクワツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>			
69	コウチュウ目	オサムシ科	ヤスマツツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus yasumatsui</i>			
70	コウチュウ目	オサムシ科	ナガクワツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus silvester</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
71	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus dulcigradus</i>			
72	コウチュウ目	オサムシ科	マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>			
73	コウチュウ目	オサムシ科	ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i>			
74	コウチュウ目	オサムシ科	コアオマルガタゴミムシ	<i>Amara chalcophaea</i>			
75	コウチュウ目	オサムシ科	オオマルガタゴミムシ	<i>Amara gigantea</i>			
76	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara obscuripes</i>			
77	コウチュウ目	オサムシ科	クチキゴミムシ	<i>Morion japonicum</i>	VU		
78	コウチュウ目	オサムシ科	ホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus punctatipennis</i>			
79	コウチュウ目	オサムシ科	ゴミムシ	<i>Anisodactylus signatus</i>			
80	コウチュウ目	オサムシ科	オオゴモクムシ	<i>Harpalus capito</i>			
81	コウチュウ目	オサムシ科	オオズケゴモクムシ	<i>Harpalus eous</i>			
82	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jureceki</i>			
83	コウチュウ目	オサムシ科	クロゴモクムシ	<i>Harpalus niigatanus</i>			
84	コウチュウ目	オサムシ科	ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>			
85	コウチュウ目	オサムシ科	ケゴモクムシ	<i>Harpalus vicarius</i>			
86	コウチュウ目	オサムシ科	アカアシマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus</i>			
87	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus congruus</i>			
88	コウチュウ目	オサムシ科	キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>			
89	コウチュウ目	オサムシ科	キベリゴモクムシ	<i>Anoplogenus cyanescens</i>			
90	コウチュウ目	オサムシ科	ミドリマゴモクムシ	<i>Stenolophus difficilis</i>			
91	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤマメゴモクムシ	<i>Stenolophus iridicolor</i>			
92	コウチュウ目	オサムシ科	イツホシマメゴモクムシ	<i>Stenolophus quinquepustulatus</i>			
93	コウチュウ目	オサムシ科	スナハラゴミムシ	<i>Diplocheila elongata</i>	VU		
94	コウチュウ目	オサムシ科	オオスナハラゴミムシ	<i>Diplocheila zeelandica</i>			
95	コウチュウ目	オサムシ科	ニッポンヨツボシゴミムシ	<i>Adischissus japonicus</i>			
96	コウチュウ目	オサムシ科	オオヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>			
97	コウチュウ目	オサムシ科	アトモンアオゴミムシ	<i>Chlaenius bioculatus</i>			
98	コウチュウ目	オサムシ科	ヒトツメアオゴミムシ	<i>Chlaenius delioliolus</i>	NT		
99	コウチュウ目	オサムシ科	コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>			
100	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius inops</i>			
101	コウチュウ目	オサムシ科	オオアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius micans</i>			
102	コウチュウ目	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>			
103	コウチュウ目	オサムシ科	クロヒゲアオゴミムシ	<i>Chlaenius ocreatus</i>			
104	コウチュウ目	オサムシ科	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>			
105	コウチュウ目	オサムシ科	キボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius posticalis</i>			
106	コウチュウ目	オサムシ科	ムナビロアオゴミムシ	<i>Chlaenius sericimicans</i>			
107	コウチュウ目	オサムシ科	ムナビロアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius tetragonoderus</i>			
108	コウチュウ目	オサムシ科	コガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius variicomis</i>			
109	コウチュウ目	オサムシ科	アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>			
110	コウチュウ目	オサムシ科	オオキベリアオゴミムシ	<i>Epomis nigricans</i>			
111	コウチュウ目	オサムシ科	スジアオゴミムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>			
112	コウチュウ目	オサムシ科	ノグチアオゴミムシ	<i>Lithochlaenius noguchii</i>			
113	コウチュウ目	オサムシ科	トックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis proluxa</i>			
114	コウチュウ目	オサムシ科	オオトックリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i>	NT		
115	コウチュウ目	オサムシ科	エチゴトックリゴミムシ	<i>Oodes echigonus</i>	NT		
116	コウチュウ目	オサムシ科	クロズホナシゴミムシ	<i>Perigona nigriceps</i>			
117	コウチュウ目	オサムシ科	フタモンクビナガゴミムシ	<i>Archicolliuris bimaculata nipponica</i>			
118	コウチュウ目	オサムシ科	チャバネクビナガゴミムシ	<i>Odacantha aegrota</i>			
119	コウチュウ目	オサムシ科	クビナガゴミムシ	<i>Ophionea indica</i>			
120	コウチュウ目	オサムシ科	カワツブアトキリゴミムシ	<i>Amphimenes piceolus</i>			
121	コウチュウ目	オサムシ科	コキノコゴミムシ	<i>Coptodera japonica</i>			
122	コウチュウ目	オサムシ科	ハギキノコゴミムシ	<i>Coptodera subapicalis</i>			
123	コウチュウ目	オサムシ科	コヨツボシアトキリゴミムシ	<i>Dolichoctis striatus striatus</i>			
124	コウチュウ目	オサムシ科	ククビアオトキリゴミムシ	<i>Lachnolebia cribricollis</i>			
125	コウチュウ目	オサムシ科	フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>			
126	コウチュウ目	オサムシ科	ホシハネビロアトキリゴミムシ	<i>Lebia calycophora</i>			
127	コウチュウ目	オサムシ科	クロズジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia cruxminor</i>			
128	コウチュウ目	オサムシ科	ハネビロアトキリゴミムシ	<i>Lebia duplex</i>			
129	コウチュウ目	オサムシ科	アトグロジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia idae</i>			
130	コウチュウ目	オサムシ科	ジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>			
131	コウチュウ目	オサムシ科	フタツメゴミムシ	<i>Lebidia bioculata</i>			
132	コウチュウ目	オサムシ科	ヤホシゴミムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>			
133	コウチュウ目	オサムシ科	オオヨツアナアトキリゴミムシ	<i>Parena perforata</i>			
134	コウチュウ目	オサムシ科	クビボソゴミムシ	<i>Galerita orientalis</i>			
135	コウチュウ目	オサムシ科	フタホシスジバネゴミムシ	<i>Planetes puncticeps</i>			
136	コウチュウ目	オサムシ科	アオハリホソゴミムシ	<i>Drypta japonica</i>			
137	コウチュウ目	オサムシ科	キバナガミズギワゴミムシ	<i>Cillenus yokohamae</i>			
138	コウチュウ目	オサムシ科	キハネキバナガミズギワゴミムシ	<i>Cillenus aestuarii</i>	VU		
139	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	<i>Brachinus scotomedes</i>			
140	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	コホソクビゴミムシ	<i>Brachinus stenoderus</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
141	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ	<i>Pheropsophus jessoensis</i>			
142	コウチュウ目	コガシラミズムシ科	ヒメコガシラミズムシ	<i>Halipilus ovalis</i>			
143	コウチュウ目	コガシラミズムシ科	コガシラミズムシ	<i>Pelodytes intermedius</i>			
144	コウチュウ目	コツゲンゴロウ科	コツゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>			
145	コウチュウ目	コツゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツゲンゴロウ	<i>Canthydrus politus</i>	VU	VU-r	
146	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ヒメケンゲンゴロウ	<i>Hyphydrus laeiventris laeiventris</i>	VU	VU-r	
147	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ	<i>Hyphydrus japonicus</i>	NT		
148	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>			
149	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ツツゲンゴロウ	<i>Laccophilus difficilis</i>			
150	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ルイスツツゲンゴロウ	<i>Laccophilus lewisius</i>	VU	EN-r	
151	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	シャープツツゲンゴロウ	<i>Laccophilus sharpi</i>	NT	NT-g	
152	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	セスジゲンゴロウ	<i>Copelatus japonicus</i>		EN-r	
153	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	テラニシセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus teranishii</i>			
154	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	モンキマメゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i>			
155	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>	NT	VU-r	
156	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	サワダマメゲンゴロウ	<i>Platambus sawadai</i>		NT-r	
157	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロマメゲンゴロウ	<i>Platambus stygius</i>		NT-g	
158	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i>			
159	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>			
160	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>	NT		
161	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>			
162	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>			
163	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringii</i>	NT	NT-g	
164	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus grammicus</i>			
165	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	NT	NT-r	
166	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	コガタゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus lateralis</i>	VU	NT-g	
167	コウチュウ目	ミズスマシ科	オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	NT	VU-g	
168	コウチュウ目	ミズスマシ科	ツマキレオナガミズスマシ	<i>Orectochilus agilis</i>	VU	EN-r	
169	コウチュウ目	ミズスマシ科	コオナガミズスマシ	<i>Orectochilus punctipennis</i>	VU		
170	コウチュウ目	ミズスマシ科	オナガミズスマシ	<i>Orectochilus regimbarti regimbarti</i>		EN-r	
171	コウチュウ目	ミズスマシ科	コミズスマシ	<i>Gyrinus curtus</i>	EN	EN-g	
172	コウチュウ目	ミズスマシ科	ニッポンミズスマシ	<i>Gyrinus niponicus</i>	DD		
173	コウチュウ目	ガムシ科	ウスモンケンガムシ	<i>Cercyon laminatus</i>			
174	コウチュウ目	ガムシ科	セマルケンガムシ	<i>Cryptopleurum subtile</i>			
175	コウチュウ目	ガムシ科	マグソガムシ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i>			
176	コウチュウ目	ガムシ科	キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i>			
177	コウチュウ目	ガムシ科	シジミガムシ	<i>Laccobius bedeli</i>	EN		
178	コウチュウ目	ガムシ科	ミユキシジミガムシ	<i>Laccobius inopinus</i>	NT		
179	コウチュウ目	ガムシ科	チビマルガムシ	<i>Paracymus orientalis</i>			
180	コウチュウ目	ガムシ科	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>	NT		
181	コウチュウ目	ガムシ科	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>			
182	コウチュウ目	ガムシ科	タマガムシ	<i>Amphiops mater mater</i>			
183	コウチュウ目	ガムシ科	トゲバゴマフガムシ	<i>Berosus lewisius</i>			
184	コウチュウ目	ガムシ科	ゴマフガムシ	<i>Berosus punctipennis</i>			
185	コウチュウ目	ガムシ科	クロシオガムシ	<i>Horelophopsis hanseni</i>	NT		
186	コウチュウ目	エンマムシモドキ科	エンマムシモドキ	<i>Syntelia histeroides</i>			
187	コウチュウ目	エンマムシ科	ホソエンマムシ	<i>Niponius impressicollis</i>			
188	コウチュウ目	エンマムシ科	オオマルマメエンマムシ	<i>Gnathoncus nannetensis</i>			
189	コウチュウ目	エンマムシ科	オオセスジエンマムシ	<i>Onthophilus ostreatus</i>			
190	コウチュウ目	エンマムシ科	ニセドウガネエンマムシ	<i>Saprinus niponicus</i>			
191	コウチュウ目	エンマムシ科	ルリエンマムシ	<i>Saprinus splendens</i>			
192	コウチュウ目	エンマムシ科	クロチビエンマムシ	<i>Carcinops pumilio</i>			
193	コウチュウ目	エンマムシ科	ムナクボエンマムシ	<i>Atholus depistor</i>			
194	コウチュウ目	エンマムシ科	コツヤエンマムシ	<i>Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus</i>			
195	コウチュウ目	エンマムシ科	ツヤマルエンマムシ	<i>Atholus pirthous</i>			
196	コウチュウ目	エンマムシ科	ヤマトエンマムシ	<i>Hister japonicus</i>			
197	コウチュウ目	エンマムシ科	ヒメツヤエンマムシ	<i>Hister simplicisternus</i>			
198	コウチュウ目	エンマムシ科	ニセクロエンマムシ	<i>Hister unicolor leonhardi</i>			
199	コウチュウ目	エンマムシ科	コエンマムシ	<i>Margarinotus niponicus</i>			
200	コウチュウ目	エンマムシ科	ニセヒメエンマムシ	<i>Margarinotus agnatus</i>			
201	コウチュウ目	エンマムシ科	キノコエンマムシ	<i>Margarinotus boleti</i>			
202	コウチュウ目	エンマムシ科	ハコネエンマムシ	<i>Margarinotus sutus</i>			
203	コウチュウ目	エンマムシ科	ヒメエンマムシ	<i>Margarinotus weymarni</i>			
204	コウチュウ目	エンマムシ科	エンマムシ	<i>Merohister jekeli</i>			
205	コウチュウ目	エンマムシ科	ナガエンマムシ	<i>Platysoma lineicollis</i>			
206	コウチュウ目	エンマムシ科	オオナガエンマムシ	<i>Platysoma lewisi</i>			
207	コウチュウ目	エンマムシ科	オオヒラタエンマムシ	<i>Hololepta amurensis</i>			
208	コウチュウ目	エンマムシ科	タカチホヒメコケムシ	<i>Euconnus takachihoi</i>			
209	コウチュウ目	シテムシ科	オオモモフトシテムシ	<i>Necrodes asiaticus</i>			
210	コウチュウ目	シテムシ科	モモフトシテムシ	<i>Necrodes nigricornis</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
211	コウチュウ目	シデムシ科	ベッコウヒラタシデムシ	<i>Eusilpha brunneicollis</i>			
212	コウチュウ目	シデムシ科	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>			
213	コウチュウ目	シデムシ科	クロボシヒラタシデムシ	<i>Oiceoptoma nigropunctatum</i>			
214	コウチュウ目	シデムシ科	ヒメヒラタシデムシ	<i>Thanatophilus sinuatus</i>			
215	コウチュウ目	シデムシ科	クロシデムシ	<i>Nicrophorus concolor</i>			
216	コウチュウ目	シデムシ科	ヨツボシモンシデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>			
217	コウチュウ目	シデムシ科	クロシデムシ	<i>Ptomascopus morio</i>			
218	コウチュウ目	ハネカクシ科	ホソヒメアリツカムシ	<i>Aphilia longicollis</i>			
219	コウチュウ目	ハネカクシ科	マルガタオチバアリツカムシ	<i>Philoscotus brevis</i>			
220	コウチュウ目	ハネカクシ科	マルムネアリツカムシ	<i>Triomicrus protervus</i>			
221	コウチュウ目	ハネカクシ科	アシナガアリツカムシ	<i>Labomimus reitteri</i>			
222	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヤマオトゲアリツカムシ	<i>Lasinus monticola</i>			
223	コウチュウ目	ハネカクシ科	アシベアリツカムシ	<i>Prosthecarthron sauteri</i>			
224	コウチュウ目	ハネカクシ科	ムクゲヒメキノコハネカクシ	<i>Sepedophilus germanus</i>			
225	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロズマルビハネカクシ	<i>Tachinus nigriceps</i>			
226	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツヤケシコケホソハネカクシ	<i>Silusa rugosa</i>			
227	コウチュウ目	ハネカクシ科	コンボウヒゲフトハネカクシ	<i>Tetrabothrus japonicus</i>			
228	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヘリアカデオキノコムシ	<i>Scaphidium reitteri</i>			
229	コウチュウ目	ハネカクシ科	ルイスオオヒラタハネカクシ	<i>Piestoneus lewisii</i>			
230	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオハラオオヒラタハネカクシ	<i>Piestoneus oharai</i>			
231	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオウスバツツハネカクシ	<i>Eleusis coarctata</i>			
232	コウチュウ目	ハネカクシ科	フトツツハネカクシ	<i>Osorius angustulus</i>			
233	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツノフトツツハネカクシ	<i>Osorius taurus</i>			
234	コウチュウ目	ハネカクシ科	コバナアシベセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>			
235	コウチュウ目	ハネカクシ科	ニセヒメユミセミソハネカクシ	<i>Carpelimus vagus</i>			
236	コウチュウ目	ハネカクシ科	ユミセミソハネカクシ	<i>Thinodromus sericatus</i>			
237	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒメヒザグロナガメダカハネカクシ	<i>Stenus distermimus</i>			
238	コウチュウ目	ハネカクシ科	アコメオチバメダカハネカクシ	<i>Stenus akome</i>			
239	コウチュウ目	ハネカクシ科	キリシマオチバメダカハネカクシ	<i>Stenus oblongulus</i>			
240	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒザグロメダカハネカクシ	<i>Stenus distans</i>			
241	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒメヒザグロメダカハネカクシ	<i>Stenus distermimus</i>			
242	コウチュウ目	ハネカクシ科	マメトガリハネカクシ	<i>Panscopaeus lithocharoides</i>			
243	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオシリグロハネカクシ	<i>Astenus suffusus</i>			
244	コウチュウ目	ハネカクシ科	キアシコガシラナガハネカクシ	<i>Tetratopeus pallipes</i>			
245	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヨコモントガリハネカクシ	<i>Medon submaculatus</i>			
246	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒコザンアバタコバネハネカクシ	<i>Nazeris hikosanus</i>			
247	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツマアカカワベナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum kurosai</i>			
248	コウチュウ目	ハネカクシ科	カワベナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum cuneatum</i>			
249	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロカワベナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum densipenne</i>			
250	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバナガエハネカクシ	<i>Monocrypta pectoralis</i>			
251	コウチュウ目	ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	<i>Paederus fuscipes</i>			
252	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオクビフトハネカクシ	<i>Pinophilus punctatissimus</i>			
253	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバクビフトハネカクシ	<i>Pinophilus rufipennis</i>			
254	コウチュウ目	ハネカクシ科	シュルクヒメクビボソハネカクシ	<i>Scopaeus schuelkei</i>			
255	コウチュウ目	ハネカクシ科	チビヒメクビボソハネカクシ	<i>Scopaeus virilis</i>			
256	コウチュウ目	ハネカクシ科	コガシラホソハネカクシ	<i>Diochus japonicus</i>			
257	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバホソハネカクシ	<i>Othius rufipennis</i>			
258	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツマキツヤナガハネカクシ	<i>Nudobius pleuralis</i>			
259	コウチュウ目	ハネカクシ科	キバナナガハネカクシ	<i>Megalinus suffusus</i>			
260	コウチュウ目	ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ	<i>Algon grandicollis</i>			
261	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオハネカクシ	<i>Creophilus maxillosus</i>			
262	コウチュウ目	ハネカクシ科	ハイイロハネカクシ	<i>Eucibdelus japonicus</i>			
263	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバヒメホソハネカクシ	<i>Neobisnius pumilus</i>			
264	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒメクロトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus brachycerus</i>			
265	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロサビイロマルズオオハネカクシ	<i>Ocyopus lewisius</i>			
266	コウチュウ目	ハネカクシ科	サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>			
267	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオズハイイロハネカクシ	<i>Philetaerius elegans</i>			
268	コウチュウ目	ハネカクシ科	ルリコガシラハネカクシ	<i>Philonthus caeruleipennis</i>			
269	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオドワガネコガシラハネカクシ	<i>Philonthus lewisius</i>			
270	コウチュウ目	ハネカクシ科	キヌコガシラハネカクシ	<i>Philonthus sublucanus</i>			
271	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヘリアカバコガシラハネカクシ	<i>Philonthus tardus</i>			
272	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオアカバコガシラハネカクシ	<i>Philonthus spinipes</i>			
273	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロガネトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus inornatus</i>			
274	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバツヤムネハネカクシ	<i>Quedius japonicus</i>			
275	コウチュウ目	ハネカクシ科	クシヒゲツヤムネハネカクシ	<i>Quedius pectinatus</i>			
276	コウチュウ目	クワガタムシ科	ツノクワガタムシ	<i>Cylindrocaulus patalis</i>		NT-r	
277	コウチュウ目	クワガタムシ科	マダラクワガタ	<i>Aesalus asiaticus asiaticus</i>		NT-r	
278	コウチュウ目	クワガタムシ科	ネブトクワガタ	<i>Aegus laeicollis subnitidus</i>			
279	コウチュウ目	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus maculifemoratus</i>			
280	コウチュウ目	クワガタムシ科	コクワガタ	<i>Dorcus rectus rectus</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
281	コウチュウ目	クワガタムシ科	スジクワガタ	<i>Dorcus striatipennis striatipennis</i>			
282	コウチュウ目	クワガタムシ科	ヒメオオクワガタ	<i>Dorcus montivagus montivagus</i>		NT-r	
283	コウチュウ目	クワガタムシ科	アカアシクワガタ	<i>Dorcus rubrofemoratus rubrofemoratus</i>			
284	コウチュウ目	クワガタムシ科	ルリクワガタ	<i>Platycerus delicatulus delicatulus</i>		NT-r	
285	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>		NT-r	
286	コウチュウ目	クワガタムシ科	ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i>			
287	コウチュウ目	クワガタムシ科	ヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus pilifer</i>			
288	コウチュウ目	コブスジコガネ科	アイヌコブスジコガネ	<i>Trox setifer</i>			
289	コウチュウ目	ムネアカセンチコガネ科	ムネアカセンチコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>		NT-g	
290	コウチュウ目	センチコガネ科	オオセンチコガネ	<i>Phelotrupes auratus auratus</i>			
291	コウチュウ目	センチコガネ科	センチコガネ	<i>Phelotrupes laevistriatus</i>			
292	コウチュウ目	コガネムシ科	マメダルマコガネ	<i>Panelus parvulus</i>			
293	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメコエンマコガネ	<i>Caccobius brevis</i>			
294	コウチュウ目	コガネムシ科	ゴホンダイコクコガネ	<i>Copris acutidens</i>			
295	コウチュウ目	コガネムシ科	ダイコクコガネ	<i>Copris ochus</i>	VU	NT-r	
296	コウチュウ目	コガネムシ科	ツノコガネ	<i>Liatongus minutus</i>			
297	コウチュウ目	コガネムシ科	クロマルエンマコガネ	<i>Onthophagus ater</i>			
298	コウチュウ目	コガネムシ科	コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i>			
299	コウチュウ目	コガネムシ科	フトカドエンマコガネ	<i>Onthophagus fodiens</i>			
300	コウチュウ目	コガネムシ科	カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i>			
301	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤエンマコガネ	<i>Parascatonomus nitidus</i>			
302	コウチュウ目	コガネムシ科	マルエンマコガネ	<i>Onthophagus viduus</i>			
303	コウチュウ目	コガネムシ科	フチケマグソコガネ	<i>Aphodius postpilosus</i>			
304	コウチュウ目	コガネムシ科	オオフタホシマグソコガネ	<i>Aphodius elegans elegans</i>			
305	コウチュウ目	コガネムシ科	ウスイロマグソコガネ	<i>Aphodius sublimbatus</i>			
306	コウチュウ目	コガネムシ科	セマダラマグソコガネ	<i>Aphodius nigrotessellatus</i>			
307	コウチュウ目	コガネムシ科	キマダラマグソコガネ	<i>Aphodius punctatus</i>			
308	コウチュウ目	コガネムシ科	オオマグソコガネ	<i>Aphodius quadratus</i>			
309	コウチュウ目	コガネムシ科	チャグロマグソコガネ	<i>Aphodius isaburoi</i>			
310	コウチュウ目	コガネムシ科	マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i>			
311	コウチュウ目	コガネムシ科	コスジマグソコガネ	<i>Aphodius lewisii</i>			
312	コウチュウ目	コガネムシ科	スジマグソコガネ	<i>Aphodius rugosostriatus</i>			
313	コウチュウ目	コガネムシ科	ネグロマグソコガネ	<i>Aphodius pallidiligonis</i>			
314	コウチュウ目	コガネムシ科	セマルケシマグソコガネ	<i>Psammodius convexus</i>			
315	コウチュウ目	コガネムシ科	セスジカクマグソコガネ	<i>Rhyparus azumai</i>			
316	コウチュウ目	コガネムシ科	オオカンショコガネ	<i>Apogonia major major</i>			
317	コウチュウ目	コガネムシ科	ナガチャコガネ	<i>Heptophylla picea</i>			
318	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒゲナガクワコガネ	<i>Hexataenius protensus</i>			
319	コウチュウ目	コガネムシ科	クワコガネ	<i>Holotrichia kiotonensis</i>			
320	コウチュウ目	コガネムシ科	オオクワコガネ	<i>Holotrichia parallela</i>			
321	コウチュウ目	コガネムシ科	クワコガネ	<i>Holotrichia picea</i>			
322	コウチュウ目	コガネムシ科	オオコフキコガネ	<i>Melolontha frater</i>			
323	コウチュウ目	コガネムシ科	サツマコフキコガネ	<i>Melolontha satsumaensis satsumaensis</i>			
324	コウチュウ目	コガネムシ科	クワイコガネ	<i>Miridiba castanea</i>			
325	コウチュウ目	コガネムシ科	オオキイロコガネ	<i>Pollaplonyx flavidus</i>			
326	コウチュウ目	コガネムシ科	シロスジコガネ	<i>Polyphylla albolineata</i>			
327	コウチュウ目	コガネムシ科	キイロアシナガコガネ	<i>Ectinohoplia gracilipes</i>			
328	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメアシナガコガネ	<i>Ectinohoplia obducta</i>			
329	コウチュウ目	コガネムシ科	クワアシナガコガネ	<i>Hoplia moerens</i>			
330	コウチュウ目	コガネムシ科	ラインアシナガコガネ	<i>Hoplia reinii</i>			
331	コウチュウ目	コガネムシ科	コヒゲシマビロウドコガネ	<i>Gastroserica brevicornis</i>			
332	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒゴシマビロウドコガネ	<i>Gastroserica higonina</i>			
333	コウチュウ目	コガネムシ科	アカビロウドコガネ	<i>Maladera castanea</i>			
334	コウチュウ目	コガネムシ科	ビロウドコガネ	<i>Maladera japonica</i>			
335	コウチュウ目	コガネムシ科	カミヤビロウドコガネ	<i>Maladera kamiyai</i>			
336	コウチュウ目	コガネムシ科	オオビロウドコガネ	<i>Maladera renardi</i>			
337	コウチュウ目	コガネムシ科	マルガタビロウドコガネ	<i>Maladera secreta</i>			
338	コウチュウ目	コガネムシ科	ハラゲビロウドコガネ	<i>Nipponoserica pubiventris</i>			
339	コウチュウ目	コガネムシ科	タイセンビロウドコガネ	<i>Nipponoserica daisenensis daisenensis</i>			
340	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒゲナガビロウドコガネ	<i>Serica boops</i>			
341	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤケシビロウドコガネ	<i>Serica planifrons</i>			
342	コウチュウ目	コガネムシ科	キラチャイロコガネ	<i>Sericania kirai</i>			
343	コウチュウ目	コガネムシ科	クワチャイロコガネ	<i>Sericania angulata</i>			
344	コウチュウ目	コガネムシ科	ミヤケチャイロコガネ	<i>Sericania miyakei</i>			
345	コウチュウ目	コガネムシ科	コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>			
346	コウチュウ目	コガネムシ科	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>			
347	コウチュウ目	コガネムシ科	ドウガネフイブイ	<i>Anomala cuprea</i>			
348	コウチュウ目	コガネムシ科	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>			
349	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメサクラコガネ	<i>Anomala geniculata</i>			
350	コウチュウ目	コガネムシ科	ヤマトアオドウガネ	<i>Anomala japonica</i>			

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
351	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤコガネ	<i>Anomala lucens</i>			
352	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒラタアコガネ	<i>Anomala octiescostata</i>			
353	コウチュウ目	コガネムシ科	ハンノヒメコガネ	<i>Anomala multistriata</i>			
354	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>			
355	コウチュウ目	コガネムシ科	チビサクラコガネ	<i>Anomala schoenfeldti</i>			
356	コウチュウ目	コガネムシ科	オオダイセマダラコガネ	<i>Exomala ohdaiensis</i>			
357	コウチュウ目	コガネムシ科	セマダラコガネ	<i>Exomala orientalis</i>			
358	コウチュウ目	コガネムシ科	オオスジコガネ	<i>Mimela costata</i>			
359	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤスジコガネ	<i>Mimela difficilis</i>			
360	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメスジコガネ	<i>Mimela flavilabris</i>			
361	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i>			
362	コウチュウ目	コガネムシ科	タケムラスジコガネ	<i>Mimela takemurai</i>			
363	コウチュウ目	コガネムシ科	スジコガネ	<i>Mimela testaceipes</i>			
364	コウチュウ目	コガネムシ科	ウスチャコガネ	<i>Phyllopertha diversa</i>			
365	コウチュウ目	コガネムシ科	アオウスチャコガネ	<i>Phyllopertha intermixta</i>			
366	コウチュウ目	コガネムシ科	キスジコガネ	<i>Phyllopertha irregularis</i>			
367	コウチュウ目	コガネムシ科	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>			
368	コウチュウ目	コガネムシ科	ナラノチャイロコガネ	<i>Proagopertha pubicollis</i>			
369	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>			
370	コウチュウ目	コガネムシ科	トゲヒラタハナムグリ	<i>Dasyvalgus tuberculatus</i>			
371	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメトラハナムグリ	<i>Lasiotrichius succinctus tokushimus</i>			
372	コウチュウ目	コガネムシ科	キュウシュウオオトラフハナムグリ	<i>Paratrichius kyushuensis</i>			
373	コウチュウ目	コガネムシ科	ジュウシチホシハナムグリ	<i>Paratrichius septemdecimguttatus</i>			
374	コウチュウ目	コガネムシ科	ハナムグリ	<i>Cetonia pilifera</i>			
375	コウチュウ目	コガネムシ科	アオハナムグリ	<i>Cetonia roelofsi roelofsi</i>			
376	コウチュウ目	コガネムシ科	クロハナムグリ	<i>Glycyphana fulvitemma</i>			
377	コウチュウ目	コガネムシ科	コアオハナムグリ	<i>Gametis jucunda</i>			
378	コウチュウ目	コガネムシ科	オキナワコアオハナムグリ	<i>Gametis forticula forticula</i>			
379	コウチュウ目	コガネムシ科	シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i>			
380	コウチュウ目	コガネムシ科	シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarmorea</i>			
381	コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	<i>Pseudotrynorhina japonica</i>			
382	コウチュウ目	コガネムシ科	クロカナブン	<i>Rhomborhina polita</i>		NT-g	
383	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	<i>Rhomborhina unicolor unicolor</i>			
384	コウチュウ目	コガネムシ科	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>			
385	コウチュウ目	ナガハナノミ科	エダヒゲナガハナノミ	<i>Epilichas flabellatus flabellatus</i>			
386	コウチュウ目	ヒラタドムシ科	ヒラタドムシ	<i>Mataeopsephus japonicus</i>			
387	コウチュウ目	ヒメドムシ科	ヨコミゾドムシ	<i>Leptelmis gracilis</i>	VU		
388	コウチュウ目	ヒメドムシ科	キスジミゾドムシ	<i>Ordobrevia foveicollis</i>			
389	コウチュウ目	ヒメドムシ科	イブシアシナガドムシ	<i>Stenelmis nipponica</i>			
390	コウチュウ目	ドムシ科	ムナビロツヤドムシ	<i>Elmormorphus brevicornis</i>			
391	コウチュウ目	ナガドムシ科	ナガドムシ	<i>Heterocerus asiaticus</i>			
392	コウチュウ目	タマムシ科	タマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>			
393	コウチュウ目	タマムシ科	ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>			
394	コウチュウ目	タマムシ科	サツマウバタマムシ	<i>Chalcophora yunnana satzumae</i>			
395	コウチュウ目	タマムシ科	アオマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis amabilis</i>			
396	コウチュウ目	タマムシ科	クロマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis querceti</i>			
397	コウチュウ目	タマムシ科	マスダクロホシタマムシ	<i>Lamprodila vivata</i>			
398	コウチュウ目	タマムシ科	クロタマムシ	<i>Buprestis haemorrhoidalis japonensis</i>			
399	コウチュウ目	タマムシ科	ヒメヒラタタマムシ	<i>Anthaxia proteus</i>			
400	コウチュウ目	タマムシ科	ムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris succedanea</i>			
401	コウチュウ目	タマムシ科	ヤマムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris igai</i>			
402	コウチュウ目	タマムシ科	ムネアカチビナカボソタマムシ	<i>Nalanda rutilicollis rutilicollis</i>			
403	コウチュウ目	タマムシ科	クリタマムシ	<i>Toxoscelus auriceps auriceps</i>			
404	コウチュウ目	タマムシ科	シロオビナカボソタマムシ	<i>Coraeus quadriundulatus</i>			
405	コウチュウ目	タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>			
406	コウチュウ目	タマムシ科	クロナガタマムシ	<i>Agrilus cyaneoniger</i>			
407	コウチュウ目	タマムシ科	ケヤキナガタマムシ	<i>Agrilus spinipennis</i>			
408	コウチュウ目	タマムシ科	シロテンナガタマムシ	<i>Agrilus sospes</i>			
409	コウチュウ目	タマムシ科	ツヤケシナガタマムシ	<i>Agrilus nipponigena</i>			
410	コウチュウ目	タマムシ科	ネムノキナガタマムシ	<i>Agrilus subrobustus</i>			
411	コウチュウ目	タマムシ科	コクロナガタマムシ	<i>Agrilus yamawakii</i>			
412	コウチュウ目	タマムシ科	ダイミョウナガタマムシ	<i>Agrilus daimio</i>			
413	コウチュウ目	タマムシ科	ウグイスナガタマムシ	<i>Agrilus tempestivus</i>			
414	コウチュウ目	タマムシ科	オオウグイスナガタマムシ	<i>Agrilus asiaticus</i>			
415	コウチュウ目	タマムシ科	ホソアシナガタマムシ	<i>Agrilus ribbei</i>			
416	コウチュウ目	タマムシ科	ブドウナガタマムシ	<i>Agrilus marginicollis</i>			
417	コウチュウ目	タマムシ科	ミツボシナガタマムシ	<i>Agrilus trinotatus</i>			
418	コウチュウ目	タマムシ科	アサギナガタマムシ	<i>Agrilus moerens</i>			
419	コウチュウ目	タマムシ科	アオグロナガタマムシ	<i>Agrilus viridiobscurus</i>			
420	コウチュウ目	タマムシ科	シラケナガタマムシ	<i>Agrilus pilosovittatus</i>			

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
421	コウチュウ目	タムシ科	クワナガタムシ	<i>Agrilus komareki komareki</i>			
422	コウチュウ目	タムシ科	クズノチビタムシ	<i>Trachys auricollis</i>			
423	コウチュウ目	タムシ科	ヤナギチビタムシ	<i>Trachys minutus salicis</i>			
424	コウチュウ目	タムシ科	ヌスピトハギチビタムシ	<i>Trachys tokyoensis</i>			
425	コウチュウ目	タムシ科	アカガネチビタムシ	<i>Trachys tsushimae</i>			
426	コウチュウ目	タムシ科	マルガタチビタムシ	<i>Trachys ineditus</i>			
427	コウチュウ目	タムシ科	コウゾチビタムシ	<i>Trachys broussonetiae</i>			
428	コウチュウ目	タムシ科	サシゲチビタムシ	<i>Trachys robustus</i>			
429	コウチュウ目	タムシ科	ダンダラチビタムシ	<i>Trachys variolaris</i>			
430	コウチュウ目	タムシ科	ルイスヒラタチビタムシ	<i>Habroloma lewisii</i>			
431	コウチュウ目	タムシ科	ハイイロヒラタチビタムシ	<i>Habroloma griseonigrum</i>			
432	コウチュウ目	タムシ科	ヒラタチビタムシ	<i>Habroloma subbicomae</i>			
433	コウチュウ目	コムツキムシ科	シロオビチビサビキコリ	<i>Adelocera difficilis</i>			
434	コウチュウ目	コムツキムシ科	マダラチビコムツキ	<i>Prodrasterius agnatus</i>			
435	コウチュウ目	コムツキムシ科	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>			
436	コウチュウ目	コムツキムシ科	ムナヒロサビキコリ	<i>Agrypnus cordicollis</i>			
437	コウチュウ目	コムツキムシ科	ホソサビキコリ	<i>Agrypnus fuliginosus</i>			
438	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒメサビキコリ	<i>Agrypnus scrofa scrofa</i>			
439	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオサビコムツキ	<i>Lacon maeklinii maeklinii</i>			
440	コウチュウ目	コムツキムシ科	スナサビキコリ	<i>Meristhus niponensis</i>			
441	コウチュウ目	コムツキムシ科	ウバタムコムツキ	<i>Cryptalaus berus</i>			
442	コウチュウ目	コムツキムシ科	フタモンウバタムコムツキ	<i>Cryptalaus larvatus pini</i>			
443	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオクシヒゲコムツキ	<i>Tetrigus lewisi</i>			
444	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒゲコムツキ	<i>Pectocera hige hige</i>			
445	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヘリアカシモフリコムツキ	<i>Actenicerus aerosus aerosus</i>			
446	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオシモフリコムツキ	<i>Actenicerus orientalis</i>			
447	コウチュウ目	コムツキムシ科	ダイミョウヒラタコムツキ	<i>Anostirus daimio</i>			
448	コウチュウ目	コムツキムシ科	ホソヒラタコムツキ	<i>Corymbitodes concolor</i>			
449	コウチュウ目	コムツキムシ科	ドウガネヒラタコムツキ	<i>Corymbitodes gratus</i>			
450	コウチュウ目	コムツキムシ科	ミヤマベニコムツキ	<i>Denticollis miniatus</i>			
451	コウチュウ目	コムツキムシ科	ニホンベニコムツキ	<i>Denticollis nipponensis nipponensis</i>			
452	コウチュウ目	コムツキムシ科	タテスジカネコムツキ	<i>Limoniscus vittatus</i>			
453	コウチュウ目	コムツキムシ科	シリブトヒラタコムツキ	<i>Selatosomus puerilis</i>			
454	コウチュウ目	コムツキムシ科	ハネアカカネコムツキ	<i>Limoniscus rufipennis</i>			
455	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロツヤハダコムツキ	<i>Hemicrepidius secessus secessus</i>			
456	コウチュウ目	コムツキムシ科	ルリツヤハダコムツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>			
457	コウチュウ目	コムツキムシ科	アカヒゲヒラタコムツキ	<i>Neopristiphorus serrifer serrifer</i>			
458	コウチュウ目	コムツキムシ科	トラフコムツキ	<i>Selatosomus onerosus</i>			
459	コウチュウ目	コムツキムシ科	オニチャイロツヤハダコムツキ	<i>Scutellathous horioi</i>			
460	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオツヤハダコムツキ	<i>Stenagostus umbratilis</i>			
461	コウチュウ目	コムツキムシ科	キアシミズギワコムツキ	<i>Flutiauxellus tutus</i>			
462	コウチュウ目	コムツキムシ科	カタモンチビコムツキ	<i>Zoroachros humeralis humeralis</i>			
463	コウチュウ目	コムツキムシ科	ニホンチビマコムツキ	<i>Quasimus japonicus</i>			
464	コウチュウ目	コムツキムシ科	ハリムネマコムツキ	<i>Yukoana carnicollis</i>			
465	コウチュウ目	コムツキムシ科	ハリマコムツキ	<i>Yukoana elliptica</i>			
466	コウチュウ目	コムツキムシ科	ホソハナコムツキ	<i>Cardiophorus niponicus</i>			
467	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロハナコムツキ	<i>Cardiophorus pinguis</i>			
468	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヤクコハナコムツキ	<i>Paracardiophorus nakanei nakanei</i>			
469	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロコハナコムツキ	<i>Paracardiophorus opacus</i>			
470	コウチュウ目	コムツキムシ科	コハナコムツキ	<i>Paracardiophorus pullatus pullatus</i>			
471	コウチュウ目	コムツキムシ科	アカアシコハナコムツキ	<i>Paracardiophorus sequens sequens</i>			
472	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオハナコムツキ	<i>Dicronychus nothus</i>			
473	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒメクロコムツキ	<i>Ampedus carbunculus</i>			
474	コウチュウ目	コムツキムシ科	アカハラクロコムツキ	<i>Ampedus hypogastricus hypogastricus</i>			
475	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロコムツキ	<i>Ampedus ivanovi</i>			
476	コウチュウ目	コムツキムシ科	アカアシクロコムツキ	<i>Ampedus japonicus japonicus</i>			
477	コウチュウ目	コムツキムシ科	ツマグロコムツキ	<i>Ampedus niponicus</i>			
478	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオツカクロコムツキ	<i>Ampedus ohtsukai</i>			
479	コウチュウ目	コムツキムシ科	ケバカクロコムツキ	<i>Ampedus vestitus vestitus</i>			
480	コウチュウ目	コムツキムシ科	ホソナカグロヒメコムツキ	<i>Dalopius tamui</i>			
481	コウチュウ目	コムツキムシ科	キハネホソコムツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>			
482	コウチュウ目	コムツキムシ科	アラハダチャイロコムツキ	<i>Reitterelater rugipennis</i>			
483	コウチュウ目	コムツキムシ科	ムナボソコムツキ	<i>Ectinus exulatus</i>			
484	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロムナボソコムツキ	<i>Ectinus higonius</i>			
485	コウチュウ目	コムツキムシ科	キアシクロムナボソコムツキ	<i>Ectinus insidiosus</i>			
486	コウチュウ目	コムツキムシ科	キアシムナボソコムツキ	<i>Ectinus sepes</i>			
487	コウチュウ目	コムツキムシ科	カバイロコムツキ	<i>Ectinus sericeus sericeus</i>			
488	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオナガコムツキ	<i>Nipponoelater sieboldi sieboldi</i>			
489	コウチュウ目	コムツキムシ科	コキマダラコムツキ	<i>Gamepenthesis ornatus</i>			
490	コウチュウ目	コムツキムシ科	メスアカキマダラコムツキ	<i>Gamepenthesis versipellis</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
491	コウチュウ目	コムツキムシ科	キバネクチボソコムツキ	<i>Glyphonyx bicolor bicolor</i>			
492	コウチュウ目	コムツキムシ科	クチボソコムツキ	<i>Glyphonyx illepidus</i>			
493	コウチュウ目	コムツキムシ科	チャイロコムツキ	<i>Haterumelater bicarinatus bicarinatus</i>			
494	コウチュウ目	コムツキムシ科	ムネアカツヤケシコムツキ	<i>Megapenthes opacus</i>			
495	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒゲナガコムツキ	<i>Mulsanteus junior junior</i>			
496	コウチュウ目	コムツキムシ科	フトナガコムツキ	<i>Ectamenogonus robustus</i>			
497	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒメホソキコムツキ	<i>Agaripenthes helvolus</i>			
498	コウチュウ目	コムツキムシ科	ミドリヒメコムツキ	<i>Vuilletus viridis</i>			
499	コウチュウ目	コムツキムシ科	オオミドリヒメコムツキ	<i>Vuilletus crebrepunctatus</i>			
500	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロツヤクシコムツキ	<i>Melanotus annosus</i>			
501	コウチュウ目	コムツキムシ科	マルクビクシコムツキ	<i>Melanotus fortnumi fortnumi</i>			
502	コウチュウ目	コムツキムシ科	アカアシオオクシコムツキ	<i>Spheniscosomus cete cete</i>			
503	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒラタクシコムツキ	<i>Melanotus correctus correctus</i>			
504	コウチュウ目	コムツキムシ科	コガタクシコムツキ	<i>Melanotus erythropygus erythropygus</i>			
505	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒラタクシコムツキ	<i>Spheniscosomus koikei</i>			
506	コウチュウ目	コムツキムシ科	ヒメクシコムツキ	<i>Melanotus legatoides</i>			
507	コウチュウ目	コムツキムシ科	クシコムツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>			
508	コウチュウ目	コムツキムシ科	ルイスクシコムツキ	<i>Melanotus lewisi lewisi</i>			
509	コウチュウ目	コムツキムシ科	クロクシコムツキ	<i>Melanotus senilis senilis</i>			
510	コウチュウ目	コムツキムシ科	ナガチャクシコムツキ	<i>Melanotus spemendus spemendus</i>			
511	コウチュウ目	ベニボタル科	クロハナボタル	<i>Plateros coracinus</i>			
512	コウチュウ目	ベニボタル科	ミスジヒシベニボタル	<i>Benibotarus spinicoxis</i>			
513	コウチュウ目	ベニボタル科	ネアカヒシベニボタル	<i>Dictyoptera speciosa</i>			
514	コウチュウ目	ベニボタル科	ホソベニボタル	<i>Mesolyucus atrorufus</i>			
515	コウチュウ目	ベニボタル科	ベニボタル	<i>Lycostomus modestus</i>			
516	コウチュウ目	ベニボタル科	カクムネベニボタル	<i>Lyponia quadricollis</i>			
517	コウチュウ目	ベニボタル科	ヒュウガクシヒゲベニボタル	<i>Macrolyucus hyugaensis</i>			
518	コウチュウ目	ベニボタル科	ヒメクシヒゲベニボタル	<i>Macrolyucus similis</i>			
519	コウチュウ目	ベニボタル科	スマアカベニボタル	<i>Conderis pictus</i>			
520	コウチュウ目	ベニボタル科	カクムネクロベニボタル	<i>Cautires nakanei nakanei</i>			
521	コウチュウ目	ホタル科	ムネクリロボタル	<i>Cyphonocerus ruficollis</i>			
522	コウチュウ目	ホタル科	ヒメボタル	<i>Luciola parvula</i>			NT-g
523	コウチュウ目	ホタル科	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>			
524	コウチュウ目	ホタル科	ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>			VU-g
525	コウチュウ目	ホタル科	オオオバボタル	<i>Lucidina accensa</i>			
526	コウチュウ目	ホタル科	オバボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>			
527	コウチュウ目	ホタル科	オオマドボタル	<i>Pyrocoelia discicollis</i>			
528	コウチュウ目	ホタル科	カタモンミナミボタル	<i>Drilaster axillaris</i>			
529	コウチュウ目	ジョウカイボン科	キアシツマキジョウカイ	<i>Malthinus humeralis</i>			
530	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クロスツマキジョウカイ	<i>Malthinus mucoreus</i>			
531	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ウスバツマキジョウカイ	<i>Malthinus nakanei</i>			
532	コウチュウ目	ジョウカイボン科	マルムネジョウカイ	<i>Prothemus ciusianus</i>			
533	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クリイロジョウカイ	<i>Stenothemus badius</i>			
534	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クロヒゲナガジョウカイ	<i>Habronychus providus</i>			
535	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ヒメキンイロジョウカイ	<i>Themus midas</i>			
536	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ソボムラサキジョウカイ	<i>Themus sobosanus sobosanus</i>			
537	コウチュウ目	ジョウカイボン科	キンイロジョウカイ	<i>Themus episcopalis episcopalis</i>			
538	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ヒメジョウカイ	<i>Lycocerus japonicus</i>			
539	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クロホソジョウカイ	<i>Lycocerus aegrotus</i>			
540	コウチュウ目	ジョウカイボン科	セボシジョウカイ	<i>Lycocerus vitellinus</i>			
541	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ニセジョウカイ	<i>Lycocerus infuscatus</i>			
542	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ニシジョウカイボン	<i>Lycocerus suturellus luteipennis</i>			
543	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ミエコジョウカイ	<i>Lycocerus miekoae</i>			
544	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クビボンジョウカイ	<i>Hatchiana heydeni</i>			
545	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ウンゼンクビボンジョウカイ	<i>Hatchiana unzenensis</i>			
546	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ハヤトニンフジョウカイ	<i>Asiopodabrus hayato</i>			
547	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クロニンフジョウカイ	<i>Asiopodabrus malthinoides malthinoides</i>			
548	コウチュウ目	ヒメトゲムシ科	ケモンヒメトゲムシ	<i>Nosodendron asiaticum</i>			
549	コウチュウ目	カツオブシムシ科	クロマダラカツオブシムシ	<i>Trogoderma longisetosum</i>			
550	コウチュウ目	カツオブシムシ科	シロオビマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus nipponensis</i>			
551	コウチュウ目	カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus verbasci</i>			
552	コウチュウ目	カツオブシムシ科	チビケカツオブシムシ	<i>Trinodes rufescens</i>			
553	コウチュウ目	ナガシクイムシ科	オオナガシクイ	<i>Heterobostrychus hamatipennis</i>			
554	コウチュウ目	ナガシクイムシ科	セマダラナガシクイ	<i>Lichenophanes carinipennis</i>			
555	コウチュウ目	ヒョウホンムシ科	ナガヒョウホンムシ	<i>Ptinus japonicus</i>			
556	コウチュウ目	シバンムシ科	フタイロミソキノコシバンムシ	<i>Mizodorcatoma pulcherrima</i>			
557	コウチュウ目	コクヌスト科	オオコクヌスト	<i>Trogossita japonica</i>			
558	コウチュウ目	カッコウムシ科	ホソカッコウムシ	<i>Cladiscus obeliscus</i>			
559	コウチュウ目	カッコウムシ科	イガラシカッコウムシ	<i>Tillus igarashii</i>			
560	コウチュウ目	カッコウムシ科	ヤマトヒメダカカッコウムシ	<i>Neohydnius hozumii</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
561	コウチュウ目	カッコウムシ科	ダンダラカッコウムシ	<i>Stigmatium pilosellum</i>			
562	コウチュウ目	カッコウムシ科	ツマグロツツカッコウムシ	<i>Tenerus hilleri</i>			
563	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Intybia historio</i>			
564	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	クロキオビジョウカイモドキ	<i>Intybia niponicus</i>			
565	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>			
566	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	キムネヒメジョウカイモドキ	<i>Hypebaeus picticollis</i>			
567	コウチュウ目	ケシキスイ科	オオヒラタケシキスイ	<i>Epuraea pseudosoronia</i>			
568	コウチュウ目	ケシキスイ科	ツバキヒラタケシキスイ	<i>Epuraea commutata</i>			
569	コウチュウ目	ケシキスイ科	アカマダラケシキスイ	<i>Phenolia picta</i>			
570	コウチュウ目	ケシキスイ科	ニセアカマダラケシキスイ	<i>Phenolia borealis</i>			
571	コウチュウ目	ケシキスイ科	コブスジケシキスイ	<i>Phenolia tuberculifera</i>			
572	コウチュウ目	ケシキスイ科	キノコヒラタケシキスイ	<i>Physoronia explanata</i>			
573	コウチュウ目	ケシキスイ科	ネアカカクケシキスイ	<i>Pocadites rufobasalis</i>			
574	コウチュウ目	ケシキスイ科	キマダラケシキスイ	<i>Soronia grisea</i>			
575	コウチュウ目	ケシキスイ科	マルキマダラケシキスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>			
576	コウチュウ目	ケシキスイ科	キベリチビケシキスイ	<i>Meligethes violaceus</i>			
577	コウチュウ目	ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ	<i>Glischrochilus japonicus</i>			
578	コウチュウ目	オオキシムシ科	ヨツボシオオキシムシ	<i>Helota gemmata</i>			
579	コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammoeocus trimaculatus</i>			
580	コウチュウ目	ツツヒラタムシ科	ツツヒラタムシ	<i>Ancistria apicalis</i>			
581	コウチュウ目	ヒラタムシ科	ベニヒラタムシ	<i>Cucujus coccinatus</i>			
582	コウチュウ目	ヒラタムシ科	ルリヒラタムシ	<i>Cucujus mniszewski</i>			
583	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	フタスジヒメハナムシ	<i>Olibrus particeps</i>			
584	コウチュウ目	オオキノコムシ科	ズグロホソオオキノコ	<i>Dacne zonaria</i>			
585	コウチュウ目	オオキノコムシ科	ベニモンムネビロオオキノコ	<i>Microsternus perforatus</i>			
586	コウチュウ目	オオキノコムシ科	オオキノコムシ	<i>Encaustes praenobilis</i>			
587	コウチュウ目	オオキノコムシ科	セグロチビオオキノコ	<i>Aporotritoma laetabilis</i>			
588	コウチュウ目	オオキノコムシ科	アカハバビロオオキノコ	<i>Neotriplax lewisii</i>			
589	コウチュウ目	オオキノコムシ科	クロチビオオキノコ	<i>Tritoma niponensis</i>			
590	コウチュウ目	オオキノコムシ科	キオビオオキノコ	<i>Episcapha flavofasciata</i>			
591	コウチュウ目	コムツキモドキ科	キムネヒメコムツキモドキ	<i>Anadastus atriceps</i>			
592	コウチュウ目	コムツキモドキ科	ニホンホボビロコムツキモドキ	<i>Dauledaya bucculenta</i>			
593	コウチュウ目	ムクゲキスイムシ科	ヨツモンムクゲキスイ	<i>Biphyllus oshimanus</i>			
594	コウチュウ目	ムキヒゲホソカタムシ科	ヒユウカホソカタムシ	<i>Sosylus crassus</i>			
595	コウチュウ目	ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ	<i>Aphanocephalus hemisphericus</i>			
596	コウチュウ目	ミジンムシダマシ科	コゲチャミジンムシダマシ	<i>Aphanocephalus wollastoni</i>			
597	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	キイロテントウダマシ	<i>Saula japonica</i>			
598	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>			
599	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	セグロツヤテントウダマシ	<i>Lycoperdina mandarinea</i>			
600	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	キボシテントウダマシ	<i>Mycetina amabilis</i>			
601	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	イカリモンテントウダマシ	<i>Mycetina ancoriger</i>			
602	コウチュウ目	テントウムシ科	クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum japonicum</i>			
603	コウチュウ目	テントウムシ科	アミダテントウ	<i>Amida tricolor</i>			
604	コウチュウ目	テントウムシ科	オオツカヒメテントウ	<i>Sasajiscymnus ohtsukai</i>			
605	コウチュウ目	テントウムシ科	クビアカヒメテントウ	<i>Sasajiscymnus sylvaticus</i>			
606	コウチュウ目	テントウムシ科	ババヒメテントウ	<i>Scymnus babai</i>			
607	コウチュウ目	テントウムシ科	クロヘリヒメテントウ	<i>Scymnus hoffmanni</i>			
608	コウチュウ目	テントウムシ科	ココロヒメテントウ	<i>Scymnus posticalis</i>			
609	コウチュウ目	テントウムシ科	フタモンクロテントウ	<i>Cryptogonus orbiculus</i>			
610	コウチュウ目	テントウムシ科	ベアリテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>			
611	コウチュウ目	テントウムシ科	ベニヘリテントウ	<i>Rodolia limbata</i>			
612	コウチュウ目	テントウムシ科	ルイステントウ	<i>Adalia conglomerata</i>			
613	コウチュウ目	テントウムシ科	カメノコテントウ	<i>Aiolocaria hexaspilota</i>			
614	コウチュウ目	テントウムシ科	ウンモンテントウ	<i>Anatis halonis</i>			
615	コウチュウ目	テントウムシ科	ジュウクホシテントウ	<i>Anisosticta kobensis</i>			
616	コウチュウ目	テントウムシ科	シロジウシホシテントウ	<i>Calvia quatuordecimguttata</i>			
617	コウチュウ目	テントウムシ科	シロトホシテントウ	<i>Calvia decemguttata</i>			
618	コウチュウ目	テントウムシ科	ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia muii</i>			
619	コウチュウ目	テントウムシ科	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>			
620	コウチュウ目	テントウムシ科	シロジウロクホシテントウ	<i>Halyzia sedecimguttata</i>			
621	コウチュウ目	テントウムシ科	ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>			
622	コウチュウ目	テントウムシ科	クリサキテントウ	<i>Harmonia yedoensis</i>			
623	コウチュウ目	テントウムシ科	キイロテントウ	<i>Kiirio koebelei koebelei</i>			
624	コウチュウ目	テントウムシ科	ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>			
625	コウチュウ目	テントウムシ科	ジュウロクホシテントウ	<i>Sospita oblongoguttata</i>			
626	コウチュウ目	テントウムシ科	シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimguttata</i>			
627	コウチュウ目	テントウムシ科	ハラグロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>		NT-g	
628	コウチュウ目	テントウムシ科	オオニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctomaculata</i>			
629	コウチュウ目	テントウムシ科	ニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i>			
630	コウチュウ目	コキノコムシ科	コモンヒメコキノコムシ	<i>Litargus japonicus</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
631	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	アヤモンヒメナガクチキ	<i>Holostrophus orientalis</i>			
632	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	カツオガタナガクチキ	<i>Synstrophus macrophthalmus</i>			
633	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	ヨツボシヒメナガクチキ	<i>Holostrophus lewisi</i>			
634	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	フタオビホソナガクチキ	<i>Dircaea erotyloides</i>			
635	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	オオナガクチキ	<i>Melandrya dubia</i>		NT-g	
636	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	アオバナガクチキ	<i>Melandrya gloriosa</i>			
637	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	ナガイツツナガクチキ	<i>Rushia nagaii</i>		DD-2	
638	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	アオオビナガクチキ	<i>Osphya orientalis</i>			
639	コウチュウ目	ハナノミ科	サトウヒメハナノミ	<i>Falsomordellistena satoi</i>			
640	コウチュウ目	ハナノミ科	ビツクオビハナノミ	<i>Glipa pici</i>			
641	コウチュウ目	ハナノミ科	クロヒメハナノミ	<i>Mordellistena comes</i>			
642	コウチュウ目	ハナノミ科	シロウズクロヒメハナノミ	<i>Mordellistena shirozui</i>			
643	コウチュウ目	オオハナノミ科	クチキオオハナノミ	<i>Pelecotomoides tokejii</i>			
644	コウチュウ目	アトコブゴミムシダマシ科	アトコブゴミムシダマシ	<i>Phellopsis suberea</i>			
645	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ヨコモシヒメヒラタホソカタムシ	<i>Synchita bitomoides</i>			
646	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ノコギリホソカタムシ	<i>Endophloeus serratus</i>			
647	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ツヤケシヒメホソカタムシ	<i>Microprius opacus</i>			
648	コウチュウ目	ホソカタムシ科	サシゲホソカタムシ	<i>Neotrichus hispidus</i>			
649	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ツヤナガヒラタホソカタムシ	<i>Pycnomerus vilis</i>			
650	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ダルマチビホソカタムシ	<i>Pseudotarphius lewisii</i>			
651	コウチュウ目	ホソカタムシ科	ホソマダラホソカタムシ	<i>Namunaria picta</i>			
652	コウチュウ目	ホソカタムシ科	マダラホソカタムシ	<i>Trachypholis variegata</i>			
653	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホンドチビヒサゴゴミムシダマシ	<i>Laena rotundicollis</i>			
654	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒゲブトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>			
655	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	エチゴキバネハムシダマシ	<i>Lagnia nigricollis</i>			
656	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニシアオハムシダマシ	<i>Arthromacra kyushuensis</i>			
657	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ミヤマアオハムシダマシ	<i>Arthromacra kinodai</i>			
658	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	アカイロアオハムシダマシ	<i>Arthromacra sumptuosa</i>			
659	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	フジナガハムシダマシ	<i>Macrolagnia rufobrunnea</i>			
660	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クロケブカナガハムシダマシ	<i>Macrolagnia robusticeps</i>			
661	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ	<i>Idisia vestita</i>			
662	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	オオヒメツノゴミムシダマシ	<i>Cryphaeus duellicus</i>			
663	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	カプトゴミムシダマシ	<i>Parabolistophagus felix</i>			
664	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ガイマイゴミムシダマシ	<i>Alphitobius diaperinus</i>			
665	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i>			
666	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒコサンエグリゴミムシダマシ	<i>Ulama hikosana</i>			
667	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	モトヨッコブエグリゴミムシダマシ	<i>Ulama bonzica</i>			
668	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コマルムネゴミムシダマシ	<i>Tarpela brunnea brunnea</i>			
669	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クロツヤキマワリ	<i>Plesiophthalmus spectabilis</i>			
670	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニホンキマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>			
671	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ゴモクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>			
672	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	スジコガシラゴミムシダマシ	<i>Heterotarsus carinula</i>			
673	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum coriaceum</i>			
674	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホンドクロオオクチキムシ	<i>Upinella fuliginosa</i>			
675	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホンドトビイロクチキムシ	<i>Borboesthes cruralis</i>			
676	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クワイロクチキムシ	<i>Borboesthes acicularis</i>			
677	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	アカツヤバネクチキムシ	<i>Hymenalia rufipennis</i>			
678	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	キイロクチキムシ	<i>Cteniopinus hypocrita</i>			
679	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメナガニジゴミムシダマシ	<i>Ceropria induta</i>			
680	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヨツボシゴミムシダマシ	<i>Basanus erotyloides</i>			
681	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホンクロホシテントウゴミムシダマシ	<i>Derispia maculipennis</i>			
682	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	テントウゴミムシダマシ	<i>Leiochrinus satzumae</i>			
683	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメユミアシゴミムシダマシ	<i>Promethis noctivigila</i>			
684	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	サトユミアシゴミムシダマシ	<i>Promethis valgipes</i>			
685	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ルリゴミムシダマシ	<i>Derosphaerus subviolaceus</i>			
686	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホンドニジゴミムシダマシ	<i>Tetraphyllus paykullii</i>			
687	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	オオニジゴミムシダマシ	<i>Euhemicera pulchra</i>			
688	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニシズビロキマワリモドキ	<i>Gnesis haagi</i>			
689	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホソヒゲナガキマワリ	<i>Ainu tenuicornis</i>			
690	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメニシキマワリモドキ	<i>Pseudonates purpurivittatus</i>			
691	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニシツヤヒサゴゴミムシダマシ	<i>Misolampidius okumurai</i>			
692	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ハネナシセスジナガキマワリ	<i>Strongylium marseuli</i>			
693	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クロナガキマワリ	<i>Strongylium niponicum</i>			
694	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	シワナガキマワリ	<i>Strongylium japanum</i>			
695	コウチュウ目	カミキリモドキ科	モモフトカミキリモドキ	<i>Oedemera lucidicollis</i>			
696	コウチュウ目	カミキリモドキ科	カミキリモドキ	<i>Oedemera manicata</i>			
697	コウチュウ目	カミキリモドキ科	マダラカミキリモドキ	<i>Oedemera venosa</i>			
698	コウチュウ目	カミキリモドキ科	ツノカミキリモドキ	<i>Nacerdes antennata</i>			
699	コウチュウ目	カミキリモドキ科	キクビカミキリモドキ	<i>Nacerdes atriceps</i>			
700	コウチュウ目	カミキリモドキ科	シリナガカミキリモドキ	<i>Nacerdes caudata</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
701	コウチュウ目	カミキリモドキ科	キイロカミキリモドキ	<i>Nacerdes hilleri</i>			
702	コウチュウ目	カミキリモドキ科	カトウカミキリモドキ	<i>Nacerdes katoi</i>			
703	コウチュウ目	カミキリモドキ科	コウノカミキリモドキ	<i>Nacerdes konoii</i>			
704	コウチュウ目	カミキリモドキ科	キバナカミキリモドキ	<i>Nacerdes luteipennis</i>			
705	コウチュウ目	カミキリモドキ科	オオサワカミキリモドキ	<i>Nacerdes osawai</i>			
706	コウチュウ目	カミキリモドキ科	コゲチャカミキリモドキ	<i>Nacerdes spinicoxis spinicoxis</i>			
707	コウチュウ目	カミキリモドキ科	ワダカミキリモドキ	<i>Nacerdes wadai</i>			
708	コウチュウ目	カミキリモドキ科	アオカミキリモドキ	<i>Nacerdes waterhousei</i>			
709	コウチュウ目	クビナガムシ科	ナミクビナガムシ	<i>Cephaloon pallens</i>			
710	コウチュウ目	ツチハンミョウ科	ヒメツチハンミョウ	<i>Meloe coarctatus</i>			
711	コウチュウ目	ツチハンミョウ科	マルクビツチハンミョウ	<i>Meloe corvinus</i>			
712	コウチュウ目	ツチハンミョウ科	キイロゲンセイ	<i>Zonitis japonica</i>			
713	コウチュウ目	アカハネムシ科	ヘリハネムシ	<i>Ischalia patagiata</i>			
714	コウチュウ目	アカハネムシ科	オオクシヒゲビロウドムシ	<i>Pseudodendroides niponensis</i>			
715	コウチュウ目	アカハネムシ科	ムナブロアカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa laticollis</i>			
716	コウチュウ目	アカハネムシ科	アカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa vestiflua</i>			
717	コウチュウ目	アリモドキ科	ヒゴケナガクビボソムシ	<i>Neostereopalpus kyushuensis</i>			
718	コウチュウ目	アリモドキ科	アカクビボソムシ	<i>Macratia serialis</i>			
719	コウチュウ目	アリモドキ科	ケオビアリモドキ	<i>Anthelephila cribriceps</i>			
720	コウチュウ目	アリモドキ科	クロホソアリモドキ	<i>Anthicus baicalicus</i>			
721	コウチュウ目	アリモドキ科	アカホソアリモドキ	<i>Stricticomus fugiens</i>			
722	コウチュウ目	アリモドキ科	ツヤチビホソアリモドキ	<i>Anthicus laevipennis</i>			
723	コウチュウ目	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>			
724	コウチュウ目	アリモドキ科	クロスジツカク	<i>Notoxus haagi haagi</i>			
725	コウチュウ目	アリモドキ科	ヨツボシホソアリモドキ	<i>Stricticomus valgipes</i>			
726	コウチュウ目	ニセクビボソムシ科	ヤマトニセクビボソムシ	<i>Pseudolotelus japonicus</i>			
727	コウチュウ目	ハナノミダマシ科	クロフナガタハナノミ	<i>Anaspis marseuli</i>			
728	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホソカミキリ	<i>Distenia gracilis gracilis</i>			
729	コウチュウ目	カミキリムシ科	オオクボカミキリ	<i>Tengius ohkuboi</i>			
730	コウチュウ目	カミキリムシ科	ベーツヒラタカミキリ	<i>Eurypoda batesi</i>			
731	コウチュウ目	カミキリムシ科	ウスバカミキリ	<i>Aegosoma sinicum sinicum</i>			
732	コウチュウ目	カミキリムシ科	ノゴリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>			
733	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセノゴリカミキリ	<i>Prionus sejunctus</i>			
734	コウチュウ目	カミキリムシ科	コバナカミキリ	<i>Psephactus remiger remiger</i>			
735	コウチュウ目	カミキリムシ科	クロカミキリ	<i>Spondylis buprestoides</i>			
736	コウチュウ目	カミキリムシ科	ツシマナムクボカミキリ	<i>Cephalallus unicolor</i>			
737	コウチュウ目	カミキリムシ科	オオクロカミキリ	<i>Megasemum quadricostulatum</i>		DD-2	
738	コウチュウ目	カミキリムシ科	ツヤクシハナカミキリ	<i>Anastrangalia scotodes</i>			
739	コウチュウ目	カミキリムシ科	ミヤマクロハナカミキリ	<i>Anoplodera excavata</i>			
740	コウチュウ目	カミキリムシ科	クワリハナカミキリ	<i>Anoplodera monticola</i>			
741	コウチュウ目	カミキリムシ科	アカハナカミキリ	<i>Stictoleptura succedanea</i>			
742	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒナリハナカミキリ	<i>Dinoptera minuta</i>			
743	コウチュウ目	カミキリムシ科	クビアカハナカミキリ	<i>Gaurotes atripennis</i>			
744	コウチュウ目	カミキリムシ科	カラカネハナカミキリ	<i>Gaurotes doris doris</i>			
745	コウチュウ目	カミキリムシ科	ミヤマホソハナカミキリ	<i>Idiostangalia contracta</i>			
746	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハコネホソハナカミキリ	<i>Idiostangalia hakonensis</i>			
747	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒゲジロハナカミキリ	<i>Japanostrangalia dentatipennis</i>			
748	コウチュウ目	カミキリムシ科	マルガタハナカミキリ	<i>Pachytodes cometes</i>			
749	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤマトキモンハナカミキリ	<i>Judolia japonica</i>			
750	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヌバタマハナカミキリ	<i>Judolidia bangi</i>			
751	コウチュウ目	カミキリムシ科	キバナニセハムシハナカミキリ	<i>Lemula decipiens</i>			
752	コウチュウ目	カミキリムシ科	ビクニセハムシハナカミキリ	<i>Lemula rufithorax</i>			
753	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニョウホウホソハナカミキリ	<i>Parastrangalis lesnei</i>			
754	コウチュウ目	カミキリムシ科	ムネアカクハナカミキリ	<i>Leptura dimorpha</i>			
755	コウチュウ目	カミキリムシ科	カタキハナカミキリ	<i>Pedostrangalia femoralis</i>			
756	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハネビロハナカミキリ	<i>Leptura latipennis</i>			
757	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤツボシハナカミキリ	<i>Leptura annularis mimica</i>			
758	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨツスジハナカミキリ	<i>Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata</i>			
759	コウチュウ目	カミキリムシ科	コヨツスジハナカミキリ	<i>Leptura subtilis</i>			
760	コウチュウ目	カミキリムシ科	オオヨツスジハナカミキリ	<i>Macroleptura regalis</i>			
761	コウチュウ目	カミキリムシ科	フタスジハナカミキリ	<i>Etorofus vicarius</i>			
762	コウチュウ目	カミキリムシ科	ジャコウホソハナカミキリ	<i>Mimostangalia dulcis</i>			
763	コウチュウ目	カミキリムシ科	クロソソホソハナカミキリ	<i>Mimostangalia kurosonensis</i>			
764	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヘリグホソハナカミキリ	<i>Ohbayashia nigromarginata nigromarginata</i>			
765	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホソハナカミキリ	<i>Leptostrangalia hosohana</i>			
766	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニフホソハナカミキリ	<i>Parastrangalis nymphula</i>			
767	コウチュウ目	カミキリムシ科	タテジマホソハナカミキリ	<i>Parastrangalis tenuicornis</i>			
768	コウチュウ目	カミキリムシ科	チャイロヒメハナカミキリ	<i>Pidonia aegrota aegrota</i>			
769	コウチュウ目	カミキリムシ科	セスジヒメハナカミキリ	<i>Pidonia amentata amentata</i>			
770	コウチュウ目	カミキリムシ科	トサヒメハナカミキリ	<i>Pidonia approximata</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
771	コウチュウ目	カミキリムシ科	オオヒメハナカミキリ	<i>Pidonia grallatrix</i>			
772	コウチュウ目	カミキリムシ科	イヨヒメハナカミキリ	<i>Pidonia hylophila hylophila</i>		NT-r	
773	コウチュウ目	カミキリムシ科	シコクヒメハナカミキリ	<i>Pidonia mutata</i>			
774	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒミコヒメハナカミキリ	<i>Pidonia neglecta neglecta</i>			
775	コウチュウ目	カミキリムシ科	フタオビノミハナカミキリ	<i>Pidonia puziloi</i>			
776	コウチュウ目	カミキリムシ科	イシズチヒメハナカミキリ	<i>Pidonia shikokensis amanoi</i>			
777	コウチュウ目	カミキリムシ科	ナガバヒメハナカミキリ	<i>Pidonia signifera</i>			
778	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセヨコモンヒメハナカミキリ	<i>Pidonia simillima</i>			
779	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤマトヒメハナカミキリ	<i>Pidonia yamato</i>			
780	コウチュウ目	カミキリムシ科	チャボハナカミキリ	<i>Pseudalosterna misella</i>			
781	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハリウスハナカミキリ	<i>Pyrrhona laeticolor laeticolor</i>			
782	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホンドニセハイロハナカミキリ	<i>Rhagium pseudojaponicum</i>			
783	コウチュウ目	カミキリムシ科	アオバホソハナカミキリ	<i>Strangalomorpha tenuis tenuis</i>			
784	コウチュウ目	カミキリムシ科	ムナコバハナカミキリ	<i>Xenophyrama purpureum</i>		NT-r	
785	コウチュウ目	カミキリムシ科	ベーツヤサカミキリ	<i>Leptoxenus ibidiformis</i>			
786	コウチュウ目	カミキリムシ科	アオスジカミキリ	<i>Xystrocera globosa</i>			
787	コウチュウ目	カミキリムシ科	キマダラカミキリ	<i>Aeolesthes chrysothrix chrysothrix</i>			
788	コウチュウ目	カミキリムシ科	ミヤマカミキリ	<i>Neocerambyx raddei</i>			
789	コウチュウ目	カミキリムシ科	トゲヒゲトビロカミキリ	<i>Allotraeus rufescens</i>			
790	コウチュウ目	カミキリムシ科	トビロカミキリ	<i>Allotraeus sphaerioninus</i>			
791	コウチュウ目	カミキリムシ科	アメイロカミキリ	<i>Stenodryas clavigera clavigera</i>			
792	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	<i>Stenygrinum quadrinotatum</i>	EN		
793	コウチュウ目	カミキリムシ科	タイワンメダカカミキリ	<i>Stenhomalus taiwanus</i>			
794	コウチュウ目	カミキリムシ科	カエデヒゲナガコバネカミキリ	<i>Glaphyra ishiharai</i>			
795	コウチュウ目	カミキリムシ科	コジマヒゲナガコバネカミキリ	<i>Glaphyra kojimai</i>			
796	コウチュウ目	カミキリムシ科	タケウチヒゲナガコバネカミキリ	<i>Glaphyra takeuchii takeuchii</i>			
797	コウチュウ目	カミキリムシ科	ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ	<i>Molorchoepania mizoguchii</i>			
798	コウチュウ目	カミキリムシ科	トラフホソバネカミキリ	<i>Thranis variegatus variegatus</i>			
799	コウチュウ目	カミキリムシ科	クスベニカミキリ	<i>Pyrestes nipponicus</i>			
800	コウチュウ目	カミキリムシ科	ルリボシカミキリ	<i>Rosalia batesi</i>			
801	コウチュウ目	カミキリムシ科	ミドリカミキリ	<i>Chloridolum viride</i>		VU-r	
802	コウチュウ目	カミキリムシ科	ムラサキアオカミキリ	<i>Schwarzerium viridicyaneum</i>			
803	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>			
804	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロオビチビヒラタカミキリ	<i>Poecilium albicinctus</i>			
805	コウチュウ目	カミキリムシ科	アカネトラカミキリ	<i>Brachyclytus singularis</i>			
806	コウチュウ目	カミキリムシ科	タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>			
807	コウチュウ目	カミキリムシ科	クロトラカミキリ	<i>Chlorophorus diadema inhirsutus</i>			
808	コウチュウ目	カミキリムシ科	エグリトラカミキリ	<i>Chlorophorus japonicus</i>			
809	コウチュウ目	カミキリムシ科	フタオビミドリトラカミキリ	<i>Chlorophorus muscosus</i>			
810	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨツスジトラカミキリ	<i>Chlorophorus quinquefasciatus</i>			
811	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤエヤマトラカミキリ	<i>Chlorophorus yayeyamensis</i>			
812	コウチュウ目	カミキリムシ科	シラケトラカミキリ	<i>Clytus melaenus</i>			
813	コウチュウ目	カミキリムシ科	キスジトラカミキリ	<i>Cyrtoclytus caproides caproides</i>			
814	コウチュウ目	カミキリムシ科	キイロトラカミキリ	<i>Grammoglyphus notabilis notabilis</i>			
815	コウチュウ目	カミキリムシ科	トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>			
816	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨコヤマトラカミキリ	<i>Epiclytus yokoyamai</i>			
817	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメクロトラカミキリ	<i>Rhaphuma diminuta diminuta</i>			
818	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホソトラカミキリ	<i>Rhaphuma xenisca</i>			
819	コウチュウ目	カミキリムシ科	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>		NT-g	
820	コウチュウ目	カミキリムシ科	ウスイロトラカミキリ	<i>Xylotrechus cuneipennis</i>			
821	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニイジマトラカミキリ	<i>Xylotrechus emaciatus</i>			
822	コウチュウ目	カミキリムシ科	ムネマダラトラカミキリ	<i>Xylotrechus greyii greyii</i>			
823	コウチュウ目	カミキリムシ科	ズマルトラカミキリ	<i>Xylotrechus lautus lautus</i>			
824	コウチュウ目	カミキリムシ科	クビアカトラカミキリ	<i>Xylotrechus rufilius</i>			
825	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤノトラカミキリ	<i>Xylotrechus yanoi</i>		NT-g	
826	コウチュウ目	カミキリムシ科	マツシタトラカミキリ	<i>Anaglyptus matsushitai</i>			
827	コウチュウ目	カミキリムシ科	トガリバアカネトラカミキリ	<i>Anaglyptus niponensis</i>			
828	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロトラカミキリ	<i>Paraclytus excultus</i>			
829	コウチュウ目	カミキリムシ科	タキグチモモブトホソカミキリ	<i>Cleomenes takiguchii</i>			
830	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホタルカミキリ	<i>Dere thoracica</i>			
831	コウチュウ目	カミキリムシ科	ケナガカミキリ	<i>Mimistena setigera japonica</i>		NT-r	
832	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハリグロベニカミキリ	<i>Purpuricenus spectabilis</i>			
833	コウチュウ目	カミキリムシ科	ベニカミキリ	<i>Purpuricenus temminckii</i>			
834	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロオビゴマフカミキリ	<i>Falsomesosella gracillior</i>			
835	コウチュウ目	カミキリムシ科	カタジロゴマフカミキリ	<i>Mesosa hirsuta hirsuta</i>			
836	コウチュウ目	カミキリムシ科	ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa longipennis</i>			
837	コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴマフカミキリ	<i>Mesosa japonica</i>			
838	コウチュウ目	カミキリムシ科	カノコザビカミキリ	<i>Apomecyna naevia naevia</i>			
839	コウチュウ目	カミキリムシ科	シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina</i>		NT-r	
840	コウチュウ目	カミキリムシ科	キクスイモドキカミキリ	<i>Asaperda rufipes</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
841	コウチュウ目	カミキリムシ科	コブスジサビカミキリ	<i>Atimura japonica</i>			
842	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメアヤモンチビカミキリ	<i>Neosybra cribrella</i>			
843	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトモンチビカミキリ	<i>Sybra oshimana</i>			
844	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロオビチビカミキリ	<i>Sybra subfasciata subfasciata</i>			
845	コウチュウ目	カミキリムシ科	キリシマチビカミキリ	<i>Sybra uenoi sakamotoi</i>			
846	コウチュウ目	カミキリムシ科	クビジロカミキリ	<i>Xylariopsis mimica</i>			
847	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハスオビヒゲナガカミキリ	<i>Cleptometopus bimaculatus</i>			
848	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロスジドウボソカミキリ	<i>Pothyne annulata annulata</i>			
849	コウチュウ目	カミキリムシ科	ドウボソカミキリ	<i>Pseudocalamobius japonica</i>			
850	コウチュウ目	カミキリムシ科	サビアヤカミキリ	<i>Abryna obscura</i>			
851	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニジマチビカミキリ	<i>Egesina bifasciana bifasciana</i>			
852	コウチュウ目	カミキリムシ科	クワサビカミキリ	<i>Mesosella simiola</i>			
853	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハイイロヤハズカミキリ	<i>Niphona furcata</i>			
854	コウチュウ目	カミキリムシ科	マルモンサビカミキリ	<i>Pterolophia angusta</i>			
855	コウチュウ目	カミキリムシ科	ワモンサビカミキリ	<i>Pterolophia annulata</i>			
856	コウチュウ目	カミキリムシ科	クリサビカミキリ	<i>Pterolophia castaneivora</i>			
857	コウチュウ目	カミキリムシ科	トガリシロオビサビカミキリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>			
858	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトモンサビカミキリ	<i>Pterolophia granulata</i>			
859	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメナガサビカミキリ	<i>Pterolophia leiopodina</i>			
860	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトジロサビカミキリ	<i>Pterolophia zonata</i>			
861	コウチュウ目	カミキリムシ科	ナカジロサビカミキリ	<i>Pterolophia jugosa jugosa</i>			
862	コウチュウ目	カミキリムシ科	ツチイロフトヒゲカミキリ	<i>Dolophrades terrenus</i>			NT-r
863	コウチュウ目	カミキリムシ科	セダカコバヤハズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber gibber</i>			NT-r
864	コウチュウ目	カミキリムシ科	ピロウドカミキリ	<i>Acalolepta fraudatrix fraudatrix</i>			
865	コウチュウ目	カミキリムシ科	センノキカミキリ	<i>Acalolepta luxuriosa luxuriosa</i>			
866	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセピロウドカミキリ	<i>Acalolepta sejuncta sejuncta</i>			
867	コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>			
868	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	<i>Dolichoprosopus yokoyamai</i>			
869	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>			
870	コウチュウ目	カミキリムシ科	イタヤカミキリ	<i>Mecynippus pubicornis</i>			
871	コウチュウ目	カミキリムシ科	マツノマダラカミキリ	<i>Monochamus alternatus endai</i>			
872	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus grandis</i>			NT-r
873	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus subfasciatus subfasciatus</i>			
874	コウチュウ目	カミキリムシ科	グレイシロハシカミキリ	<i>Nanohammus rufescens</i>			
875	コウチュウ目	カミキリムシ科	キボシカミキリ	<i>Psacotheta hilaris hilaris</i>			
876	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤハズカミキリ	<i>Uraecha bimaculata bimaculata</i>			
877	コウチュウ目	カミキリムシ科	チャボヒゲナガカミキリ	<i>Xenicotela pardalina</i>			
878	コウチュウ目	カミキリムシ科	クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>			
879	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロスジカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>			
880	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒゲナガゴマフカミキリ	<i>Palimna liturata</i>			
881	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハラアカコバカミキリ	<i>Moechotypa diphysis</i>			
882	コウチュウ目	カミキリムシ科	オオシロカミキリ	<i>Olenecamptus cretaceus</i>			
883	コウチュウ目	カミキリムシ科	エソナガヒゲカミキリ	<i>Hirtaeschopalea nubilus</i>			
884	コウチュウ目	カミキリムシ科	ドイカミキリ	<i>Mimectatina divaricata divaricata</i>			
885	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホソヒゲケブカカミキリ	<i>Eupogoniopsis tenuicornis</i>			
886	コウチュウ目	カミキリムシ科	マルバネコバヒゲカミキリ	<i>Rhodopina integripennis</i>			
887	コウチュウ目	カミキリムシ科	セミスジコバヒゲカミキリ	<i>Rhodopina lewisii lewisii</i>			
888	コウチュウ目	カミキリムシ科	フタオビアラゲカミキリ	<i>Arhopaloscels nipponensis</i>			
889	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒトオビアラゲカミキリ	<i>Rhopaloscels unifasciatus</i>			
890	コウチュウ目	カミキリムシ科	イボタサビカミキリ	<i>Sophronica obrioides</i>			
891	コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴイシモフトカミキリ	<i>Callapoecus guttatus</i>			
892	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒゲナガモフトカミキリ	<i>Acanthocinus orientalis</i>			
893	コウチュウ目	カミキリムシ科	クモガタケシカミキリ	<i>Exocentrus fasciolatus</i>			
894	コウチュウ目	カミキリムシ科	ガロアケンカミキリ	<i>Exocentrus galloisi</i>			
895	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトモンマルケシカミキリ	<i>Exocentrus lineatus</i>			
896	コウチュウ目	カミキリムシ科	シラオビゴマフケシカミキリ	<i>Exocentrus guttulus</i>			
897	コウチュウ目	カミキリムシ科	ナカバヤシモフトカミキリ	<i>Leiopus guttatus</i>			DD-2
898	コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴマダラモフトカミキリ	<i>Leiopus stillatus</i>			
899	コウチュウ目	カミキリムシ科	トゲバカミキリ	<i>Rondibilis saperdina</i>			
900	コウチュウ目	カミキリムシ科	キュウシュウトゲバカミキリ	<i>Rondibilis amanoi</i>			
901	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホウノキトゲバカミキリ	<i>Rondibilis sapporensis</i>			
902	コウチュウ目	カミキリムシ科	ルリカミキリ	<i>Bacchisa fortunei japonica</i>			
903	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハンノキカミキリ	<i>Cagosima sanguinolenta</i>			
904	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヨツキボシカミキリ	<i>Epiglenea comes comes</i>			
905	コウチュウ目	カミキリムシ科	キバナニセリンゴカミキリ	<i>Eumecocera anomala</i>			NT-r
906	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒゲナガシラホシカミキリ	<i>Eumecocera argyrosticta</i>			NT-r
907	コウチュウ目	カミキリムシ科	セミスジニセリンゴカミキリ	<i>Eumecocera trivittata</i>			NT-r
908	コウチュウ目	カミキリムシ科	ハンノキアオカミキリ	<i>Eutetrappa chrysochloris chrysochloris</i>			
909	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヤツメカミキリ	<i>Eutetrappa ocelota</i>			
910	コウチュウ目	カミキリムシ科	リュウキュウルリボシカミキリ	<i>Glenea chlorospila chlorospila</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
911	コウチュウ目	カミキリムシ科	シラホシカミキリ	<i>Glenea relicta relicta</i>			
912	コウチュウ目	カミキリムシ科	キモンカミキリ	<i>Menesia sulphurata</i>			
913	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヘリグロリンゴカミキリ	<i>Nupserha marginella</i>			
914	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメリンゴカミキリ	<i>Oberea hebescens</i>			
915	コウチュウ目	カミキリムシ科	リンゴカミキリ	<i>Oberea japonica</i>			
916	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセリンゴカミキリ	<i>Oberea mixta</i>			
917	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホソキリンゴカミキリ	<i>Oberea infranigrescens</i>			
918	コウチュウ目	カミキリムシ科	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>			
919	コウチュウ目	カミキリムシ科	カスガキモンカミキリ	<i>Paramenesia kasugensis</i>			NT-r
920	コウチュウ目	カミキリムシ科	フチグロヤツボシカミキリ	<i>Pareutetrapha eximia</i>			NT-r
921	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセシラホシカミキリ	<i>Pareutetrapha simulans</i>			
922	コウチュウ目	カミキリムシ科	キクスイカミキリ	<i>Phytoecia rufiventris</i>			
923	コウチュウ目	カミキリムシ科	アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>	VU	VU-r	
924	コウチュウ目	ハムシ科	チャバラマメソウムシ	<i>Borowiecius ademptus</i>			
925	コウチュウ目	ハムシ科	カバノキハムシ	<i>Syneta adamsi</i>			
926	コウチュウ目	ハムシ科	トホシクビボソハムシ	<i>Lema decempunctata</i>			
927	コウチュウ目	ハムシ科	アカクビボソハムシ	<i>Lema diversa</i>			
928	コウチュウ目	ハムシ科	ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>			
929	コウチュウ目	ハムシ科	キイロクビナガハムシ	<i>Liliocercis rugata</i>			
930	コウチュウ目	ハムシ科	アカクビナガハムシ	<i>Liliocercis subpolita</i>			
931	コウチュウ目	ハムシ科	ヒゴトゲハムシ	<i>Dactylispa higoniae</i>			
932	コウチュウ目	ハムシ科	クロリトゲハムシ	<i>Rhadinosa nigrocyanea</i>			
933	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメジンガサハムシ	<i>Cassida fusciorufa</i>			
934	コウチュウ目	ハムシ科	イノコヅチカメノコハムシ	<i>Cassida japona</i>			
935	コウチュウ目	ハムシ科	カメノコハムシ	<i>Cassida nebulosa</i>			
936	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>			
937	コウチュウ目	ハムシ科	セモンジンガサハムシ	<i>Cassida crucifera</i>			
938	コウチュウ目	ハムシ科	コガタカメノコハムシ	<i>Cassida vespertina</i>			
939	コウチュウ目	ハムシ科	イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspida biramosa</i>			
940	コウチュウ目	ハムシ科	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>			
941	コウチュウ目	ハムシ科	ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>			
942	コウチュウ目	ハムシ科	ドロノキハムシ	<i>Chrysomela populi</i>			
943	コウチュウ目	ハムシ科	ヤナギハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata</i>			
944	コウチュウ目	ハムシ科	クルミハムシ	<i>Gastrolina depressa</i>			
945	コウチュウ目	ハムシ科	ズグロキハムシ	<i>Gastrolinoides japonicus</i>			
946	コウチュウ目	ハムシ科	コガタリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>			
947	コウチュウ目	ハムシ科	フジハムシ	<i>Gonioctena rubripennis</i>			
948	コウチュウ目	ハムシ科	ダイコンハムシ	<i>Phaedon brassicae</i>			
949	コウチュウ目	ハムシ科	アカソハムシ	<i>Potaninia cyrtionoides</i>			
950	コウチュウ目	ハムシ科	ヤナギルリハムシ	<i>Plagioderia versicolora</i>			
951	コウチュウ目	ハムシ科	キクビアハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>			
952	コウチュウ目	ハムシ科	ハンノキハムシ	<i>Agelastica coerulea</i>			
953	コウチュウ目	ハムシ科	ムナグロツヤハムシ	<i>Arthrotus niger</i>			
954	コウチュウ目	ハムシ科	ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>			
955	コウチュウ目	ハムシ科	ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i>			
956	コウチュウ目	ハムシ科	クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>			
957	コウチュウ目	ハムシ科	オオルリヒメハムシ	<i>Charaea nobyi</i>			
958	コウチュウ目	ハムシ科	キバラヒメハムシ	<i>Charaea flaviventre</i>			
959	コウチュウ目	ハムシ科	クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>			
960	コウチュウ目	ハムシ科	イチゴハムシ	<i>Galerucella vittaticollis</i>			
961	コウチュウ目	ハムシ科	イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>			
962	コウチュウ目	ハムシ科	ケブカクロナガハムシ	<i>Hesperomorpha hirsuta</i>			
963	コウチュウ目	ハムシ科	フタスジヒメハムシ	<i>Medythia nigrobilineata</i>			
964	コウチュウ目	ハムシ科	ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>			
965	コウチュウ目	ハムシ科	ウスイロウリハムシ	<i>Monolepta pallidula</i>			
966	コウチュウ目	ハムシ科	モンキアシナガハムシ	<i>Monolepta quadriguttata</i>			
967	コウチュウ目	ハムシ科	イチモンジハムシ	<i>Morphosphaera japonica</i>			
968	コウチュウ目	ハムシ科	アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>			
969	コウチュウ目	ハムシ科	ヨツボシハムシ	<i>Paridea quadriplagiata</i>			
970	コウチュウ目	ハムシ科	エグリバケバカハムシ	<i>Pyrrhalta esakii</i>			
971	コウチュウ目	ハムシ科	イタヤハムシ	<i>Pyrrhalta fuscipennis</i>			
972	コウチュウ目	ハムシ科	サンゴシハムシ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>			
973	コウチュウ目	ハムシ科	アカタデハムシ	<i>Pyrrhalta semifulva</i>			
974	コウチュウ目	ハムシ科	ルリウスバハムシ	<i>Stenoluperus cyaneus</i>			
975	コウチュウ目	ハムシ科	ヒゲナガウスバハムシ	<i>Stenoluperus nipponensis</i>			
976	コウチュウ目	ハムシ科	クロバヒゲナガハムシ	<i>Taumacera tibialis</i>			
977	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメカミナリハムシ	<i>Altica caeruleascens</i>			
978	コウチュウ目	ハムシ科	ミズタマソウカミナリハムシ	<i>Altica circaeae</i>			
979	コウチュウ目	ハムシ科	アザミカミナリハムシ	<i>Altica circicola</i>			
980	コウチュウ目	ハムシ科	カミナリハムシ	<i>Altica cyanea</i>			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
981	コウチュウ目	ハムシ科	コカミナリハムシ	<i>Altica viridicyanea</i>			
982	コウチュウ目	ハムシ科	ツブノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>			
983	コウチュウ目	ハムシ科	キアシツブノミハムシ	<i>Aphthona semiviridis</i>			
984	コウチュウ目	ハムシ科	アカイロマルノミハムシ	<i>Argopus punctipennis</i>			
985	コウチュウ目	ハムシ科	キュウシュウミドリトビハムシ	<i>Crepidodera sp.</i>			
986	コウチュウ目	ハムシ科	ヒゲナガリマルノミハムシ	<i>Hemipyxis plagioderoides</i>			
987	コウチュウ目	ハムシ科	ルリマルノミハムシ	<i>Nonarthra cyanea</i>			
988	コウチュウ目	ハムシ科	コマルノミハムシ	<i>Nonarthra tibialis</i>			
989	コウチュウ目	ハムシ科	チャバネツヤハムシ	<i>Phygasia fulvipennis</i>			
990	コウチュウ目	ハムシ科	キスジノミハムシ	<i>Phyllotreta striolata</i>			
991	コウチュウ目	ハムシ科	ナトビハムシ	<i>Psylliodes punctifrons</i>			
992	コウチュウ目	ハムシ科	カタクリハムシ	<i>Sangariola punctatostrata</i>			
993	コウチュウ目	ハムシ科	ドウガネツヤハムシ	<i>Oomorphoides cupreatus</i>			
994	コウチュウ目	ハムシ科	キイロナガツハムシ	<i>Smaragdina nipponensis</i>			
995	コウチュウ目	ハムシ科	ムナキルリハムシ	<i>Smaragdina semiaurantiaca</i>			
996	コウチュウ目	ハムシ科	バラリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>			
997	コウチュウ目	ハムシ科	チビルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus confusus</i>			
998	コウチュウ目	ハムシ科	キアシルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus fortunatus</i>			
999	コウチュウ目	ハムシ科	ヨツモンクロツツハムシ	<i>Cryptocephalus nobilis</i>			
1000	コウチュウ目	ハムシ科	セスジツツハムシ	<i>Cryptocephalus parvulus</i>			
1001	コウチュウ目	ハムシ科	キボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus perelegans perelegans</i>			
1002	コウチュウ目	ハムシ科	カシワツツハムシ	<i>Cryptocephalus scitulus</i>			
1003	コウチュウ目	ハムシ科	クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>			
1004	コウチュウ目	ハムシ科	ムシクソハムシ	<i>Chlamisus spilotus</i>			
1005	コウチュウ目	ハムシ科	アカガネサルハムシ	<i>Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii</i>			
1006	コウチュウ目	ハムシ科	アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>			
1007	コウチュウ目	ハムシ科	ウスイロサルハムシ	<i>Basilepta pallidula</i>			
1008	コウチュウ目	ハムシ科	イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>			
1009	コウチュウ目	ハムシ科	マダラアラゲサルハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>			
1010	コウチュウ目	ハムシ科	コブアラゲサルハムシ	<i>Demotina tuberosa</i>			
1011	コウチュウ目	ハムシ科	クロオビカサハラハムシ	<i>Hyperaxis fasciata</i>			
1012	コウチュウ目	ハムシ科	アオガネヒメサルハムシ	<i>Nodina chalcosoma</i>			
1013	コウチュウ目	ハムシ科	マルキバネサルハムシ	<i>Pagriia ussuriensis</i>			
1014	コウチュウ目	ハムシ科	ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i>			
1015	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	キノコヒゲナガゾウムシ	<i>Euparius oculatus oculatus</i>			
1016	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	<i>Ozotomerus japonicus japonicus</i>			
1017	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	フタモンツツヒゲナガゾウムシ	<i>Ozotomerus nigromaculatus</i>			
1018	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	シロヒゲナガゾウムシ	<i>Platystomos sellatus sellatus</i>			
1019	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	カオジロヒゲナガゾウムシ	<i>Sphinctotropis laxa</i>			
1020	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	クロフヒゲナガゾウムシ	<i>Tropideres roelofsi</i>			
1021	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	キボシメナガヒゲナガゾウムシ	<i>Oxyderes fastigatus</i>			
1022	コウチュウ目	オトシブミ科	オトシブミ	<i>Apoderus jekelii</i>			
1023	コウチュウ目	オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus erythrogaster</i>			
1024	コウチュウ目	オトシブミ科	ウスモンオトシブミ	<i>Apoderus balteatus</i>			
1025	コウチュウ目	オトシブミ科	エゴツルクビオトシブミ	<i>Cycnotrachelus roelofsi</i>			
1026	コウチュウ目	オトシブミ科	アカクビナガオトシブミ	<i>Centrocorynus nigricollis</i>			
1027	コウチュウ目	オトシブミ科	ヒゲナガオトシブミ	<i>Paratrachelophorus longicornis</i>			
1028	コウチュウ目	オトシブミ科	ヒメコブオトシブミ	<i>Phymatopoderus pavens</i>			
1029	コウチュウ目	オトシブミ科	ナラリオトシブミ	<i>Euops konoi</i>			
1030	コウチュウ目	オトシブミ科	ルリオトシブミ	<i>Euops punctatostratus</i>			
1031	コウチュウ目	オトシブミ科	カシルリオトシブミ	<i>Euops splendidus</i>			
1032	コウチュウ目	オトシブミ科	アシナガオトシブミ	<i>Phialodes rufipennis</i>			
1033	コウチュウ目	オトシブミ科	ブドウハマキチョッキリ	<i>Byctiscus lacunipennis</i>			
1034	コウチュウ目	オトシブミ科	ファウストハマキチョッキリ	<i>Byctiscus fausti</i>			
1035	コウチュウ目	オトシブミ科	ベニホシハマキチョッキリ	<i>Byctiscus puberulus</i>			
1036	コウチュウ目	オトシブミ科	イタヤハマキチョッキリ	<i>Byctiscus venustus</i>			
1037	コウチュウ目	オトシブミ科	チャイロチョッキリ	<i>Aderorhinus crioceroides</i>			
1038	コウチュウ目	オトシブミ科	ホソチョッキリ	<i>Eugnamptus aurifrons</i>			
1039	コウチュウ目	オトシブミ科	ルリホソチョッキリ	<i>Eugnamptus amurensis</i>			
1040	コウチュウ目	オトシブミ科	ヒメケブカチョッキリ	<i>Involvulus pilosus</i>			
1041	コウチュウ目	オトシブミ科	クチブトチョッキリ	<i>Lasiorynchites brevisstris</i>			
1042	コウチュウ目	オトシブミ科	ハイイロチョッキリ	<i>Cyllorhynchites ursulus</i>			
1043	コウチュウ目	オトシブミ科	カシルリチョッキリ	<i>Rhodocyrtus assimilis</i>			
1044	コウチュウ目	オトシブミ科	モモチョッキリ	<i>Rhynchites heros</i>			
1045	コウチュウ目	オトシブミ科	マルムネチョッキリ	<i>Chonostropheus chujoi</i>			
1046	コウチュウ目	オトシブミ科	コナライクビチョッキリ	<i>Deporaus unicolor</i>			
1047	コウチュウ目	ミツギリゾウムシ科	ミツギリゾウムシ	<i>Baryrhynchus poweri</i>			
1048	コウチュウ目	ミツギリゾウムシ科	ムツモンミツギリゾウムシ	<i>Pseudorychodes insignis</i>			
1049	コウチュウ目	ゾウムシ科	キュウシュウヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius rotundicollis</i>			
1050	コウチュウ目	ゾウムシ科	ニシコブヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius picipes</i>			

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1051	コウチュウ目	ゾウムシ科	コカシワクチブトゾウムシ	<i>Lepidopistomodes griseoides</i>			
1052	コウチュウ目	ゾウムシ科	カシワクチブトゾウムシ	<i>Nothomylocerus griseus</i>			
1053	コウチュウ目	ゾウムシ科	シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus turritus</i>			
1054	コウチュウ目	ゾウムシ科	オビモンヒョウタンゾウムシ	<i>Amystax fasciatus</i>			
1055	コウチュウ目	ゾウムシ科	アトモンヒョウタンゾウムシ	<i>Amystax satanus</i>			
1056	コウチュウ目	ゾウムシ科	ハコベタコゾウムシ	<i>Hypera basalis</i>			
1057	コウチュウ目	ゾウムシ科	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>			
1058	コウチュウ目	ゾウムシ科	ハスジカツオゾウムシ	<i>Lixus acutipennis</i>			
1059	コウチュウ目	ゾウムシ科	ホホジロアシナガゾウムシ	<i>Merus erro</i>			
1060	コウチュウ目	ゾウムシ科	キスジアシナガゾウムシ	<i>Merus flavosignatus</i>			
1061	コウチュウ目	ゾウムシ科	オジロアシナガゾウムシ	<i>Ornatacides trifidus</i>			
1062	コウチュウ目	ゾウムシ科	シミノコギリゾウムシ	<i>Ixalma guttulum</i>			
1063	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヒラセノミゾウムシ	<i>Orchestes dorsoplanatus</i>			
1064	コウチュウ目	ゾウムシ科	イチゴバナゾウムシ	<i>Anthonomus bisignifer</i>			
1065	コウチュウ目	ゾウムシ科	ムモンチビシギゾウムシ	<i>Koreoculio antennatus</i>			
1066	コウチュウ目	ゾウムシ科	ニセコナラシギゾウムシ	<i>Curculio conjugaris</i>			
1067	コウチュウ目	ゾウムシ科	シシギゾウムシ	<i>Curculio hilgendorfi</i>			
1068	コウチュウ目	ゾウムシ科	アカサビシギゾウムシ	<i>Curculio lateritius</i>			
1069	コウチュウ目	ゾウムシ科	キマダラシギゾウムシ	<i>Curculio cerasorum</i>			
1070	コウチュウ目	ゾウムシ科	ウスモンチビシギゾウムシ	<i>Koreoculio minutissimus</i>			
1071	コウチュウ目	ゾウムシ科	クヌギシギゾウムシ	<i>Curculio robustus</i>			
1072	コウチュウ目	ゾウムシ科	レロフチビシギゾウムシ	<i>Archarius roelofsi</i>			
1073	コウチュウ目	ゾウムシ科	クリシギゾウムシ	<i>Curculio sikkimensis</i>			
1074	コウチュウ目	ゾウムシ科	エゴシギゾウムシ	<i>Curculio styracis</i>			
1075	コウチュウ目	ゾウムシ科	カナムグラサルゾウムシ	<i>Cardipennis shaowuensis</i>			
1076	コウチュウ目	ゾウムシ科	トサヒシガタクモゾウムシ	<i>Lobotrachelus tosanus</i>			
1077	コウチュウ目	ゾウムシ科	クリアナアキゾウムシ	<i>Pimelocerus exsculptus</i>			
1078	コウチュウ目	ゾウムシ科	クスアアナキゾウムシ	<i>Pimelocerus hylobioides</i>			
1079	コウチュウ目	ゾウムシ科	リンゴアアナキゾウムシ	<i>Pimelocerus shikokuensis</i>			
1080	コウチュウ目	ゾウムシ科	シロアアナキゾウムシ	<i>Hesychobius vossi</i>			
1081	コウチュウ目	ゾウムシ科	マツアアナキゾウムシ	<i>Hylobius haroldi</i>			
1082	コウチュウ目	ゾウムシ科	フタキボシゾウムシ	<i>Lepyrus japonicus</i>			
1083	コウチュウ目	ゾウムシ科	ハイロトゲトゲゾウムシ	<i>Colobodes valbum</i>			
1084	コウチュウ目	ゾウムシ科	マダラアシゾウムシ	<i>Ectatorhinus adamsii</i>			
1085	コウチュウ目	ゾウムシ科	アシナガオニゾウムシ	<i>Gasterocercus longipes</i>			
1086	コウチュウ目	ゾウムシ科	ツシマオヒゲナガゾウムシ	<i>Dendropemon nagaai</i>			
1087	コウチュウ目	イネゾウムシ科	イネミスゾウムシ	<i>Lissorhoptus oryophilus</i>			
1088	コウチュウ目	オサゾウムシ科	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas gigas</i>			
1089	コウチュウ目	オサゾウムシ科	オオシロオビゾウムシ	<i>Cryptoderma fortunei</i>			
1090	コウチュウ目	オサゾウムシ科	トホシオサゾウムシ	<i>Aplotes roelofsi</i>			
1091	コウチュウ目	オサゾウムシ科	ホオアカオサゾウムシ	<i>Otidognathus jansonii</i>			
1092	コウチュウ目	ククイムシ科	マツノククイムシ	<i>Tomiscus piniperda</i>			
1093	コウチュウ目	ククイムシ科	ルイスザイノククイムシ	<i>Xyleborus lewisi</i>			
1094	コウチュウ目	ククイムシ科	トドマツオオククイムシ	<i>Xyleborus validus</i>			
1095	コウチュウ目	ククイムシ科	ミカドククイムシ	<i>Scolytoplatypus mikado</i>			
1096	コウチュウ目	ナガククイムシ科	ヤチダモノナガククイムシ	<i>Crossotarsus niponicus</i>			
1097	コウチュウ目	ナガククイムシ科	ルイスナガククイムシ	<i>Platypus lewisi</i>			

6. 参考文献

- 羽田孝吉, 2006. キュウシュウマルマグソコガネの宮崎県における新産地. 鯉角通信,(12): 46-46.
- 今坂正一・松原 豊, 2007. ギョウトクテントウの追加記録. 月刊むし,(441): 26-27.
- 井之口希秀, 1994. 昆虫目録3 (宮崎県市町村別). タテハモドキ,(30): 84-106.
- 磯崎恵明, 1995. 見立・傾山系の昆虫類. タテハモドキ,(31): 34-56.
- 磯崎恵明, 1996. 日之影町でアルファルファタコゾウムシを採集. タテハモドキ,(32): 30-30.
- 磯崎恵明, 1997. 西臼杵地方の甲虫類の採集記録. タテハモドキ,(33): 23-56.
- 磯崎恵明, 1999. 日之影の甲虫類目録. 日之影町史 資料編1 自然: 296-323.
- 磯崎恵明, 2002. 大崩山一帯の甲虫類の採集記録. タテハモドキ,(38): 53-68.
- 岩切康二, 2009. 行勝山でキマダラマグソコガネを採集. タテハモドキ,(45): 60-61.
- 岩切康二, 2010. 宮崎県日之影町でフジヤマダルマアリヅカムシを採集. タテハモドキ,(46): 44-44.
- 岩切康二, 2012. 延岡市でオオイタキバナガゴミムシを採集. タテハモドキ,(48): 53.
- 岩崎郁雄, 1994. サワダマメゲンゴロウを大崩山で採集. タテハモドキ,(30): 145-145.
- 岩崎郁雄, 1994. 宮崎県のゲンゴロウ ~その1~. タテハモドキ,(30): 141-145.
- 岩崎郁雄, 1999. 日之影のホタル虫類目録. 日之影町史 資料編1 自然: 295.
- 岩崎郁雄・末永英規・八木真紀子・安本潤一・串間研之・斉藤政美・中馬章吾・西岡寛真・中西星輔・安田裕貴・西谷光平, 2019. 五ヶ所高原昆虫類総合調査報告 (2018 年). INSECTA MIYAZAKI,(7): 5-14.
- 岩崎郁雄・末永英規・八木真紀子・串間研之・中馬章吾・西谷光平・国田悠希・辛島なつ・安田裕貴・西岡寛真・中西星輔, 2020. 五ヶ所高原昆虫類総合調査報告 (2019 年). INSECTA MIYAZAKI,(8): 42-58.
- 環境省編, 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5 昆虫類. ぎょうせい. 東京.
- 河原正和・越智輝雄, 2002. 最近日本で知られるようになった糞虫について (2). 鯉角通信,(4): 55-58.
- 木野田毅, 1988. 永井脛氏採集のジョウカイボン科 16 種について. タテハモドキ,(23): 20-22.
- 木野田毅, 1988. 延岡市大貫町で採れたアオカミキリモドキ. タテハモドキ,(23): 22-22.
- 木野田毅, 1988. 恒富中学校昆虫クラブの採集記録. タテハモドキ,(23): 15-19.
- 木野田毅, 1988. 大崩山で採集した甲虫 4 種. タテハモドキ,(23): 23-23.
- 木野田毅, 1989. クワガタムシ科とコガネムシ科の記録. タテハモドキ,(25): 23-25.
- 木野田毅, 1989. 宮崎県で採れたコガネムシ. タテハモドキ,(25): 26-26.
- 木野田毅, 1991. 1991 年に刺繍した甲虫 15 種. タテハモドキ,(27): 29-29.
- 木野田毅, 1992. ヨツキボシカミキリとゲンジボタル・ヘイケボタルの記録. タテハモドキ,(28): 57-57.
- 木野田毅, 1993. 北川町上祝子で採集したクワガタムシとカミキリムシ. タテハモドキ,(29): 26-27.
- 木野田毅, 1996. 宮崎県で採集した甲虫の記録 I. タテハモドキ,(32): 7-25.
- 木野田毅, 1997. 宮崎県で採集した甲虫の記録 II. タテハモドキ,(33): 11-22.
- 木野田毅, 2006. 平成 18 年の昆虫散見. タテハモドキ,(42): 34-35.
- 木野田毅, 2007. タマムシ科の記録. タテハモドキ,(43): 101-102.
- 木野田毅, 2007. 安本氏採集の甲虫. タテハモドキ,(43): 103-105.

- 木野田毅, 2007. 宮崎県内甲虫類の記録. タテハモドキ,(43): 81-100.
- 木野田毅, 2009. 宮崎県の甲虫の記録. タテハモドキ,(45): 44-53.
- 木野田毅, 2013. 宮崎県内で採集したエンマムシ類. タテハモドキ,(49): 72.
- 木野田毅, 2014. 宮崎県内の甲虫の記録. タテハモドキ,(50): 28-37.
- 木野田毅, 2015. 宮崎県内の甲虫の記録. タテハモドキ,(51): 34-36.
- 木野田毅, 2015. 宮崎県内のテントウムシ科. タテハモドキ,(51): 38-39.
- 木野田毅, 2016. 宮崎県のハネカクシ科 38 種. タテハモドキ,(52): 34-36.
- 木野田毅, 2016. 宮崎県内の甲虫 59 種. タテハモドキ,(52): 41-45.
- 木野田毅, 2017. 宮崎県のハナノミ科 I. タテハモドキ,(53): 30-33.
- 木野田毅, 2017. 延岡市・日向市の甲虫. タテハモドキ,(53): 73.
- 木野田毅・岩崎郁雄, 2020. コウチュウ目. 宮崎県昆虫目録 (今坂正一監修・岩崎郁雄編).
クラインヴィッセン. 宮崎.
- 木野田毅・小林裕和, 2008. 宮崎県のビロウドコガネ. 鯉角通信,(16): 7-10.
- 桐山 功・木野田毅, 2000. 九州産ジョウカイボン科の記録. タテハモドキ,(36): 1-14.
- 児玉重信, 1989. 宮崎県北部に分布する甲虫類. タテハモドキ,(24): 23-24.
- 小岩屋敏, 1972. 宮崎県内で採集した天牛. タテハモドキ,(7): 26-31.
- 小岩屋敏, 2019. ムナコブハナカミキリの宮崎県内外での探索記録(小松父子の記録を含む).
タテハモドキ,(56): 39-42.
- 小岩屋敏, 2019. ヒメビロウドカミキリの宮崎県内外での探索記録. タテハモドキ,(56): 45-48.
- 小松孝寛, 2017. 延岡市でヘリハネムシを確認. タテハモドキ,(53): 29.
- 三村義友, 2006. 表紙の写真. 鯉角通信,(12): 0-0.
- 永井 彪, 1970. 宮崎県北部のオニツノクロツヤムシ. タテハモドキ,(5): 80-80.
- 永井 彪, 1970. 宮崎県北部の天牛 1. タテハモドキ,(5): 5-42.
- 永井 彪・俵さとる, 1971. 宮崎県北部のタマムシ. タテハモドキ,(6): 43-50.
- 永井 彪, 1972. 宮崎県北部の天牛 (2). タテハモドキ,(7): 33-48.
- 永井 彪, 1973. 甲虫雑報 (1). タテハモドキ,(8): 3-4.
- 永井 彪, 1974. 甲虫雑報 (2). タテハモドキ,(9): 4-6.
- 永井 彪, 1979. 甲虫雑報 (3). タテハモドキ,(14): 9-12.
- 永井 彪, 1987. 宮崎県のベニボタル. 中根猛彦・タテハモドキ,(22): 18-19.
- 永井 彪, 1989. 甲虫雑報 (6). タテハモドキ,(24): 21-22.
- 永井 彪, 1992. 宮崎県の *Pidonia*. タテハモドキ,(28): 40-44.
- 永井 彪・岩崎郁雄, 1992. 九州で採集した甲虫類. タテハモドキ,(28): 24-33.
- 永井 彪, 1994. 甲虫雑報 (7) - 宮崎県のホソカタムシ科 -. タテハモドキ,(30): 139-140.
- 永井 彪, 1995. ハラアカコブカミキリの採集. タテハモドキ,(31): 31-31.
- 永井 彪, 1998. 西邦雄氏採集の甲虫 2 種. タテハモドキ,(34): 36-36.
- 永井 彪, 1998. 日之影町の甲虫 2 種. タテハモドキ,(34): 35-35.
- 中島 淳・江口勝久・乾 隆帝・西田高志・中谷祐也・鬼倉徳雄・及川 信, 2008. 宮崎県北川の河川感潮域に造成した人工ワンドにおける魚類, カニ類, 甲虫類の定着状況. 応用生態工学,(11(2)): 183-193.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫.
文一総合出版. 東京.

- 中根猛彦, 1975. 九州（屋久島・種子島を含む）に分布する異節群甲虫について. 国立科学博物館専報,(8): 161-173.
- 中根猛彦・永井 脛, 1994. (続) 宮崎県のベニボタル. タテハモドキ,(30): 120-130.
- 直海晶二郎, 1976. ヒゲジロホソコバネカミキリの採集記録. タテハモドキ,(11): 32-32.
- 野田 亮, 1989. 宮崎県大崩山系のクワガタ4種. 月刊むし,(226): 18-19.
- 野村周平・永井 脛, 1995. 宮崎県産アリヅカムシ科. タテハモドキ,(31): 19-27.
- 大平仁夫・永井 脛, 1985. 宮崎県産コメツキムシ類の分布記録. タテハモドキ,(20): 31-49.
- 齊藤政美, 2017. 諸塚山で見かけたハムシ. INSECTA MIYAZAKI,(5): 79.
- 笹岡康則, 2016. 宮崎県内の甲虫. タテハモドキ,(52): 9-18.
- 笹岡康則, 2017. 渡辺崇氏が宮崎県内で採集した甲虫. タテハモドキ,(53): 40-47.
- 笹岡康則, 2017. 2016年2017年に宮崎県で採集した綾町以外の甲虫. タテハモドキ,(53): 56-72.
- 笹岡康則, 2018. 綾町及び河口以外の各地の甲虫の記録. タテハモドキ,(55): 16-32.
- 笹岡康則, 2018. 渡辺崇氏が宮崎県内で採集した甲虫その2. タテハモドキ,(55): 33-36.
- 笹岡康則・木野田毅, 2011. 宮崎県のコメツキムシ科. タテハモドキ,(47): 6-16.
- 笹岡康則・木野田毅, 2011. 宮崎県内の甲虫の記録. タテハモドキ,(47): 70-82.
- 笹岡康則・木野田毅, 2012. 宮崎県内の甲虫の記録Ⅱ. タテハモドキ,(48): 19-32.
- 俵 慧, 1968. エゾヒゲナガカミキリを採集. タテハモドキ,(3): 25-25.
- 土岐和多瑠, 2003. 祖母山周辺において採集したカミキリ5種. タテハモドキ,(39): 29-29.
- 土岐和多瑠, 2008. アトモンチビカミキリの記録. タテハモドキ,(44): 21-21.
- 渡辺 崇, 2015. 五ヶ瀬川河畔で採集したハネカクシ科甲虫. タテハモドキ,(51): 32-33.
- 渡辺 崇, 2018. 宮崎県産メダカハネカクシの追加記録. タテハモドキ,(55): 37-39.
- 山元一裕, 1981. 宮崎県天牛類短報. タテハモドキ,(16): 25-26.
- 山元一裕, 1990. 宮崎県のクワガタムシ. タテハモドキ,(26): 22-33.
- 山元一裕, 1995. 宮崎県内で採集したカミキリムシ短報. タテハモドキ,(31): 11-13.
- 山元一裕, 1995. 宮崎県内のルリクワガタの記録. タテハモドキ,(31): 14-14.
- 山元一裕, 2019. 宮崎県内のカミキリ虫6種の記録. タテハモドキ,(56): 77.
- 安本潤一, 1997. 延岡市で採集・観察されたゲンゴロウ類の記録. タテハモドキ,(33): 77-77.
- 油井雅樹, 1993. 宮崎県北部で採集した水生甲虫類の記録. タテハモドキ,(29): 24-25.

陸産貝類

調査担当者：西 邦雄

調査協力者：西 浩孝

齊藤 政美

岩切 康二

延岡市自然環境調査 報告書 (陸産貝類)

西 邦雄

1. はじめに

過去 10 年間に延岡市を調査した結果を報告する。データは多い方が良いと思うので、モニタリング調査以外で調査したものも加えて報告する。

2. 調査方法等

① 現地調査

大きな陸産貝については現地での目視によって確認し、小さな陸産貝については落ち葉を持ち帰り、落ち葉の中にあるものを確認した。また、木の葉などに付着しているものについては、棒でたたき落とすピーティング法を用いた。

② 標本調査

頂いた標本の調査

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

(1) 宮崎県レッドリスト (2015) で絶滅危惧 IA・IB 類の種

スナガイ *Gastrocopta (Sinalbinulta) armigerella* (Reinhardt, 1877)

殻高 2.3mm、殻径 1.1mm 程度の微小な貝で、海岸付近の落ち葉の下などに生息する。内陸部の山地で見つかることもある。



ミジンマイマイ *Vallonia pulchellula* (Heude, 1882)

殻高 1.1mm、殻径 2.2mm ほどの微小な貝で、海岸付近の落ち葉の下などに生息する。



シンチュウギセル *Megalophaedusa aenea* (Pilsbry, 1903)

殻高 10mm、殻径 2.5mm 程度の小型の細長い陸貝である。キセルガイの仲間としても小型である。標高の高い、鬱蒼とした森の大木の根元の落ち葉の下や、木のうろに生息することが多い。



ハナコギセル *Reinia euholostoma* (Pilsbry, 1901)

殻高 9mm、殻径 2.7mm 程度の小型の細長い陸貝である。キセルガイの仲間としても小型である。照葉樹林や社寺林の樹幹に生息する、樹上生なので伐採されると壊滅的な打撃を受ける。産地は少ない。



ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A.Adams,1868)

殻高 7.5mm、殻径 2.7mm 程度の小型のキセルガイの仲間である。照葉樹林や社寺林の樹幹に生息する、樹上生なので伐採されると壊滅的な打撃を受ける。産地は少ない。宮崎県では、延岡市の 1ヶ所でしか確認できていない。



(2) 宮崎県レッドリスト (2015) で絶滅危惧 II 類の種

ヤマトキバサナギガイ *Vertigo japonica* Pilsbry & Hirase, 1904

非常に微小な貝で、殻高 1.9mm、殻径 1.2mm 程度の大きさである。低地から山地までの林内の落ち葉の下やシダ植物の葉裏などに生息している。個体数は少ない。



ナンビギセル *Megalophaedusa (Pauciphaedusa) toshiyukii* Minato & Habe, 1983

殻高 8mm、殻径 2.2mm 程度でキセルガイの仲間としては非常に小型である。良好な照葉樹林の落ち葉の中や倒木の下に生息している。個体数は少ない。



ナミギセル *Stereophaedusa (Mesophaedusa) japonica* (Crosse, 1871)

殻高 25mm、殻径 5.5mm 程度で、キセルガイとしては中型である。社寺林や人家の庭などに人為的に分布しているものもあるが、自然林に自然分布しているものは少ない。林内の落ち葉の下に生息している。全国的には普通種であるが、宮崎県では稀少である。



カンダマイマイ *Aegista (Coelorus) kandai* Azuma, 1970

殻高 5.5mm、殻径 11mm 程度で、マイマイとしては小型である。殻口がいびつになる。照葉樹林の落ち葉の中に生息している。



(3) 宮崎県レッドリスト (2015) で準絶滅危惧の種

サツمامシオイ *Chamalycaeus satsumanus satsumanus* (Pilsbry, 1902)

微小な貝で、殻高 2.5mm、殻径 3.9mm 程度の大きさである。サザエのようにふたを持っている。丘陵地から高い山の樹林の落ち葉の中に生息している。



カワモトギセル *Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) kawamotoi* Kuroda & Taki, 1944

殻高 20mm、殻径 4.5mm 程度の大きさで、キセルガイとしては中型。適度の湿気が保たれた良好な照葉樹林の落ち葉の中や倒木の下などに生息する。個体数は少ない。



スギモトギセル *Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) sugimotonis* Minato & Tada, 1978

殻高 14mm、殻径 3.5mm 程度で、小さなキセルガイの仲間。照葉樹林の礫の多い樹林の落ち葉の下に生息する。



ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata subcrenulata* (Pilsbry, 1901)

微小な貝で、殻高 2mm、殻径 3mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の中に生息している。



オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900)

微小な貝で、殻高 2.5mm、殻径 2.2mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の中に生息している。



ウメムラシタラ *Sitalina japonica* Habe, 1964

微小な貝で、殻高 1.9mm，殻径 2.2mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の中に生息している。



(4) 宮崎県レッドリスト（2015）で情報不足の種

サツマヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata satsumana* (Pilsbry & Hirase, in Hirase, 1908)

微小な貝で、殻高 3.2mm，殻径 4mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の中や朽ち木に生息している。



トサキビ *Trochochlamys sororcula* (Pilsbry & Hirase, 1904)

微小な貝で、殻高 4.1mm，殻径 4.9mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の下に生息している。照葉樹の葉に付着していることもある。



ヒラベッコウ *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900)

小型の貝で、殻高 5.5mm，殻径 10.3mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の下に生息している。



ハクサンベッコウの仲間 *Nipponochlamys* sp.

微小な貝で、殻高 2.6mm，殻径 4.6mm 程度。低地から高山までの照葉樹林の落ち葉の中に生息している。



(5) 宮崎県レッドリスト (2015) でその他保護上重要な種

アワジギセル *Megalophaedusa (Pinguiphaedusa) awajiensis* (Pilsbry, 1900)

殻高 15mm，殻径 3.5mm 程度で、小さなキセルガイの仲間。照葉樹林の朽ち木に生息する。名前の通り四国に生息している。宮崎県は南限となる。



ヒラシタラ *Sitalina latissima* (Pilsbry, 1902)

微小な貝で、殻高 2.2mm，殻径 3.4mm 程度。海岸樹林から高山までの照葉樹林の落ち葉の下に生息している。



4. 陸産貝類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 行滕山

行滕山は自然林が残されており、大木も多く、林内は適度な湿度が保たれている。ここではシンチュウギセルやカンダマイマイ、カワモトギセルを確認しており重要な生息地である。過去にはオオスミビロウドマイマイの記録もある。

(2) 宮野浦海岸樹林

宮野浦の海岸樹林は、全国的にも産地が少なく、宮崎県でも唯一のヒロクチコギセルの産地であり、重要な生息地である。近年、シカが増えたために林床の草や低木が食い尽くされ、林内が非常に乾燥しているので、ヒロクチコギセルの生息が脅かされている。

(3) 島野浦島

島野浦島の海岸樹林では、スナガイ・ミジンマイマイ、カンダマイマイを確認している。その他、まだ絶滅危惧種には指定していないが、将来指定される可能性のあるツクシナタネガイやタケノコギセル類似種も見つかっている。近年、シカが侵入しており、林床の草や低木が食い荒らされ、林内が乾燥しており陸産貝類の生息に影響が出ないか懸念している。

5. その他

(島野浦島のシカについて)

調査に行った折、以前はなかったシカの食害に気づき、地元の方に訊ねたところ、「3年くらい前からシカが侵入している。罠をしかけて駆除を試みているが成果は上がっていない。」とのことであった。島野浦島は漁業の島である。豊かな漁場は豊かな森に支えられているので、シカの侵入によって森が壊されると、次は海が壊されるので早急なシカの駆除が望まれる。

6. 延岡市で確認された陸産貝類目録 (2010~2020年)

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	中腹足目	ヤマタニシ科	ヤマタニシ	<i>Cyclophorus herklotsi</i> MARTENS, 1861			
2	中腹足目	ヤマタニシ科	アツブタガイ	<i>Cyclotus (Procyclus) campanulatus</i> MARTENS, 1865			
3	中腹足目	ヤマタニシ科	ミジンヤマタニシ	<i>Nakadaella micron</i> (PILSBRY, 1900)			
4	中腹足目	ヤマタニシ科	ヤマクルマガイ	<i>Spirostoma japonicum japonicum</i> (A.ADAMS, 1867)			
5	中腹足目	ムシオイガイ科	サツムムシオイ	<i>Chamalycaeus satsumanus satsumanus</i> (PILSBRY, 1902)	NT	NT-g	
6	中腹足目	アズキガイ科	アズキガイ	<i>Pupinella (Pupinopsis) rufa</i> (SOWERBY, 1864)			
7	中腹足目	ゴマガイ科	ヒタリマキゴマガイ	<i>Palaina (Cylindropalina) pusilla</i> (MARTENS, 1877)			
8	中腹足目	ゴマガイ科	キュウシユウゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) tanegasimae kyushuensis</i> PILSBRY & HIRASE, 1904			
9	柄眼目	キバサナギガイ科	ヤマトキバサナギガイ	<i>Vertigo japonica</i> PILSBRY & HIRASE, 1904	VU	VU-r	
10	柄眼目	スナガイ科	スナガイ	<i>Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella</i> (REINHARDT, 1877)	NT	CR-g	
11	柄眼目	ミジンマイマイ科	ミジンマイマイ	<i>Vallonia costata</i> (MULLER, 1774)		CR-g	
12	柄眼目	マキゾメガイ科	マルナタネガイ	<i>Parazoogenetes orcula</i> (BENSON, 1850)			
13	柄眼目	マキゾメガイ科	ヒラマルナタネガイ	<i>Parazoogenetes (Salpingoma) japonicum</i> (PILSBRY, 1902)			
14	柄眼目	キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ	<i>Mirus reinianus</i> (KOBELT, 1875)			
15	柄眼目	キセルガイモドキ科	キセルガイモドキsp.	<i>Mirus</i> sp.			
16	柄眼目	キセルガイ科	スグヒタギセル	<i>Paganizapyx strictaluna</i> (BOETTGER, 1877)			
17	柄眼目	キセルガイ科	アワジギセル	<i>Megalophaedusa (Pinguiphaedusa) awajiensis</i> (PILSBRY, 1900)		OT-1	
18	柄眼目	キセルガイ科	シリオレギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) bilabrata</i> (SMITH, 1876)			
19	柄眼目	キセルガイ科	カワモトギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) kawamotoi</i> KURODA & TAKI, 1944	VU	NT-g	
20	柄眼目	キセルガイ科	スギモトギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) sugimotonis</i> MINATO & TADA, 1978	NT	NT-r	
21	柄眼目	キセルガイ科	ナンビギセル	<i>Pauciphaedusa tosiyukii</i> MINATO & HABE 1983	CR+EN	VU-r	
22	柄眼目	キセルガイ科	シンチュウギセル	<i>Megalophaedusa aenea</i> (PILSBRY, 1903)	CR+EN	CR-r	
23	柄眼目	キセルガイ科	オキギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) vasta vasta</i> (BOETTGER, 1877)			
24	柄眼目	キセルガイ科	アメイロギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) viridiflava</i> (BOETTGER, 1877)			
25	柄眼目	キセルガイ科	ナミギセル	<i>Stereophaedusa japonica</i> (CROSSE, 1871)		VU-g	
26	柄眼目	キセルガイ科	ハナコギセル	<i>Pictophaedusa euholostoma</i> (PILSBRY, 1901)	CR+EN	CR-g	
27	柄眼目	キセルガイ科	ヒロクチコギセル	<i>Reinia variegata</i> (A.ADAMS, 1868)	CR+EN	CR-r	
28	柄眼目	オカクチケレガイ科	ホソオカクチウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i> (SCHMACKER & BOETTGER, 1891)			
29	柄眼目	オカクチケレガイ科	トクサオカクチウジガイ	<i>Allopeas javanicum</i> (REEVE, 1849)			
30	柄眼目	オカクチケレガイ科	マルオカクチウジガイ	<i>Allopeas brevispira</i> (PILSBRY & HIRASE, 1904)			
31	柄眼目	オカクチケレガイ科	オカクチウジガイ	<i>Allopeas clavulinum kyotoense</i> (PILSBRY & HIRASE, 1904)			
32	柄眼目	ナタネガイ科	ツクシナタネガイ	<i>Punctum morseanum</i> PILSBRY, 1902			
33	柄眼目	ナタネガイ科	ミジンナタネガイ	<i>Punctum atomus</i> PILSBRY & HIRASE, 1904			
34	柄眼目	ナメクジ科	ナメクジ	<i>Incilaria bilineatum</i> (BENSON, 1842)			
35	柄眼目	ナメクジ科	ヤマナメクジ	<i>Incilaria fruhstorferi</i> (COLLINGE, 1901)			
36	柄眼目	コウラナメクジ科	キイロナメクジ	<i>Limax flavus</i> LINNE, 1758			
37	柄眼目	オカモノアラガイ科	ヒメオカモノアラガイ	<i>Neosuccinea horticola</i> (REINHARDT, 1877)			
38	柄眼目	シタラ科	カサキビ	<i>Trochochlamys crenurata</i> (GUDE, 1900)			
39	柄眼目	シタラ科	サツマヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata satsumana</i> (PILSBRY & HIRASE, in HIRASE, 1908)	DD	DD-1	
40	柄眼目	シタラ科	ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i> (PILSBRY, 1901)	NT	NT-g	
41	柄眼目	シタラ科	トサキビ	<i>Trochochlamys soracula</i> (PILSBRY & HIRASE, 1904)	DD	DD-1	
42	柄眼目	シタラ科	オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i> (PILSBRY, 1900)	DD	NT-r	
43	柄眼目	シタラ科	ハリマキビ	<i>Parakaliella harimensis</i> (PILSBRY, 1901)			
44	柄眼目	シタラ科	ヒメベッコウ	<i>Discoconulus sinapidium</i> (REINHARDT, 1877)			
45	柄眼目	シタラ科	ヤクシマヒメベッコウ	<i>Discoconulus yakuensis</i> (PILSBRY, 1902)			
46	柄眼目	シタラ科	ヒメベッコウsp.	<i>Discoconulus</i> sp.			
47	柄眼目	シタラ科	オオクラヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys lampra</i> (PILSBRY et HIRASE, 1904)			
48	柄眼目	シタラ科	コシタカシタラガイ	<i>Sitalina circumcincta</i> (REINHARDT, 1883)			
49	柄眼目	シタラ科	ヒラシタラガイ	<i>Sitalina latissima</i> (PILSBRY, 1902)	LP	OT-1	
50	柄眼目	シタラ科	ウメムラシタラガイ	<i>Sitalina japonica</i> HABE, 1964	NT	NT-g	
51	柄眼目	シタラ科	マルシタラガイ	<i>Parasitala reinhardti</i> (PILSBRY, 1900)			
52	柄眼目	シタラ科	ツノイロヒメベッコウ	<i>Ceratochlamys ceratodes</i> (GUDE, 1900)			
53	柄眼目	ベッコウマイマイ科	ベッコウマイマイsp.	<i>Bekkochlamys</i> sp.			
54	柄眼目	ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i> (PILSBRY, 1900)	DD	DD-1	
55	柄眼目	ベッコウマイマイ科	ウラジロベッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i> (REINHARDT, 1877)			
56	柄眼目	ベッコウマイマイ科	ハクサンベッコウsp.	<i>Nipponochlamys</i> sp.		DD-1	
57	柄眼目	ナンバンマイマイ科	コバソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i> (MARTENS, 1865)			
58	柄眼目	ナンバンマイマイ科	シメクチマイマイ	<i>Satsuma ferruginea</i> (PILSBRY, 1900)			
59	柄眼目	オナジマイマイ科	カンダマイマイ	<i>Aegista (Coelorus) kandai</i> AZUMA, 1970	CR+EN	VU-g	
60	柄眼目	オナジマイマイ科	ダコスタマイマイ	<i>Aegista dacostae dacostae</i> GUDE, 1900			
61	柄眼目	オナジマイマイ科	クマドリオトメマイマイ	<i>Aegista dacostae tosana</i> (GUDE, 1900)			
62	柄眼目	オナジマイマイ科	オトメマイマイsp.	<i>Trishoplita</i> sp.			
63	柄眼目	オナジマイマイ科	ツクシマイマイ	<i>Euhadra herklotsi</i> (MARTENS, 1860)			
64	柄眼目	オナジマイマイ科	タカチホマイマイ	<i>Euhadra herklotsi nesiotica</i> (PILSBRY, 1902)			
65	柄眼目	オナジマイマイ科	セトウチマイマイ	<i>Euhadra sabnimbosa</i> (KOBELT, 1894)			
66	柄眼目	オナジマイマイ科	オナジマイマイ	<i>Bradybaena similis</i> (FERUSSAC, 1831)			
67	柄眼目	オナジマイマイ科	コハクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i> KUROSA & HABE, 1953			
68	柄眼目	オナジマイマイ科	ウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta sieboldiana</i> (PFEIFFER, 1850)			

淡水産生物 (甲殻類・貝類・魚類)

調査担当者：中村 憲一

延岡市自然環境調査 報告書 (淡水産生物 (甲殻類・貝類・魚類))

中村 憲一

1. はじめに

延岡市には、北から北川・祝子川・五ヶ瀬川の一級河川と、南部に二級河川沖田川が流れている。これまでに、河川水辺の国勢調査や河川国道事務所の調査が行われているようである。しかし、市内の河川や池等の貝類や甲殻類、淡水魚類の調査を継続的に行っているものを確認したことはない。

個人的な調査において、これまでに数種類の報告がなされていない二枚貝類や魚類が確認できたため、本調査において体系的な報告を行うことにする。

2. 調査方法等

調査方法としては3種類

- ① たも網やセル瓶での採集
- ② 水中カメラで動画撮影
- ③ 現地の人からの聞き取り調査を中心に行った。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

1. イトモロコ

河川水辺の国勢調査で「スゴモロコ」と記載されていた種である。ひげの長さ、背中の盛り上がりから、「イトモロコ」と同定した。本種は、濃尾平野から北部九州までの分布とされている。五ヶ瀬川では、非常に多数の採集ができる。東九州では五ヶ瀬川が南限にあたると思われる。



五ヶ瀬川岡元
2020年4月25日

2. ムギツク

保育社「日本淡水魚」によると、宮崎県が南限になっているが、生息状況から五ヶ瀬川が生息確認できる南限と思われる。ただし、細谷(2019)では宮崎県には分布していないことになっており、国内移入種なのか自然分布なのかは不明である。



五ヶ瀬川岡元
2020年4月25日

3. オヤニラミ

1970年代には、北川で生息が確認されていたようである(岩槻, 2016)。2000年には五ヶ瀬川でも、生息が確認できていた。五ヶ瀬川のものは、北川から移入された可能性がある。2021年現在は、沖田川でも水路から侵入がみられ、徐々に数を増やしているようである。



五ヶ瀬川岡元
2020年4月25日

4. アリアケギバチ

2020年の調査において細見川で確認された。比較的高密度に生息しているようであるが、生物地理学的にみて国内移入の可能性が高いと考えられる。今後のより詳細な研究が待たれる。



細見川
2020年11月23日

5. カゼトゲタナゴ

九州の北部のみに限定生息している本種が、沖田川や五ヶ瀬川の細流に生息している。同所には、カタハガイやニセマツカサガイが生息しており、その二枚貝を産卵母貝として継続繁殖していると思われる。国内移入種と考えられる。



沖田川冷尻水路
2020年8月10日

6. アブラボテ、ヤリタナゴ、イチモンジタナゴ、セボシタビラ

アブラボテやヤリタナゴは、毎年貝の畑や、岡元地区で産卵を確認してきた。数も毎年比較的多く確認できる。一方、イチモンジタナゴは、今回の調査では確認できなかった。しかし、貝の畑のワンドでは大型のドブガイが生息しているので、イチモンジタナゴの産卵母貝となり得る可能性がある。このイチモンジタナゴは2000年発行の宮崎県版レッドデータブックでも魚類の概要で触れられているので、現在も繁殖している可能性がある。これらのタナゴ類は国内移入種と考えられ、安易な放流は厳に慎むべきと考える。



五ヶ瀬川岡元
2020年4月25日

7. ヤマトシマドジョウ

県内では大淀川より北部の一部の河川で生息が確認されている。今回の調査で、細見川が採集することができた。宮崎県内にはオオヨドシマドジョウとヤマトシマドジョウが生息しているため、標本に基づく正確な同定が必要である。



細見川
2020年11月23日

8. マツカサガイ

ニセマツカサガイに似ているが、松ぼっくりのような模様がニセマツカサガイよりも大きく広がっている。

9. ニセマツカサガイ

西日本に局所的に不連続で分布している。東日本ではヨコハマシジラガイと形態的に似ている。



ニセマツカサガイ (左2枚)
カタハガイ (右1枚)
沖田川冷尻水路 2020年8月10日

10. カタハガイ

限られた水路でしか見られない。特に、沖田川の小野地区冷尻用水路のみに生息している。

11. タガイ (ドブガイ B型)

池やワンドに生息している大型の二枚貝である。本種は、北川に比較的多く、五ヶ瀬川では、貝の畑地区に散見される。

12. マシジミ

淡水性のシジミで、五ヶ瀬川では上流の五ヶ瀬町から下流の延岡市まで、水流の緩やかなところで生息している。



沖田川冷尻水路
2020年8月10日

13. テナガエビ類

ヒラテテナガエビ、テナガエビ、ミナミテナガエビの3種が生息している。側面が「m」の模様が判別しやすいミナミテナガエビの数量が豊富である。

4. 淡水産生物（甲殻類・貝類・魚類）から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 沖田川冷尻地区の用水路

この地区には、一面のみのコンクリート張りの水路が1.5キロほど続いている。底面は素掘りになっており、砂泥にはマツカサガイ、ニセマツカサガイ、カタハガイ、マシジミが多量に生息している。カゼトゲタナゴやセボシタビラの産卵母貝の生息地になっている。

(2) 岡元地区の岡元川と五ヶ瀬川の合流する地点

砂泥層の底で、大雨後には新しい底層になり、定期的に泥質が改善されている。そのため二枚貝の生息地として大変適している。マツカサガイやイシガイが見られる。

(3) 松山川

小さな細流であり、清澄な水が次々に流れている。そのため、豊富な淡水魚類の宝庫となっている。各種エビ類が数量ともに豊富である。

(4) 北川

以前からニッポンバラタナゴが生息している。同所にはドブガイが生息しており、バラタナゴの繁殖には大変適している。

5. 延岡市で確認された淡水産生物目録（甲殻類・貝類・魚類）

(1) 甲殻類・貝類

No.	目名	科名	種名（和名）	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	エビ目	ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ	<i>Caridina multidentata</i>			
2	エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>			
3	エビ目	ヌマエビ科	ヌマエビ	<i>Paratya compressa</i>			
4	エビ目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	<i>Macrobrachium formosense</i>			
5	エビ目	テナガエビ科	ヒラテナガエビ	<i>Macrobrachium japonicum</i>		NT-r	
6	エビ目	テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>		NT-r	
7	エビ目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>			
8	エビ目	サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>		NT-g	
9	エビ目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>			
10	新生腹足目	リンゴガイ科	スクミンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>			
11	新生腹足目	タニシ科	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	VU	NT-g	
12	新生腹足目	タニシ科	オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>	NT	CR-d	
13	新生腹足目	タニシ科	ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>			
14	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>			
15	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>			
16	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	NT	NT-g	
17	イシガイ目	イシガイ科	ニセマツカサガイ	<i>Inversunio yanagawensis</i>	VU	VU-r	
18	イシガイ目	イシガイ科	カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i>			
19	イシガイ目	イシガイ科	マツカサガイ	<i>Pronodularia japonensis</i>	NT	CR-g	
20	イシガイ目	イシガイ科	タガイ	<i>Sinanodontia japonica</i>			トブガイB型
21	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	VU	NT-g	

(2) 魚類

No.	目名	科名	種名（和名）	学名	環境省RL 2020	宮崎県RL 2015	備考
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	EN	EN-g	
2	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>			国外外来種
3	コイ目	コイ科	フナ類	<i>Carassius buergeri</i>			
4	コイ目	コイ科	ヤリタナゴ	<i>Tanaka lanceolata</i>	NT		国内移入種
5	コイ目	コイ科	アブラボテ	<i>Tanaka limbata</i>	NT		国内移入種
6	コイ目	コイ科	セボシタビラ	<i>Acheilognathus tabira nakamurae</i>	CR		国内移入種
7	コイ目	コイ科	ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	CR		北川生息原因について情報不足
8	コイ目	コイ科	カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	EN		国内移入種
9	コイ目	コイ科	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>			
10	コイ目	コイ科	カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>			
11	コイ目	コイ科	タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala</i>			
12	コイ目	コイ科	ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>			
13	コイ目	コイ科	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>			
14	コイ目	コイ科	ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>			
15	コイ目	コイ科	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>			国内移入種
16	コイ目	コイ科	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>			
17	コイ目	コイ科	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>			
18	コイ目	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		NT-g	
19	コイ目	ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ	<i>Cobitis matsubarae</i>		CR-r	R2調査で初確認
20	ナマズ目	ギギ科	アリアケギバチ	<i>Tachysurus aurantiacus</i>	NT	CR-r	R2調査で初確認
21	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>		NT-g	
22	サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>			
23	サケ目	サケ科	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>			国外外来種
24	サケ目	サケ科	ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>			
25	ダツ目	メダカ科	ミナメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	VU	CR-r	
26	スズキ目	ケツギョ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	EN		国内移入種
27	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>			特定外来種
28	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>			特定外来種
29	スズキ目	カウズメ科	ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>			国外移入種
30	スズキ目	カジカ科	カマキリ	<i>Rheopresbe kazika</i>			
31	スズキ目	ドンコ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>			
32	スズキ目	ハゼ科	ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i>			
33	スズキ目	ハゼ科	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>			
34	スズキ目	ハゼ科	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>			
35	スズキ目	ハゼ科	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>			主に頬の縞模様で識別
36	スズキ目	ハゼ科	オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluvialis</i>			主に胸鰭基部黒斑で識別
37	スズキ目	ハゼ科	ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius similis</i>			
38	スズキ目	ハゼ科	トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius sp. OR unidentified</i>			主に尾へい橙色で識別
39	スズキ目	ハゼ科	ヨシノボリsp.	<i>Rhinogobius sp.</i>			
40	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>			

6. 参考文献

- 細谷和海編, 2019. 山溪ハンディ図鑑 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 岩槻幸雄, 2016. 宮崎県の多様な, そして変容する魚類達. 宮崎の自然と環境, 1:49-55.
- 宮地伝三郎, 1976. 原色日本淡水魚類図鑑 全改訂新版. 保育社, 大阪.
- 宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会, 2000. 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境科学協会.

汽水・海水産甲殻類および 貝類、その他無脊椎動物

調査担当者：三浦 知之

延岡市自然環境調査 報告書

(汽水・海水産甲殻類および貝類、その他無脊椎動物)

三浦 知之

1. はじめに

第2次延岡市環境基本計画自然環境調査報告書には掲載されていない甲殻類、貝類、その他水域無脊椎動物に関して、文献を含めて生物リストを作成した。日本産甲殻類は日本産7500種のうち300-500種が宮崎県に分布する。日本産貝類はおよそ1万種でそのうち1000-2000種が宮崎に生息している。その他(水生の)無脊椎動物には20以上の動物門が含まれ、絶滅危惧の評価対象になる種だけでも数千に及ぶものと考えられる。このように、研究者が単独で扱える範囲を遙かに凌駕しているわけであるが、研究者自体が少ない上に人間の日常生活とも関係が深いものは多くないため、完全なリストは望み得ないが、可能な限り報告することにした。

延岡市および周辺の水生生物の調査は主に水産関連の調査として行われていたが、近年の記録がなく、標本等も失われている。他方、2001年以降に宮崎大学による干潟汽水域の調査が行われ、多くの新しい知見が報告されている。ここでは、主に2001年以後の文献を調査するとともに野外調査を行って、4年間で甲殻類130種、貝類137種(うち3種は外来種)をリストすることができた。また、その他無脊椎動物に関しては宮崎県のRDBに掲載される予定の4種のみをリストした。

2. 調査方法等

野外調査では、すくい網、手網、トラップ、スコップ、篩いなどの採集用具を使用し、泥中・岩礁上・転石下などの底生生物を集めて同定した。また、赤水漁港には付着生物調査用の試験板を設置し、その後の経過を観察した。野外調査は2017年7月-12月に6回、2018年1月-12月に8回、2019年1月-12月に9回、2020年1月-12月に8回の計31回、主に海岸汽水域等を対象に実施した。また、初年度はそれまでに入手した全ての文献をチェックして基本的な生物リストを作成した。文献調査はその後も更新し、新しい文献や調査漏れを検討した。なお、市場調査や漁業実態調査も2019年までに店舗や漁港を絞って2020年に計画したが、最終的にはコロナ対策等もあり、漁業者等との対面が必要な計画を断念した。従って確認した生物のリストから明らかに延岡市で採られている水産生物などが漏れたため、この最終報告に含めることとした。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

甲殻類では絶滅危惧 IA 類が 1 種、II 類が 2 種、準絶滅危惧種 27 種が、貝類では絶滅危惧 II 類が 11 種、準絶滅危惧種 18 種が延岡市の干潟汽水域から記録された。

熊野江川河口域が原記載地であるクマノエミオスジガニは、環境省レッドリストの IA 類 (CR) にランクされている。2007 年の発見報告以来、伊勢湾および五島列島でも生息が確認されているが、生息個体密度などにおいて熊野江川の環境は最適と思われる。2012 年に熊野江川と伊勢湾の遺伝的な分析を行ったところ、両個体群とも遺伝的にかなり分離されており、現在は全く交流がないと考えられる。他の産地である長崎県五島も遺伝的に隔離されていると推定できる。このような背景から、小河川であっても熊野江川の生態系をしっかりと保全することが本種の存続にとって最重要である。筆者らが行った熊野江川個体群の定量的解析に寄れば、2008 年の夏には個体数が異常に減少し、絶滅の危機に瀕した。同時期の野外観察から、松枯れ対策の農薬空中散布が原因とされた。このため、本種が生存し続けるためには、上流側から流入する農薬などの影響がないように細心の保全対策が必要となる。生息地に隣接する上流側は森林伐採の後、太陽光発電施設になっているが、土砂や除草剤等の流入が起こらないような保護策を講じない限り、本種の生息に影響し、数年で絶滅する可能性も否定できない。



写真 1 クマノエミオスジガニ

櫛津干潟に生息するウモレベンケイガニは環境省レッドリストの II 類 (VU) にランクされている。同所的に生息するフジテガニやオカミミガイ類はいずれも絶滅危惧種に指定され、人為的な環境改変の影響下にある生物である。特に、自然石の護岸などの空隙が重要な生息地でもあり、コンクリート護岸による防災対策や安易な環境美化活動が自然破壊に繋がることも考えられる。



写真 2 フジテガニ

4. 甲殻類および貝類、その他無脊椎動物から見た延岡市の重要な生育地・生息地

(1) 熊野江川河口域および熊野江砂浜性海岸

熊野江川河口域は環境省レッドリスト海洋生物の IA 類 (CR) にランクされているクマノエミオスジガニの生息地・原記載地であるばかりでなく、宮崎県内の河口汽水域環境の中では最も生物多様性の高い生息地であり、甲殻類・貝類に限らず、ハゼ科魚類や塩性湿地に特異的なハマサジなどの植生も大切に保存しておく必要がある。また、河口の前面に広がる砂

浜性海岸や岩礁性海岸にも多様な生物相が形成されていることから、延岡市の湿地環境の中では最も重要な生物生息地である。規模が小さく、干出面積は3.1haで、一般国道388号の橋梁もあるため、環境省の定義する干潟汽水域に含まれないが、実際には第7回自然環境保全基礎調査の一環として2005年5月に調査されており、北川・五ヶ瀬川を含む南九州太平洋岸調査地5地点（熊野江川・本城川・志布志湾・大浦川）の中での出現動物が86種となり、最大



写真3 シオマネキ

値となっている。生息生物に着目したとき、規模や人為改変の影響にもかかわらず、奇跡的に希な湿地環境を残したと考えて良い。ちなみに第2次延岡市環境基本計画自然環境調査報告書では熊野江川から20種のハゼ科魚類が報告されているが、我々が長年調査した熊野江川河口域には2006年段階で27種のハゼ科魚類が確認されている。調査はいわゆる魚類採捕用の大型漁網などを使ったわけではなく、手網などによって甲殻類や貝類の採集時に混獲したハゼ科魚類のみを記録したのであるが、クマノエミオスジガニの個体群生態を明らかにする目的で調査期間が長く、頻度も高かったことから副次的にこのような成果を得ることができた。従前の報告書では熊野江川の自然環境が過小評価されていることを示す一例と言える。



写真4 タケノコカワニナ



写真5 フトヘナタリ

2020年は台風の影響などもあり、河川内にある漁船係留地から海にでる下降側の浚渫工事のために、河口域の景観が大きく変貌し、多くの希少生物が埋没した可能性がある。特にヒモイカリナマコは海に繋がる直前の汽水域に限定して生息が確認される棘皮動物で、熊野江川河口部が宮崎県での数少ない生息地であった。本種に寄生するヒモイカリナマコツマミガイは宮崎県および環境省のレッドリストでII類(VU)にランクされている。また、同所的に環境省レッドリストII類の貝類ミジンゴマツボや準絶滅危惧種の魚類イドミミズハゼなども生



写真6 ヒモイカリナマコとヒモイカリナマコツマミガイ

息が確認されていた。熊野江川のヒモイカリナマ生息地は土砂の積み上げで調査できない状況になっているが、生息の望みが失われたわけではないので、今後の工事の経過と生物の調査が必要である。

将来的には熊野江川流域での農薬使用の制限、浚渫工事などでの留意事項の確認（土砂を河川内に積み上げないなど）、積極的な環境保護活動の推進を行政が取りこむ必要があろう（県河川部の防災関連の護岸嵩上げ工事に関する保護上の留意事項は事前確認が済んでいますが、台風被害に関する2020年の県港湾局による浚渫工事では全く情報が共有されていないなどの県行政の齟齬が問題です）。

（2）櫛津干潟

同じく、延岡市南部にある妙見湾＝櫛津干潟にも希少な汽水生態系が残されている。谷津の水源に発する櫛津干潟はその景観も生息する水域生物もともに将来に残すべき重要湿地と言える。熊野江川と同様に塩性植物群落が発達し、豊富な魚介類が生息している。甲殻類では上述のウモレベンケイガニが歴史的にも古い自然石護岸で生息が確認されている。特定の生物の生息が長い時間軸を通して繋がっている生態系の証になることの現れでもある。とりもなおさず、現代の技術でコンクリート護岸などが無節操に建築されることを拒む理由にもなる。また、櫛津干潟ではイベントとしてのハマグリ・アサリ等の放流・貝拾いが実施されているが、完全に放流個体を回収しない限り、従来から生息していた同種の地域系統への遺伝子汚染となる。自然環境の保全、地域生物系統の保護など、住民の利害とも関係するため、住民への十分な情報提供と自然環境保護への理解を得た上で、イベントや事業の可否を改めて論じていく必要がある。



写真7 ハクセンシオマネキとハマサジ

（3）友内川

2019年に宮崎県の重要野生動植物生息地に指定された友内川には新たにコウロエンカワヒバリガイなどの移入種が（蔓延状態で）見つかっており、北川水系に広範に定着している様相があり、生態系への圧迫などが懸念される。友内川は地域住民の活動をとおして環境保全意識も高く、都市景観としても親しみの持てる水域環境である。従って今後も地域活動を中心に保全を継続する必要がある。ただ、友内川を優先して、熊野江川のような他に例のない延岡市の貴重な自然環境の保全を置き去りにすることがないように行政として意識する必要がある。

5. その他

本調査では明らかに欠落している生物があることを明記しておく。それは商業的に流通する魚介類で、今回の調査では市場調査や漁業実態調査ができなかったことによるものである。これらの調査は、野外調査の後に補助的に行うつもりで、先延ばしになっていたが、新型コロナの発生もあって、人との接触（産地の確認など）が難しい状況でもあり、行わなかった。特に以下の生物は今回の調査リストに載せなかったが、市場で延岡産として表示される甲殻類・貝類といえる。

イセエビ	<i>Panulirus japonicus</i> (von Siebold, 1824)
オオバウチワエビ	<i>Ibacus novemdentatus</i> Gibbes, 1850
アカエビ	<i>Metapenaeopsis barbata</i> (de Haan, 1844)
シマイシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) feriata</i> (Linnaeus, 1758)
フクトコブシ	<i>Haliotis (Sulculus) diversicolor diversicolor</i> Reeve, 1846
サザエ	<i>Turbo sazae</i> Fukuda, 2017

外来種としては上述のコウロエンカワヒバリガイが友内川を含めて北川・五ヶ瀬川水系の感潮域全体に広がり、環境省の定着段階としては「蔓延期」として良い。この状況はすでに駆除等が難しいことを意味しており、延岡市内の港湾岸壁などに付着するムラサキガイと同様に定着済みの外来種と言える。同じイガイ科二枚貝ではミドリイガイが楠津干潟に生息しており、一時は床状に海底に群落をつくることがあった。近年そのような大きな群落を確認できないが、調査を継続すれば見つかる可能性も否定できない。

6. 延岡市で確認された甲殻類・貝類・その他無脊椎動物目録（汽水・海水産）

(1) 甲殻類

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2017&2020	宮崎県RL 2020	備考
1	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i> Stephensen 1938			
2	端脚目	ユンボソコエビ科	シマドロソコエビ	<i>Grandidierella fasciata</i> Ariyama, 1996			
3	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i> Smith, 1873			
4	端脚目	ドロクダムシ科	ニホンドロクダムシ	<i>Sinocorophium japonicum</i> (Hirayama, 1984)			
5	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i> Yamato, 1988			
6	端脚目	メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i> (Uéno, 1940)			
7	端脚目	ツノヒゲヨコエビ科	ヒラタルソコエビ	<i>Urothoe gelasina ambigua</i> Hirayama, 1988			
8	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia platensis</i> (Krøyer, 1845)			
9	タナイス目	タナイス科	キスイタナイス	? <i>Sinelobus stanfordi</i> (Richardson 1901)			
10	等脚目	コツブムシ科	ハバヒコツブムシ	<i>Chitonosphaera lata</i> (Nishimura, 1968)			
11	等脚目	コツブムシ科	イソコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma rayi</i> Hoestlandt, 1969			
12	等脚目	スナホリムシ科	ヒガタスナホリムシ	<i>Eurydice akiyamai</i> Nunomura, 1981	NT	VU-r	
13	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i> Nunomura, 1974		NT-g	
14	等脚目	フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i> Roux, 1828			
15	等脚目	ヤドリムシ科	マドカアナジャコヤドリムシ	<i>Gyge ovalis</i> (Shiino, 1939)			
16	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricineta</i> (Zimmer, 1903)			
17	クーマ目	ナギサクーマ科	フタスジナギサクーマ	<i>Bodotria biplicata</i> Gamô, 1964			
18	クーマ目	シロクーマ科	エドシロクーマ	<i>Leucon (Leucon) varians</i> Gamo, 1962		VU-r	
19	十脚目	クルマエビ科	クルマエビ	<i>Penaeus (Marsupenaeus) japonicus</i> Spence Bate, 1888			
20	十脚目	クルマエビ科	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i> Fabricius, 1798			
21	十脚目	クルマエビ科	ヨシエビ	<i>Metapenaeus ensis</i> (de Haan, 1844)			
22	十脚目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i> de Haan, 1844			
23	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i> (Stimpson, 1860)			
24	十脚目	テナガエビ科	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i> (Stimpson, 1860)			
25	十脚目	テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i> (de Haan, 1849)		NT-r	
26	十脚目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	<i>Macrobrachium Formosense</i> Bate, 1868			
27	十脚目	テッポウエビ科	イソテッポウエビ	<i>Alpheus lobidens</i> de Haan, 1849			
28	十脚目	エビジャコ科	エビジャコの1種	<i>Crangon</i> sp.			
29	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedia astacina</i> de Haan, 1841			
30	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i> Ortmann, 1892			
31	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i> Makarov, 1938			
32	十脚目	アナジャコ科	アナジャコ	<i>Upogebia major</i> (de Haan, 1844)		NT-g	
33	十脚目	ヤドカリ科	ツメナガヨコバサミ	<i>Clibanarius longitarsus</i> (De Haan, 1849)			
34	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i> (Ortmann, 1892)			
35	十脚目	カイカムリ科	カイカムリ	<i>Lauridromia dehaani</i> (Rathbun, 1923)			
36	十脚目	カイカムリ科	アカゲカムリ	<i>Lauridromia intermedia</i> (Laurie, 1906)			
37	十脚目	ミスヒキガニ科	ミスヒキガニ	<i>Latreillia phalangium</i> de Haan, 1839			
38	十脚目	アサヒガニ科	トゲナシビワガニ	<i>Lyreidus stenops</i> Wood-Mason, 1887			
39	十脚目	カラッパ科	キンセンモドキ	<i>Mursia armata</i> de Haan, 1837			
40	十脚目	ヒゲガニ科	ヒゲガニ	<i>Jonas distinctus</i> (de Haan, 1835)			
41	十脚目	ヘイケガニ科	キメンガニ	<i>Dorippe sinica</i> Chen, 1980			
42	十脚目	イソオウギガニ科	イボイオウギガニ	<i>Eriphia ferox</i> Koh & Ng, 2008			
43	十脚目	エンコウガニ科	エンコウガニ	<i>Carcinoplax surgensis</i> Rathbun, 1932			
44	十脚目	ムツアシガニ科	ムツアシガニ	<i>Hexapinus latipes</i> (de Haan, 1835)			
45	十脚目	コブシガニ科	テナガコブシ	<i>Myra fugax</i> (Fabricius, 1798)			
46	十脚目	コブシガニ科	チョウチンコブシ	<i>Tokoyo eburnean</i> (Alcock, 1896)			
47	十脚目	コブシガニ科	ナガジュウイチトゲコブシ	<i>Arcania elongata</i> Yokoya, 1933			
48	十脚目	コブシガニ科	ヨツメコブシ	<i>Euclisia unidentata</i> (de Haan, 1841)			
49	十脚目	コブシガニ科	ツノナガコブシガニ	<i>Leucosia anatum</i> (Herbst, 1783)			
50	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i> de Haan, 1841		NT-g	
51	十脚目	モガニ科	イッカクガニ	<i>Menaethius monoceros</i> (Latreille, 1825)			
52	十脚目	クモガニ科	ボラダイルツノガニ	<i>Hyastenus borradailei</i> (Rathbun, 1907)			
53	十脚目	ツノガニ科	アシナガツノガニ	<i>Phalangipus hystrix</i> (Miles, 1886)			
54	十脚目	ヤワラガニ科	オキナワヤワラガニ	<i>Neorhynchoplax okinawensis</i> (Nakasone & Takeda, 1994)			
55	十脚目	ケアシガニ科	コワタズガニ	<i>Micippa philyra</i> (Herbst, 1803)			
56	十脚目	ケアシガニ科	イソクズガニ	<i>Tiarinia cornigera</i> (Latreille, 1825)			
57	十脚目	ヒシガニ科	ヒシガニ	<i>Enoplolambrus validus</i> (de Haan, 1837)			
58	十脚目	ケブカガニ科	オオケブカモドキ	<i>Pilumnus scabriusculus</i> Adams & White, 1849			
59	十脚目	ケブカガニ科	トゲケブカガニ	<i>Pilumnus orbitospinis</i> Rathbun, 1911			
60	十脚目	ケブカガニ科	トラノオガニダマシ	<i>Pilumnus trispinosus</i> (Sakai, 1965)			

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2017&2020	宮崎県RL 2020	備考
61	十脚目	ケブカガニ科	ミナトロナオガニ	<i>Pilumnopus marginatus</i> (Stimpson, 1858)			
62	十脚目	ケブカガニ科	マキトロナオガニ	<i>Pilumnopus makianus</i> (Rathbun, 1931)		VU-r	
63	十脚目	ケブカガニ科	ケブカガニ	<i>Pilumnus vesperilio</i> (Fabricius, 1793)			
64	十脚目	ワタリガニ科	ナマコマルガザミ	<i>Lissocarcinus orbicularis</i> Dana, 1852			
65	十脚目	ワタリガニ科	ホソウデガザミ	<i>Lupocyclus philippinensis</i> Semper, 1880			
66	十脚目	ワタリガニ科	トゲノコギリガザミ	<i>Scylla tranquebarica</i> (Fabricius, 1798)		NT-g	
67	十脚目	ワタリガニ科	アミメノコギリガザミ	<i>Scylla serrata</i> (Forsk., 1758)		OT-1	
68	十脚目	ワタリガニ科	アカテノコギリガザミ	<i>Scylla olivacea</i> (Herbst, 1796)	DD	NT-g	
69	十脚目	ワタリガニ科	タイワンガザミ	<i>Portunus (Portunus) pelagicus</i> (Linnaeus, 1758)			
70	十脚目	ワタリガニ科	イシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) japonica</i> (A. Milne-Edwards, 1861)			
71	十脚目	ワタリガニ科	シマアシシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) annulata</i> (Fabricius, 1798)			
72	十脚目	ワタリガニ科	アカイシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) miles</i> (de Haan, 1835)			
73	十脚目	ワタリガニ科	ベニツケガニ	<i>Thalamita prymna</i> (Herbst, 1803)			
74	十脚目	ワタリガニ科	フタハ (ハ) ベニツケガニ	<i>Thalamita sima</i> H. Milne-Edwards, 1834			
75	十脚目	ワタリガニ科	ヒメベニツケガニ	<i>Thalamita picta</i> Stimpson, 1858			
76	十脚目	サンゴガニ科	サンゴガニ	<i>Trapezia cymodoce</i> (Herbst, 1801)			
77	十脚目	サンゴガニ科	アミメサンゴガニ	<i>Trapezia areolata</i> Dana, 1852			
78	十脚目	オウギガニ科	ヒメキンチャクガニ	<i>Lybia caestifera</i> (Alcock, 1898)			
79	十脚目	オウギガニ科	ケブカアワツブガニ	<i>Gaillardielus orientalis</i> (Odner, 1925)			
80	十脚目	オウギガニ科	ムラサキアワツブガニ	<i>Novactaea pulchella</i> (A. Milne-Edwards, 1865)			
81	十脚目	オウギガニ科	ウデワオウギガニ	<i>Pilodius miersi</i> (Ward, 1936)			
82	十脚目	オウギガニ科	トガリオウギガニ	<i>Cycloxanthops truncatus</i> (de Haan, 1837)			
83	十脚目	オウギガニ科	オウギガニ	<i>Leptodius exaratus</i> (H. Milne-Edwards, 1834)			
84	十脚目	オウギガニ科	ヒメシワオウギガニ	<i>Microcassiope orientalis</i> Takeda & Miyake, 1969			
85	十脚目	オウギガニ科	スベスベマンジュウガニ	<i>Atergatis floridus</i> (Linnaeus, 1767)			
86	十脚目	オウギガニ科	ホシマンジュウガニ	<i>Atergatis integerrimus</i> (Lamarck, 1818)			
87	十脚目	イワガニ科	オオイワガニ	<i>Grapsus tenuicrustatus</i> (Herbst, 1783)			
88	十脚目	イワガニ科	ハシリイワガニモドキ	<i>Metopograpsus thukuhar</i> (Owen, 1839)			
89	十脚目	イワガニ科	イワガニ	<i>Pachygrapsus crassipes</i> Randall, 1840			
90	十脚目	ショウジンガニ科	ショウジンガニ	<i>Plagusia dentipes</i> (de Haan, 1835)			
91	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i> (de Haan, 1833)		NT-g	
92	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i> (H. Milne-Edwards, 1853)		NT-g	
93	十脚目	ベンケイガニ科	ベンケイガニ	<i>Sesarmops intermedius</i> (de Haan, 1835)		VU-g	
94	十脚目	ベンケイガニ科	ヒメベンケイガニ	<i>Nanosesarma minutum</i> (de Man, 1887)			
95	十脚目	ベンケイガニ科	フタバカクガニ	<i>Perisesarma bidens</i> (de Haan, 1835)		NT-g	
96	十脚目	ベンケイガニ科	クシテガニ	<i>Parasesarma plicatum</i> (Latreille, 1803)	NT	VU-r	
97	十脚目	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i> (de Haan, 1835)		NT-g	
98	十脚目	ベンケイガニ科	ユビアカベンケイガニ	<i>Parasesarma tripectinum</i> (Shen, 1940)			
99	十脚目	ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	<i>Clistocoeloma sinense</i> Shen, 1933	VU	CR-r	
100	十脚目	ベンケイガニ科	フジテガニ	<i>Clistocoeloma villosum</i> (A. Milne-Edwards, 1869)	NT	VU-r	
101	十脚目	モクスガニ科	ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i> (de Haan, 1835)	NT	NT-g	
102	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i> (de Haan, 1835)		NT-g	
103	十脚目	モクスガニ科	ヒメアシハラガニ	<i>Helicana japonica</i> (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)	NT	NT-g	
104	十脚目	モクスガニ科	ミナミアシハラガニ	<i>Pseudohelice subquadrata</i> (Dana, 1851)	NT	CR-r	
105	十脚目	モクスガニ科	トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrostom toriumii</i> (Takeda, 1974)	NT	VU-r	
106	十脚目	モクスガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i> (de Haan, 1835)			
107	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Ericocheir japonicus</i> de Haan, 1835			
108	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i> (de Haan, 1835)			
109	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i> Asakura & Watanabe, 2005			
110	十脚目	モクスガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i> (de Haan, 1835)			
111	十脚目	モクスガニ科	タイワンヒライソモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i> Sakai, 1939	NT	NT-g	
112	十脚目	モクスガニ科	ヒメヒライソモドキ	<i>Ptychognathus capillidigitatus</i> Takeda, 1984	NT	VU-r	
113	十脚目	モクスガニ科	タイワンオオヒライソガニ	<i>Varuna yui</i> Hwang & Takeda, 1986	DD	DD-2	
114	十脚目	モクスガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ	<i>Parapyxidognathus deianira</i> (de Man, 1888)		VU-r	
115	十脚目	ムツハアリアケガニ科	ムツハアリアケガニ	<i>Campandrium sexdentatum</i> Stimpson, 1858	NT	CR-r	
116	十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatum</i> (de Man, 1895)		NT-r	
117	十脚目	ムツハアリアケガニ科	カワスナガニ	<i>Deiratonotus japonicus</i> (Sakai, 1934)	NT	NT-g	
118	十脚目	ムツハアリアケガニ科	クモノエミオスジガニ	<i>Deiratonotus kaoriae</i> Miura et al, 2007	CR	CR-r	
119	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i> (de Haan, 1835)		NT-g	
120	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyograpsus nodulosus</i> Sakai, 1983		NT-g	
121	十脚目	オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i> Manning and Holthuis, 1981		NT-g	
122	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i> (de Haan, 1835)		NT-g	
123	十脚目	オサガニ科	ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i> Wada and Sakai, 1989	NT	NT-g	
124	十脚目	オサガニ科	チゴイワガニ	<i>Ilyograpsus nodulosus</i> Sakai, 1983		NT-g	
125	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocyopode stimpsoni</i> Ortmann, 1897		NT-2	
126	十脚目	スナガニ科	シオマネキ	<i>Tubuca arcuata</i> (de Haan, 1833)	VU	CR-g	
127	十脚目	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i> (de Haan, 1835)	VU	NT-g	
128	十脚目	カクレガニ科	ニホンマメガニダマシ	<i>Sakaina japonica</i> Serène, 1964			
129	十脚目	カクレガニ科	クロピンノ	<i>Pinnotheres boninensis</i> Stimpson, 1858			
130	十脚目	カクレガニ科	フタバピンノ	<i>Pinnotheres bidentatus</i> Sakai, 1984	VU	CR-r	

(2) 貝類

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2017&2020	宮崎県RL 2020	備考
1	ウスヒザラガイ目	ケハダヒザラガイ科	ケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona defilippii</i> (Tapparone-Canefri, 1874)			
2	ウスヒザラガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i> (Gould, 1859)			
3	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ヒメコザラ	<i>Patelloida heroldi</i> (Dunker, 1861)			
4	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ツボミ	<i>Patellodia conulus</i> (Dunker, 1861)	NT		
5	カサガイ目	ユキノカサガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i> (Dunker, 1860)			
6	カサガイ目	ユキノカサガイ科	コガモガイ	<i>Lottia kogamogai</i> Sasaki & Okutani, 1994			
7	カサガイ目	ユキノカサガイ科	カスリアオガイ	<i>Nipponacmea radula</i> (Kira, 1961)			
8	古腹足目	クボタシタダミ科	ミジンイトカケシタダミ	<i>Pondorbis japonicas</i> Ando & Habe, 1980			
9	古腹足目	ニシキウス科	イシダミ	<i>Monodonta labio confusa</i> Tapparone-Canefri, 1874			
10	古腹足目	ニシキウス科	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i> (Lamarck, 1822)	NT	NT-g	
11	古腹足目	ニシキウス科	イロワケケロツケ	<i>Diloma suavis</i> (Philippi, 1849)			
12	古腹足目	サザエ科	スガイ	<i>Lunella cornatus coreensis</i> (Récluz, 1853)			
13	古腹足目	サザエ科	カンギク	<i>Lunella coronatus coronatus</i> (Gmelin, 1791)			
14	古腹足目	サンショウガイモドキ科	アシヤガイ	<i>Granata lyrata</i> (Pilsbry, 1890)			
15	古腹足目	バテイル科	クボガイ	<i>Chlorostoma lischkei</i> Tapparone-Canefri, 1874			
16	古腹足目	バテイル科	コシダカガンガラ	<i>Omphalius rusticus</i> (Gmelin, 1791)			
17	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	アマオブネガイ	<i>Nerita (Theliostyla) albicilla</i> Linnaeus, 1758			
18	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	アマガイ	<i>Nerita (Heminerita) japonica</i> Dunker, 1860			
19	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	カノコガイ	<i>Clithon faba</i> (G.B. Sowerby II, 1836)			
20	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	<i>Clithon retropictum</i> (von Martens, 1878)			
21	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ヒメカノコ	<i>Clithon oualaniense</i> (Lesson, 1831)	NT	EN-r	
22	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ヒロクチカノコ	<i>Neripteron (Dostia) pileolus</i> (Récluz, 1850)		NT-r	
23	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ハナガスミカノコ	<i>Clithon (Pictoneritina) chlorostoma</i> (Broderip, 1833)			
24	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ウスベニツバサカノコ	<i>Neripteron</i> sp.			
25	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ニセヒロクチカノコ	<i>Neripteron (Dostia) siquijorensis</i> (Récluz, 1844)	NT		
26	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	リュウキュウアマガイ	<i>Nerita (Amphinerita) insculpta</i> Récluz, 1842			
27	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	マルアマオブネ	<i>Nerita (Argonerita) histrio</i> Linnaeus, 1758			
28	アマオブネガイ目	ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	<i>Plesiothyreus cinnamomeus</i> (Gould, 1846)	NT	NT-g	
29	アマオブネガイ目	ユキスズメガイ科	ヒナユキスズメ	<i>Phenacolepas</i> sp.	NT	EN-r	
30	新生腹足目	オニツツノガイ科	コゲツツノエ	<i>Cerithium coralium</i> Kiener, 1841	VU	CR-r	
31	新生腹足目	オニツツノガイ科	コベルトカニモリ	<i>Cerithium dialeucum</i> Philippi, 1849			
32	新生腹足目	ウミナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria atramentaria</i> (A. Adams in G.B. Sowerby II, 1855)			
33	新生腹足目	ウミナ科	ウミナ	<i>Batillaria multiformis</i> (Lischke, 1869)	NT	EN-g	
34	新生腹足目	ウミナ科	イボウミナ	<i>Batillaria zonalis</i> (Bruguière, 1792)	VU	CR-r	
35	新生腹足目	ゴマフニナ科	ゴマフニナ	<i>Planaxis sulcanus</i> (Born, 1778)			
36	新生腹足目	トゲカワニナ科	タケノカワニナ	<i>Stenomelania rufescens</i> (Martens, 1860)	VU	VU-g	
37	新生腹足目	キバウミナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i> (A. Adams in G.B. Sowerby II, 1855)	NT	NT-g	
38	新生腹足目	キバウミナ科	ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i> Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016	NT	NT-g	
39	新生腹足目	キバウミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i> Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016	VU	VU-g	
40	新生腹足目	タマガイ科	フタスジタマガイ	<i>Natica bibalteata</i> G.B. Sowerby, 1914			
41	新生腹足目	タマキビ科	コビトウラウズガイ	<i>Peasiella habe</i> Reid & Mak, 1998			
42	新生腹足目	タマキビ科	ヒメウズラタマキビ	<i>Littoraria (Littorinopsis) intermedia</i> (Philippi, 1846)			
43	新生腹足目	タマキビ科	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria (Palustorina) articulate</i> (Philippi, 1846)			
44	新生腹足目	タマキビ科	ホソスジウズラタマキビ	<i>Littoraria (Littoraria) undulata</i> (Gray, 1839)			
45	新生腹足目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina (Littorina) brevicula</i> (Philippi, 1844)			
46	新生腹足目	タマキビ科	アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i> (Souleyet in Eydoux & Souleyet, 1852)			
47	新生腹足目	リソツポ科	トウキョウリソツポ	<i>Merelina tokyoensis</i> (Pilsbry, 1904)			
48	新生腹足目	ワカウラツポ科	ワカウラツポ	<i>Wakauria sakaguchii</i> (Kuroda & Habe, 1954)	VU	VU-r	
49	新生腹足目	ワカウラツポ科	サザナミツポ	<i>Nozeba ziczac</i> (Fukuda & Ekawa, 1997)	NT	NT-r	
50	新生腹足目	ワカウラツポ科	ミジンゴマツポ	<i>Liroceratia sulcata</i> (Böttger, 1893)	VU		
51	新生腹足目	カワザンショウ科	カキウラクチキレモドキ	<i>Assiminea hiradoensis</i> Habe, 1942		VU-r	
52	新生腹足目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>Augustassiminea castanea</i> (Westerlund, 1883)			
53	新生腹足目	カワザンショウ科	クリロカワザンショウ	<i>Augustassiminea castanea</i> (Westerlund, 1883)	NT	NT-g	
54	新生腹足目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i> Kuroda, 1958	NT	NT-g	
55	新生腹足目	カワザンショウ科	ツツカワザンショウ	<i>Assiminea estuarina</i> Habe, 1946	NT		
56	新生腹足目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i> Martens, 1877			
57	新生腹足目	ミズゴマツポ科	ウミゴマツポ	<i>Stenothyra edogawaensis</i> (Yokoyama, 1927)	NT	VU-r	
58	新生腹足目	ミジンギリギリツツ科	ミジンギリギリツツ	<i>Caecum glabellum</i> (A. Adams, 1868)			
59	新生腹足目	ミジンギリギリツツ科	ミジンツツガイ	<i>Caecum glabellum</i> (A. Adams, 1868)			
60	新生腹足目	イソコハクガイ科	シラギク	<i>Pseudolittia pulchella</i> (Dunker, 1860)	NT	VU-r	
61	新生腹足目	イソコハクガイ科	ウミコハクガイ	<i>Teinostoma lucida</i> A. Adams, 1863	VU	VU-r	
62	新生腹足目	ハナゴウナ科	オオクリムシ	<i>Melanella cumingii</i> (A. Adams in H. & A. Adams, 1853)			
63	新生腹足目	ハナゴウナ科	ヒモイカリナマコツマミガイ	<i>Mucronalia lacteus</i> A. Adams, 1863	VU	VU-r	
64	新生腹足目	クマサカガイ科	キヌガサガイ	<i>Stellaria (Onustus) exutus</i> (Reeve, 1842)			
65	新生腹足目	タマガイ科	ホウシュノタマ	<i>Natica gualteriana</i> Récluz, 1844			
66	新生腹足目	タマガイ科	ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i> (Röding, 1798)			
67	新生腹足目	タマガイ科	フタスジタマガイ	<i>Natica bibalteata</i> G.B. Sowerby, 1914			
68	新生腹足目	オキニシ科	オオナルトボラ	<i>Tutufa bufo</i> (Röding, 1798)			
69	新生腹足目	ヤツシロガイ科	ヤツシロガイ	<i>Tonna luteostoma</i> (Küster, 1857)			
70	新生腹足目	イボボラ科	イボボラ	<i>Distorsio reticularis</i> (Linnaeus, 1758)			

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL 2017&2020	宮崎県RL 2020	備考
71	新生腹足目	ムシロガイ科	カニノテムシロ	<i>Nassarius (Pliarcularia) bellula</i> (A. Adams, 1852)	NT	NT-r	
72	新生腹足目	ムシロガイ科	ムシロガイ	<i>Nassarius (Niotha) livescens</i> (Philippi, 1849)	NT	DD-2	
73	新生腹足目	ムシロガイ科	アラムシロ	<i>Nassarius (Niotha) estivus</i> (Powys, 1833)			
74	新生腹足目	イトマキボラ科	イトマキボラ	<i>Fusinus nicobaricus</i> (Röding, 1798)			
75	新生腹足目	イトマキボラ科	ホソニシ=ハシナガニシ	<i>Fusinus colus</i> (Linnaeus, 1758)			
76	新生腹足目	アッキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i> (Küster, 1860)			
77	新生腹足目	アッキガイ科	アカニシ	<i>Rapana venosa</i> (Valenciennes, 1846)			
78	新生腹足目	フデガイ科	テラマチモフデ	<i>Pterygia sinensis</i> (Reeve, 1844)			
79	新生腹足目	クダマキガイ科	クダマキガイ	<i>Lophiotoma leucotropis</i> (A. Adams & Reeve, 1850)			
80	低位異鰓目	ガクバンゴウナ科	イリエゴウナ	<i>Ebala</i> sp.	VU	CR-r	
81	真後鰓目	クダタマガイ科	コヤスツラガイ	<i>Tornatina koyasensis</i> Yokoyama, 1927	NT	VU-r	
82	真後鰓目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Tornatina oryzaella</i> (Habe, 1955)			
83	汎有肺目	トウガタガイ科	ヒガタコイトカケギリ	<i>Cingulina cf. ciircinata</i> A. Adams, 1860	NT	VU-r	
84	汎有肺目	トウガタガイ科	シゲヤスイトカケギリ	<i>Pyrgulina shigeyasui</i> (Yokoyama, 1927)	NT	NT-g	
85	汎有肺目	トウガタガイ科	カゴメイトカケチキレ	<i>Pyrgulina casta</i> (A. Adams, 1861)			
86	汎有肺目	トウガタガイ科	ツルマキクチキレ	<i>Boonea cf. yokohamensis</i> (Nomura, 1939)			
87	汎有肺目	トウガタガイ科	ホソアラレクチキレ	<i>Boonea gemma</i> (A. Adams, 1861)			
88	汎有肺目	トウガタガイ科	イトマキクチキレ	<i>Odetta lirata</i> (A. Adams, 1860)			
89	汎有肺目	トウガタガイ科	ナガレウネイトカケギリ	<i>Turbonilla actopora</i> Dall & Bartsch, 1906			
90	汎有肺目	トウガタガイ科	クチキレモドキ	<i>Brachystomia planata</i> (Gould, 1861)			
91	汎有肺目	トウガタガイ科	ナガメアラレクチキレ	<i>Fargoa</i> sp.			
92	真有肺鰓目	オカミミガイ科	ナラビオカミミガイ	<i>Auriculastra duplicata</i> (Pfeiffer, 1854)	VU	VU-r	
93	真有肺鰓目	オカミミガイ科	ハマシノミガイ	<i>Melampus nuxeastaneus</i> Kuroda, 1950			
94	フネガイ目	フネガイ科	カリガネエガイ	<i>Barbatia (Savignyarca) virescens</i> (Reeve, 1844)			
95	フネガイ目	フネガイ科	コベルトフネガイ	<i>Arca boucardi</i> Jousseaume 1894			
96	フネガイ目	ヌノメアカガイ科	ヌノメアカガイ	<i>Cucullaea labiata</i> (Lightfoot, 1786)			
97	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i> (Lischke, 1871)			
98	イガイ目	イガイ科	ムラサキインコ	<i>Septifer virgatus</i> (Wiegmann, 1837)			
99	イガイ目	イガイ科	ヒバリガイモドキ	<i>Brachidontes mutabilis</i> (Gould, 1861)			
100	イガイ目	イガイ科	ホトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i> (Benson, 1842)			
101	イガイ目	イガイ科	ホソスジヒバリガイ	<i>Modiolus philippinarum</i> (Hanley, 1843)			
102	イガイ目	イガイ科	イシマテ	<i>Leiosolen lischkei</i> Huber, 2010			
103	イタヤガイ目	ナミマガシワ科	ナミマガシワ	<i>Anomia chinensis</i> Philippi, 1849			
104	ウグイスガイ目	マクガイ科	マクガイ	<i>Isognomon ephippium</i> (Linnaeus, 1758)			
105	ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg, 1793)			
106	ウグイスガイ目	イタボガキ科	オハヴロガキ	<i>Saccostrea mordax</i> (Gould, 1850)			
107	ウグイスガイ目	シュモクガイ科	ヒリョウ	<i>Malleus (Malvufundus) irregularis</i> (Jousseaume, 1894)			
108	イタヤガイ目	イタヤガイ科	ツキヒガイ	<i>Amusium japonicum japonicum</i> (Gmelin, 1791)			
109	異鰓帯目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Laternula (Exoloternula) marilina</i> (Reeve, 1863)			
110	異鰓帯目	オキナガイ科	オキナガイ	<i>Laternula anatina</i> (Linnaeus, 1758)			
111	マルスダレガイ目	ウロコガイ科	ニッポンヌメアゲマキ	<i>Pseudogaleomma japonicum</i> (A. Adams, 1864)	NT	NT-r	
112	マルスダレガイ目	ウロコガイ科	イナズマヌメアゲマキ	<i>Scintilla violescens</i> Kuroda & Iw. Taki, 1961			
113	マルスダレガイ目	ウロコガイ科	イオウシタタリ	<i>Scintilla timorensis</i> Deshayes, 1856			
114	マルスダレガイ目	バカガイ科	シオフキ	<i>Maetra veneriformis</i> Deshayes in Reeve, 1854			
115	マルスダレガイ目	チドリマスオ	クチバガイ	<i>Coecella chinensis</i> Deshayes, 1855	NT	NT-g	
116	マルスダレガイ目	ニッコウガイ科	ユウシオガイ	<i>Moerella rutila</i> (Dunker, 1860)	NT	VU-g	
117	マルスダレガイ目	フジノハナガイ科	ナミノコ	<i>Latona cuneata</i> (Linnaeus, 1758)	NT	NT-g	
118	マルスダレガイ目	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Lonca semigranosa</i> (Dunker, 1877)	NT	NT-g	
119	マルスダレガイ目	シオサザナミ科	ハザクラ	<i>Gari (Psammotaea) minor</i> (Deshayes, 1855)	NT	NT-g	
120	マルスダレガイ目	シオサザナミ科	オチバ	<i>Gari (Psammotaea) virescens</i> (Deshayes, 1855)	NT	NT-g	
121	マルスダレガイ目	シオサザナミ科	ムラサキガイ	<i>Soletellina diphos</i> (Linnaeus, 1771)	VU	EN-r	
122	マルスダレガイ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i> (Reeve, 1857)			
123	マルスダレガイ目	マテガイ科	マテガイ	<i>Solen strictus</i> Gould, 1861			
124	マルスダレガイ目	イワホリガイ科	セミアサリ	<i>Claudiconcha japonica</i> (Dunker, 1882)			
125	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	シオヤガイ	<i>Anomalocardia squamosa</i> (Linnaeus, 1758)	NT	NT-g	
126	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams & Reeve, 1850)		DD-2	
127	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (Röding, 1798)	VU	VU-g	
128	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	スダレハマグリ	<i>Tapes turgida</i> (Lamarck, 1818)	NT	EN-r	
129	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i> (Reeve, 1850)		VU-g	
130	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin, 1791)			
131	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	スダレガイ	<i>Paphia lischkei</i> Fischer-Piette & Métivier, 1971			
132	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i> Prime, 1864		DD-2	
133	オオノガイ目	フナクイムシ科	ヤツフナクイムシ	<i>Lyrodus pedicellatus</i> (Quatrefaës, 1849)			
134	オオノガイ目	ニオガイ科	ニオガイ	<i>Barnea (Anchomasa) fragilis</i> (G.B. Sowerby, 1849)			
1	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i> Lamarck, 1819			外来種
2	イガイ目	イガイ科	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i> (Linnaeus, 1758)			外来種
3	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i> (Lamarck, 1818)			外来種

(3) その他無脊椎動物

No.	目名	科名	種名 (和名)	学名	環境省RL 2017&2020	宮崎県RL 2020	備考
1	環形動物		ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i> Marenzeller, 1879	CR+EN	CR-g	
2	ツバサゴカイ目	ツバサゴカイ科	ムギワラムシ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i> Fujiwara, 1934	NT	VU-g	
3	棘皮動物	イカリナマコ科	ヒモイカリナマコ	<i>Patinapta ooplax</i> (von Marenzeller, 1882)		VU-r	
4	腕足動物	スズメガイダマシ類	スズメガイダマシ類	<i>Discinidae</i> gen. spp.	NT	NT-g	

7. 参考文献

- 環境省, 2007. 第7回自然環境保全基礎調査. 浅海域生態系調査(干潟調査)報告書. 自然環境保護局生物多様性センター, 富士吉田. 235+99pp.
- Kawane, M., K. Wada, A. Umemoto & T. Miura, 2012. Genetic population structure and life history characteristics of the rare brackish-water crab *Deiratonotus kaoriae* Miura, Kawane and Wada, 2007 (Brachyura: Camptandriidae) in Western Japan. *Journal of Crustacean Biology*, 32: 119-125.
- 福田博業・古川一郎, 1969. 延岡湾学術調査報告書. pp. 107-178. 福岡.
- 三浦知之, 2006. 守るべき日向の「里浜」～宮崎県の干潟の現状～. *みやぎん経済研究所調査月報* 162(2-7): 29-40.
- 三浦知之, 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社. 鹿児島. 197pp.
- 三浦知之・岩切真実・森岡主臣・狩野泰則, 2007. 延岡市妙見湾(櫛津干潟)に出現する貝類と甲殻類. *宮崎大学農学部研究報告* 53: 43-57.
- Miura, T., M. Kawane, K. Wada, 2007. A new species of *Deiratonotus* (Crustacea: Brachyura: Camptandriidae) found in the Kumano River estuary, Kyusyu, Japan. *Zoological Science* 24, 1045-1050.
- 三浦知之, 2013. 宮崎県の干潟面積に関する試算. *宮崎大学農学部研究報告* 59: 45-55.
- 三浦知之・宇都宮美樹・北嶋雄太・富岡宏, 2014. 海産甲殻類に寄生する等脚目エビヤドリムシ上科に関する宮崎県での初めての記録(予報). *宮崎大学農学部研究報告* 60: 29-39.
- 三浦知之, 2020. ‘生きている化石’ガクバンゴウナ科貝類の南九州での記録. *Nature of Kagoshima*, 47: 133-136.
- 宮崎県総合博物館, 1994. 宇津野新太郎氏寄贈貝類標本目録. 宮崎県総合博物館自然誌資料目録, 第1集. 宮崎県総合博物館. 宮崎. 305 pp.
- 梅本章弘・三浦知之, 2009. 延岡市熊野江川河口干潟に出現する貝類と甲殻類. *宮崎大学農学部研究報告* 55: 37-49.

イシサンゴ類

調査担当者：深見 裕伸
高橋 勝栄

調査協力者：石津 颯太
奥 裕太郎

延岡市自然環境調査 報告書 (イシサンゴ類)

深見 裕伸・高橋 勝栄

1. はじめに

近年、延岡市ではサンゴの保全活動に力を注いでいる。その一方で、1974年に南北浦海中公園地域に指定されて以来、ごく最近まで詳細な種組成調査は行われておらず、貴重なオオスリバチサンゴ生息地では群体の減少なども報告されている。加えて、日南市・串間市でのサンゴを捕食するオニヒトデの大発生によるサンゴの減少や、地球温暖化に伴う海水温の上昇の影響が今後延岡市に影響を及ぼす可能性は極めて大きい。そのため、現在のサンゴ群集の現状を正確に把握することが求められている。

延岡市周辺海域のサンゴの種組成のデータについては、本調査以外では野村・杉原(2009)のみであることが判明している。今回はこれらの文献に加えて、本報告者が行った延岡市自然環境調査の2018～2020年度に実施した潜水による野外調査のデータを用いた。また、大学の卒業研究の一部だが、報告者が2015年度に独自で調査した結果をまとめた深見ら(2016)による延岡のサンゴ図鑑のデータ、および2017年度に行った高等教育コンソーシアム宮崎における公募型卒業研究テーマである「延岡市における環境指標としてのサンゴ類相」の調査結果も使用した(深見 2017)。また、学名はWoRMS(World Register of Marine Species、<http://www.marinespecies.org/>)に従い、和名は基本的に西平・Veron(1995)に従ったが、近年の学名および和名の変更は野村(2016a, b)に従った。

2. 調査方法等

現地調査は、2018年～2020年度にスクーバ潜水により実施した。方法は、潜水中に目についたサンゴの内、異なる種であると判断したものを全て写真に撮影し、種同定に用いた。一部、写真だけでは種同定が困難な種については生体を数cm採取し骨格標本にして種同定を行った。

文献調査については、延岡市周辺海域のサンゴの種組成のデータが掲載されている野村・杉原(2009)を用いた。また、報告者による延岡サンゴ図鑑(深見ら 2016)および高等教育コンソーシアム宮崎の応募型卒業研究テーマでの報告者による調査(深見 2018)のデータも用いた。

3. 延岡市で確認された注目すべき種の解説

(1) 環境省レッドリスト種

環境省が2017年に発表した日本のレッドリスト(サンゴ)において絶滅危惧II類(VU)とされているエダミドリイシ *Acropora pruinosa* およびオオナガレハナサンゴ *Catalaphyllia jardinei* の2種(写真1, 2)、さらに情報不足DDとされたウチウラタコアシサンゴ *Rhizotrochus typus* (写真3)の生息を延岡市島浦島周辺で確認している。エダミドリイシの群落は拡大している傾向がみられ健全であった。一方、オオナガレハナサンゴは和歌山県串本町以外ではほとんどみられない種だが、延岡市島浦島では十数群体が密集して生息している。ただし、群体数に減少傾向が見られる。



写真1 エダミドリイシ



写真2 オオナガレハナサンゴ



写真3 タコノアシサンゴ

(2) その他の特記すべき種

珍しい種としては、アサノエダサンゴ *Madracis asanoi* とカービエダサンゴ *Madracis kirbyi* の2種（写真4, 5）があげられる。これら2種は他の地域では水深30mより深いところで見られることが一般的だが、延岡市島浦島ではやや浅いところ（水深10~15m）で確認できた。他にもウェルスヤスリサンゴ *Cycloseris wellsi*（写真6）は延岡市では1群体しか見つかっておらず、非常に珍しいサンゴである。また、分類学的には議論中であり、今後の詳細な研究が必要ではあるが、種子島固有種と考えられているタネガシマミドリイシ *Acropora tanegasimensis*（写真7）も確認した。

4. イシサンゴ類から見た延岡市の重要な生育地・生息地

・島野浦島

延岡市北浦町から約4kmにある宮崎県内最大の島で、海岸線長は約15kmである。島の周辺には造礁性イシサンゴ類が80種以上も生息しており、被度が高いところでは90%以上ある。また、島の場所によって異なるサンゴ相が見られる。特に、島西部の湾内にはクシハダミドリイシやエンタクミドリイシの大群落や環境省レッドリスト掲載のエダミドリイシの群落がみられる一方で、島北部の湾にはオオスリバチサンゴの巨大群落やオオナガレハナサンゴの群落がみられる。これらのことから、延岡市で最も重要なサンゴの生息地であると断言できる。



写真4 アサノエダサンゴ



写真5 カービエダサンゴ



写真6 ウェルスヤスリサンゴ



写真7 タネガシマミドリイシサンゴ

5. その他

サンゴ礁形成に寄与しないサンゴ類（無藻性サンゴ類）も延岡市島浦島周辺で多くみられた。これらのサンゴは暗所や深場に生息しており、造礁サンゴ類とは異なり橙色や赤色を呈している。これらのサンゴについては種同定が非常に難しいため多くが未同定のものが多いが、ジュウジキサンゴ *Dendrophyllia arbuscula* やイボヤギ *Tubastraea coccinea* など同定できたものだけで3科4属4種となった。

島浦島の北部では、オオスリバチサンゴの巨大群体が生息している。この群体は最大直径が6m程度あり、加えて形状がバラの花のようになっている。このような巨大群体は他の地域でもまれ（五島列島で巨大群体が発見されている）であり、さらにこの形状は他の地域では見られないものである。従来、このような形状をした大型の群体が多数群生していたが、これまで台風などの影響でかなりの部分が破壊されているのが現状である。さらに群体の形がバラ状という形状のため、花びらが落ちるように群体が崩れていくのを止めることができず、日々群体の崩壊が進んでおり、今後どのようにこれら群体を保全していくのが喫緊の課題である。

島浦島西部の湾内では、クシハダミドリイシ *Acropora hyacinthus* とミドリイシ *Acropora solitaryensis* の大群落が見られる。とくにクシハダミドリイシは被度が高いところでは80%以上もあり、非常に壮大な景観を形作っている。加えて、この種の群体形状が他の場所では見られない珍しい形（通常は枝分かれがほとんどないテーブル状にだが、島浦島のものは枝分かれが激しく樹枝状とテーブル状の中間のような群体形をしている）をしていることも貴重である（写真8）。



写真8 クシハダミドリイシの大群集

6. 延岡市で確認されたイシサンゴ類目録

延岡市周辺の海域で確認されたイシサンゴ類は、全 17 科 43 属 101 種となった。内、サンゴ礁形成に寄与するといわれる造礁性イシサンゴ類は、15 科 39 属 95 種でとなった。

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL	備考
1	イシサンゴ目	ミドリイシ科	クシハダミドリイシ類似種	<i>Acropora</i> aff. <i>hyacinthus</i>		
2	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ニホンミドリイシ類似種	<i>Acropora</i> aff. <i>japonica</i>		
3	イシサンゴ目	ミドリイシ科	エンタクミドリイシ	<i>Acropora</i> sp. ENTAKU*		<i>Acropora</i> cf. <i>glauca</i> sensu 杉原ら (2015)と同じ
4	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ナカユビミドリイシ	<i>Acropora glauca</i>		
5	イシサンゴ目	ミドリイシ科	クシハダミドリイシ	<i>Acropora hyacinthus</i>		
6	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ニホンミドリイシ	<i>Acropora japonica</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Acropora gemmifera</i>
7	イシサンゴ目	ミドリイシ科	スギノキミドリイシ	<i>Acropora muricata</i>		
8	イシサンゴ目	ミドリイシ科	エダミドリイシ	<i>Acropora pruinosa</i>	VU	
9	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ミドリイシ	<i>Acropora solitaryensis</i>		
10	イシサンゴ目	ミドリイシ科	タイハイミドリイシ	<i>Acropora</i> sp. TAIHAI*		<i>Acropora efflorescens</i> sensu Veron (2000)と同じ
11	イシサンゴ目	ミドリイシ科	タネガシマミドリイシ	<i>Acropora tanegashimensis</i>		今後の研究が必要
12	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ホソエダミドリイシ	<i>Acropora valida</i>		
13	イシサンゴ目	ミドリイシ科	コシバミドリイシ	<i>Acropora willisae</i>		
14	イシサンゴ目	ミドリイシ科	アワサンゴ属の1種	<i>Alveopora</i> sp.		
15	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ヒラニオウミドリイシ	<i>Isopora</i> cf. <i>cuneata</i>		
16	イシサンゴ目	ミドリイシ科	モリスコモンサンゴ	<i>Montipora mollis</i>		
17	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ムラサキコモンサンゴ	<i>Montipora peltiformis</i>		
18	イシサンゴ目	ミドリイシ科	アバタコモンサンゴ	<i>Montipora</i> sp. ABATA*		
19	イシサンゴ目	ミドリイシ科	ホントゲコモンサンゴ	<i>Montipora</i> sp. HONDOTOGE*		野村・杉原 (2009) の <i>Montipora hispida</i>
20	イシサンゴ目	ミドリイシ科	コモンサンゴ	<i>Montipora</i> sp. KOMON*		野村・杉原 (2010) の <i>Montipora venosa</i>
21	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	センベイサンゴ	<i>Leptoseris glabra</i>		
22	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	アバタセンベイサンゴ	<i>Leptoseris mycetoseroides</i>		
23	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	センベイサンゴ属の1種	<i>Leptoseris</i> sp.		
24	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	シコロサンゴ	<i>Pavona decussata</i>		
25	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	ヒラシコロサンゴ	<i>Pavona explanulata</i>		
26	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	コブシコロサンゴ	<i>Pavona</i> sp. KOBU*		
27	イシサンゴ目	ヒラフキサンゴ科	シワシコロサンゴ	<i>Pavona varians</i>		
28	イシサンゴ目	ムカシサンゴ科	ムカシサンゴ	<i>Stylocoeniella guentheri</i>		
29	イシサンゴ目	ヤスリサンゴ科	ヤスリサンゴ	<i>Coccinaraea columna</i>		
30	イシサンゴ目	ヤスリサンゴ科	ノマヤスリサンゴ	<i>Coccinaraea monile</i>		
31	イシサンゴ目	キサンゴ科	オオイボキサンゴ属の1種	<i>Cladopsammia</i> sp.		
32	イシサンゴ目	キサンゴ科	ジュウジキサンゴ	<i>Dendrophyllia arbuscula</i>		
33	イシサンゴ目	キサンゴ科	ナンヨウイボヤギ	<i>Tubastrea micranthus</i>		
34	イシサンゴ目	キサンゴ科	イボヤギ	<i>Tubastrea coccinea</i>		
35	イシサンゴ目	キサンゴ科	イボヤギ属数種	<i>Tubastrea</i> spp.		
36	イシサンゴ目	キサンゴ科	ウネスリバチサンゴ	<i>Turbinaria frondens</i>		
37	イシサンゴ目	キサンゴ科	スリバチサンゴ	<i>Turbinaria mesenterina</i>		
38	イシサンゴ目	キサンゴ科	オオスリバチサンゴ	<i>Turbinaria peltata</i>		
39	イシサンゴ目	キサンゴ科	ヨコミズスリバチサンゴ	<i>Turbinaria reniformis</i>		
40	イシサンゴ目	ハナサンゴ科	ナガラハナサンゴ	<i>Fimbriaphyllia ancora</i>		
41	イシサンゴ目	センスガイ科	タコアシサンゴ	<i>Rhizotrochus typus</i>	DD	
42	イシサンゴ目	クサビライシ科	ウェルズヤスリサンゴ	<i>Cycloseris wellsii</i>		
43	イシサンゴ目	クサビライシ科	カワラサンゴ	<i>Lithophylon undulatum</i>		
44	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	ヒメオトゲキクメイシ	<i>Acanthastrea echinata</i>		
45	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	ヒラタオトゲキクメイシ	<i>Acanthastrea hemprichii</i>		
46	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	コハナガタサンゴ	<i>Cynarina lacrymalis</i>		
47	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	キッカサンゴ	<i>Echinophyllia aspera</i>		
48	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	オトゲキクメイシ	<i>Homophyllia bowerbanki</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Acanthastrea hillae</i>
49	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	ヒロクチダイノウサンゴ	<i>Lobophyllia agaricia</i>		
50	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	オオハナガタサンゴ	<i>Lobophyllia hemprichii</i>		
51	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	ダイノウサンゴ	<i>Lobophyllia radians</i>		
52	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	ハナガタサンゴ	<i>Lobophyllia robusta</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Symphyllia valenciennesii</i>
53	イシサンゴ目	オトゲサンゴ科	アマクサオトゲキクメイシ	<i>Micromussa amakusensis</i>		
54	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	マルキクメイシ	<i>Astrea curta</i>		
55	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	オオナガラハナサンゴ	<i>Catalaphyllia jardinei</i>	VU	
56	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	バリカメノコキクメイシ	<i>Coelastrea aspera</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Goniastrea aspera</i>
57	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	コトゲキクメイシ	<i>Cyphastrea chalcidicum</i>		
58	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ニホントゲキクメイシ	<i>Cyphastrea japonica</i>		
59	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	トゲキクメイシ	<i>Cyphastrea microphthalma</i>		
60	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	和名なし	<i>Cyphastrea salae</i>		

No.	目名	科名	種名(和名)	学名	環境省RL	備考
61	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	フクトゲキクメイシ	<i>Cyphastrea serailia</i>		
62	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ナミキクメイシ/スポミキクメイシ	<i>Dipsastraea favus</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Favia favus</i>
63	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ホンドアハレキクメイシ	<i>Dipsastraea</i> sp. HONDOABARE*		
64	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	キクメイシ	<i>Dipsastraea speciosa</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Favia speciosa</i> 。野村・杉原 (2009) の <i>Favites russelli</i> は本種の形態変異の一つ
65	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ツキガタキクメイシ	<i>Dipsastrea</i> sp. TSUKIGATA*		
66	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	カメノコキクメイシ	<i>Favites abdita</i>		野村・杉原 (2009) のみ掲載
67	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	アツキクメイシ	<i>Favites rotundata</i>		<i>Favites</i> aff. <i>rotundata</i> a sensu 杉原ら (2015)と同じ
68	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	シナキクメイシ	<i>Favites chinensis</i>		野村・杉原 (2009) のみ掲載
69	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	マルカメノコキクメイシ	<i>Favites halicora</i>		
70	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ゴカクキクメイシ	<i>Favites pentagona</i>		
71	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	和名なし	<i>Favites micropentagona</i>		
72	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	タカクキクメイシ	<i>Favites valenciennesi</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Montastrea valenciennesi</i>
73	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	オオカメノコキクメイシ	<i>Favites virens</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Favites flexuosa</i>
74	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ヤマナリカメノコキクメイシ	<i>Favites yamanarii</i>		
75	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	トゲイボサンゴ	<i>Hydnophora exesa</i>		イボサンゴとも呼ばれる
76	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ウスカミサンゴ	<i>Mycedium elephantotus</i>		
77	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	オオナガレサンゴ	<i>Oulophyllia crispa</i>		
78	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ウネカメノコキクメイシ	<i>Paragoniastrea australensis</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Goniastrea australensis</i>
79	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ミダレカメノコキクメイシ	<i>Paragoniastrea deformis</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Goniastrea deformis</i>
80	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ヘンゲカメノコキクメイシ	<i>Paragoniastrea</i> sp. HENGE*		
81	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	チヂミノウサンゴ	<i>Platygyra contorta</i>		
82	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ヒラノウサンゴ	<i>Platygyra daedalea</i>		
83	イシサンゴ目	サザナミサンゴ科	ヒメノウサンゴ	<i>Platygyra pini</i>		
84	イシサンゴ目	Oculiniidae	フタリビウガラシ	<i>Cyathelia axilaris</i>		
85	イシサンゴ目	Oulastreidae	キクメイシモドキ	<i>Oulastrea crispata</i>		
86	イシサンゴ目	Plesiastreidae	コマルキクメイシ	<i>Plesiastrea versipora</i>		
87	イシサンゴ目	ハナヤサイサンゴ科	ハナヤサイサンゴ	<i>Pocillopora damicornis</i>		
88	イシサンゴ目	ハナヤサイサンゴ科	ショウガサンゴ	<i>Stylophora pistillata</i>		
89	イシサンゴ目	ハナヤサイサンゴ科	アサノエダサンゴ	<i>Madracis asanoi</i>		
90	イシサンゴ目	ハナヤサイサンゴ科	カービエダサンゴ	<i>Madracis kirbyi</i>		
91	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	キクメハナガササンゴ	<i>Goniopora djiboutiensis</i>		
92	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	ハナガササンゴ	<i>Goniopora lobata</i>		
93	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	マルアナハナガササンゴ	<i>Goniopora tenuidens</i>		
94	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	ベニハマサンゴ類似種	<i>Porites</i> cf. <i>lichen</i>		
95	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	フタマタハマサンゴ	<i>Porites heronensis</i>		
96	イシサンゴ目	ハマサンゴ科	コブハマサンゴ	<i>Porites lutea</i>		
97	イシサンゴ目	アミメサンゴ科	ベルベットサンゴ	<i>Psammocora albopicta</i>		野村・杉原 (2009) の <i>Psammocora superficialis</i>
98	イシサンゴ目	アミメサンゴ科	和名なし	<i>Psammocora nierstraszi</i>		
99	イシサンゴ目	アミメサンゴ科	アミメサンゴ	<i>Psammocora profundacella</i>		
100	イシサンゴ目	アミメサンゴ科	ヤッコアミメサンゴ	<i>Psammocora contigua</i>		野村・杉原 (2009) のみ掲載
101	イシサンゴ目	Scleractinia Incertae Sedis	トゲルリサンゴ	<i>Leptastrea pruinosa</i>		

17 科 (造礁性は15科)

43属101種 (内、造礁性イシサンゴ類は39属95種)

*の学名は野村 (2016a, b)に従った

7. 参考文献

- 杉原薫・野村恵一・横地洋之・下池和幸・梶原健次・鈴木豪・座安 佑奈・出羽尚子・深見裕伸・北野裕子・松本尚・目崎拓真・永田俊輔・立川浩之・木村匡, 2015. 日本の有藻性イシサンゴ類～種子島編～. 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター, つくば. pp198. (<http://www.nies.go.jp/biology/pr/br/02.html>) 6月
- 野村恵一, 2009. 和歌山県串本海域における近年のサンゴ群集変化. 日本サンゴ礁学会誌, 11: 39-49.
- 深見裕伸・黒木省吾・高橋勝栄, 2016. 延岡の造礁サンゴ類. pp75.
- 深見裕伸, 2017. 平成 29 年度 自然環境モニタリング業務報告.
- 野村恵一・杉原薫, 2009. 宮崎海中公園地区サンゴ現況把握調査報告書.
- 野村恵一, 2016a. 串本産有藻性イシサンゴ類図鑑 I. シズカテマリ亜目. マリンパピリオン, 特別号 No. 5: 1-63.
- 野村恵一, 2016b. 串本産有藻性イシサンゴ類図鑑 II. ナミフウセン亜目. マリンパピリオン, 特別号 No. 6: 1-76.
- Veron JEN, 2000. Corals of the world. Vol. 1. Australian Institute of Marine Science, Townsville, Queensland, 463p.

第3次延岡市環境基本計画 自然環境調査
報告書

発行日：令和3年（2021年）3月

発行：延岡市 市民環境部 生活環境課

〒882-8686

宮崎県延岡市東本小路2番地1

TEL 0982-22-7001